

松山城三之丸跡

－ 13次・15次調査－

2019

松山市

松山市教育委員会

公益財団法人 松山市文化・スポーツ振興財団

まつやまじょうさんのまるあと
松山城三之丸跡
－ 13次・15次調査－



2019

松山市

松山市教育委員会

公益財団法人 松山市文化・スポーツ振興財団



巻頭図版 1. 松山城三之丸跡 13 次調査 トレンチ 3 土堀基礎及び溝（屋敷境）（北東から）



巻頭図版 2. 松山城三之丸跡 15 次調査 調査地全景（南西から）

序 言

本書は、平成 21 年度と 22 年度に松山市堀之内で行った城山公園（堀之内地区）整備事業に伴う発掘調査報告書です。

遺跡がある松山市堀之内は、本市のシンボルである松山城の三之丸跡に当たります。江戸時代には、御殿などの役所施設や侍屋敷などが建てられていました。また、明治時代以降は、陸軍兵舎をはじめ幾度も施設が建てられ、これまでの発掘調査で、関連する多くの遺構が確認されています。

今回の松山城三之丸跡 13 次及び 15 次調査は、三之丸跡の北部で行いました。調査の結果、江戸時代にあったとされる御勘定所南隣の屋敷地の範囲と内部構造の一部が確認できました。また、当時の廃棄土坑などから出土した陶磁器や食べ物の残りなどで、武士の生活の一端をうかがい知ることができました。

このような成果が得られたのは、日頃から埋蔵文化財調査に御理解をいただいている市民の皆様、そして関係者の皆様の御協力によるものと、心から感謝申し上げます。今後は、これらの成果を城山公園の整備にいかしていきたいと考えています。結びに、本書が文化財保護や教育普及活動に寄与できれば幸いです。

平成 31 年 3 月
松山市長 野志 克仁

例 言

1. 本書は、平成 21 年度及び 22 年度に松山市が松山市教育委員会（以下、「市教委」という。）に依頼した松山市堀之内における城山公園（堀之内地区）整備に伴う発掘調査（国庫補助事業）の成果をまとめたものである。
2. 調査の概要は次のとおりである。
 - ・松山城三之丸跡 13 次調査（松山市堀之内）
調査期間：平成 21 年 8 月 18 日～平成 22 年 3 月 31 日
調査面積：349m²
 - ・松山市三之丸跡 15 次調査（松山市堀之内）
調査期間：平成 22 年 9 月 1 日～平成 23 年 3 月 28 日
調査面積：約 305m²
3. 整理作業は、公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団埋蔵文化財センター（以下、「公益財団」という。）が松山市から委託を受けて平成 27 年度から 29 年度にかけて実施した。また、本書の編集作業は、同様に公益財団が松山市から委託を受け 30 年度に実施した。
4. 調査は、市教委の西村直人が担当した。
5. 遺構の略号は、土坑：SK、溝：SD、柱穴：SP、柵列：SA、とし、番号を付記した。
6. 本書で使用した標高数値は海拔標高を示し、方位は国土座標を基準とした真北である。写真測量は、四航コンサルタント株式会社に業務委託した。
7. 遺構の測量は、西村と西村の指示のもと作業員が実施した。
8. 本書掲載の遺構図、遺物図は、スケール下に縮尺を表記した。
9. 本書報告の遺構埋土、土層の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務所監修の『新版標準土色帖 (1996)』に準拠した。
10. 遺物の実測及び掲載図の製図は、西村の指示のもと池内芳美、木下奈緒美、木西嘉子、重松希依、寺尾いずみ、丹生谷道代、平岡直美、本多智絵、山下満佐子が行った。
11. 屋外調査における写真撮影は西村、本書掲載の遺物撮影は作田一耕が行い、図版作成は西村が行った。
12. 本書に関する資料は、松山市立埋蔵文化財センターで保管・収蔵している。
13. 本書の執筆は、第 2 章は山内秀樹が担当し、その他は西村が担当した。編集は西村が行った。
14. 報告書抄録は、巻末に掲載している。

目 次

第1章 はじめに	1
第1節 調査に至る経緯	
1 松山城三之丸跡 13次調査	
2 松山城三之丸跡 15次調査	
第2節 組織	
1 調査組織	
2 編集・刊行組織	
第2章 遺跡の立地及び環境	3
第1節 立地	
第2節 歴史的環境	
第3章 松山城三之丸跡 13次調査	7
第1節 調査の経過及び方法	
1 調査の経過	
2 調査の方法	
第2節 調査の概要	
1 層位	
2 遺構と遺物	
第4章 松山城三之丸跡 15次調査	81
第1節 調査の経過及び方法	
1 調査の経過	
2 調査の方法	
第2節 調査の概要	
1 層位	
2 遺構と遺物	
第5章 調査の成果と課題	125

挿図目次

第2章 遺跡の立地及び環境

第1図	松山平野の地形概要図	3
第2図	調査地と周辺遺跡分布図	5

第3章 松山城三之丸跡13次調査

第3図	調査区位置図	8
第4図	基本土層図	9
第5図	調査区トレンチ1～8配置図	11
第6図	T1・4遺構配置図	12
第7図	SD102・105測量図	13
第8図	SA101測量図	14
第9図	SA401測量図	15
第10図	SA402測量図	15
第11図	SA403測量図	16
第12図	SE401測量図	16
第13図	SK104・410・412測量図	17
第14図	SK402・405・407測量図	18
第15図	SK406測量図	19
第16図	SK408測量図	20
第17図	SK409測量図	20
第18図	SK411測量図	21
第19図	SK413測量図	21
第20図	SK417測量図	22
第21図	T2遺構配置図	23
第22図	SK204・206、 石列及びSD201測量図	24
第23図	SK201測量図	25
第24図	T3遺構配置図	26
第25図	SA301測量図	27
第26図	SA302測量図	27
第27図	SP301測量図	28
第28図	T5遺構配置図	29
第29図	SD501測量図	30
第30図	SA501測量図	31
第31図	SA502測量図	31
第32図	T6遺構配置図	32
第33図	SD603測量図	33
第34図	SA601測量図	34
第35図	SE602測量図	35
第36図	SK605測量図	35
第37図	T7遺構配置図	36
第38図	T8遺構配置図	37

第39図	SD801測量図	38
第40図	SK801測量図	38
第41図	SK802測量図	38
第42図	陶磁器実測図(1)	39
第43図	陶磁器実測図(2)	40
第44図	陶磁器実測図(3)	41
第45図	陶磁器実測図(4)	42
第46図	陶磁器実測図(5)	43
第47図	陶磁器実測図(6)	44
第48図	陶磁器実測図(7)	45
第49図	陶磁器実測図(8)	46
第50図	陶磁器実測図(9)	47
第51図	陶磁器実測図(10)	48
第52図	陶磁器実測図(11)	49
第53図	陶磁器実測図(12)	50
第54図	陶磁器実測図(13)	51
第55図	陶磁器実測図(14)	52
第56図	土器・土製品実測図(1)	53
第57図	土器・土製品実測図(2)	54
第58図	土器・土製品実測図(3)	55
第59図	土器・土製品実測図(4)	56
第60図	土器・土製品実測図(5)	57
第61図	石製品・ガラス・骨製品実測図	58
第62図	金属製品実測図(1)	59
第63図	金属製品実測図(2)	60
第64図	瓦実測図(1)	61
第65図	瓦実測図(2)	62
第66図	瓦実測図(3)	63
第67図	瓦実測図(4)	64
第68図	瓦実測図(5)	65

第4章 松山城三之丸跡15次調査

第69図	調査区位置図	82
第70図	調査区西壁土層図	83
第71図	調査区南壁土層図	84
第72図	T1・2遺構配置図	86
第73図	礎石建物測量図	87
第74図	SD1測量図	88
第75図	SD3測量図	89
第76図	SA1測量図	90
第77図	SA2測量図	90
第78図	SE1測量図	91

第79図	SE3 測量図	91	第97図	陶磁器実測図 (6)	104
第80図	SK4 測量図	99	第98図	陶磁器実測図 (7)	105
第81図	SK9 測量図	93	第99図	陶磁器実測図 (8)	106
第82図	SK1 測量図	94	第100図	陶磁器実測図 (9)	107
第83図	SK13 測量図	94	第101図	土器・土製品実測図 (1)	108
第84図	SK14 測量図	95	第102図	土器・土製品実測図 (2)	109
第85図	SK15 測量図	95	第103図	土器・土製品実測図 (3)	110
第86図	SK16 測量図	96	第104図	石・ガラス製品実測図	111
第87図	SK21 測量図	96	第105図	金属製品実測図	112
第88図	SK5 測量図	97	第106図	瓦実測図 (1)	113
第89図	SK20 測量図	97	第107図	瓦実測図 (2)	114
第90図	SK22 測量図	97	第108図	瓦実測図 (3)	115
第91図	SK45 測量図	98			
第92図	陶磁器実測図 (1)	99	第5章 調査の成果と課題		
第93図	陶磁器実測図 (2)	100	第109図	調査区トレンチ1～8配置図	126
第94図	陶磁器実測図 (3)	101			
第95図	陶磁器実測図 (4)	102			
第96図	陶磁器実測図 (5)	103			

表目次

第1章 はじめに

表1	平成21年度 組織表	2
表2	平成22年度 組織表	2
表3	平成30年度 組織表	2

第3章 松山城三之丸跡13次調査

表4	陶磁器観察表	66
表5	土器・土製品観察表	72
表6	石製品観察表	75
表7	ガラス・骨製品観察表	75
表8	金属製品観察表	76
表9	軒丸瓦・その他観察表	77
表10	軒平瓦・その他観察表	78
表11	鬼瓦その他観察表	79

第4章 松山城三之丸跡15次調査

表12	陶磁器観察表	116
表13	土器・土製品観察表	120
表14	石製品瓦観察表	121
表15	ガラス製品観察表	122
表16	金属製品観察表	122
表17	軒丸瓦・その他観察表	122
表18	軒平瓦・その他観察表	123

写真図版目次

第3章 松山城三之丸跡 13次調査

- 図版1 1. 調査区遠景（南西より）
2. トレンチ1及び4全景（北東より）
3. トレンチ1 SD105（北東より）
4. トレンチ1 石組排水口（北東より）
5. トレンチ1 土塀礎石（南より）
6. トレンチ1 SK104（南東より）
- 図版2 1. トレンチ4 SK402（北東より）
2. トレンチ4 SK407南北断面土層（北東より）
3. トレンチ2 全景（南東より）
4. トレンチ2 土塀基礎及びSD201（北東より）
5. トレンチ2 SK207（南西より）
6. トレンチ3 土塀基礎及びSD301（南西より）
- 図版3 1. トレンチ5 全景（南西より）
2. トレンチ5 SA501及びSA502（南東より）
3. トレンチ6 全景（北西より）
4. トレンチ6 SE601（西より）
5. トレンチ8 全景（北東より）
6. トレンチ8 SK801（北西より）

図版4 1. 出土遺物

図版5 1. 出土遺物

図版6 1. 出土遺物

第4章 松山城三之丸跡 15次調査

- 図版7 1. トレンチ1 SD1（南東より）
2. トレンチ1 廃棄土坑群（北東より）
3. トレンチ1 廃棄土坑群土層（北西より）
4. トレンチ1 SK21 遺物出土状況
（北西より）
5. トレンチ1 SK4及びSK9（北西より）
6. トレンチ2 全景（南西より）
- 図版8 1. トレンチ2 SA1（北より）
2. トレンチ2 SE3 漆器椀出土状況
（南東より）
3. トレンチ3 全景（北東より）
4. トレンチ3 SK45 石塔出土状況
（北東より）

図版9 1. 出土遺物

2. 出土遺物

第1章 はじめに

第1節 調査に至る経緯

平成12(2000)年、松山市は城山公園(堀之内地区)整備計画検討委員会から答申を受け、城山公園(堀之内地区=三之丸跡及び西ノ丸跡の一部)を対象とした、「城山公園(堀之内地区)整備計画検討委員会計画」を策定した。その内容は、堀之内地区の歴史的経緯を踏まえ、詳細な発掘調査のもとに復元などを通して当時の景観を再現することを主体とした「史跡整備区域」、発掘調査を実施した上で今後の活用方法を検討すべきとした「調査・検討を要する区域」、地下遺構については確認のみに留め、可能な限り破損(完掘)しないこととした「公園緑地整備区域」、その他を「当面文化的施設の利用を図る区域」に分け、前3者に対して整備方針を定めたものである。

整備は、3期に分けて段階的に行われており、このうち第1期整備は平成21(2009)年度に終了し、三之丸跡3次～12次調査の成果を基に遠路と広場が整備された。現在は第2期整備の途中であり、今回報告する三之丸跡13次調査及び15次調査は、いずれも「公園緑地整備区域」で実施したもので、可能な限り遺構は破損せずに調査を実施し、その成果を今後の整備に活かそうとするもの、言わば整備情報の取得を目的とした調査である。

調査箇所については、松山市と松山市教育委員会で協議した箇所を、平成15(2003)年度から平成23(2011)年度まで松山城跡整備検討委員会、同24(2012)年度からは新たに松山城跡整備検討会に諮り決定している。13次調査及び15次調査の位置は、松山市堀之内の北部、江戸時代にあったとされる「御勘定所」の南隣の侍屋敷地にあたるが、昭和28(1953)年から平成17(2005)年まで競輪場・陸上競技場が設営されていたため、大方の遺構は広範囲において破壊されていると予想された。このことから、調査方針として、まず平成21(2009)年度の調査(13次調査)で屋敷境の検出により屋敷地の範囲を確定した上で、翌年の調査(15次調査)で屋敷地内の建物等を確認する段階的な調査を行うこととなった。因みに調査次数が連番でないのは、13次調査と同年に実施した三之丸御殿の南西角の確認調査を14次調査として実施したためである。

13次調査は平成21年8月18日から、15次調査は平成22年9月1日から開始した。

第2節 組織

1 調査組織

1) 松山城三之丸跡 13 次調査（8 月時点）

表1 平成 21 年度 組織表

松山市		松山市教育委員会	
市長	中村 時広	教育長	山内 泰
都市整備部長	石丸 通	事務局長	藤田 仁
企画官	勝谷 雄三	企画官	古鎌 靖
公園緑地課長	糸山 茂樹	文化財課課長	家久 則夫
調整監	森田 俊一	主幹	森 正経
副主幹	一色 美津雄	副主幹	三好 博文
主査	栗田 正芳		

2) 松山城三之丸跡 15 次調査（9 月時点）

表2 平成 22 年度 組織表

松山市		松山市教育委員会	
市長	中村 時広	教育長	山内 泰
都市整備部長	古鎌 靖	事務局長	藤田 仁
企画官	越智 誠	企画官	勝谷 雄三
公園緑地課長	糸山 茂樹	文化財課課長	駒沢 正憲
調整監	森田 俊一	主幹	森 正経
副主幹	中矢 浩史	副主幹	三好 博文
主査	栗田 正芳		

2 編集・刊行組織

表3 平成 30 年度 組織表

松山市教育委員会		(財)松山市文化・スポーツ振興財団	
教育長	藤田 仁	理事長	本田 元宏
事務局長	家串 正治	事務局長	片山 雅央
次長	高田 稔	事務局次長	高木 祝二
次長	高木 伸治	文化振興部 部長	小田 克己
次長	大本 光浩	埋蔵文化財センター 所長	村上 卓也
文化財課課長	沖広 善久		
主幹	越智 茂樹	考古館館長	梅木 謙一

第2章 遺跡の立地及び環境

第1節 立地

松山平野は、瀬戸内海西部の伊予灘と、瀬戸内海中部の燧灘とに挟まれた高縄半島の南西部に位置し、重信川・石手川・小野川の3大河川をはじめとする大小の河川の沖積作用によって形成された幾つかの扇状地と氾濫原からなっている。表層の地質は重信川の南北で大きく異なり、北部は領家花崗岩帯に属し、主として中生代に貫入した古期領家花崗岩類で形成される。南部は重信川と中央構造線の間、後期白亜紀に形成された海成堆積層である和泉層群、さらにその南には変成岩帯である三波川帯が帯状に分布する。

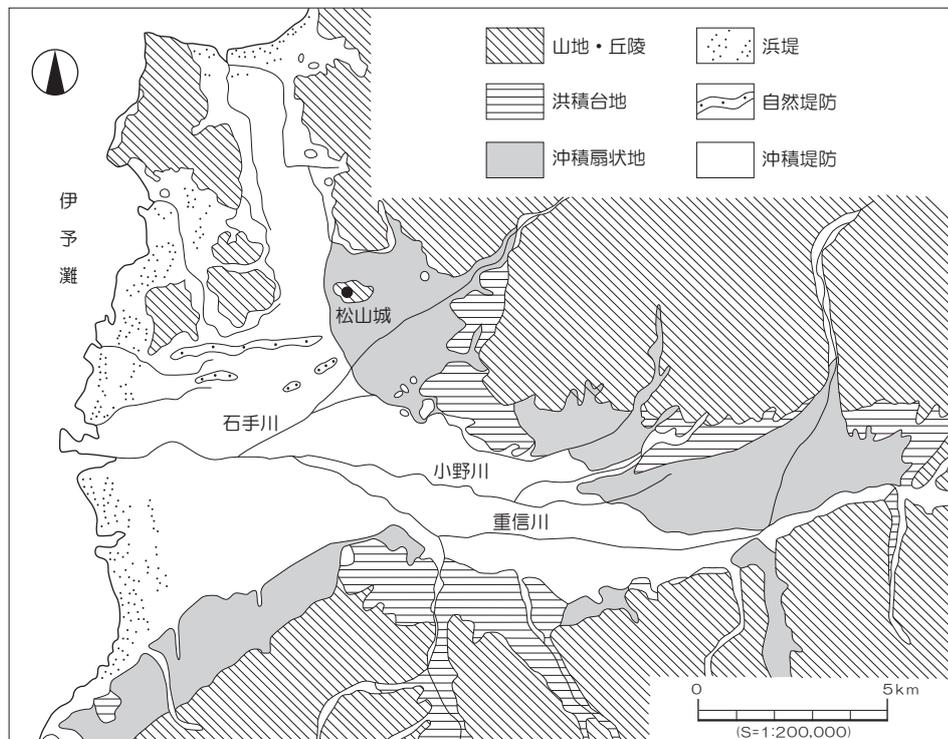
なお、本遺跡は石手川扇状地上に位置する独立丘陵である勝山の南西麓に位置する（第1図）。

第2節 歴史的環境

本遺跡が位置する石手川扇状地上およびその周辺では、連綿とした遺跡の展開を確認することができる。ここでは遺構・遺物が確認される縄文時代以降の遺跡分布を概観する（第2図）。

(1) 縄文時代

道後城北遺跡群内に所在する文京遺跡11次調査や道後城北RNB遺跡では、後期の遺構および包含層が検出されており、近年調査された道後湯之町遺跡2次調査では、土坑および石器が数多く出土



第1図 松山平野の地形概要図

し、同時期の集落の存在が想起される。また晩期には、道後今市遺跡や持田町三丁目遺跡での土坑や土器がみられ、一括遺物としての評価も高い。その他、岩崎遺跡などでも後・晩期の遺物が出土しており、集落域の面的な広がりが注目される。

(2) 弥生時代

前期前半では、文京遺跡4次調査で検出された松菊里型住居をはじめ、先述の持田町三丁目遺跡での前期前半～後半の墓域（土坑墓・木棺墓・土器棺墓）の発見や小壺や石剣の副葬事例など、県内でも稀少な事例として注目されている。

中期に入ると遺跡数や分布域が拡大し、岩崎遺跡や祝谷地区に所在する祝谷大地ヶ田遺跡3次～8次調査では、数百基の土坑群が検出されており、集落内での意味付けが注目される。中期中葉になると扇状地上から丘陵部にかけて遺跡が展開し、祝谷地区や北部の姫原地区などの丘陵斜面部でも集落が密集する様相を呈する。なお、祝谷六丁場遺跡では平形銅剣が埋納状態で発見されたほか、祝谷畑中遺跡で検出された同時期の大規模環濠や弥生土偶などは特筆される。

中期後半～後期にかけては、文京遺跡や松山大学構内遺跡をはじめとする道後城北遺跡群で拠点集落の存在が確認されており、終末期にかけては勝山丘陵西麓に所在する若草町遺跡では、大型墳丘墓に伴い外来系を含めた多量の土器が出土したほか、包含層資料ながら重圈日光鏡が出土するなど、当該期の歴史を論じる上では欠かせない好資料である。

(3) 古墳時代

集落遺跡については、扇状地上では弥生時代と比較するとやや希薄となるが、石手川左岸に展開する樽味遺跡群では、前期～後期にかけて連綿とした竪穴建物をはじめとした集落展開を示している。特に注目されるのは、樽味四反地遺跡6・8次調査で確認された超大型の掘立柱建物の存在であり、総柱構造で首長居館の可能性が指摘されている。

古墳の展開については、高縄半島南西麓の丘陵上に数多くの後期古墳群が分布しており、特に御幸寺山古墳群・常信寺山古墳群などに加え、勝山丘陵東・南裾付近には東雲神社古墳群や城の内古墳群など、横穴式石室等を内部主体とした群集墳の存在が確認されている。

一方、祝谷地区では近年の発掘調査で中期後半に遡る前方後円墳が新規発見された（祝谷9号墳）。馬蹄形周壕を有しており、墳丘斜面および周壕内面には全面に葺石がみられ、周壕内からは馬形埴輪を含む多量の埴輪が出土するなど、後続する後期群集墳の展開を考える上で貴重な資料を提供するものである。

(4) 古代

道後地区では、白鳳期の古代寺院跡である湯之町廃寺・内代廃寺が存在することが知られており、湯築城跡の東側に位置する内代廃寺では、複弁八弁蓮華文軒丸瓦や四重弧文軒平瓦が出土している。また、道後湯月町遺跡や岩崎遺跡では畿内産の可能性のある暗文土師器が確認されており、近隣地で区画溝や緑釉・灰釉陶器や土馬など官的施設に関係する可能性の高い遺物の出土が知られる岩崎遺跡とあわせ興味深い。

また、道後城北地区では、文京遺跡25次調査で流路中より多量の赤色塗彩土師器や施釉陶器、奈良二彩などが出土したほか、西接する松山大学構内遺跡6次調査でも赤色塗彩土師器のほか石帯が出土するなど、その近接地に当時の行政単位である「温泉郡」に関わる官的施設の存在が想定される。



- 松山城三之丸跡13・15次調査 1.松山城本丸跡 2.松山城二ノ丸跡 3.東雲神社遺跡 4.松山城東郭跡
- 5.松山城北郭跡 6.カキツバタ遺跡 7.若草遺跡 8.番町遺跡1・2次調査 9.清水町遺跡 10.清水町遺跡2次調査
- 11.松山大学構内遺跡 12.松山北高等学校遺跡 13.文京遺跡29次調査 14.道後城北RNB遺跡 15.文京遺跡
- 16.道後一万遺跡 17.道後北代遺跡 18.道後今市遺跡 19.道後町遺跡 20.持田本村遺跡 21.持田三丁目遺跡
- 22.持田町遺跡 23.岩崎遺跡 24.樽味高木遺跡 25.枝松遺跡 26.内代廃寺 27.湯築城跡 28.道後姫塚遺跡
- 29.道後冠山遺跡 30.道後湯月町遺跡 31.道後鷺谷遺跡 32.湯之町廃寺 33.土居ノ段遺跡 34.土居窪Ⅲ遺跡
- 35.土居窪遺跡 36.祝谷畑中遺跡 37.祝谷本村遺跡 38.祝谷西山遺跡 39.祝谷大地ヶ田遺跡 40.祝谷丸山遺跡
- 41.祝谷六丁場遺跡 42.祝谷六丁目遺跡 43.祝谷アイリ遺跡 44.御幸山東麓遺跡 45.山越遺跡1次調査
- 46.山越遺跡2次調査 47.山越遺跡3次調査 48.影浦谷古墳 49.姫原遺跡1次調査 50.姫原遺跡2次調査
- 51.辻町遺跡3次調査 52.南江戸上沖遺跡1・2次調査 (囲みは包蔵地)

第2図 調査地と周辺遺跡分布図

(5) 中世

道後今市遺跡では、複数次にわたる調査がなされており、弥生～古墳期に加え、土坑墓や溝など主に 13～14 世紀にかけての集落遺跡が確認されている。また、南接する道後町遺跡では、約 1 町四方の方形区画溝が検出されており、当時の条里区画を示す貴重な資料である。また道後城北遺跡群では、文京遺跡 18・25 次調査などで複数の水田面が検出されている。

道後町遺跡の東隣には中世河野氏の居城である湯築城跡が存在し、外堀と土塁に囲まれた南側エリアには、上級武士および家臣団居住区が展開している様子が明らかである。なお、湯築城周辺には『伊予湯築古城之図』によると上市・今市などの地名がみられることから、当時は市が形成されていたことが推定される。

(6) 近世

勝山丘陵に立地する松山城本丸跡をはじめ、隣接する番町遺跡や松山城二之丸では多くの遺構・遺物が確認されており、松山城に伴う武家屋敷の具体像や変遷が絵図との照合などにより明らかとなっている。また、今回報告する松山城三之丸跡では、西隅付近の 19・20 次調査で馬場に伴う土手や入口構造などが確認され、出土遺物の年代とあわせて検討すると、文献や絵図と一致するなど貴重な成果が上がっている。

【文献】

- 相原浩二ほか 1991 「若草町遺跡」『松山市埋蔵文化財調査年報Ⅲ』
 相原浩二ほか 1994 「若草町遺跡 3 次調査地」『松山市埋蔵文化財調査年報Ⅵ』
 梅木謙一 2001 『東雲神社遺跡』松山市文化財調査報告書第 79 集
 愛媛県史編さん委員会 1980 『愛媛県史 資料編考古』
 岡田敏彦 1985 『道後今市遺跡』、(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター
 加島次郎ほか 2004 「樽味四反地遺跡 8 次調査地」『松山市埋蔵文化財調査年報 16』
 栗田茂敏 1992 「文京遺跡 4 次調査」『道後城北遺跡群』松山市文化財調査報告書第 30 集
 栗田茂敏 2006 『番町遺跡』松山市文化財調査報告書第 109 集
 河野史知 2017 「松山城三之丸跡 19 次調査」『松山市埋蔵文化財調査年報 29』
 小玉亜紀子 2003 「樽味四反地遺跡 - 6 次調査 - 弥生時代～古墳時代編」松山市文化財調査報告書第 94 集
 作田一耕 2017 『祝谷大地ヶ田遺跡 5・6・7 次調査』松山市埋蔵文化財調査年報 29
 栗田圭子 2000 『湯築城跡 - 第 2・3・4 分冊 - 』、(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター
 田崎博之 2007 『文京遺跡Ⅴ - 文京遺跡 18 次調査 - 』、愛媛大学埋蔵文化財調査室
 多田仁 1994 『道後今市遺跡Ⅹ』、(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター
 土井光一郎ほか 1996 『若草町遺跡Ⅱ』、(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター
 土井光一郎 2000 『史跡「松山城跡」内 県民館跡地』、(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター
 中野良一 1998 『湯築城跡』、(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター
 西尾幸則 1989 「道後城北 RNB 遺跡」『松山市埋蔵文化財調査年報Ⅱ』
 橋本雄一ほか 2018 「松山城三之丸跡 20 次調査」『松山市埋蔵文化財調査年報 30』
 兵頭勲 2008 『番町遺跡 2 次』、(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター
 松山市史料集編集委員会 1986 『松山市史料集 第 2 巻 考古編Ⅱ』
 真鍋昭文ほか 1985 『持田町三丁目遺跡』、(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター
 真鍋昭文 2002 『祝谷畑中遺跡』、(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター
 宮内慎一 1999 『岩崎遺跡』松山市文化財調査報告書第 71 集
 宮内慎一 2008 『道後湯月町遺跡・道後湯之町遺跡』松山市文化財調査報告書第 123 集
 宮内慎一ほか 2018 『道後湯之町遺跡 2 次調査』松山市文化財調査報告書第 191 集
 宮崎泰好 1991 『祝谷六丁場遺跡』松山市文化財調査報告書第 24 集
 宮本一夫 1990 「文京遺跡第 11 次調査」『文京遺跡第 8・9・11 次調査』、愛媛大学埋蔵文化財調査室
 宮本一夫 1991 『文京遺跡第 10 次調査』、愛媛大学埋蔵文化財調査室
 三好裕之ほか 2005 『道後町遺跡Ⅱ』、(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター
 山之内志郎 2007 『松山大学構内遺跡Ⅳ - 6 次調査地 - 』松山市文化財調査報告書第 115 集
 吉田広 2009 『文京遺跡Ⅵ - 文京遺跡 25 次調査 - 』、愛媛大学埋蔵文化財調査室

第3章 松山城三之丸跡 13次調査

第1節 調査の経過及び方法

1. 調査の経過

調査期間は、平成21年8月18日（火）から平成22年3月31日（水）の間である。

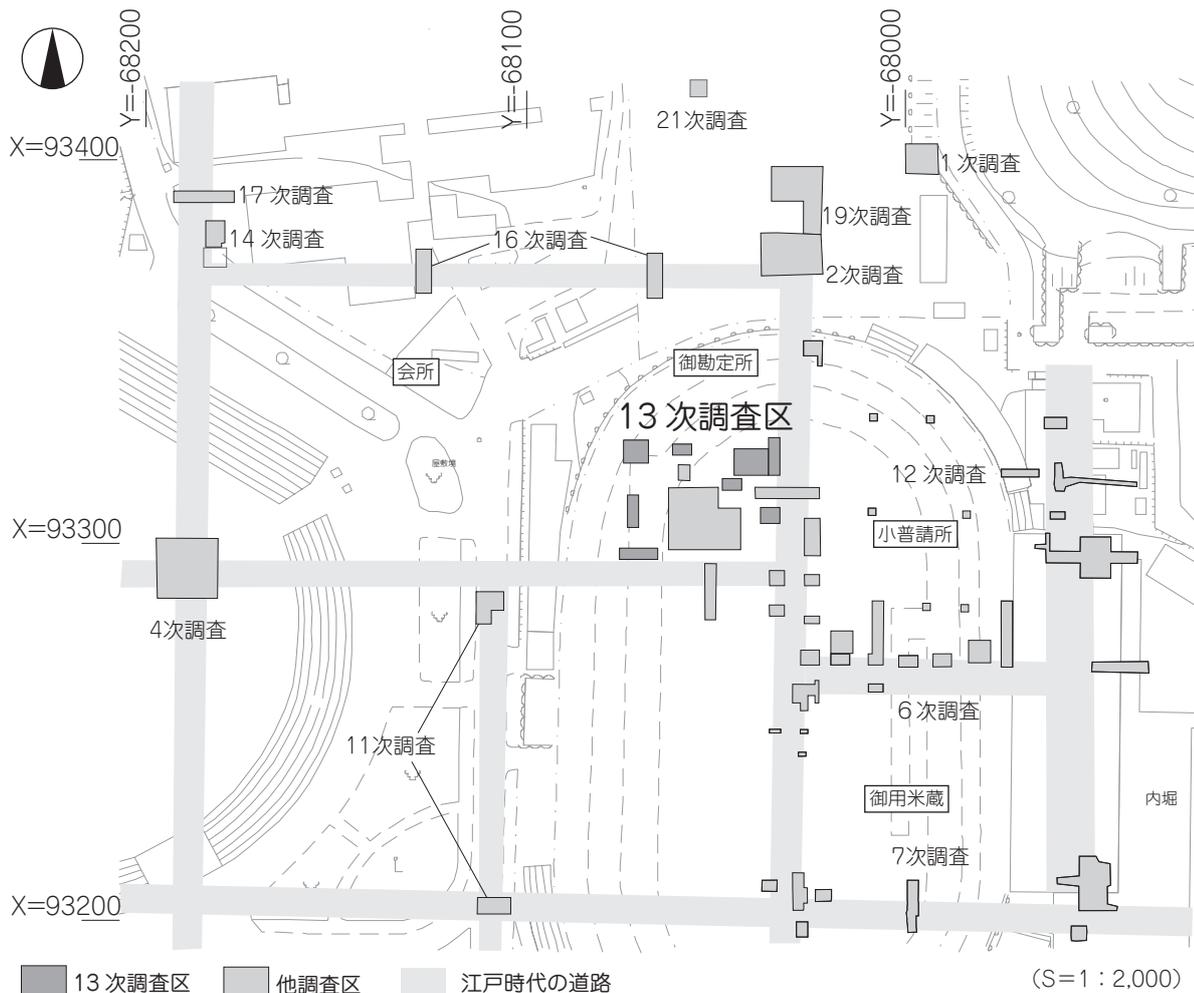
8月18日にユニットハウスを設置し機材を搬入、調査地周辺の草刈り及び調査区（トレンチ1及び2）を設定する。同月19日、調査周知看板設置及び道具置場（テント）の設営並びに重機（バックホウ）を搬入する。同月20日、トレンチ1及2の掘削を始める。トレンチ1において近代建物跡と石組溝、石列を検出し、瓦や陶磁器、鉄釘などが出土する。同月25日、トレンチ3の掘削を始める。同月26日、トレンチ4の掘削を始め、トレンチ2の遺構検出写真を撮影する。同月28日、トレンチ1及び2の遺構検出写真を撮影する。同月31日、遺構の掘り下げを始め（トレンチ1）、トレンチ4を東へ拡張する。9月4日、トレンチ5の掘削を始める。同月7日、トレンチ4をさらに東へ拡張する。同月11日、トレンチ3の遺構検出写真を撮影する。同月14日、トレンチ5の遺構検出写真を撮影する。同月16日、トレンチ6の掘削を始める。同月17日、トレンチ7の掘削を始め、トレンチ4の遺構検出写真を撮影する。同月25日、トレンチ1の測量図作成を始める。同月29日、トレンチ4の測量図作成を始める。10月6日、各トレンチ内の湧水量が多いことから、水中ポンプの数を増加する。同月14日、トレンチ6の遺構検出写真を撮影し、トレンチ2の測量図作成を始める。同月15日、トレンチ7の遺構検出写真を撮影する。同月20日、トレンチ3及び5の測量図作成を始める。11月9日、第16回松山城跡整備委員会において調査状況を報告、指導を受ける。トレンチ6の測量図作成を始める。同月10日、トレンチ4を東へ拡張し、13日に終わる。同月19日、トレンチ8の掘削を始め、トレンチ3を南北へ拡張する。同月20日、トレンチ4を南に拡張し、翌日終わる。トレンチ7の測量図作成を始める。12月8日、トレンチ6を南と西に拡張する。12月22日、業者による調査地全体の写真測量（1回目）を行う。12月26日から翌年（平成22年）1月4日まで現場作業を中止する。同月15日、広島大学三浦正幸教授に調査指導を受ける。1月29日、トレンチ3の調査終了写真を撮影する。2月5日、トレンチ7の埋め戻しを行う。2月17日、トレンチ8の測量図作成を始める。同月22日、業者による調査地全体の写真測量（2回目）を行う。3月6日、現地説明会を開催する。同月19日、トレンチ4、5及び8の調査終了写真を撮影し、高所作業者により調査地全体写真を撮影する。3月26日から31日にかけて全トレンチを埋め戻した後、整調査地の整地を行い、調査を終了。

2. 調査の方法

第1章で述べたように、本調査は城山公園（堀之内地区）整備に伴う発掘調査であり、その目的は、可能な限り遺構を破損せずに同地にあったとされる侍屋敷の屋敷境を検出し、屋敷地の範囲を確定することにある。また、翌年の調査（15次調査）箇所を定めるための情報を掴むことにある。したがって調査は、過去の近隣の調査成果（6次調査）と古絵図による検証のもと屋敷境が存在すると予想さ

れる位置に小規模な調査トレンチ（トレンチ1及び2）を設定することとした。そして、トレンチ1及び2で屋敷境の一部を検出した後はその延長上に新たにトレンチ（トレンチ3、4、5及び6）を設定するという方法を採用した。トレンチ7はトレンチ4で検出した遺構の展開、トレンチ8は屋敷地の出入口（門）を確認しようとしたものである。また、各トレンチとも必要に応じて拡張を行った。

掘削時、表土は重機（バックホウ）で除去し、遺物包含層または遺構面（整地層含む）が検出された場合は、人力掘削に切り替えて遺構を精査した。遺構埋土の掘り下げについては、柱穴などの小さな遺構は基本的に半裁に留めたが、大きな石など含有物により底面が確認できない場合は、掘削範囲を広げた。廃棄土坑など大きめの遺構は、土層観察用のベルトを残して掘削した。写真撮影は、主に35mmのリバーサルフィルムとモノクロフィルムで撮影し、補助としてデジタルカメラを用いた。また、各トレンチの終了写真や調査地全体写真については、中判カメラを使用し、6×7のリバーサルフィルムとモノクロフィルムで撮影した。測量は、近隣の日本測地系の二級及び三級基準点を用い、トータルステーションでトレンチ内及び周辺に測量点を設置し、これを基に図面を作成した。また、別に松山市が整備のための正確な座標値を得るための写真測量を業務委託により実施した。遺物については、近代の物であっても陶磁器は可能な限り取得し、瓦はたとえ江戸時代の物であっても平瓦や丸瓦などは全体量が膨大なため、特徴的なものを除いて取得しなかった。



第3図 調査区位置図

第2節 調査の概要

1. 層位 (第4図)

調査前は雑草の繁茂した状態であったため、草刈りを行った。元陸上競技場兼競輪場であったため、地形はやや南東に傾斜しているものの標高 20.6～20.7m とほぼ平坦であったが、元競輪場のバンク部は盛土が高く、標高 21.0m を測る。トレンチ 1～5、7 及び 8 は平坦面に設定したが、トレンチ 6 はバンク傾斜部に設定したため、遺構面までやや深くなった。基本層位は、以下のとおり概ね 4 層される。

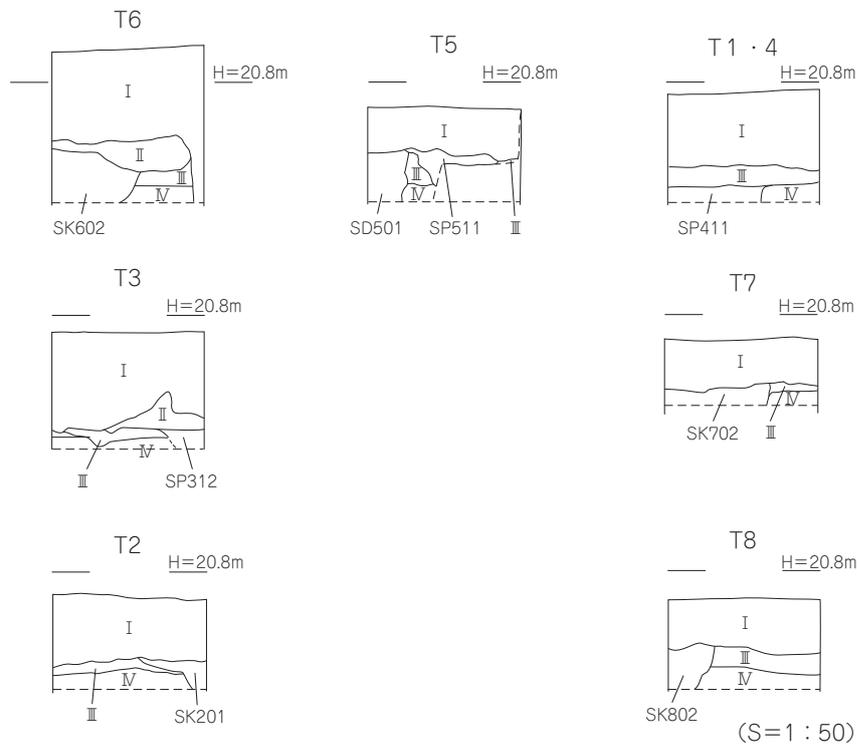
第Ⅰ層：造成土。近代以降の遺物を含む。厚さ 30～60cm。

第Ⅱ層：暗灰黄色～黄褐色土、トレンチ 3、6 にのみ展開し、それぞれ細分が可能である。部分により還元化する。厚さ 10～15cm。

第Ⅲ層：黄色・褐色ブロックを多く含む灰色土。江戸時代の整地層。炭化物及び僅かに江戸時代前期の遺物を含む。厚さ 6～20cm。

第Ⅳ層：黄灰色土。粘質土。鉄分を多く含む。上部は粘性が強いが、下部は漸移的に砂質となる。厚さ 44cm 以上を測る。

遺構は、主に第Ⅲ層の上面と第Ⅳ層の上面で検出したが、土層観察によると、第Ⅲ層で検出した遺構の中にはやや上層から掘り込まれているものもあり、結果的に検出時に誤って遺構の上層部を掘削してしまったものもある。また、第Ⅳ層で検出した遺構のうち、埋土が第Ⅲ層と同じものがあるが、これは整地の一環として同時に埋められたものと考ええる。



第4図 基本土層図

2. 遺構と遺物

以下、トレンチ（調査区）ごとに説明する。なお、トレンチ 1 と 4 については、第 3 章で記したとおり、調査中に連結したため 1 つ調査区として報告する。

(1) トレンチ 1 及び 4（第 6 図、図版 1）

溝 5 条、井戸 1 基、土坑 24 基、柱穴または小穴 43 基を検出した。主要な遺構についてのみ詳細を記す。

1) 溝

SD102・105（第 6・7 図、図版 1）

調査区の東部、Ⅳ層上面で検出した南北軸の石組道路側溝である。攪乱により北部が大きく破壊され、南北に分かれていたため、調査当初は南部を SD102、北部を SD105 としたが後に合一した。東側（道路側）の石組はほぼ残存していないが、掘方が残る。南部は検出長 4.01m、内幅 0.55～0.61m（≒約 2 尺）を測る。北部の検出長 1.38m、内幅は不明である。底面は南から北へ傾斜する。埋土は 2 層である。石組は、南部が概ね根石（1 段目）が残るのみで、南端のみ築石（2 段目）が残る。構造は、根石は垂直の掘方の中に拳大の石とともに据えられ、築石を積みその背後に拳大の裏込石が充填されるものである。一方、北部の石組は根石が無く、築石が据え置かれるのみで、同じく背後に拳大の裏込石が充填されるものである。したがって、北部と南部で石底のレベルが異なる。石材は花崗岩及び砂岩である。また、攪乱により北に溝は検出できなかったものの、石と石組の抜き跡と考えられる SP118 が検出されていることから、本来、溝は北に連続していたものと考えられる。遺物は、陶磁器(1) 及び瓦（321～323）が出土した。所属時期は、溝内の出土物及び掘方の埋土が整地層と同じであることから、17 世紀後半以降と考える。

SD104・401（第 6 図）

調査区北部、第Ⅲ層上面で検出した東西軸の石列を伴う溝である。検出長 4.16m、幅 0.14～0.35m 最深 10cm を測る。底面は西から東へやや傾斜する。石列はトレンチ 1 に東西 4 石、トレンチ 4 に 1 石と僅かな抜き跡が残る。石はいずれも南に面を揃えている。遺物は、陶磁器及び石製品（273）が出土した。所属時期は、整地層との関係及び出土物から 17 世紀後半以降と考える。

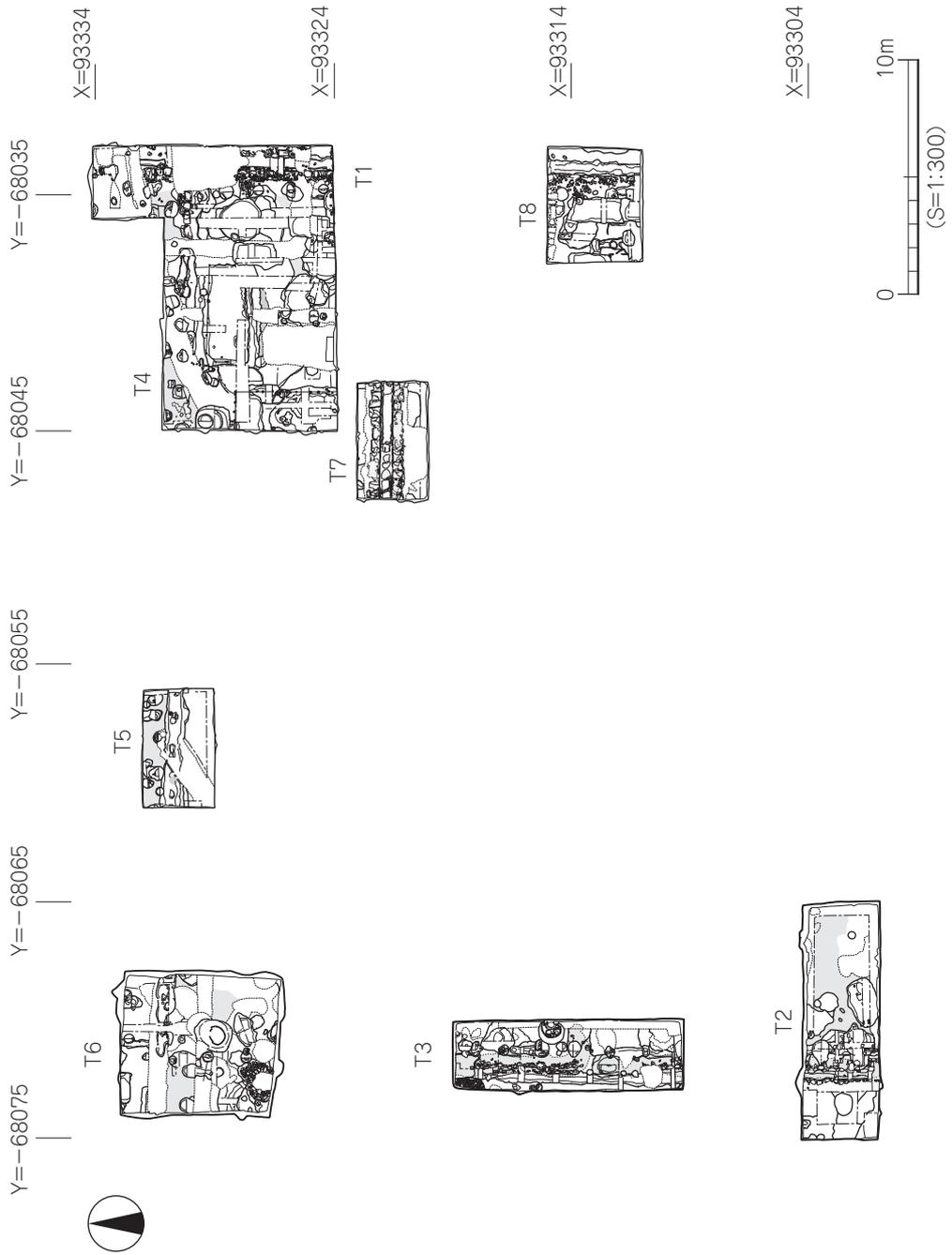
2) 柱 列

SA101〔SP101－SP102－SP103－SP104〕（第 6・8 図）

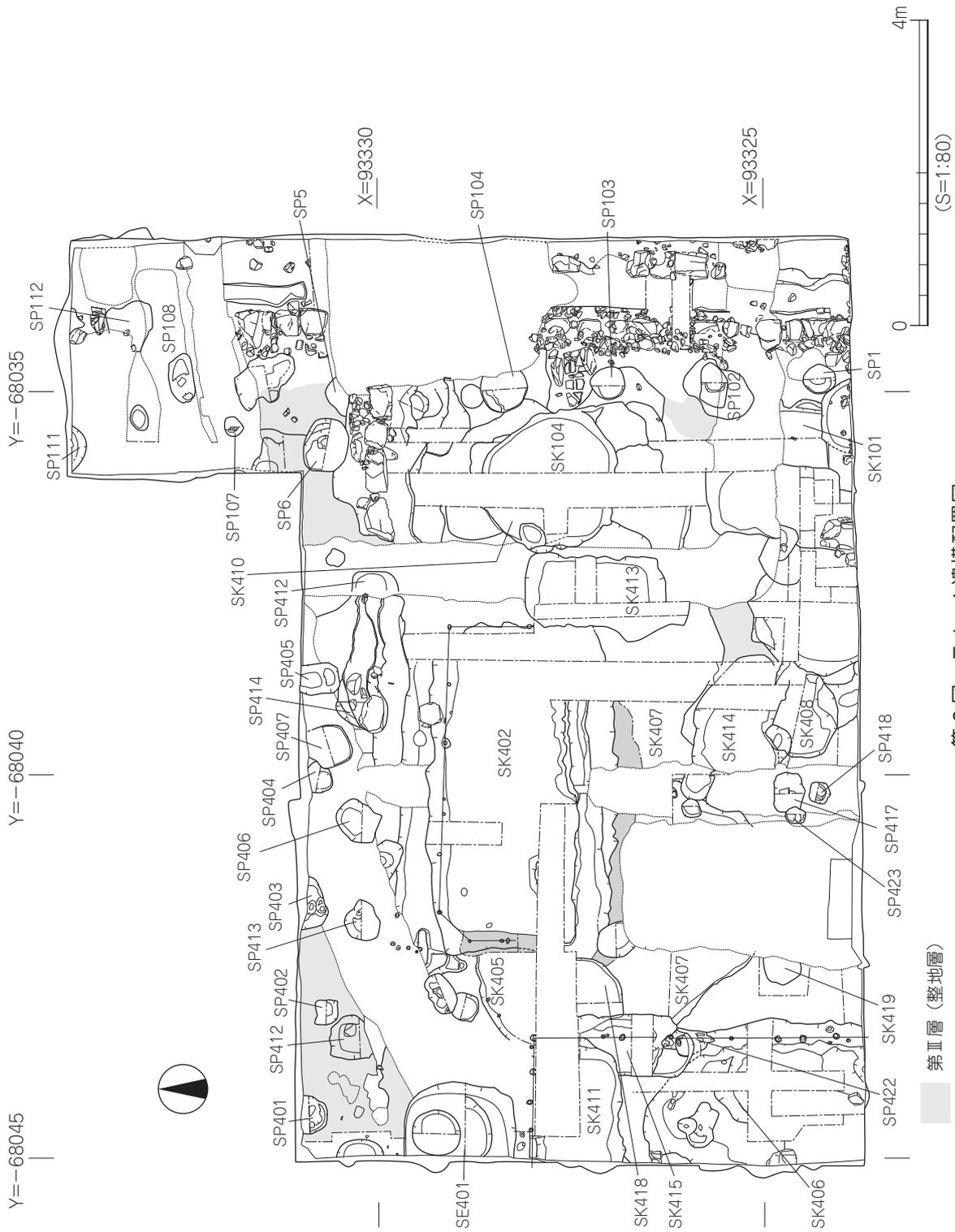
調査区の東部、Ⅲ層上面で検出した、芯間 1.4m で並ぶ南北軸の柱列である。柱列は SK103・104・105・106 を切る。径 43～61cm、深さ 25～45cm を測る。埋土は全て単層である。遺物は、SP101・102・103 から陶磁器が、SP104 から陶磁器及び瓦が出土した。所属時期は、他の遺構との重複関係及び出土物から 19 世紀中葉と考える。

SA401〔SP401－SP403－SP405－SP106〕（第 6・9 図）

調査区の東部、Ⅲ層上面で検出した、芯間 2.8～3.0m で並ぶ東西軸の柱列である。柱列は SP414 を切る。径 50～70cm、深さ 33～50cm を測る。埋土は全て単層である。SP401・106 から陶磁器が

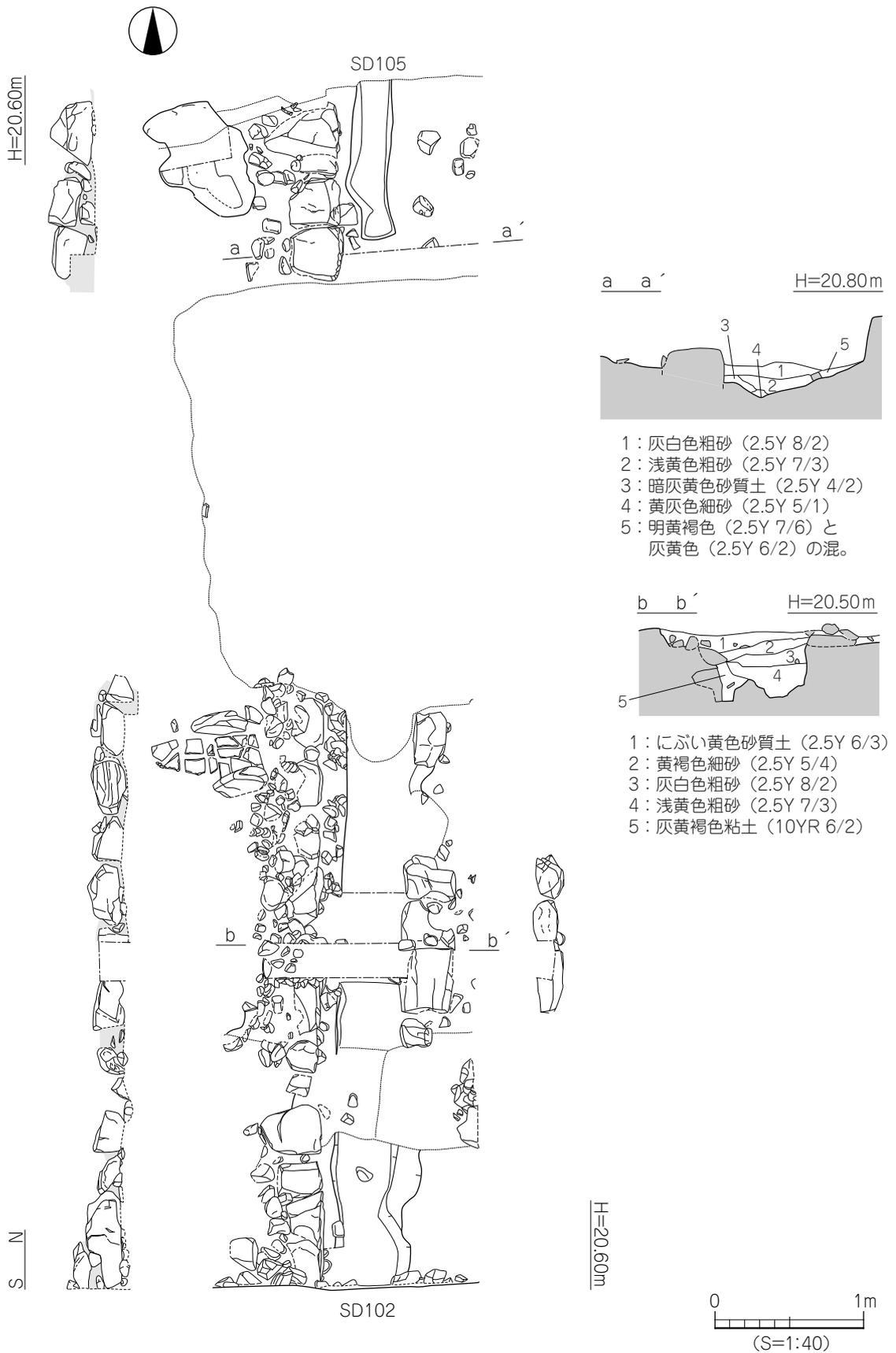


第5図 調査区トレンチ1～8配置図



第 6 図 T 1・4 遺構配置図

第Ⅱ層 (整地層)



第7図 SD102・105 測量図

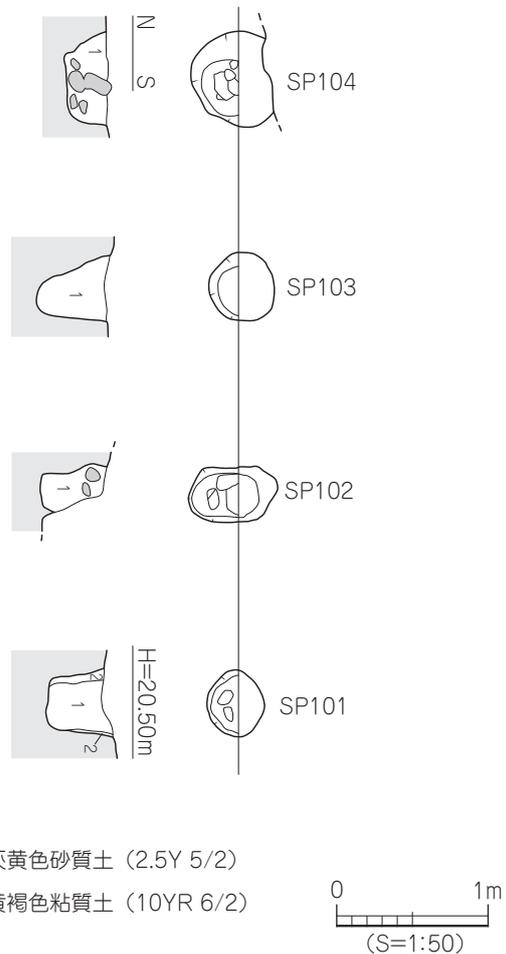
出土した。所属時期は、整地層との関係及び出土物から 17 世紀後半以降と考える。

SA402 [SP402 - SP404 - SP428] (第 6・10 図)

調査区の東部、Ⅲ層上面で検出した、芯間 2.9～3.0m で並ぶ東西軸の柱列である。SK407 に切られる。径 33～40cm、深さ 18～28cm を測る。埋土は、SP402、SP404 共に単層、SP428 は未掘のため不明である。遺物は、SP402 から陶磁器が出土した。所属時期は、整地層との重複関係及び出土物から 17 世紀後半以降と考える。

SA403 [SP411 - SP412 - SP413 - SP414 - SP421] (第 6・11 図)

調査区の東部、第Ⅳ層上面で検出した、芯間 1.4～1.5m で並ぶ東西軸の柱列である。SD401 に切られる。径 53～57cm、深さ 75～89cm を測る。埋土は、SP411 が単層、SP412 が 2 層、SP413 が単層、SP414 が単層、SP421 が単層である。遺物は、SP421 より陶磁器が出土した。所属時期は、所属時期は、他の遺構との重複関係及び出土物から 17 世紀前半と考える。



第 8 図 SA101 測量図

3) 井 戸

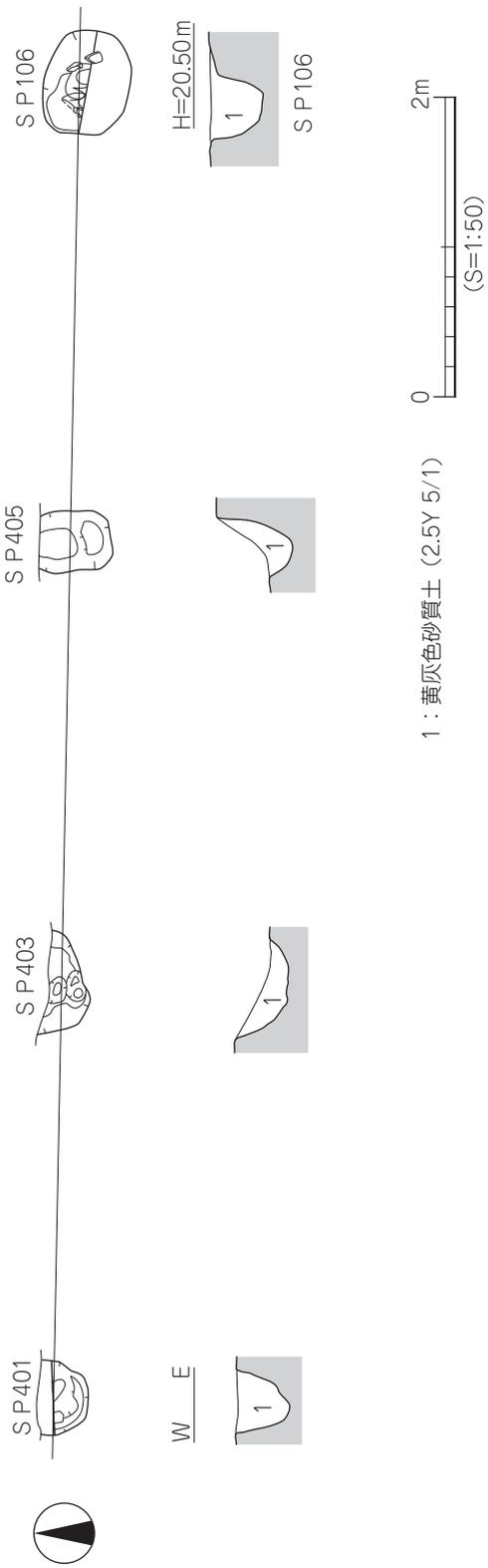
SE401 (第 6・12 図)

調査区の北西端、第Ⅲ層上面で検出した井戸である。平面形は隅丸方形で、検出長 1.42m、検出幅 0.94m、深さ 90cm を測る。埋土は 4 層で、最下層は粘性が強い。調査当初、廃棄土坑との認識であったが、調査途中で井戸桶杵を確認したことから、井戸跡であることが判明した。遺物は、陶磁器 (24～31)、土器類 (194～198) 瓦 (336)、木製品及び動物遺骸が出土した。所属時期は、整地層との関係及び出土物から 17 世紀中葉と考える。

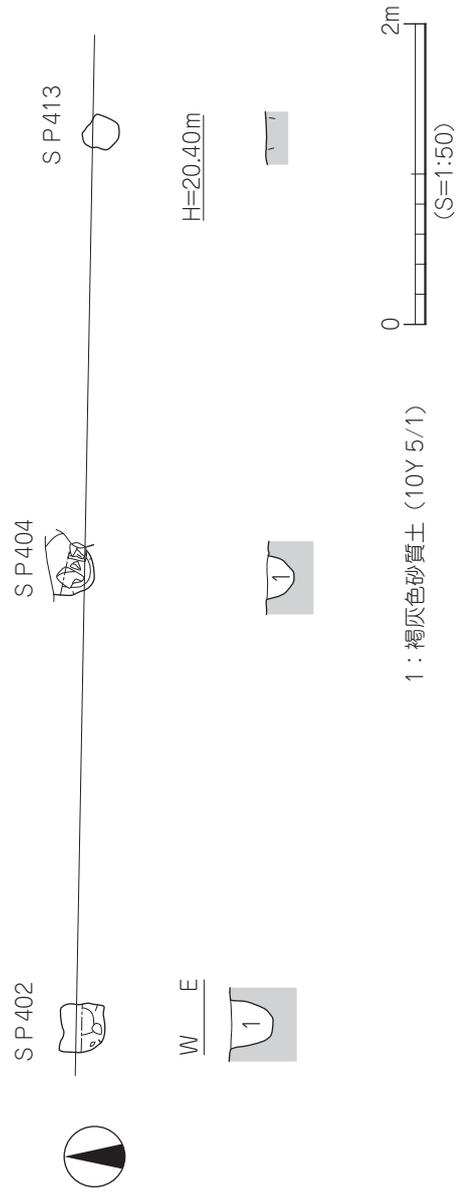
4) 土 坑

SK104・410・412 (第 6・13 図、図版 1)

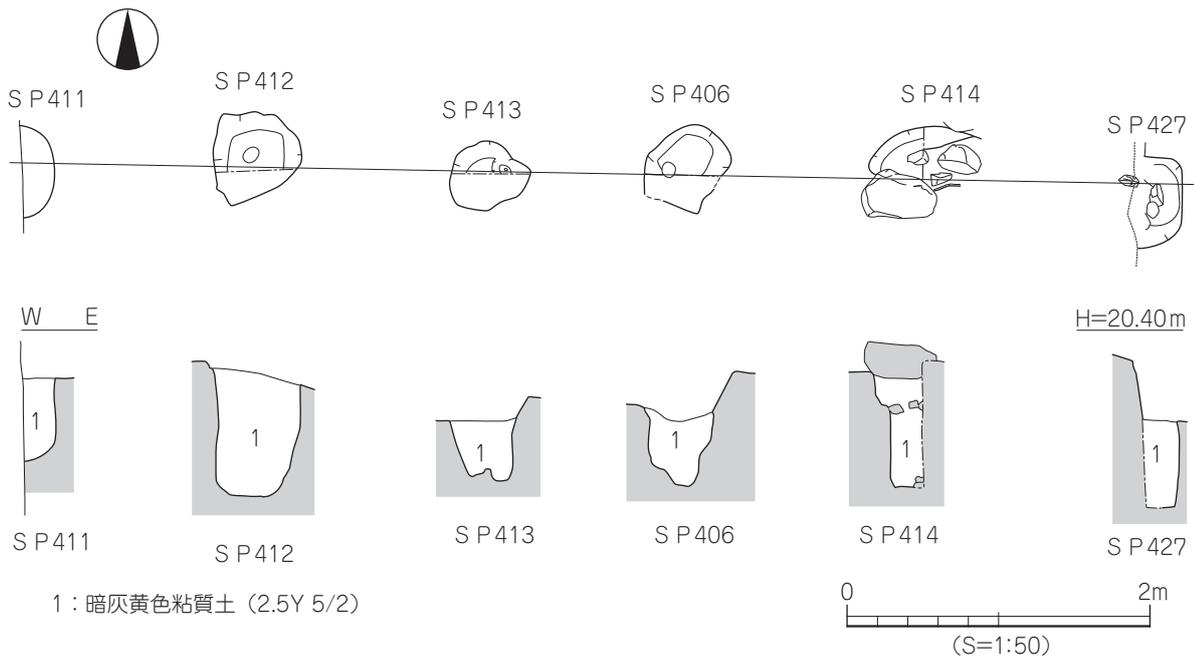
調査区の東部、第Ⅲ層上面で検出した土坑である。SK103・106・407 及び SP115・116・428 を切る。調査当時はそれぞれ別の遺構として捉えたが、整理検討の結果、同一遺構と判断した。南部に段がつく二段構造で、平面形は、攪乱により西部が破壊されているため上段は不整形で、下段は円形である。上段の検出長 2.57m、幅 2.03m、下段径 1.72～1.84m、深さ 104cm を測る。下段はほぼ垂直に



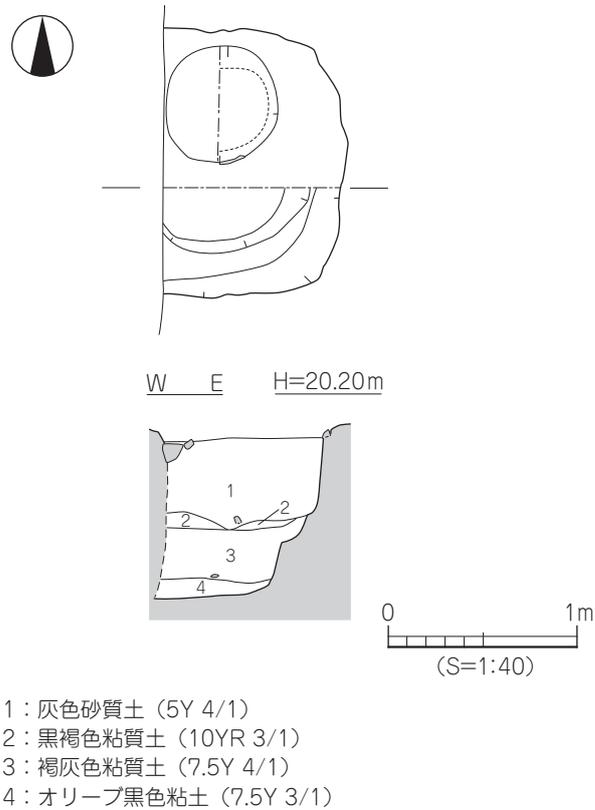
第9図 SA401 測量図



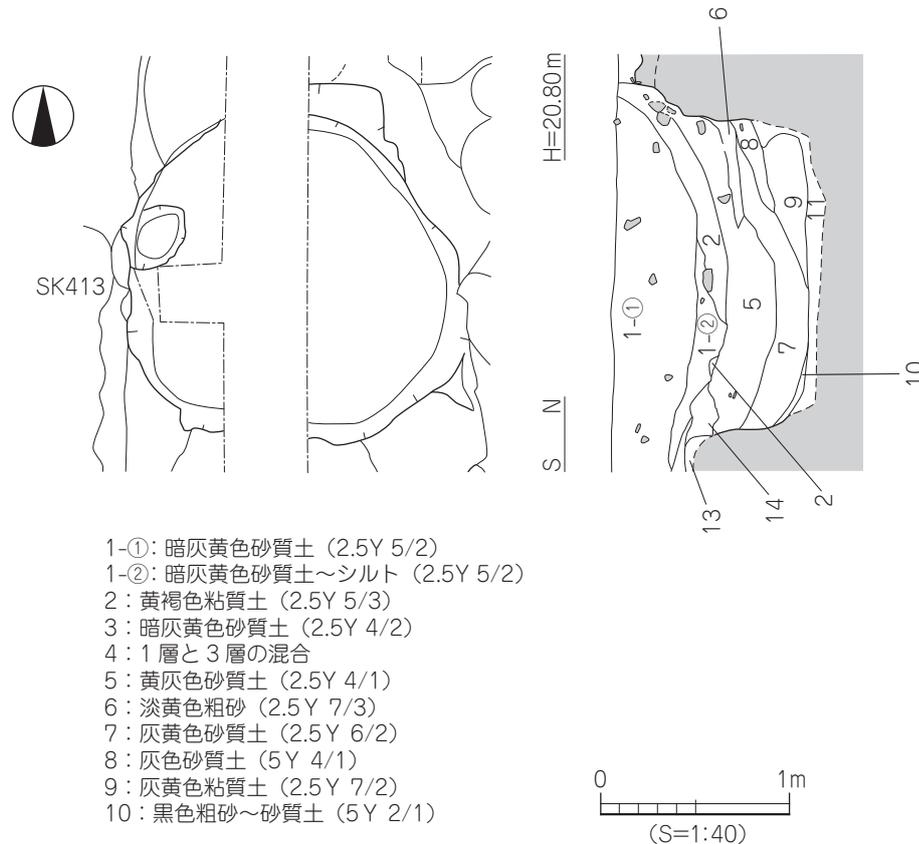
第10図 SA402 測量図



第 11 図 SA403 測量図



第 12 図 SE401 測量図



第 13 図 SK104・410・412 測量図

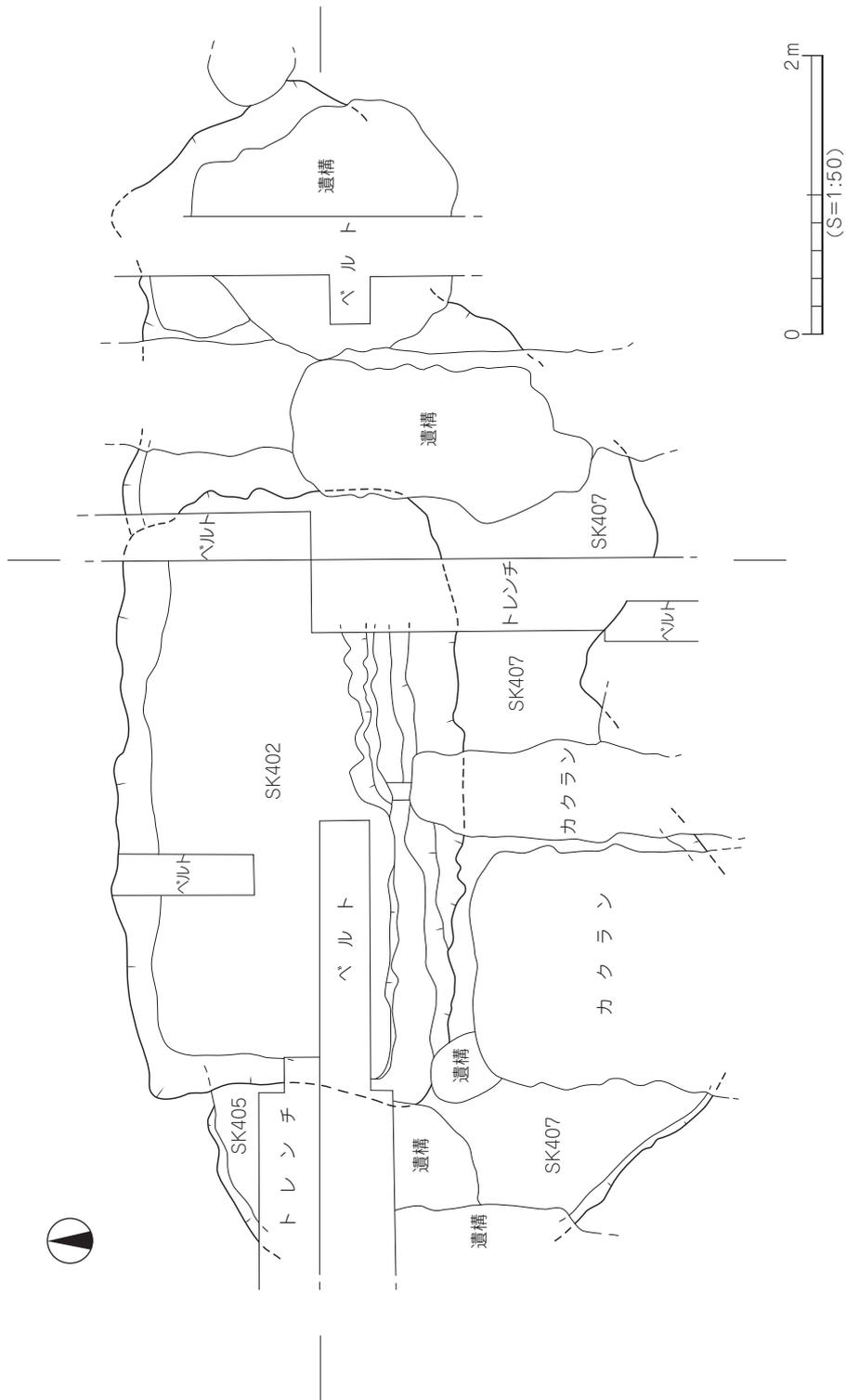
掘られる。埋度は 10 層で、大別して上層（第 1～3 層）と下層（第 4～10 層）に分けられる。最下層の 9 層は粘性が強く、底面は鉄分が多く沈着する。これらの状況から井戸である可能性がある。遺物は、陶磁器（7～21、87～92）、土器類（192、243～245）、金属製品（289、309、319）、瓦（327～334、365～369）、木製品及び動物遺骸が出土した。所属時期は、他の遺構との重複関係及び出土物から 18 世紀後半と考える。

SK402（第 6・14 図、図版 2）

調査区の中央部北、第Ⅳ層上面で検出した土坑である。SK405・407 を切り、SK413・418 及び SP420 に切られるため、本来は第Ⅲ層上から掘られた遺構と考えられる。平面形は隅丸長方形で、南北 2.44m、東西 4.12m、深さ 45cm を測る。埋土は 2 層で、下層は粘性が強く、底面は鉄分が多く沈着することから、滞水していたと考えられる。また、北辺裾に囲繞施設と考えられる約 75cm 間隔の杭列跡を検出したことから、池と推定した。遺物は、陶磁器（32～52）、土器類（199～233）、ガラス製品（282）、金属製品（290～293、317）瓦（338～352）及び動物遺骸が出土した。所属時期は、他の遺構との重複関係及び出土物から 18 世紀中葉と考える。

SK405・407（第 6・14 図、図版 2）

調査区の中央部、第Ⅲ層上面で検出した大型土坑である。SD106 及び SK103・405 を切り SK104・402・404・410・411・413・414・415・418 及び SP104・420 に切られる。調査当時はそれぞれ別の遺

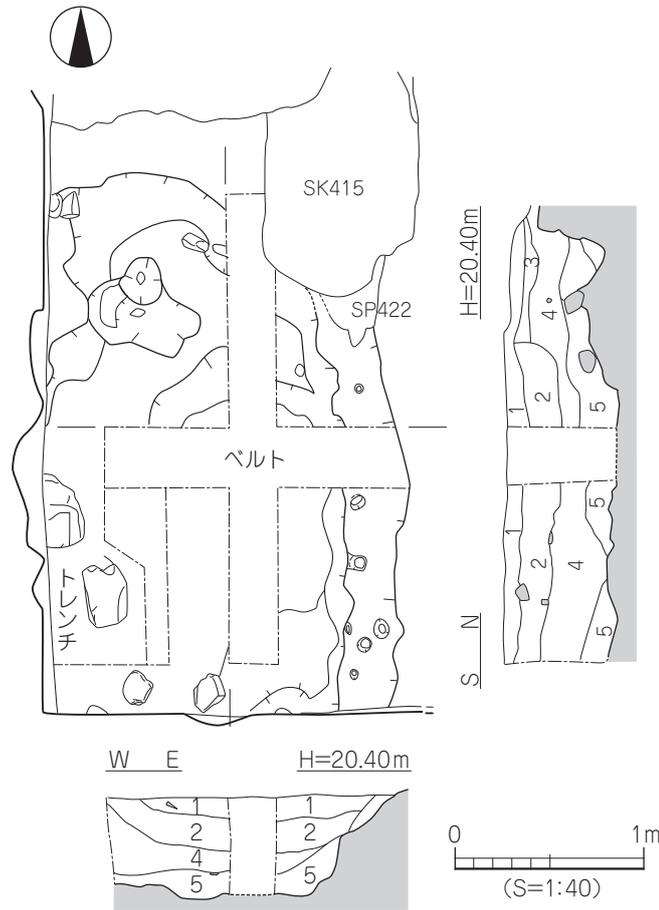


第 14 図 SK402・405・407 測量図

構として捉えたが、整理検討の結果、同一遺構と判断した。平面形は不整形で南部が緩く括れる。別の遺構にかなり切られているものの、平面規模は南北 3.76m、東西 8.82m と推定される。深さ 40cm を測る。埋土は 3 層で、下層は粘性が強く、底面は鉄分が多く沈着することから、滞水していたと考えられる。池と推定した。遺物は、陶磁器 (53、69～73)、金属製品 (294) 及び瓦 (354～357) が出土した。所属時期は、他の遺構との重複関係及び出土物から 18 世紀初頭と考える。

SK406 (第 6・15 図)

調査区の南西部、第Ⅲ層上面で検出した土坑である。SK415、SP422 に切られる。東部のみの検出であるものの、平面形は長円形と推定される。検出長軸 2.87m、検出短軸 1.92m、深さ 58cm を測る。東辺部は二段掘りを呈し、底面は平坦ではない。埋土は 5 層である。また、上段で検出した不等間隔の杭列跡が SK406 を北に超えて展開し、後述する SK411 の北で西に折れる。遺物は、陶磁器 (54～



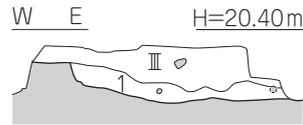
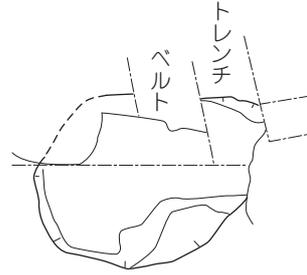
- 1：にぶい黄色砂質土 (2.5Y 6/3)
- 2：黄灰色砂質土 (2.5Y 4/1)
- 3：灰黄色粘質土 (2.5Y 6/2)
- 4：黄褐色粘質土 (2.5Y5/3)
- 5：黄灰色粘質土 (2.5Y5/1)

第 15 図 SK406 測量図

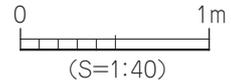
68)、土器類 (234 ~ 239)、び瓦 (353) が出土した。所属時期は、他の遺構との重複関係及び出土物から 19 世紀初頭と考える。

SK408 (第 6・16 図)

調査区の南部、第Ⅳ層上面で検出した土坑である。SK414・417、SP429 に切られる。平面形は楕円形と推定される。短径 90cm、長径 124cm、深さ 19cm を測る。埋土は単層で、第Ⅲ層が覆う。遺物は、陶磁器 (74 ~ 78)、土器類 (240、241)、石製品 (274)、瓦 (358) 及び動物遺骸が出土した。所属時期は、他の遺構との重複関係及び出土物から 18 世紀後半と考える。



1 : 暗灰黄色砂質土 (2.5Y 4/2)



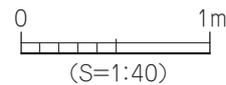
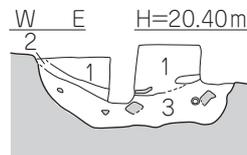
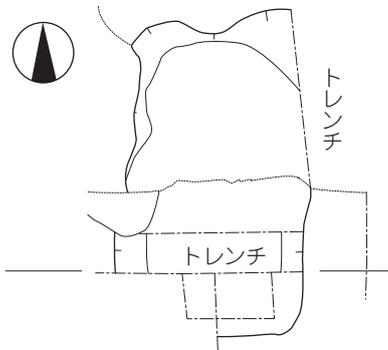
第 16 図 SK408 測量図

SK409 (第 6・17 図)

調査区の南部、第Ⅲ層上面で検出した土坑である。SP108・425 を切り、SP416 に切られる。平面形は隅丸長方形で、長軸 1.66m、短軸 1.04m、深さ 42cm を測る。埋土は 3 層である。遺物は、陶磁器 (79 ~ 85)、土器類 (242) 及び瓦 (359 ~ 363) が出土した。所属時期は、他の遺構との重複関係及び出土物から 19 世紀後半と考える。

SK411 (第 6・18 図)

調査区の西部、第Ⅲ層上面で検出した土坑である。SP405・415 を切り、SP416 に切られる。平面形は楕円形で、検出長径 1.61m、短径 1.12m、深さ 39cm を測る。埋土は 2 層である。遺物は、陶磁器 (93 ~ 107)、土器類 (246 ~ 250)、ガラス製品 (283)、金属製品 (295) 瓦 (371) 及び動物遺骸が出土した。所属時期は、他の遺構との重複関係及び出土物から 19 世紀後半と考える。

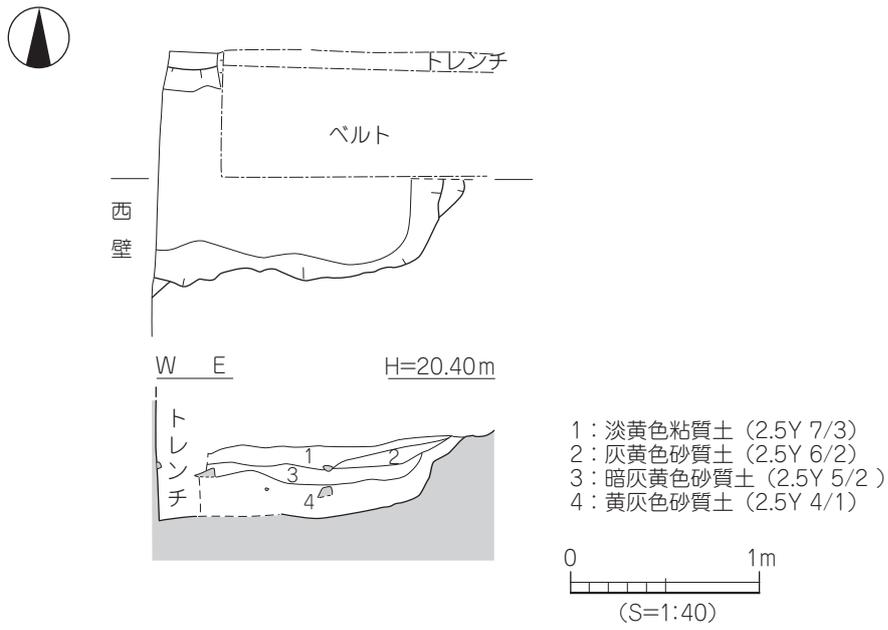


- 1 : 暗灰黄色砂質土 (2.5Y 5/2)
- 2 : 灰黄色粗砂 (2.5Y 7/2)
- 3 : 黄灰色砂質土 (2.5Y 4/1)

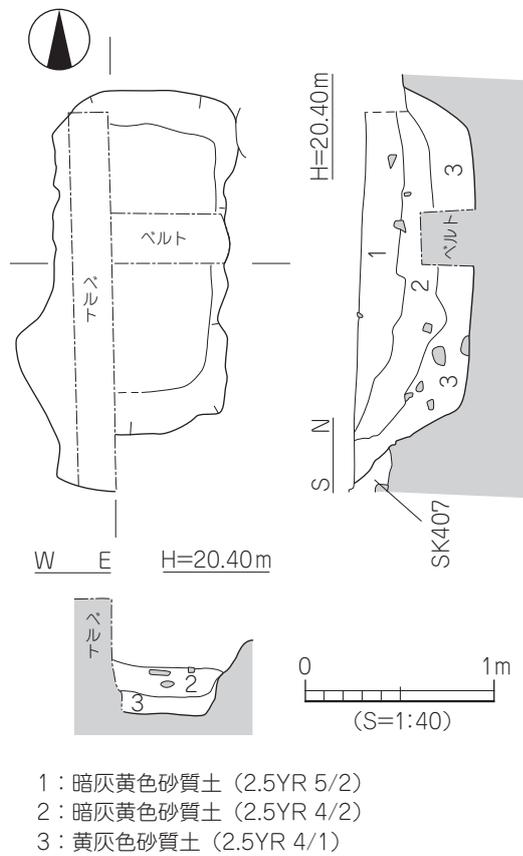
第 17 図 SK409 測量図

SK413 (第 6・19 図)

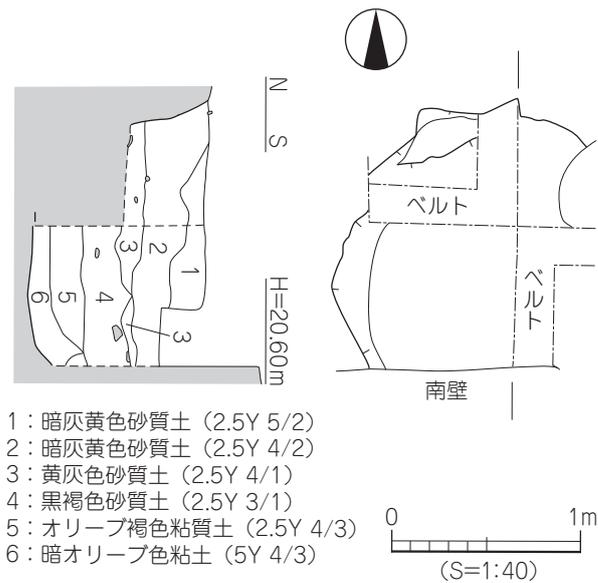
調査区の中央部西、第Ⅲ層上面で検出した



第 18 図 SK411 測量図



第 19 図 SK413 測量図



第 20 図 SK417 測量図

土坑である。SP402・SP407 を切る。平面形は隅丸方形で、長軸 2.12m、短径 1.11m、深さ 67cm を測る。埋土は 3 層である。遺物は、陶磁器 (108 ~ 111)、土器類 (251 ~ 253) 金属製品 (310、311) 及び瓦 (372、373) が出土した。所属時期は、他の遺構との重複関係及び出土物から 18 世紀後半と考える。

SK417 (第 6・20 図)

調査区の南部、第Ⅲ層上面で検出した土坑である。SK408 を切り、SP425 に切られる。平面形は円形と推定され、検出径 1.54m、深さ 90cm を測る。埋土は 6 層である。遺物は、陶磁器 (113 ~ 119)、土器類 (255)、金属製品 (296、314) 瓦 (374 ~ 377) 及び木製品が出土した。所属時期は、他の遺構との重複関係及び出土物から 18 世紀後半と考える。

(2) トレンチ 2 (第 21 図、図版 2)

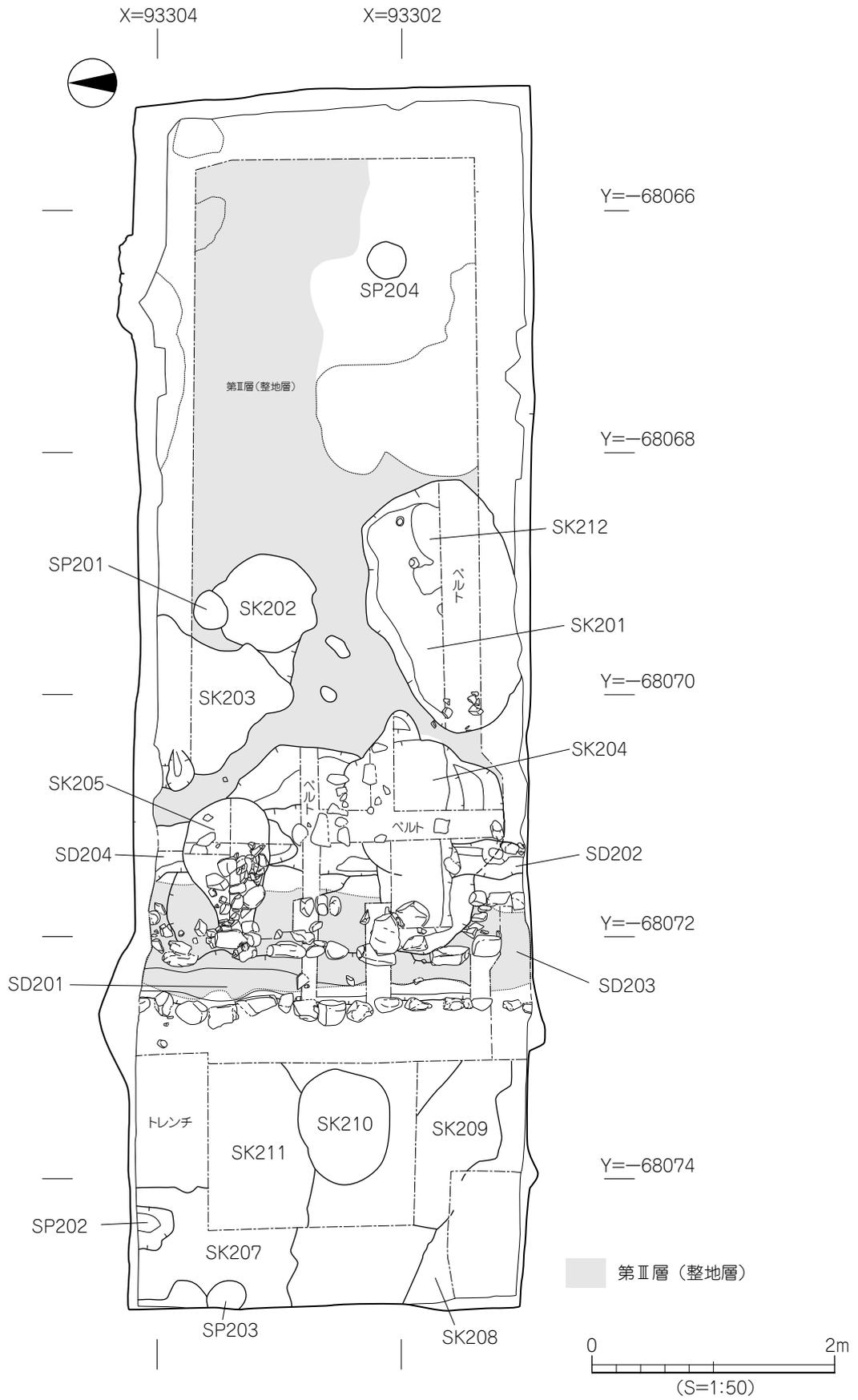
土塀基礎 1 条、溝 4 条、土坑 13 基、柱穴または小穴 6 基を検出した。主要な遺構についてのみ詳細を記す。

1) 石列及び溝 (第 21 図、図版 2)

石列及び SD201

調査区の西部、第Ⅲ層上面で検出した南北軸の石列及び石組溝である。SD203、SK204・205 を切る。土塀基礎は検出長 3.12m、幅 45m、石組溝は検出長 3.22m、内幅 0.3m 前後、深さ 16cm を測る。石列の東列は、南端と中部にそれぞれ 3 石残存するのみで、面を東に揃えて並べられる。西列は石組溝も兼ねており、やや乱雑ではあるが、面は西に揃えて並べられる。石材は、石組溝、土塀基礎共に主に 20cm 前後の花崗岩及び安山岩が使用される。また、土塀基礎の東で並行する SD202 及び SD204 は土塀に伴う雨落ち溝と推測される。全ての溝の底面は北から南へ傾斜する。遺物は、SD201・204 から陶磁器が出土した。所属時期は、他の遺構との重複関係及び出土物から 17 世紀後半以降と考える。

調査の成果



第21図 T2遺構配置図

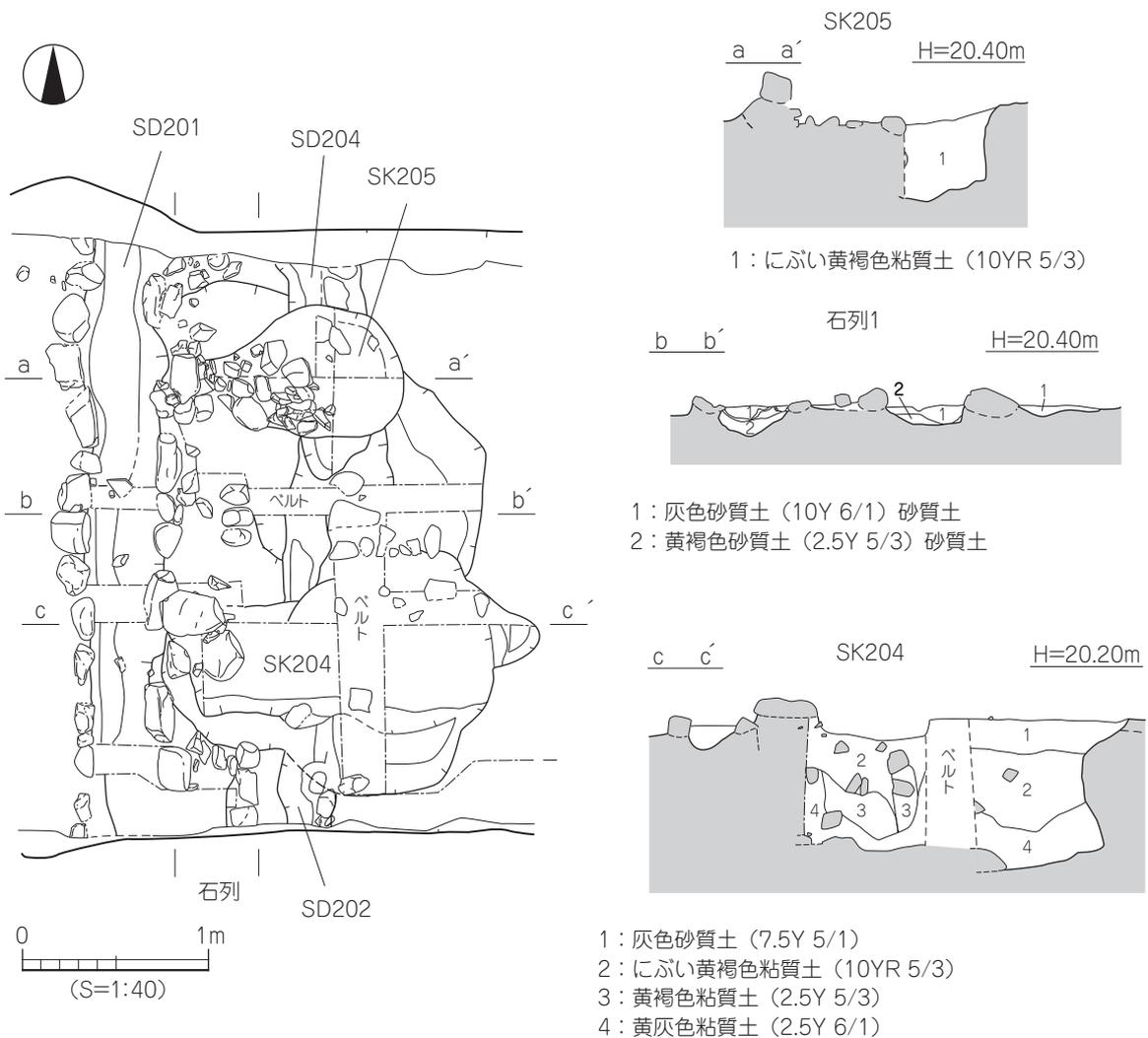
SD203 (第 21 図)

調査区の東部、第IV層上面で検出した土坑である。SD201、SK204・205 に切られる。検出長 3.22m、0.59 ~ 0.95m を測る。検出のみであるため、埋土は第 1 層しか分らないが、第III層に酷似している。おそらく、整地と共に埋められた遺構と推測される。所属時期は、整地層との関係から 17 世紀前半と考える。

2) 土 坑

SK204 (第 21・22 図)

調査区の西部、第III層上面で検出した土坑である。SD202・205 を切り、石列 1 に敷かれる。平面形は、上端は不整形であるが、中段は長方形を呈する。長軸 1.98m、短軸 1.30m、深さ 80cm を測る。埋土は 4 層である。構内の西端とやや東寄りの底面に礎石と考えられる 25cm 前後の石が置かれているこ

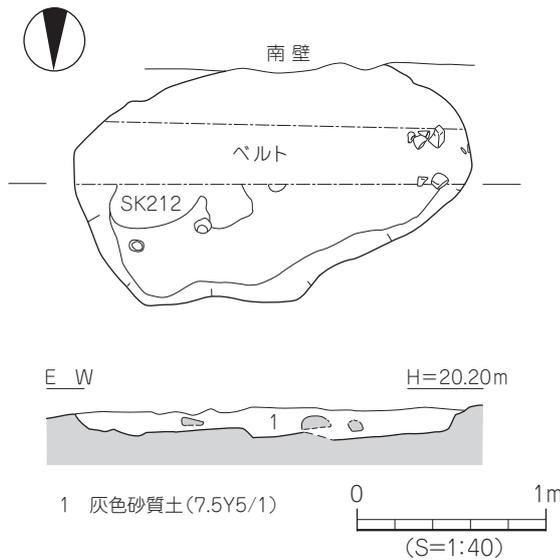


第 22 図 SK204・206、石列及び 201 測量図

と及び層位の状況並びに石列との位置関係から、同土坑は土塀の主柱（西）と控柱（東）の掘方と推定した。また、雨落ち溝 SD202 を切っていることから、建替え時のものと思われる。遺物は、陶磁器及び瓦（380、381）が出土した。

SK205（第 21 図）

調査区の西部、第Ⅲ層上面で検出した土坑である。SD203・204 を切る。平面形は瓢箪形で、東西 1.35m、南北 0.67m、深さ 45cm を測る。埋土は単層であるが、西部に石が大量に落とし込まれており土層の記録は困難であった。SK204 とは層位の状況が異なるが、平面形及び石列との位置関係から、同じく建替え時の土塀の主柱と控柱の掘方と思われる。遺物は陶磁器が出土した。



第 23 図 SK201 測量図

SK201（第 21・23 図）

調査区の南部、第Ⅲ層上面で検出した土坑である。SK213 を切る。平面形は長方形で、長径 2.03m、短径 1.25m、深さ 15cm を測る。埋土は単層である。遺物は、陶磁器（125、126）、土器類（257～259）及び瓦が出土した。所属時期は、出土物から 17 世紀後半と考える。

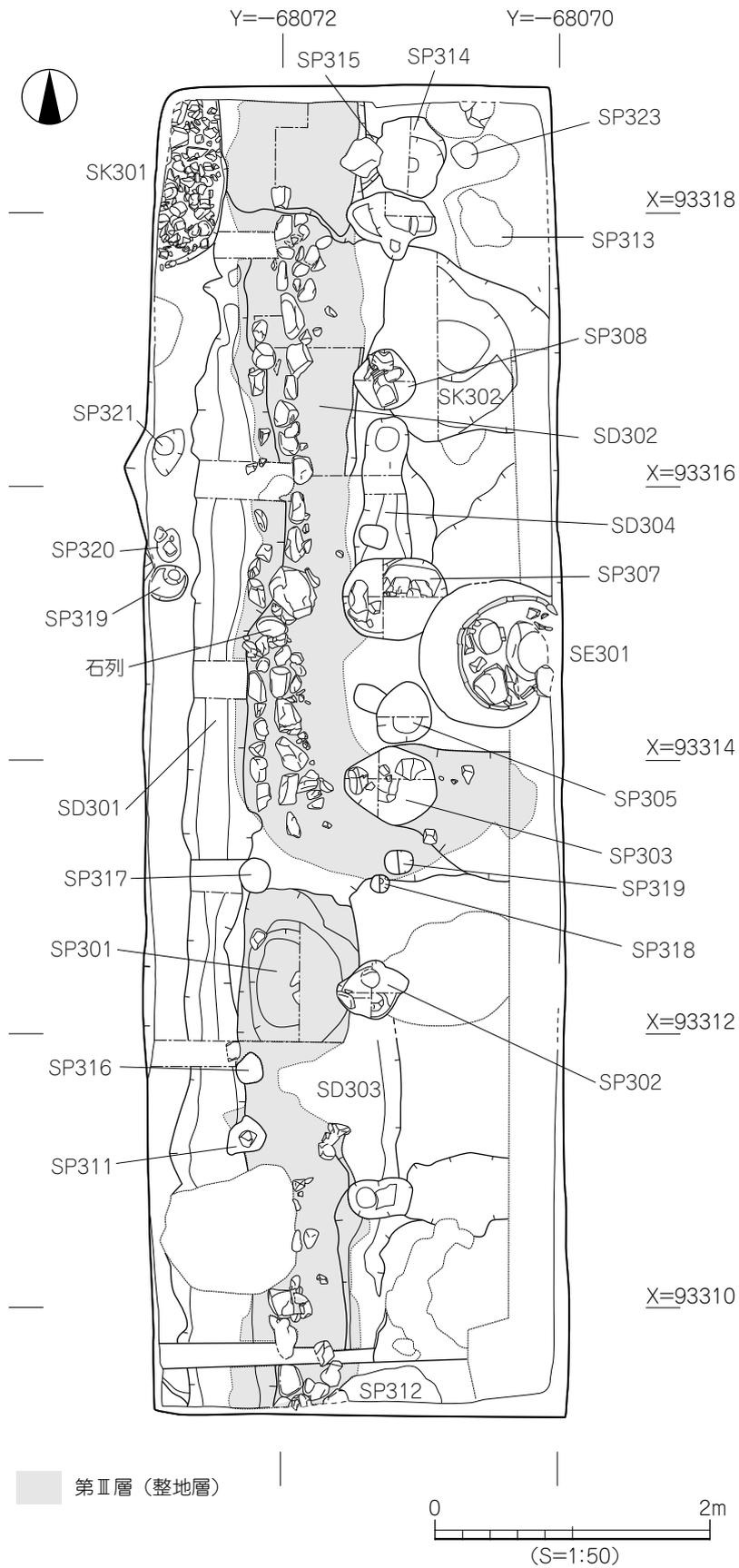
(3) トレンチ 3（第 24 図）

土塀基礎 1 条、溝 3 条、井戸 1 基、土坑 2 基、柱穴または小穴 21 基を検出した。主要な遺構についてのみ詳細を記す。

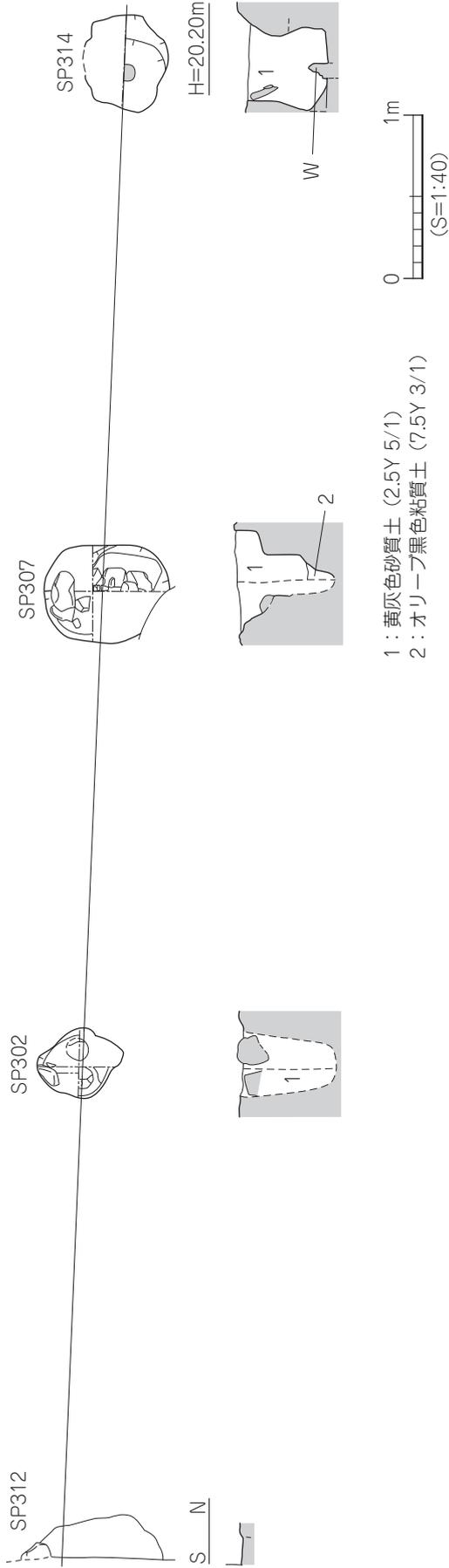
1) 石列及び溝

石列及び SD301（第 24 図、図版 2）

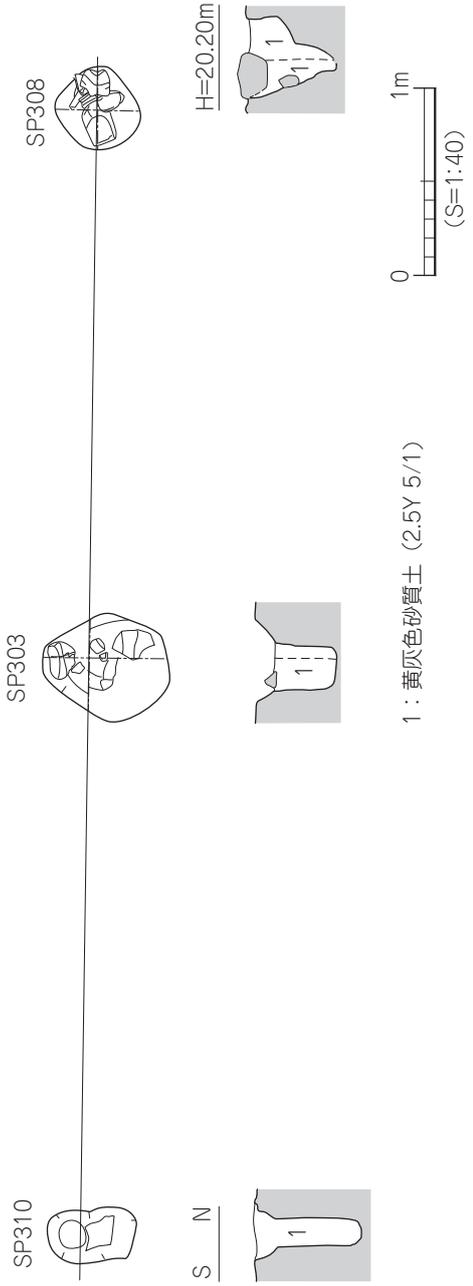
調査区の西部、第Ⅳ層上面で検出した南北軸の石列と溝である。SD302 及び SP301 を切る。土塀基礎は検出長 8.9m、幅約 0.45m、溝は検出長 8.87m、幅約 0.4m、深さ 8cm を測る。SD301 の埋土は単層である。傾きがほとんど無く、浅いことから、雨落ち溝と推定される。遺物は、SD301 から陶



第 24 図 T 3 遺構配置図



第 25 図 SA301 測量図



第 26 図 SA302 測量図

磁器（128、129）及び瓦（382）が出土した。所属時期は、他の遺構との重複関係及び出土物から 17 世紀後半以降と考える。

SA301 [SP314 - SP307 - SP302 - SP312] (第 24・25 図)

調査区の東部、第Ⅳ層上面で検出した、芯間 3.0～3.1m で並ぶ柱列である。SD302・303 を切り、SE301 に切られる。平面形はいずれも楕円形で、長径 50～76cm、短径 43～58cm 深さ 55～59cm を測る。埋土は、SP314・302 が単層、SP307 が 2 層、SP312 は未掘のため不明である。遺物は、SP307・302・312 から陶磁器が出土した。

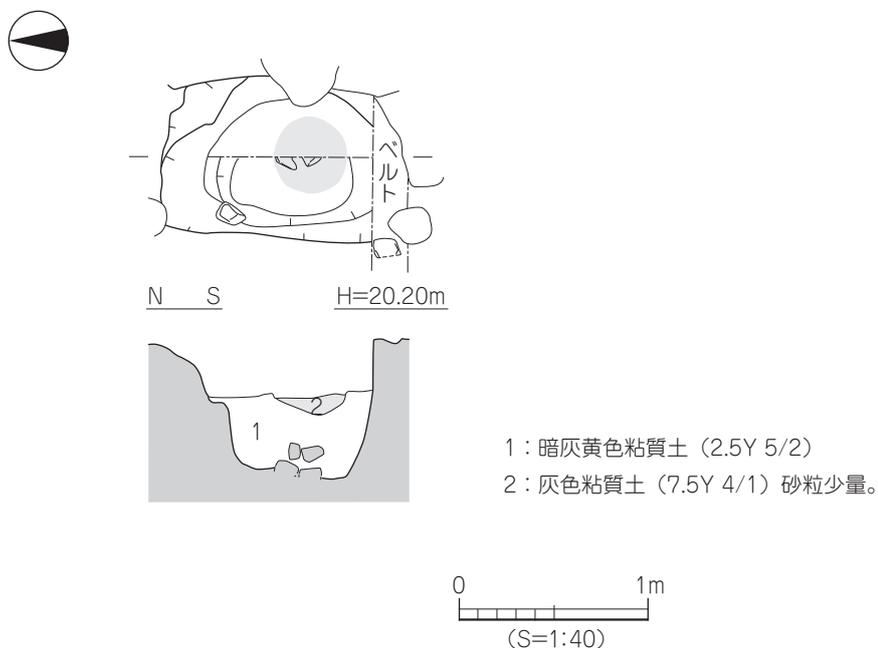
SA302 [SP308 - SP303 - SP310] (第 27 図)

調査区の東部、第Ⅳ層上面で検出した、芯間 3.0～3.1m で並ぶ柱列である。SD302・303、SK302 及び SP301 を切る。平面形は楕円形で、長径 45～67cm、短径 27～58cm、深さ 42～56cm を測る。埋土は、全て単層である。遺物は、SP308・303 より陶磁器（131）が出土した。所属時期は、他の遺構との重複関係及び出土物から 18 世紀前半と考える。

2) 柱 穴

SP301 (第 28 図)

調査区の西部、第Ⅳ層上面で検出した大型の柱穴である。SD301 及び SP302 に切られる。平面形



第 27 図 SP301 測量図

は隅丸台形で、長軸 1.32m、短軸 0.85m、深さ 71cm を測る。調査当初、攪乱抗と判断し 25cm 掘り下げたところで、構内ほぼ中心に径 38cm の円形の遺構が検出されたため、精査し、柱に伴う埋土と判断した。そのため、確認された埋土は 2 層であるが、本来先に掘り下げた上部を勘案すると、元は 3 層であった可能性がある。SD302 及び第Ⅲ層に似ていた。遺物は陶磁器 (130) が出土した。所属時期は、他の遺構との重複関係及び出土物から 17 世紀前期と考える。

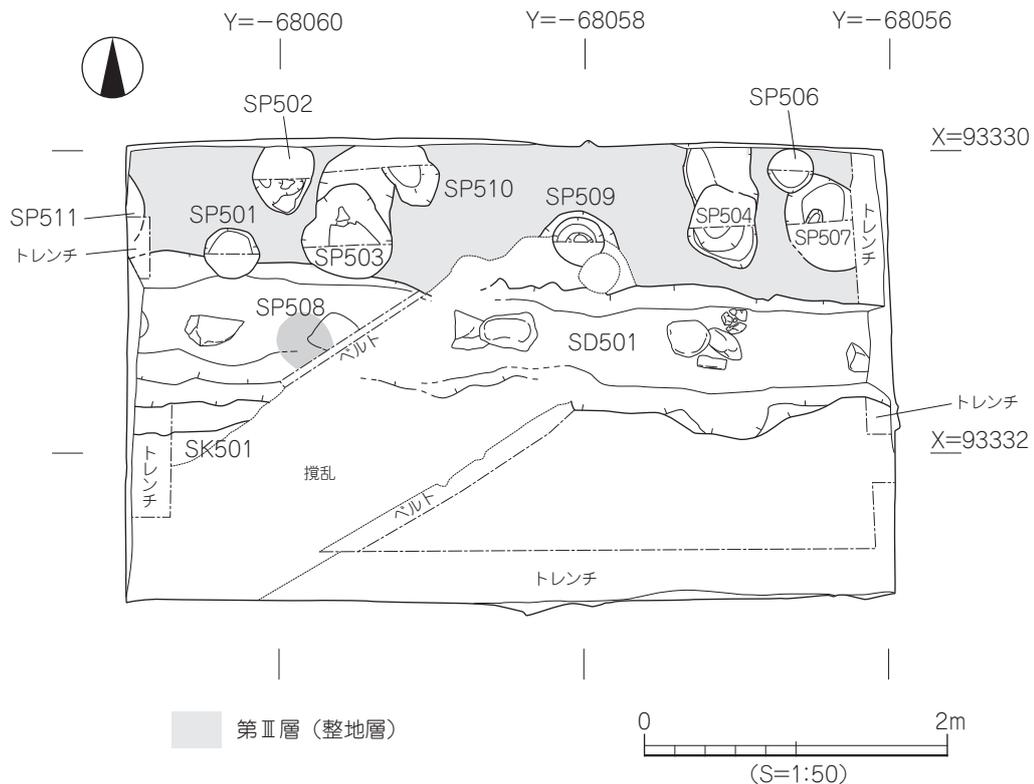
(4) トレンチ 5 (第 28 図、図版 3)

溝 1 条、土坑 1 基、柱穴または小穴 10 基を検出した。主要な遺構についてのみ詳細を記す。

1) 溝

SD501 [SP508 含む] (第 28・29 図)

調査区の北部、第Ⅳ層上面において検出した溝である。SP501・503・511 に切られる。検出長 4.95m、幅 0.62～0.96m、深さ 90cm を測る。埋土は基本 3 層であるが、一部で柱痕らしき層を確認した(東壁断面及び SP508)。また、最下部に 30～40cm 石が面を上に向け、間隔を置いてほぼ同じレベルで並ぶ。遺物は、SP508 から陶磁器 (142) が出土した。所属時期は、他の遺構との重複関係及び出土物から 17 世紀前半と考える。

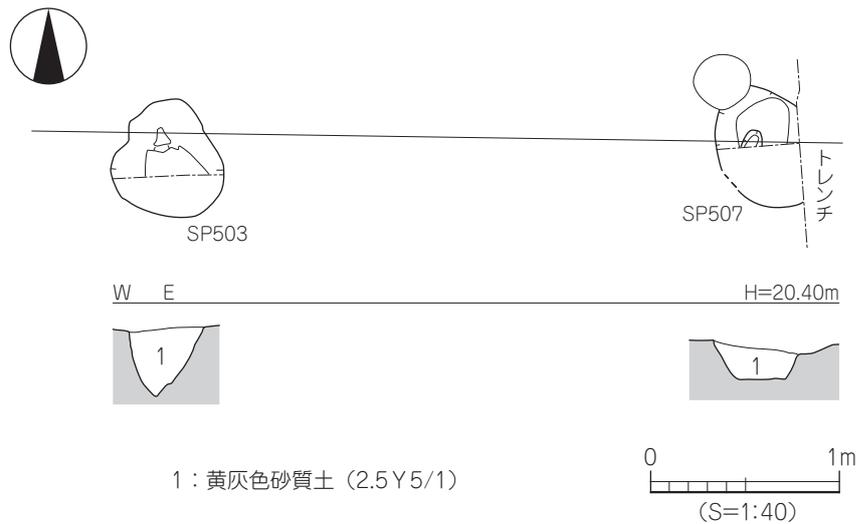


第 28 図 T 5 遺構配置図

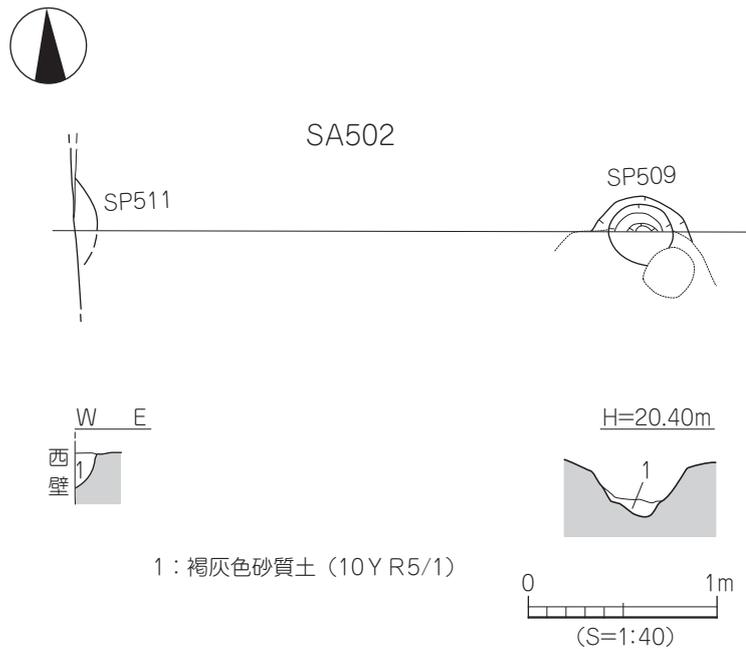
2) 柱 列

SA501 [SP503 - SP507] (第 28・30 図、図版 3)

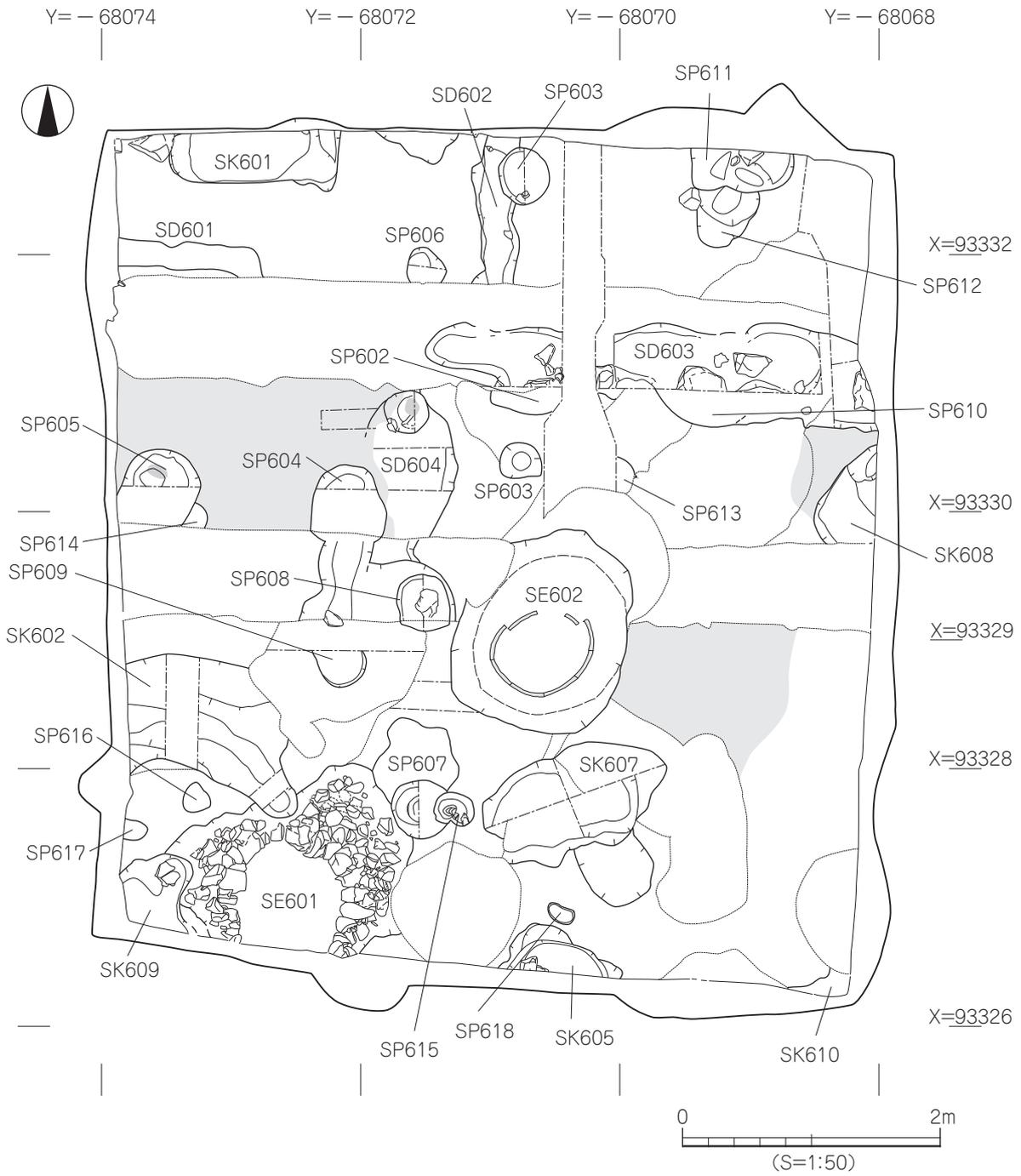
調査区の北部、第Ⅲ層上面で検出した、芯間 3.1m で並ぶ柱列である。SD501 を切り、SP506・510 に切られる。径 50cm、深さ 22～32cm を測る。埋土は、いずれも単層である。遺物は出土していない。所属時期は、整地層との関係から 17 世紀後半以降と考える。



第 30 図 SA501 測量図



第 31 図 SA502 測量図



第 32 図 T 6 遺構配置図

SA502 [SP509 - SP511] (第 28・31 図)

調査区の北部、第三層上面で検出した、芯間約 3.1m で並ぶ柱列である。SD501 を切る。径 59～62cm、深さ 28cm を測る。埋土は、いずれも単層である。遺物は出土していない。

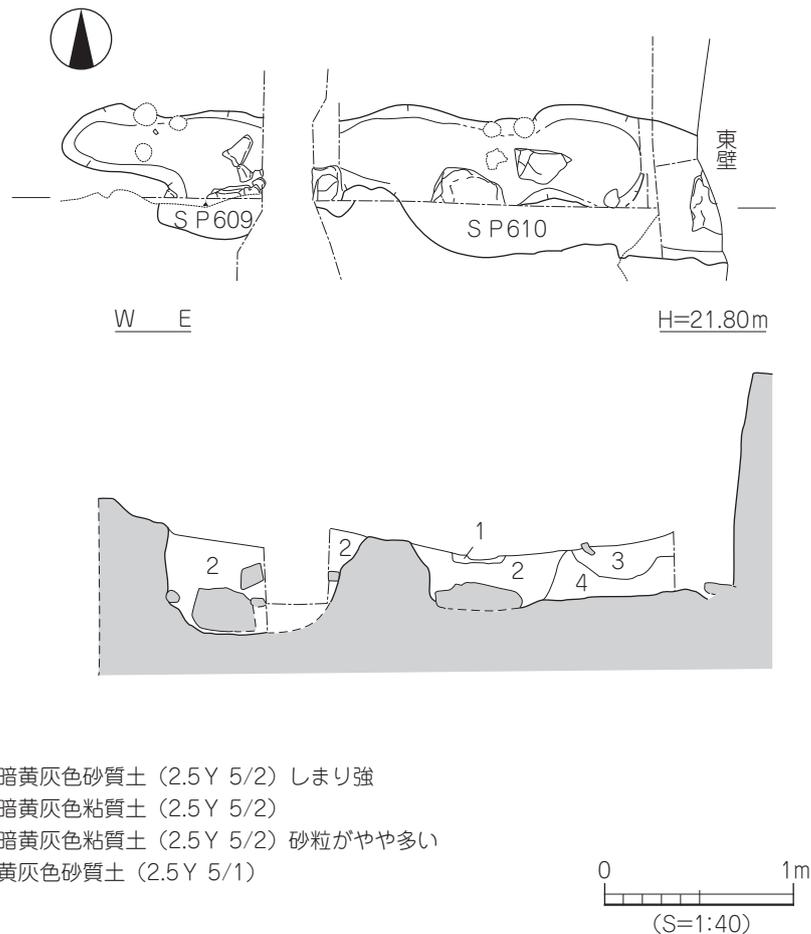
(5) トレンチ 6 (第 32 図、図版 3)

溝 4 条、井戸 2 基、土坑 6 基、小穴 18 基を検出した。主要な遺構についてのみ詳細を記す。

1) 溝

SD603 [SP602 - SP610] (第 32・33 図)

調査区の北部、第四層上面で検出した溝である。検出長 3.32m、幅 0.35～0.75m、深さ cm を測る。攪乱により北半が破壊されている。土層観察により SP602・610 を含む溝であることが判明したが、むしろ両 SP を掘った結果、溝状となった可能性がある、埋土は 5 層で、SP610 の上部には直径約 28cm の柱痕らしき層を確認した。また、最下部に 40cm 前後の石が面を上に向け、間隔を置いてほぼ同じレベルで並び、トレンチ 5 の SD501 と同様の状況がみられる。遺物は陶磁器が出土した。



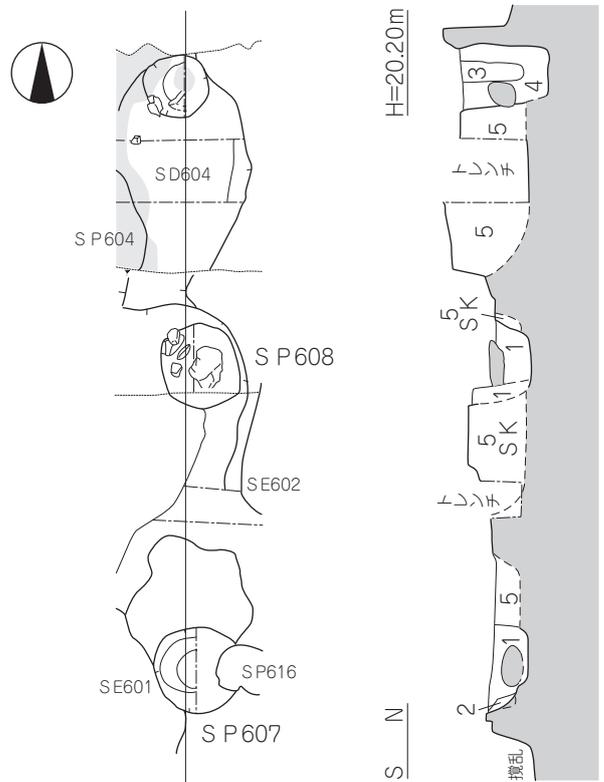
第 33 図 SD603 測量図

2) 柱 列

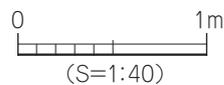
SA601 [SD604 - SP608 - SP607] (第 32・34 図)

調査区の中央部、第IV層上面で検出した芯間約1.6mで並ぶ柱列である。SP604・609に切られる。遺構検出時、現在のSD604とSP608を併せて南北方向の溝と見なし、SD604としていたが、調査の進展により別遺構であることが判明したため分別した。したがって、本来SD604は溝ではなく柱穴であるが、遺物の混乱を防ぐため継続してSD604の遺構名を使用した。

SD604は楕円形で、長径1.18m、短径推定0.74mを測る。北端に遺構の主体である径33cm、深さ44cmの柱穴があり、さらに柱穴内に径約11cmの柱痕を検出した。SP608は楕円形で、長径0.95m、短径0.74m以上を測る。北端に遺構の主体である径44cm、深さ32cmの柱穴がある。SP607は不整形で、長軸1.96m、短軸0.64mを測る。南端に遺構の主体である径45cm、深さ18cmの柱穴がある。埋土は、SD604が4層、SP608が2層、SP607が2層である。遺物は、SP608から陶磁器及び金属製



- 1: オリーブ黄色砂質土 (5Y 6/3)
- 2: 灰色粘質土 (5Y 5/1)
- 3: 暗灰黄色シルト (2.5Y 5/2)。柱痕
- 4: 黄褐色砂質土 (2.5Y 5/3)
- 5: にぶい黄色砂質土 (2.5Y 6/3)



第 34 図 SA601 測量図

品、SP607 から陶磁器が出土した。

3) 井戸

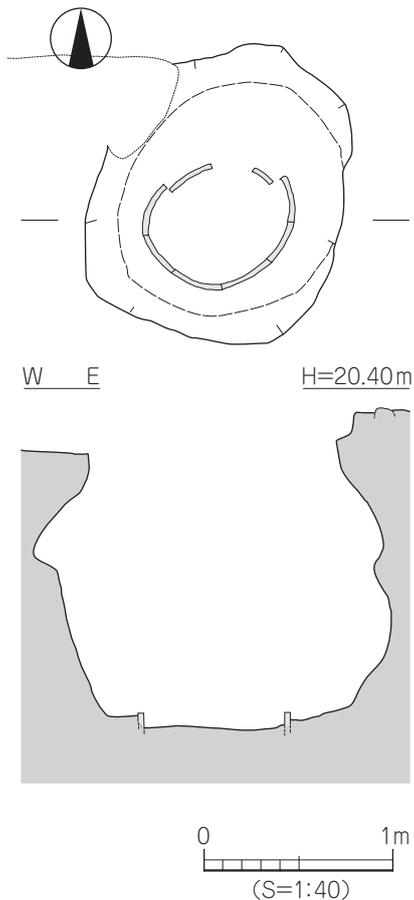
SE602 (第 32・35 図)

調査区の中央部、第Ⅲ層上面で検出した井戸である。平面形は楕円形で、上端は長径 1.74m、短径 1.33m、下端は長径 1.25m、短径 1.15m、深さ 1.67m を測る。埋土は近現代土である。底面で瓦積の井戸枠を検出した。井戸枠内は未掘である。遺物は陶磁器 (144、145) が出土した。所属時期は、出土物から 17 世紀前半と考える。

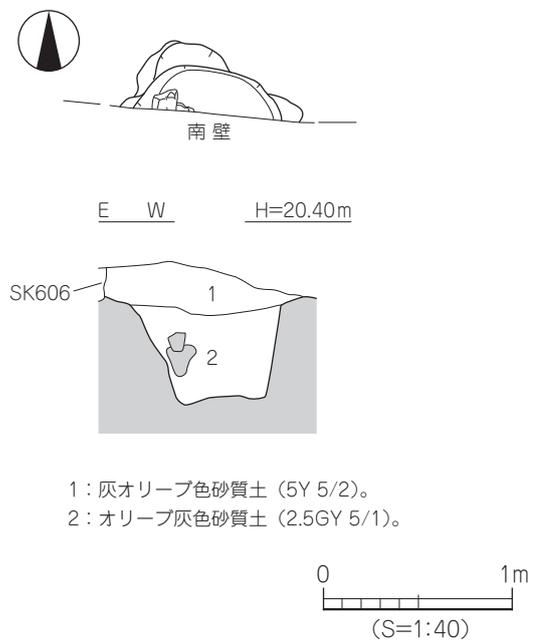
4) 土坑

SK605 (第 32・36 図)

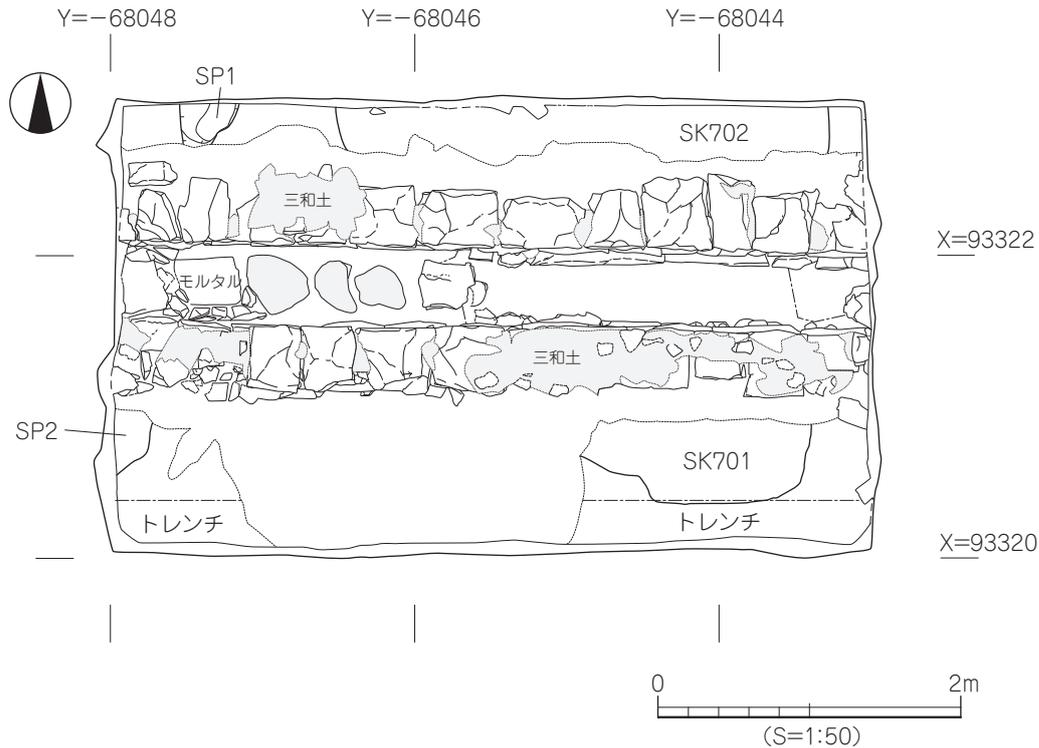
調査区の南部、第Ⅳ層上面で検出した土坑である。平面形は隅丸方形で、検出長軸 0.85m、検出短軸 0.45m を測る。埋土は 2 層である。遺物は陶磁器 (147) が出土した。所属時期は、出土物から 17 世紀初頭と考える。



第 35 図 SE602 測量図



第 36 図 SK605 測量図



第 37 図 T 7 遺構配置図

(6) トレンチ 7 (第 37 図)

土坑 2 基、小穴 3 基を検出した。主要な遺構についてのみ詳細を記す。

1) 土 坑

SK701・702 (第 37 図)

調査区の東部、第Ⅲ層上面で検出した大型土坑である。検出した平面形は隅丸の台形に近い。東西 3.23m、南北 2.62m を測る。近代の石組溝によって南北が分断されているため、当初はそれぞれ別の遺構と考えたが、検出ラインから同じ遺構と推定した。さらには、トレンチ 4 の SK406 と繋がり、さらに大型の土坑となる可能性もある。未掘のため所属時期は不明である。

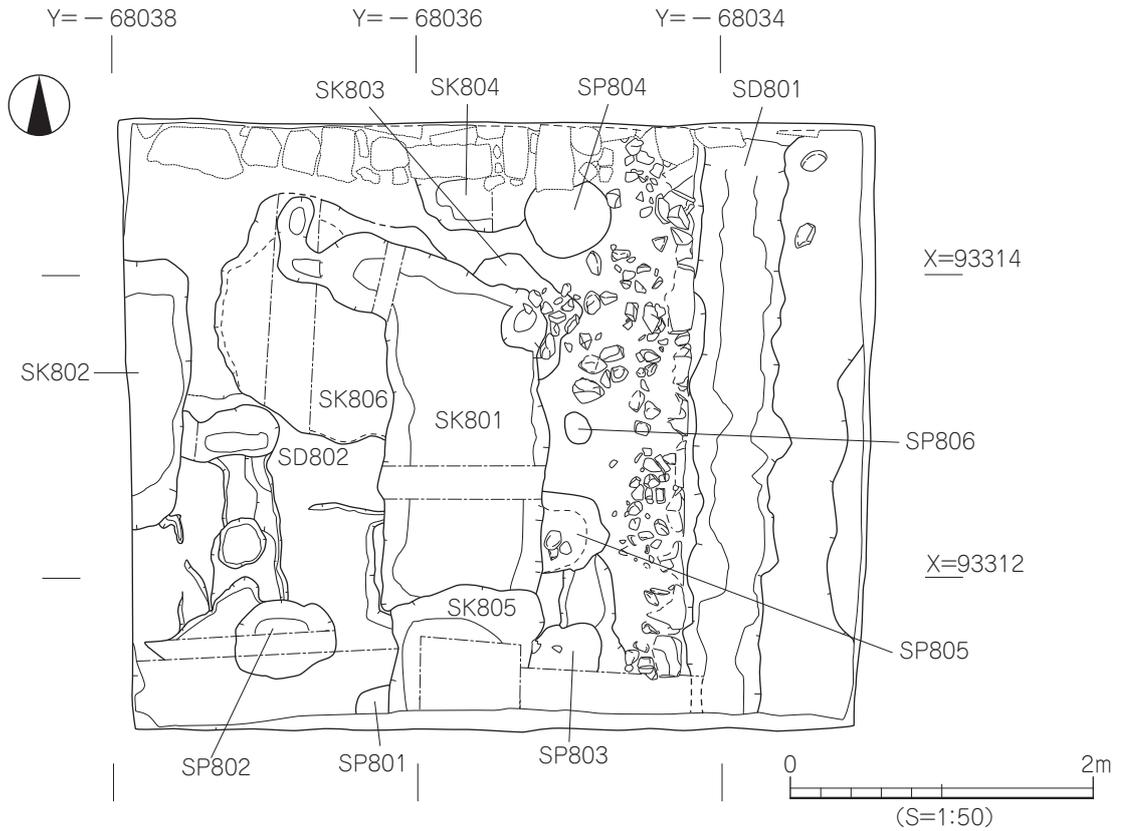
(7) トレンチ 8 (第 38 図、図版 3)

溝 3 条、土坑 6 基、小穴 5 基を検出した。主要な遺構についてのみ詳細を記す。

1) 溝

SD801 (第 38・39 図)

調査区の東部、第Ⅳ層上面で検出した石組道路側溝である。東側 (道路側) の石組はほぼ残存していないが、掘方が残る。検出長 3.88m、内幅約 0.6m (≒約 2 尺)、深さ 20cm を測り、底面は北から南へ傾斜する。石組は、概ね根石が残存するのみで、垂直の掘方の中に据えられ、背後に拳大の裏込石が充填される。石材は花崗岩である。遺物は、陶磁器及び瓦が出土した。



第 38 図 T 8 遺構配置図

2) 柱 列

SA801 (SP803 - 804)

調査区の東部、IV層上面で検出した芯間約 3.0m の柱列である。SK801 に切られる。トレンチ 1 の SA101 の南延長上に位置する。SP803 は径 0.46m を測る。SP804 は径 0.57m を測る。未掘のため埋土の層数の確認、遺物の取得は行っていない。

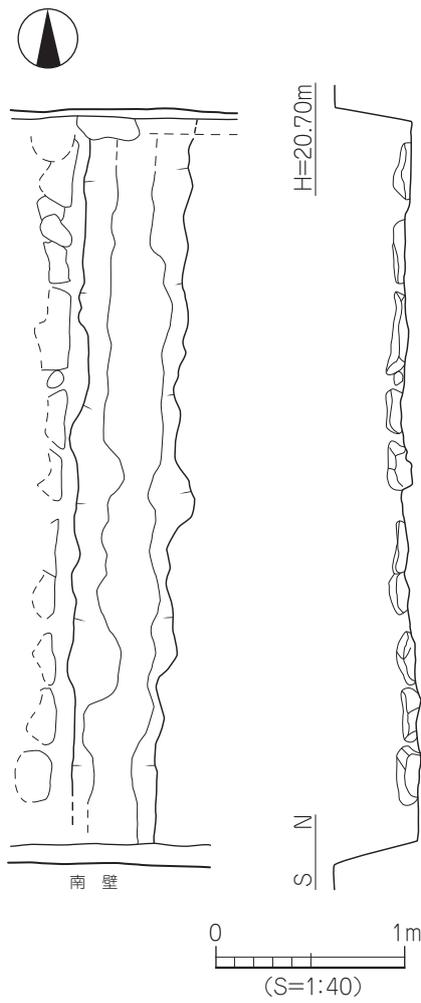
3) 土 坑

SK801 (第 38・40 図、図版 3)

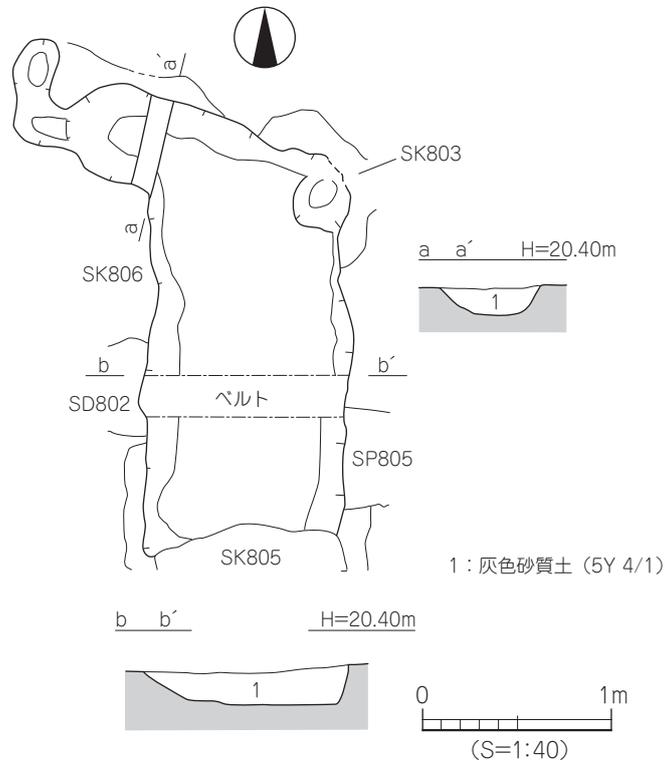
調査区の中央、第IV層上面で検出した土坑である。SK806、SP803・805 を切り、SK805 に切られる。平面形は基本隅丸方形の北西に L 字形の溝が付く特異な形状である。複数の遺構を併せて掘り下げた可能性も否めない。検出長軸 2.37m、短軸 1.09m、溝部幅 0.52m、深さ 17cm を測る。埋土は単層である。遺物は、陶磁器 (156 ~ 172)、土器類 (265 ~ 270)、石製品 (279)、ガラス製品 (284) 及び金属製品 (299、307、308)、瓦 (392 ~ 397) が出土した。所属時期は、他の遺構との重複関係及び出土物から 19 世紀初頭と考える。

SK802 (第 38・41 図)

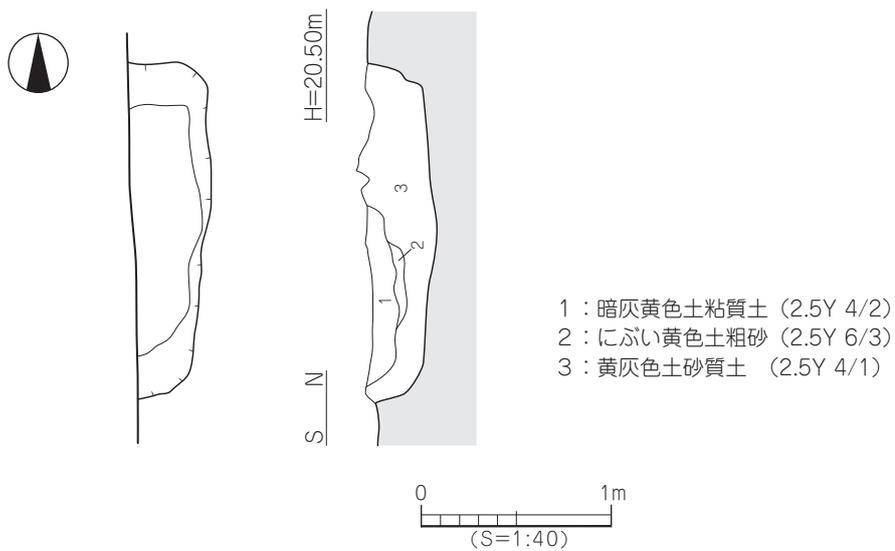
調査区の中央、第III層上面で検出した土坑である。SD803 を切る。平面形は隅丸方形で、検出長軸 1.80m、短軸 0.43m、深さ 35cm を測る。埋土は 3 層である。遺物は、陶磁器 (173 ~ 178) 土器類 (271) 及び瓦 (399) が出土した。所属時期は、他の遺構との重複関係及び出土物から 19 世紀初頭と考える。



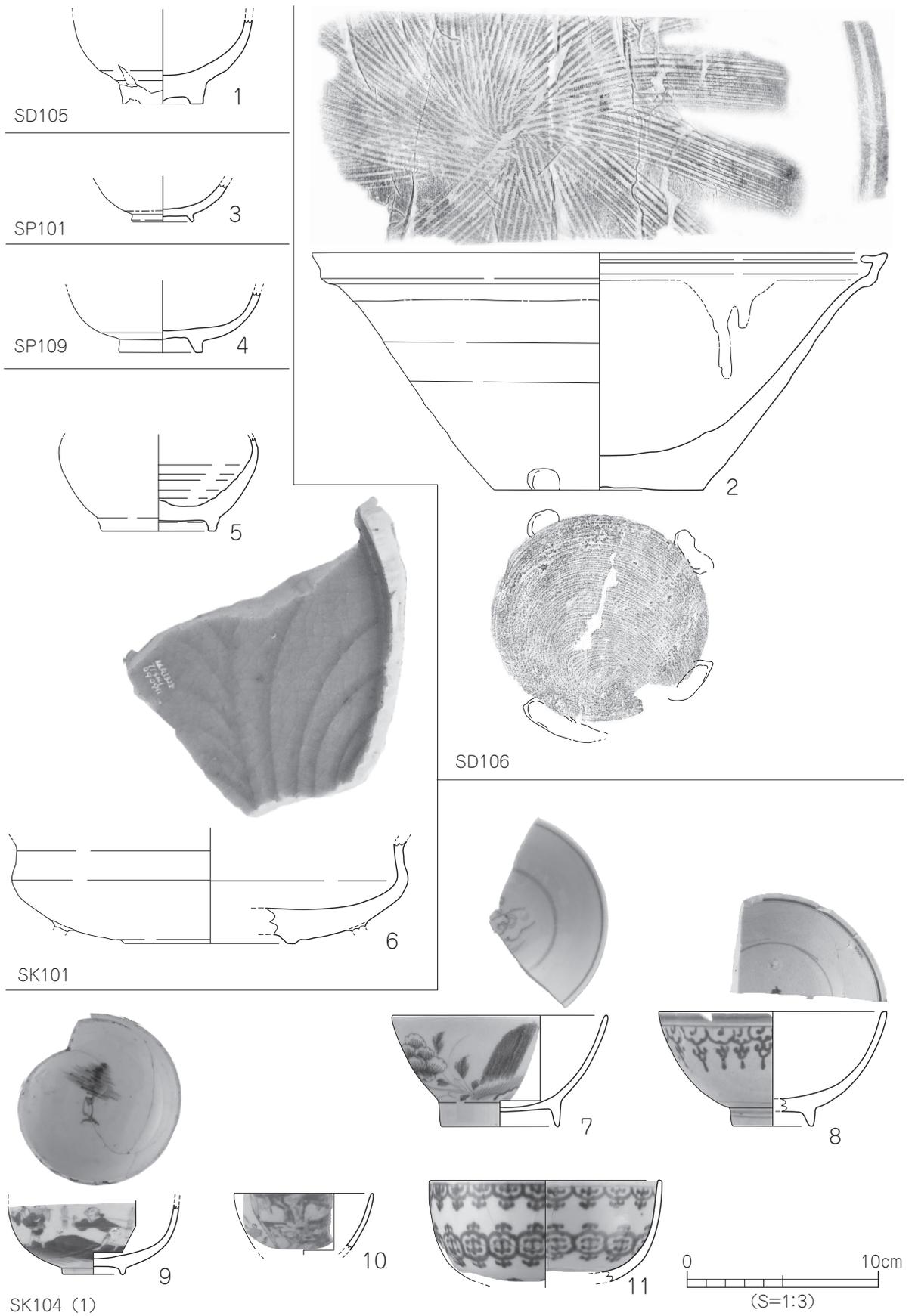
第 39 図 SD801 測量図



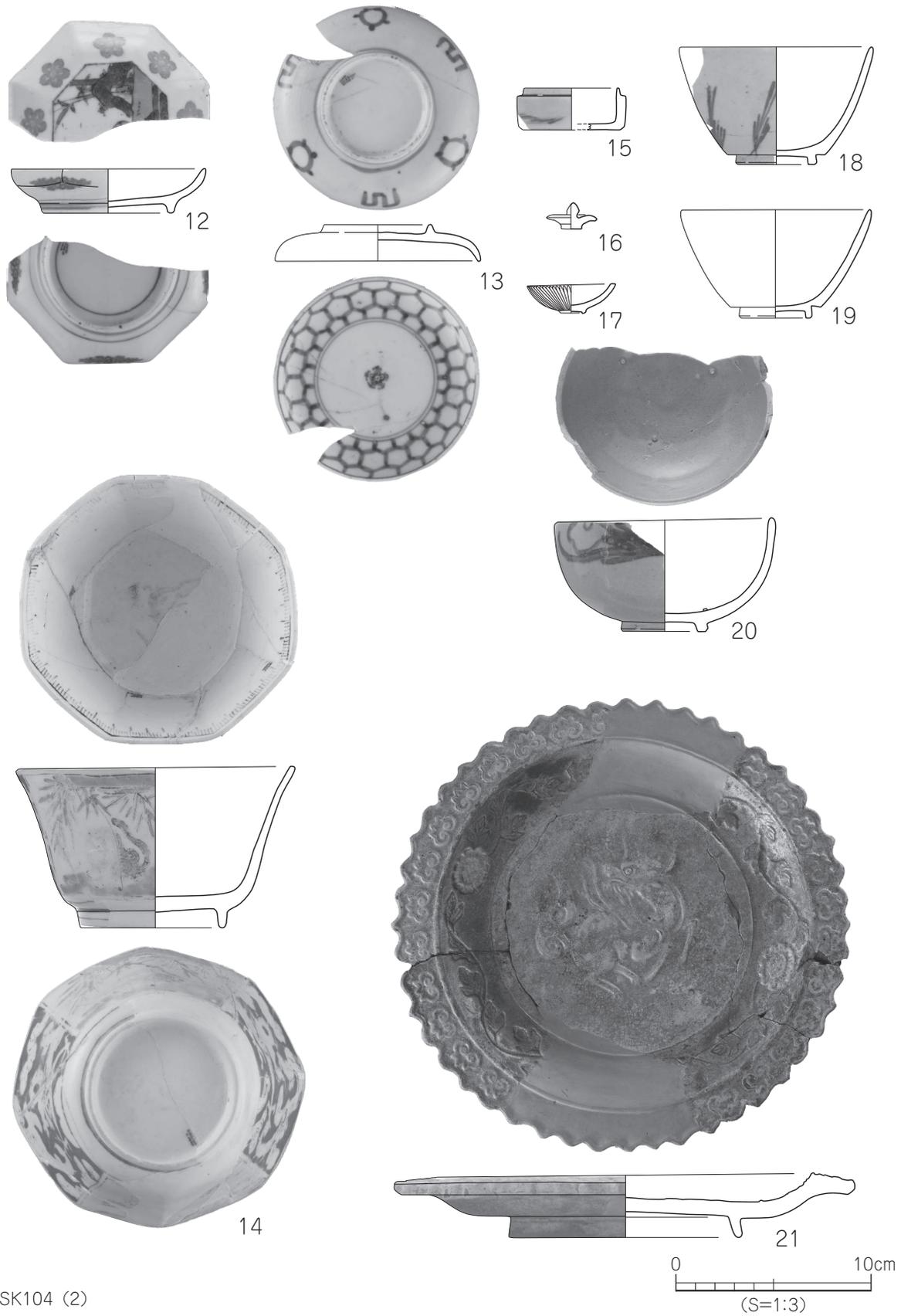
第 40 図 SK801 測量図



第 41 図 SK802 測量図

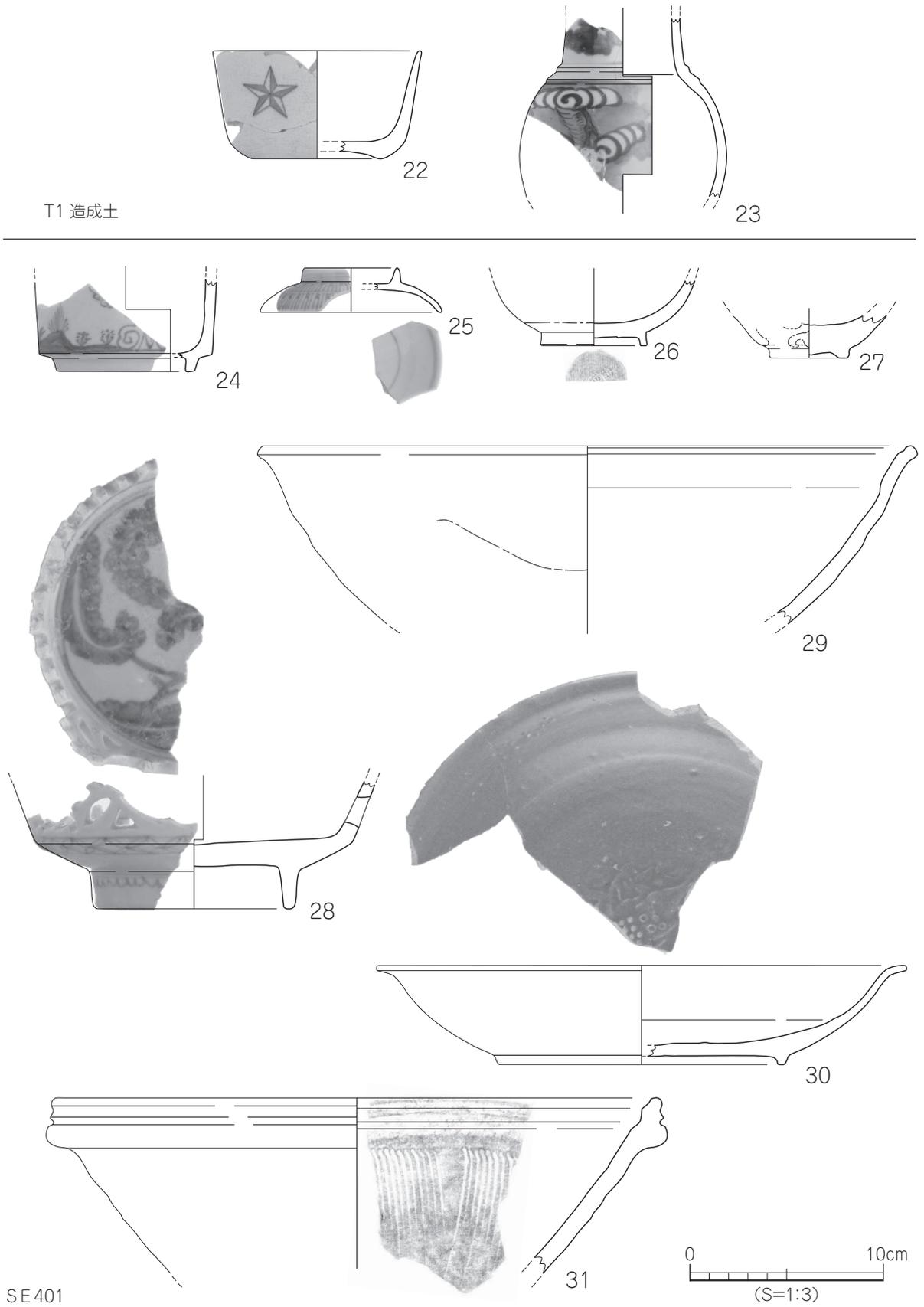


第 42 図 陶磁器実測図 (1)

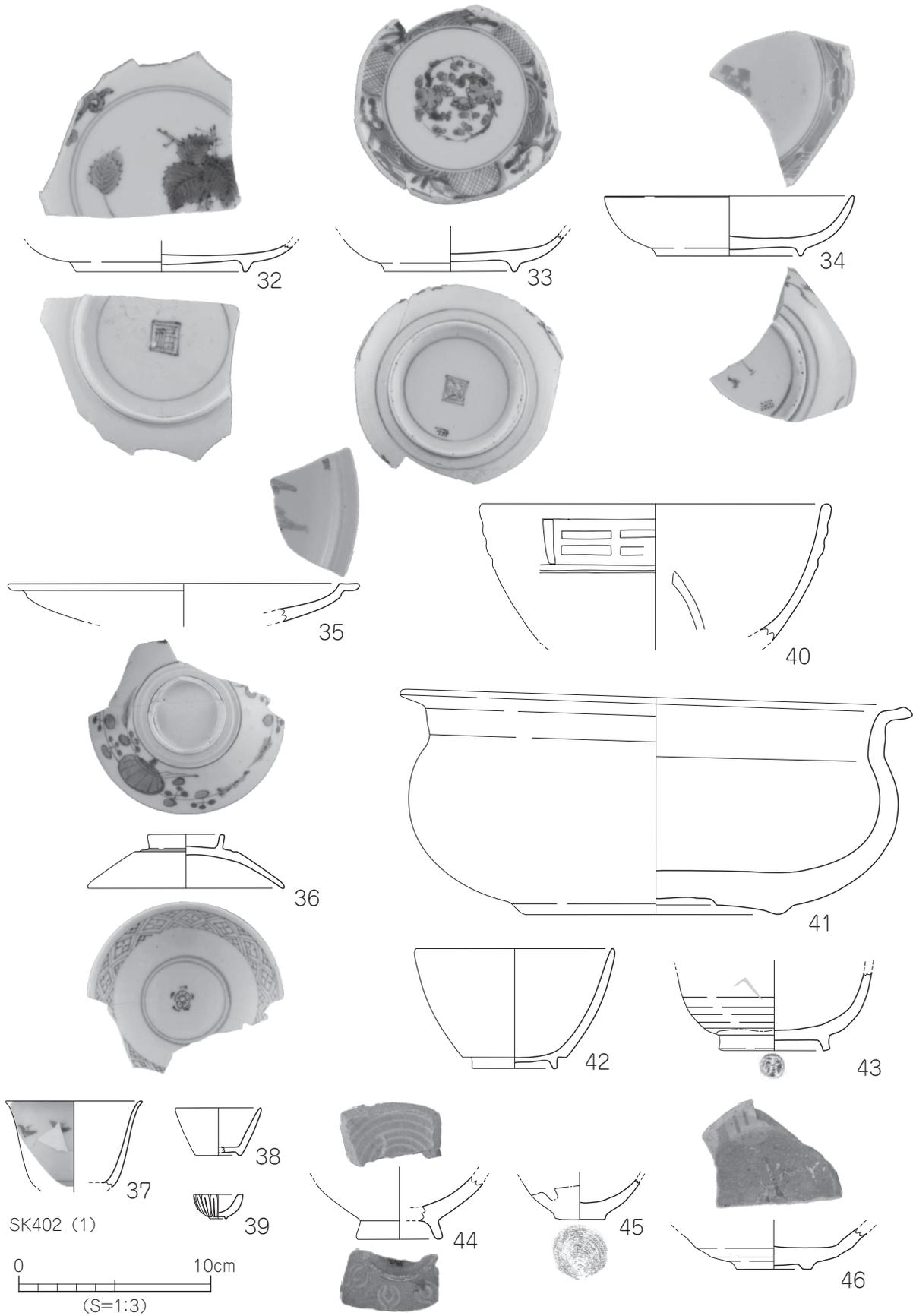


SK104 (2)

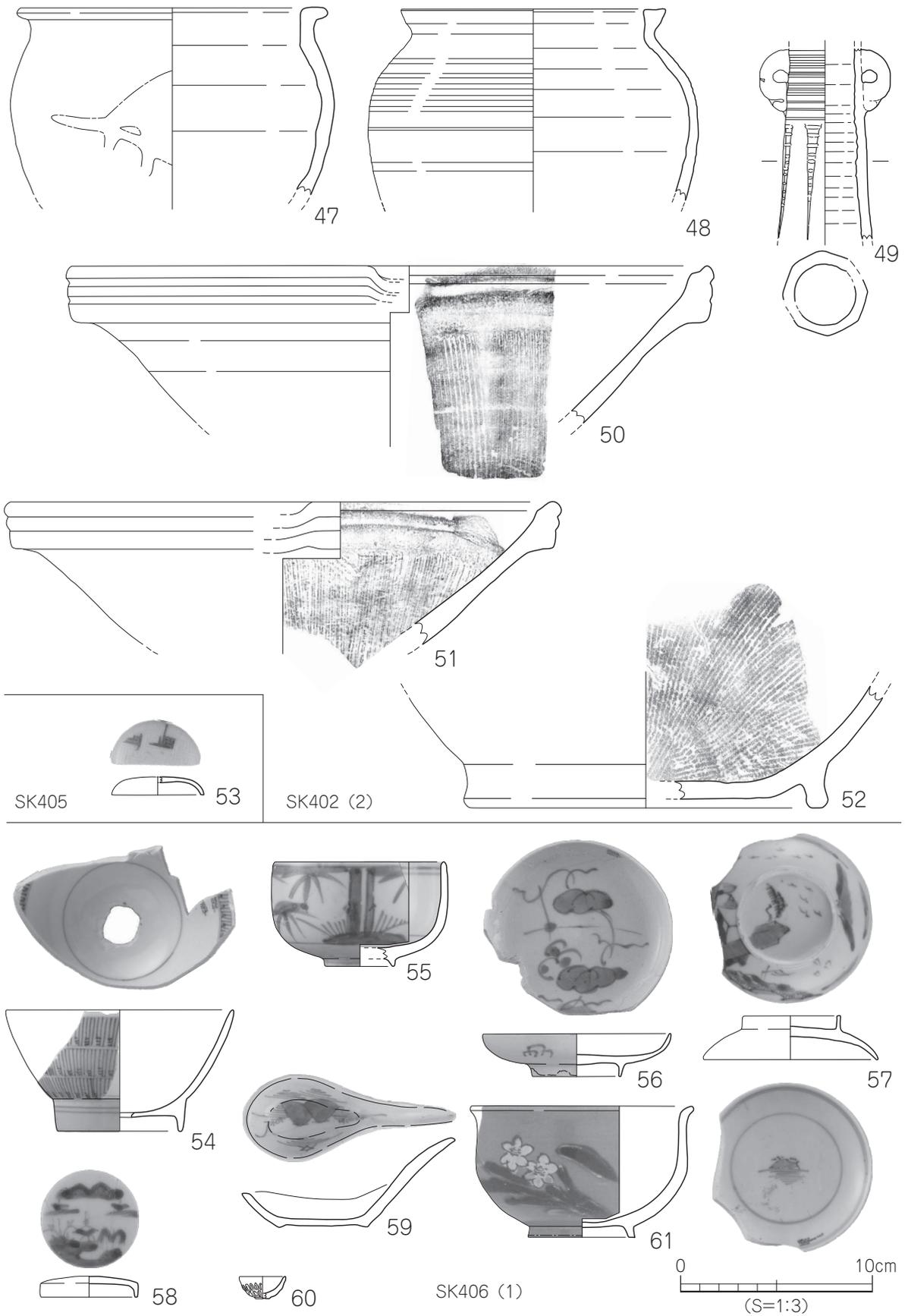
第 43 図 陶磁器実測図 (2)



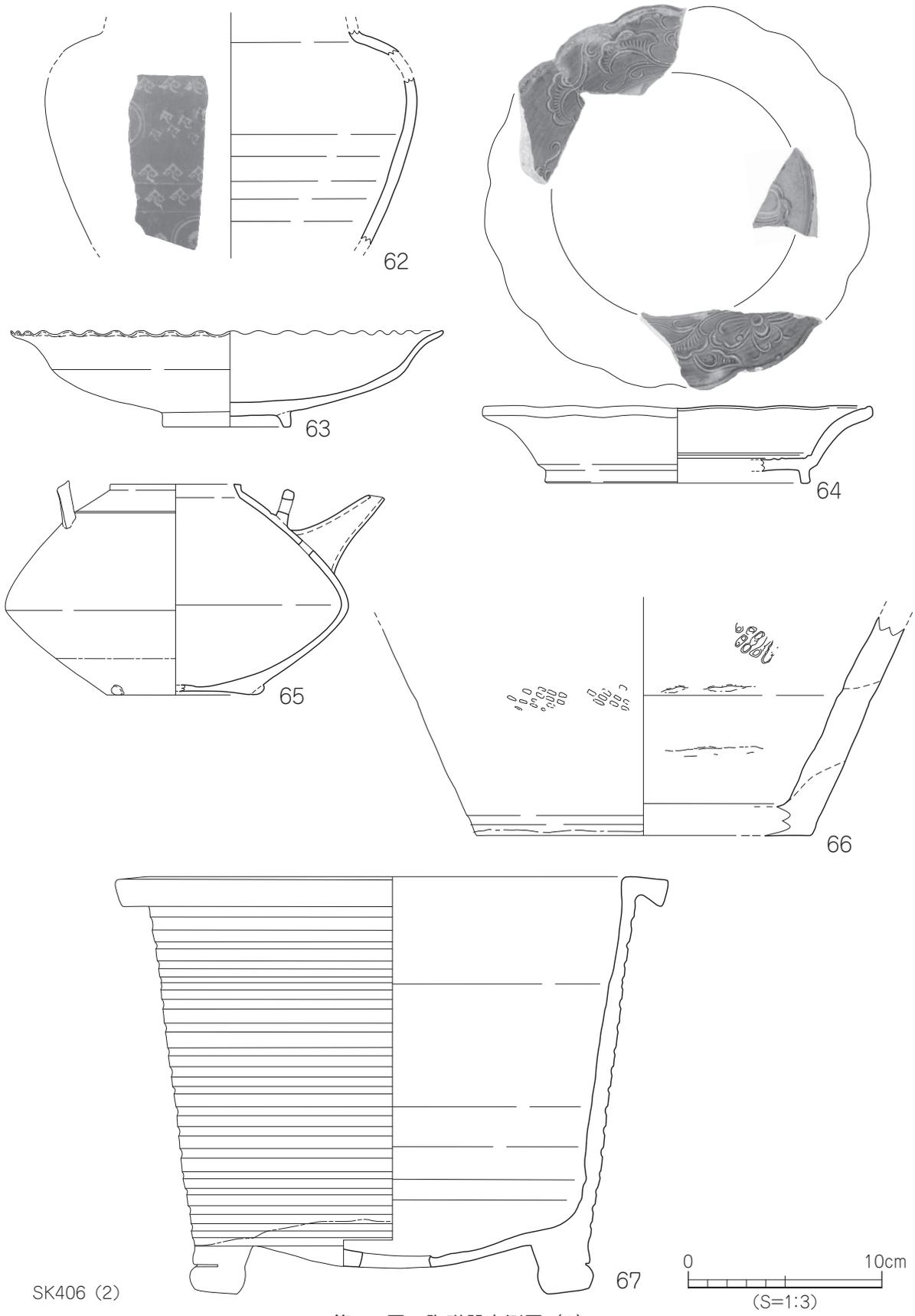
第44図 陶磁器実測図(3)



第 45 図 陶磁器実測図 (4)



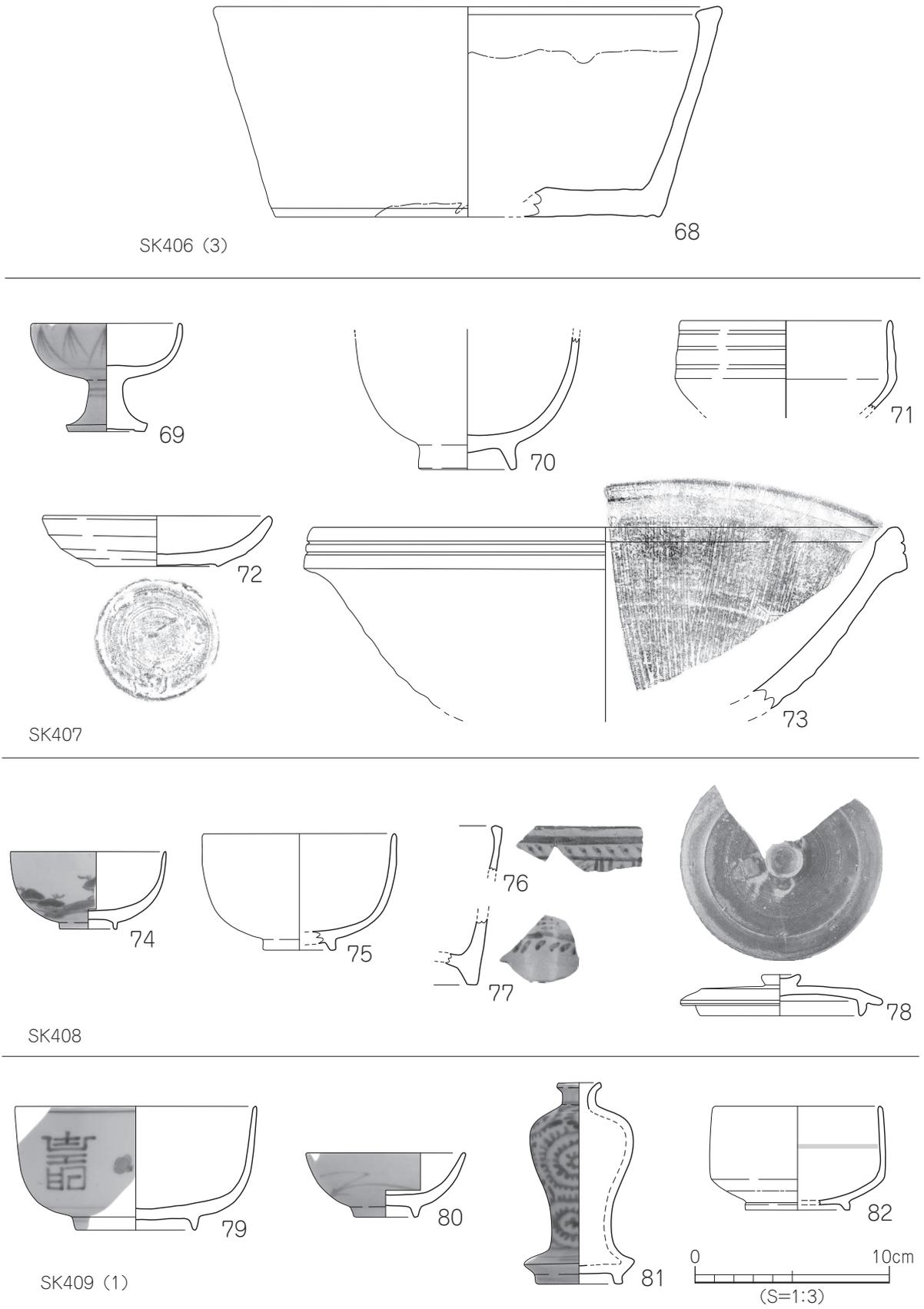
第46図 陶磁器実測図(5)



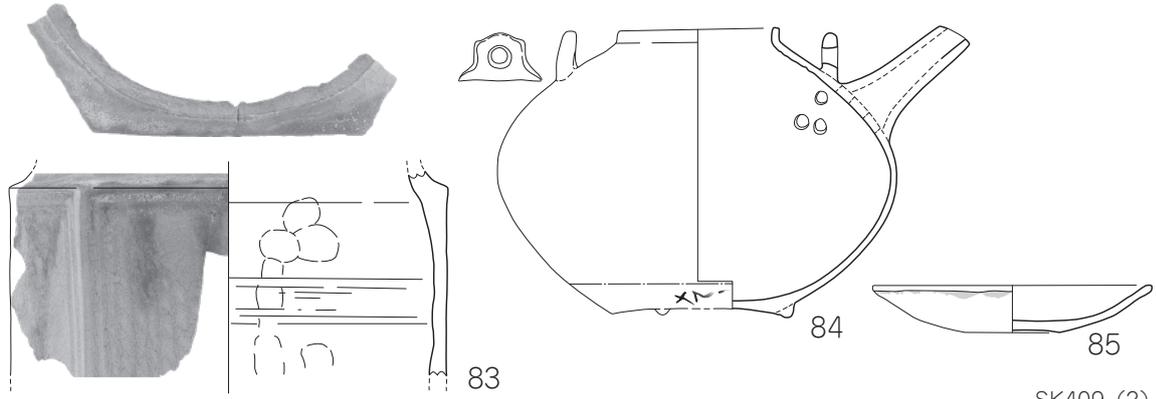
SK406 (2)

第 47 図 陶磁器実測図 (6)

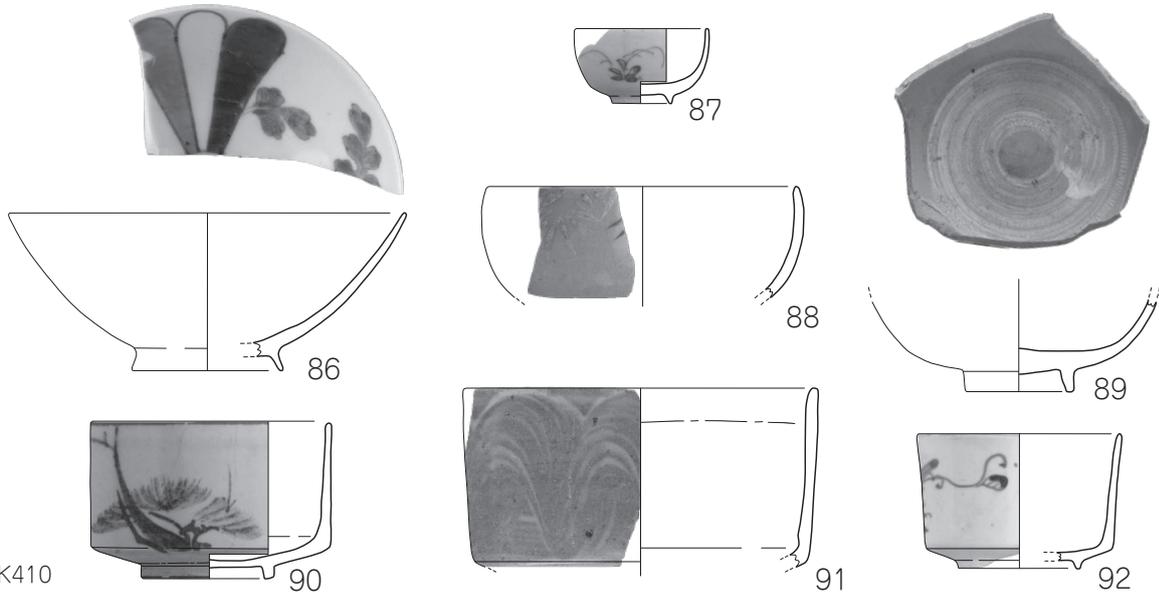
調査の成果



第 48 図 陶磁器実測図 (7)

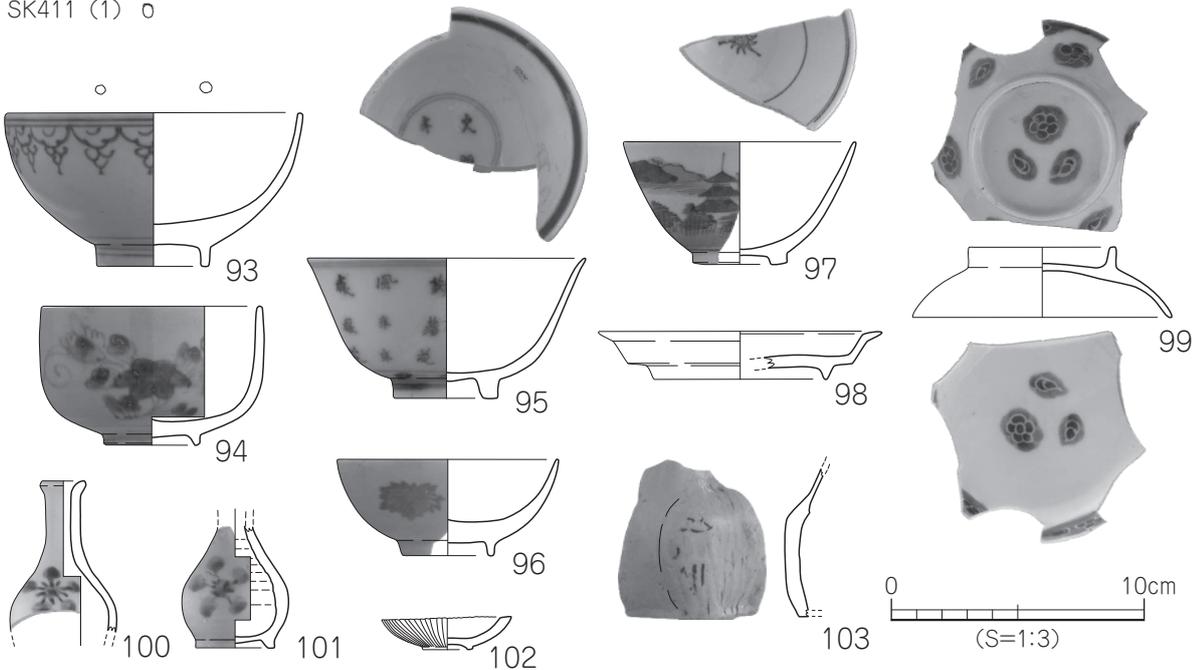


SK409 (2)

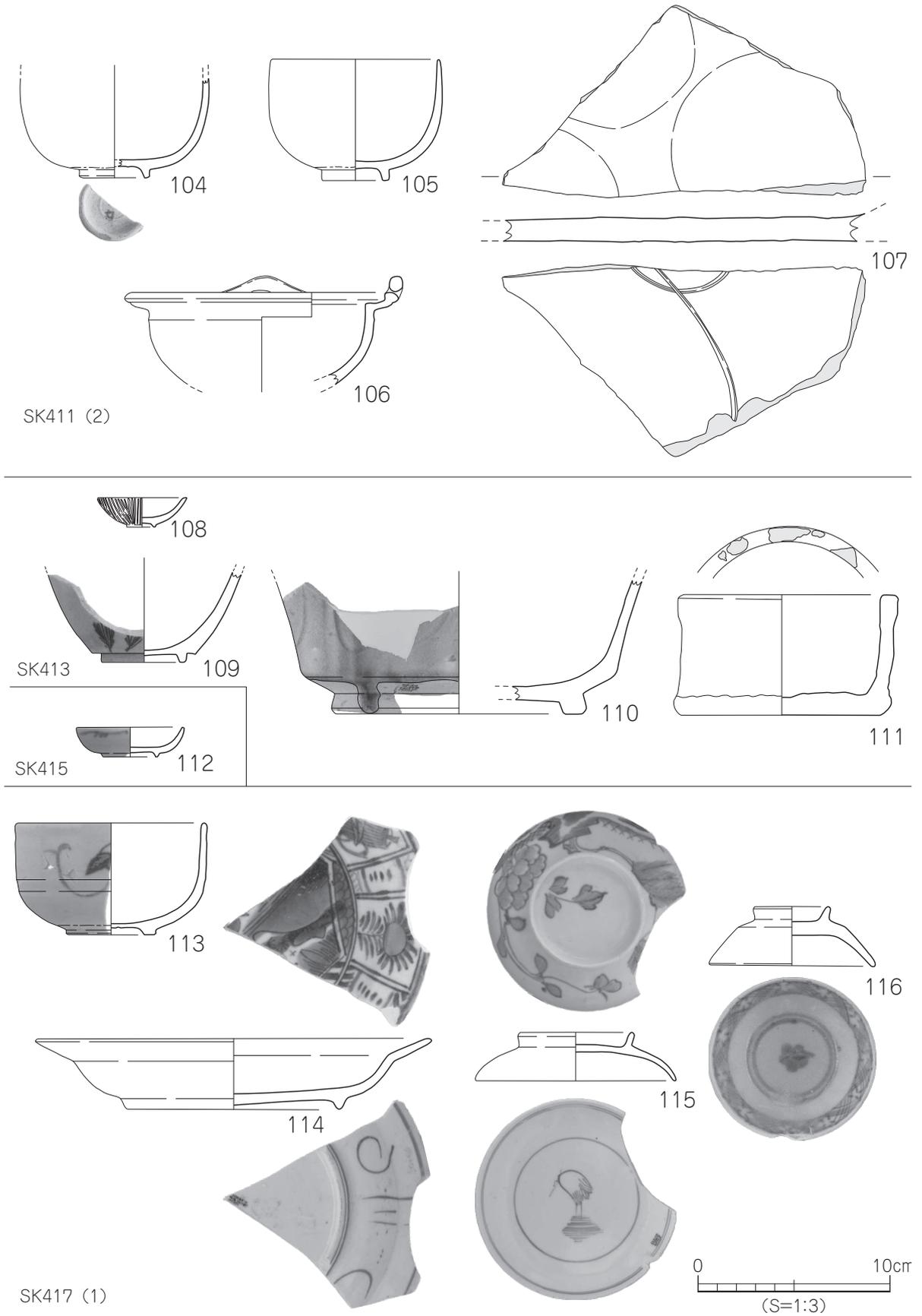


SK410

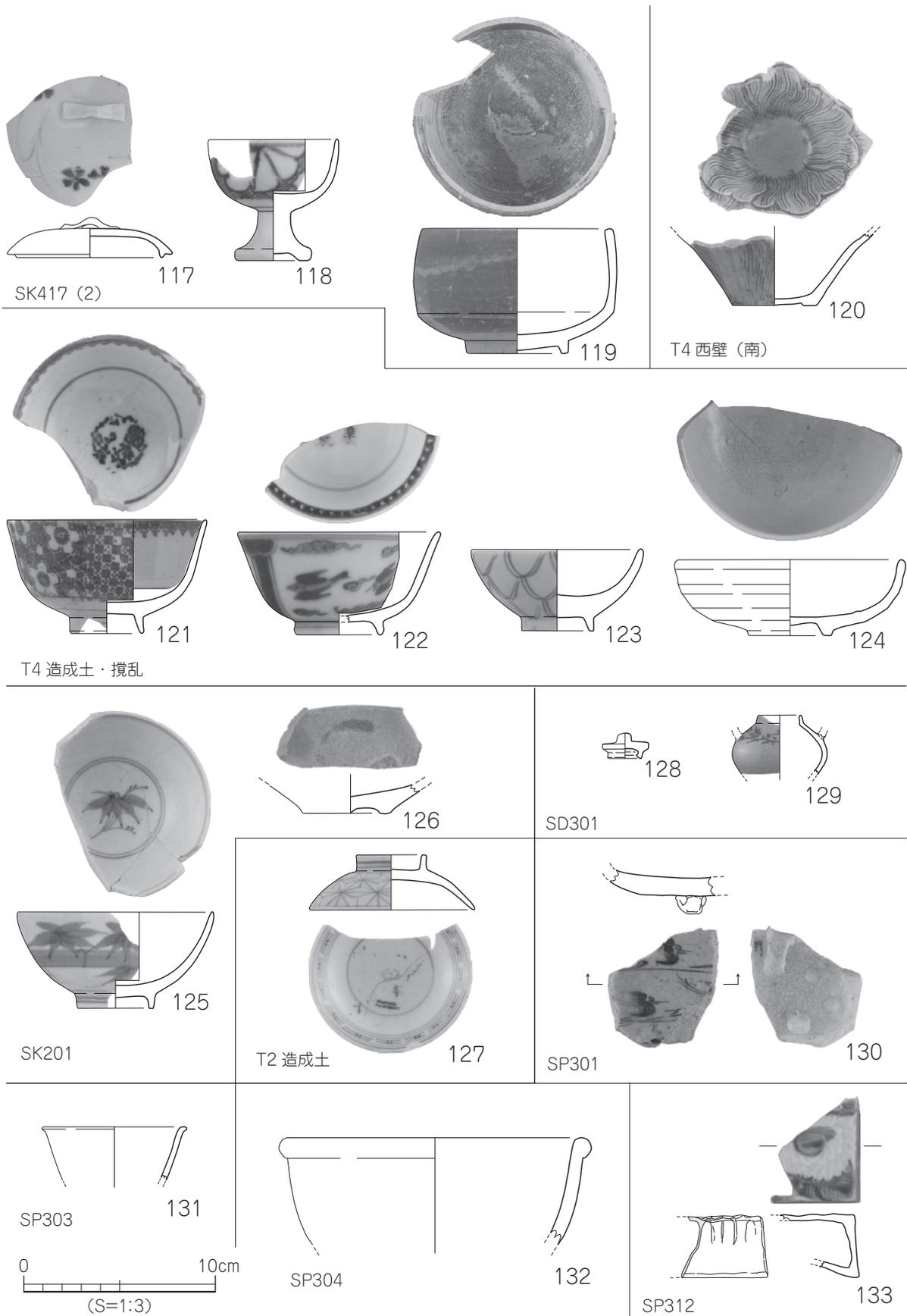
SK411 (1) 〇



第 49 図 陶磁器実測図 (8)

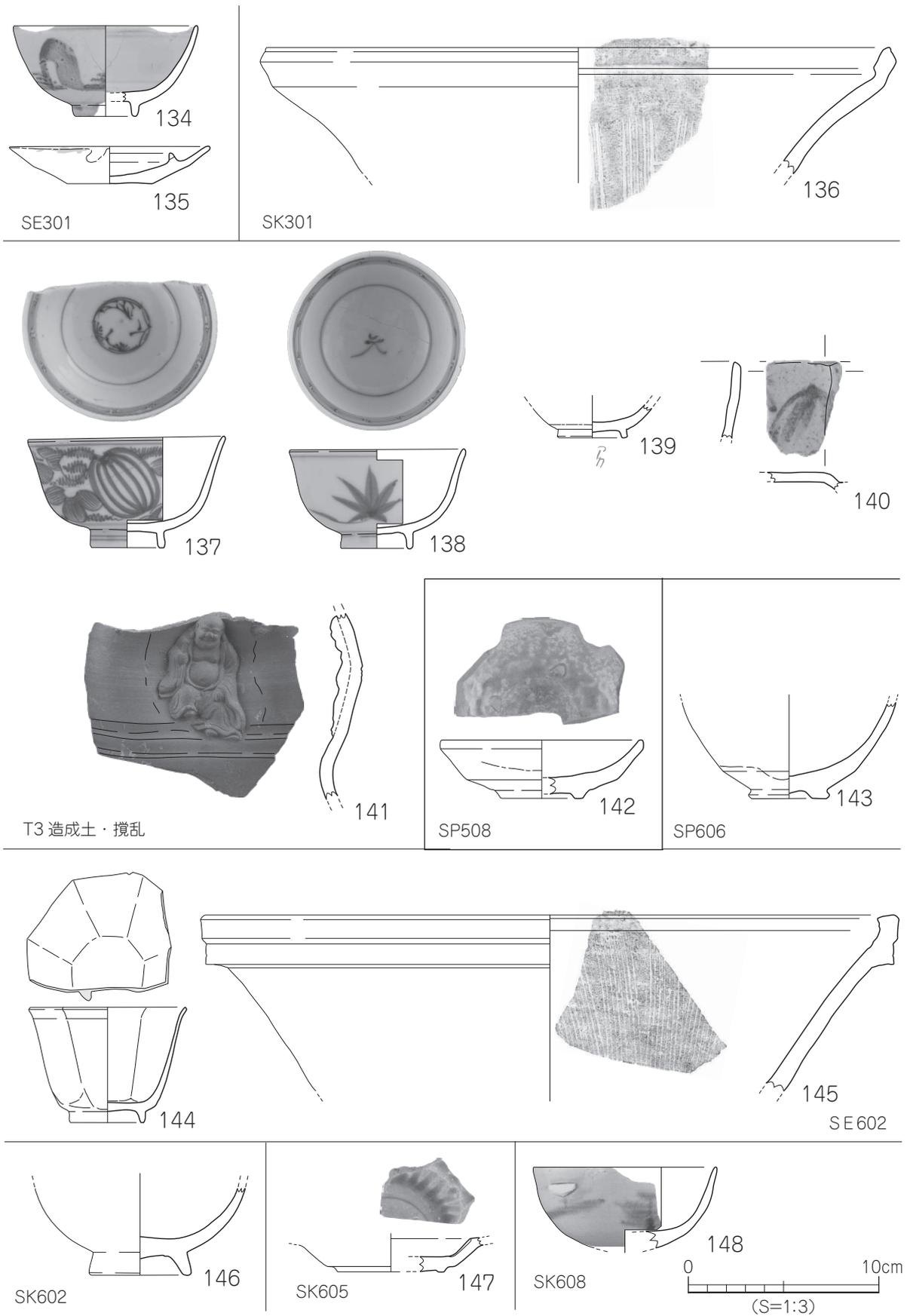


第 50 図 陶磁器実測図 (9)

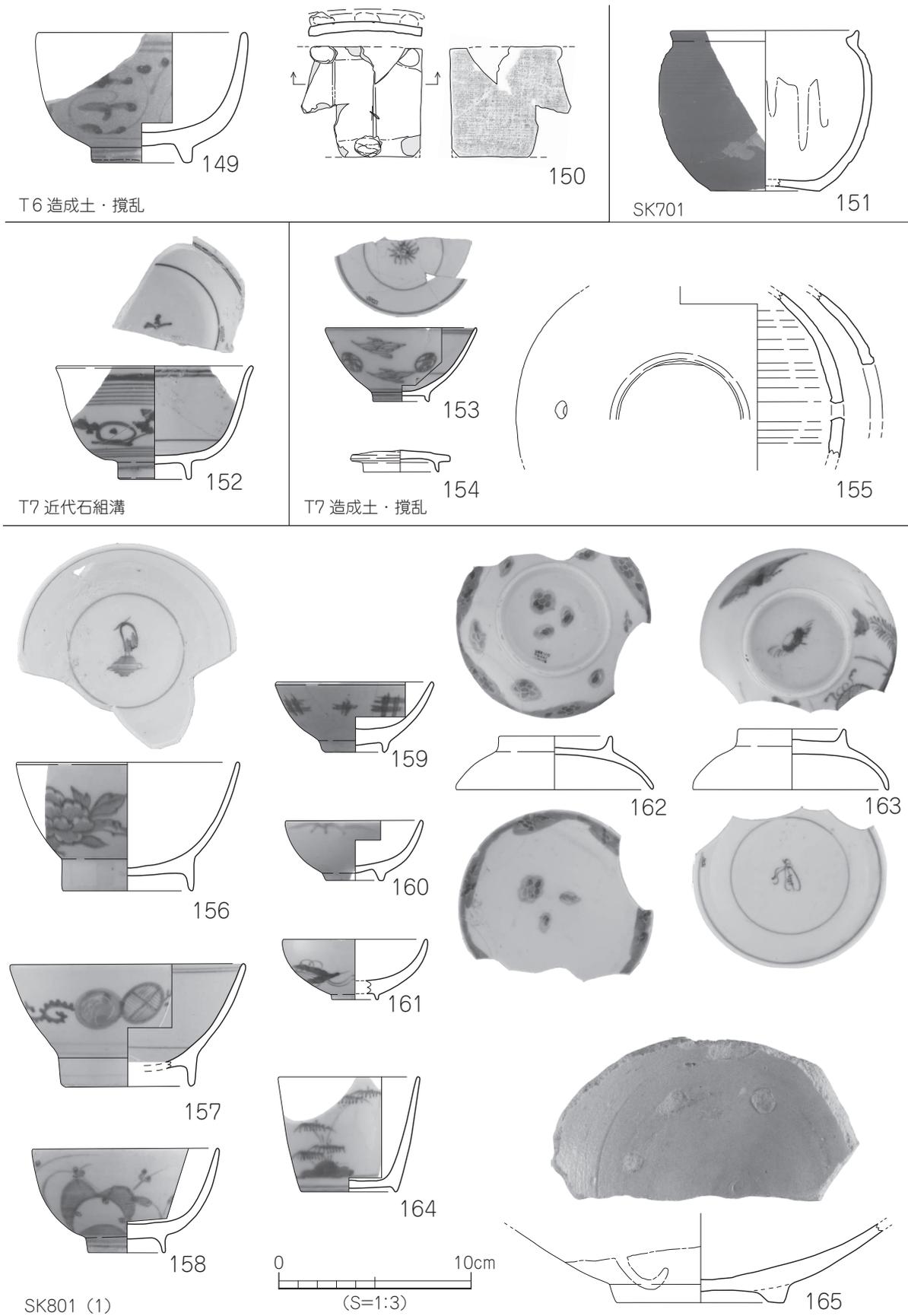


第 51 図 陶磁器実測図 (10)

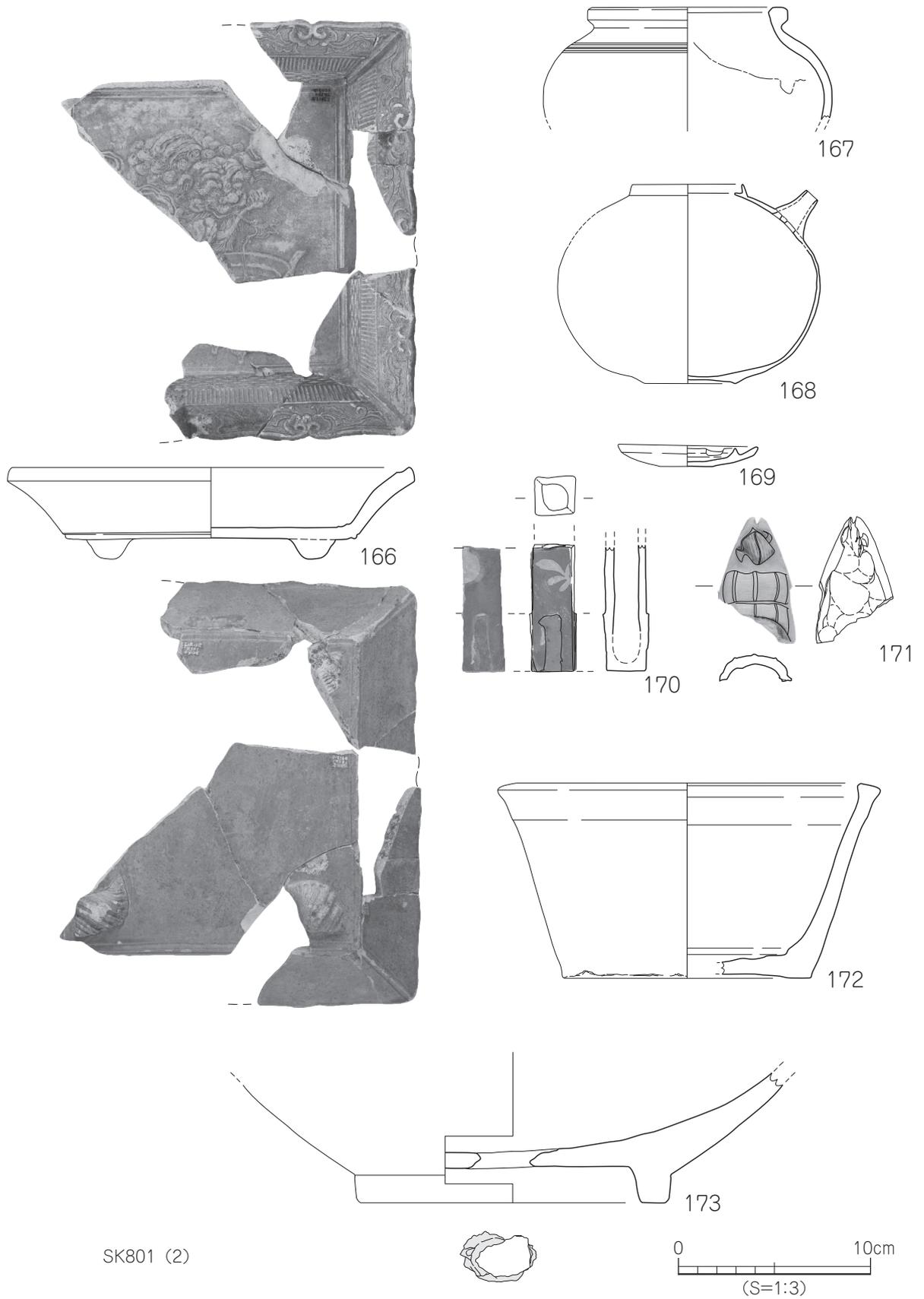
調査の成果



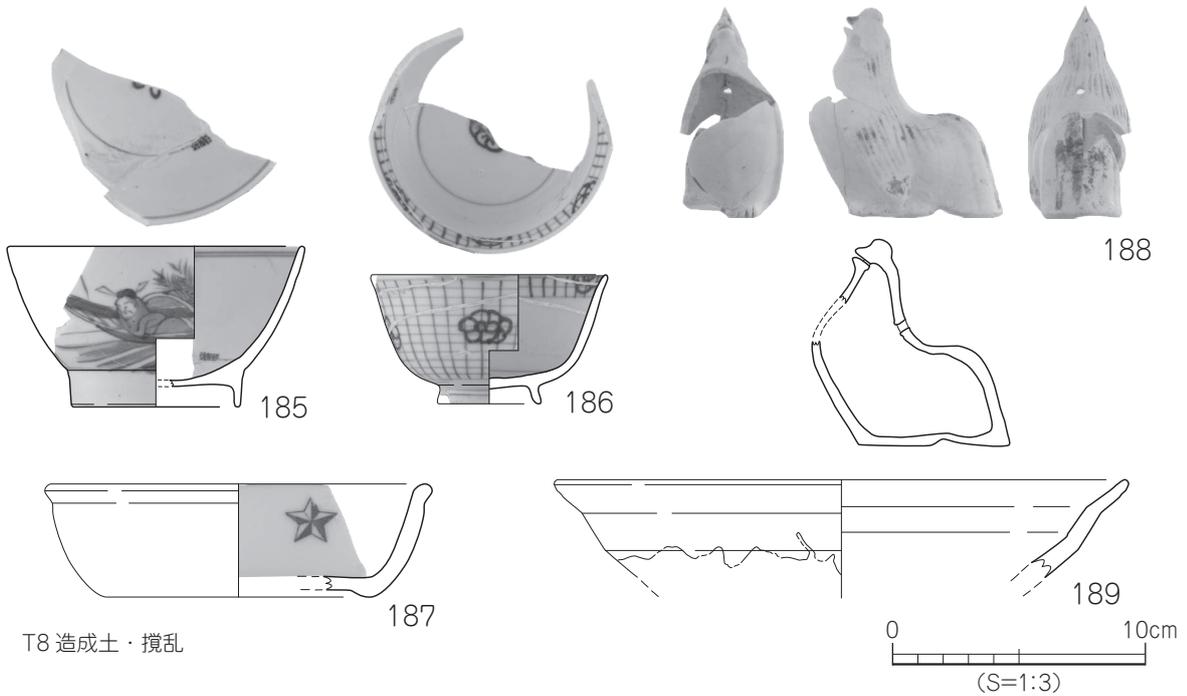
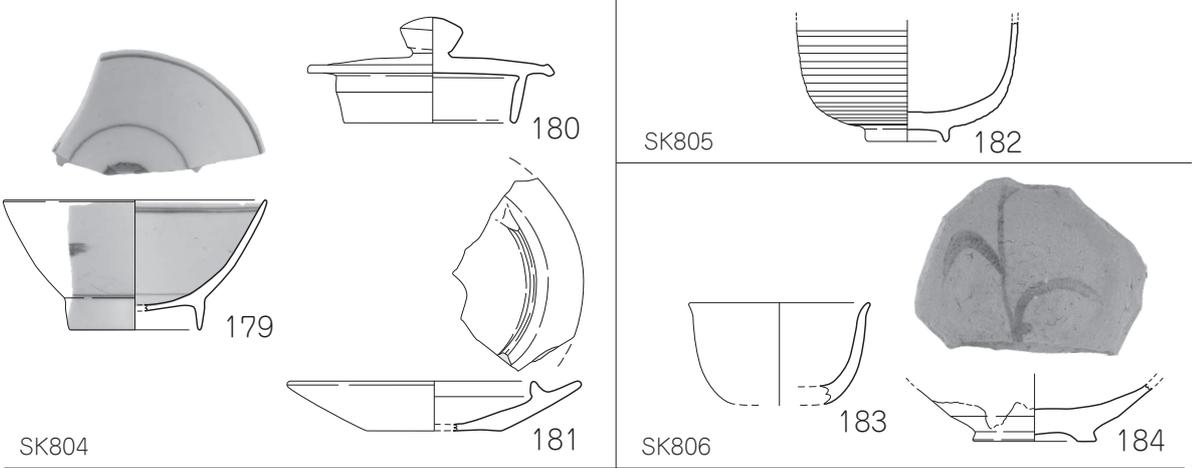
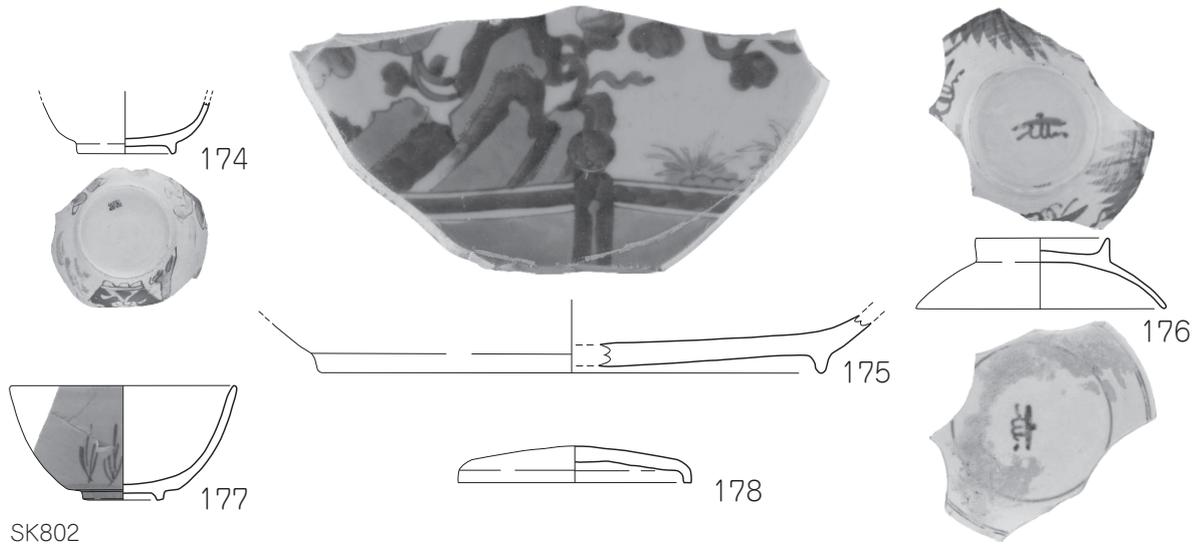
第 52 図 陶磁器実測図 (11)



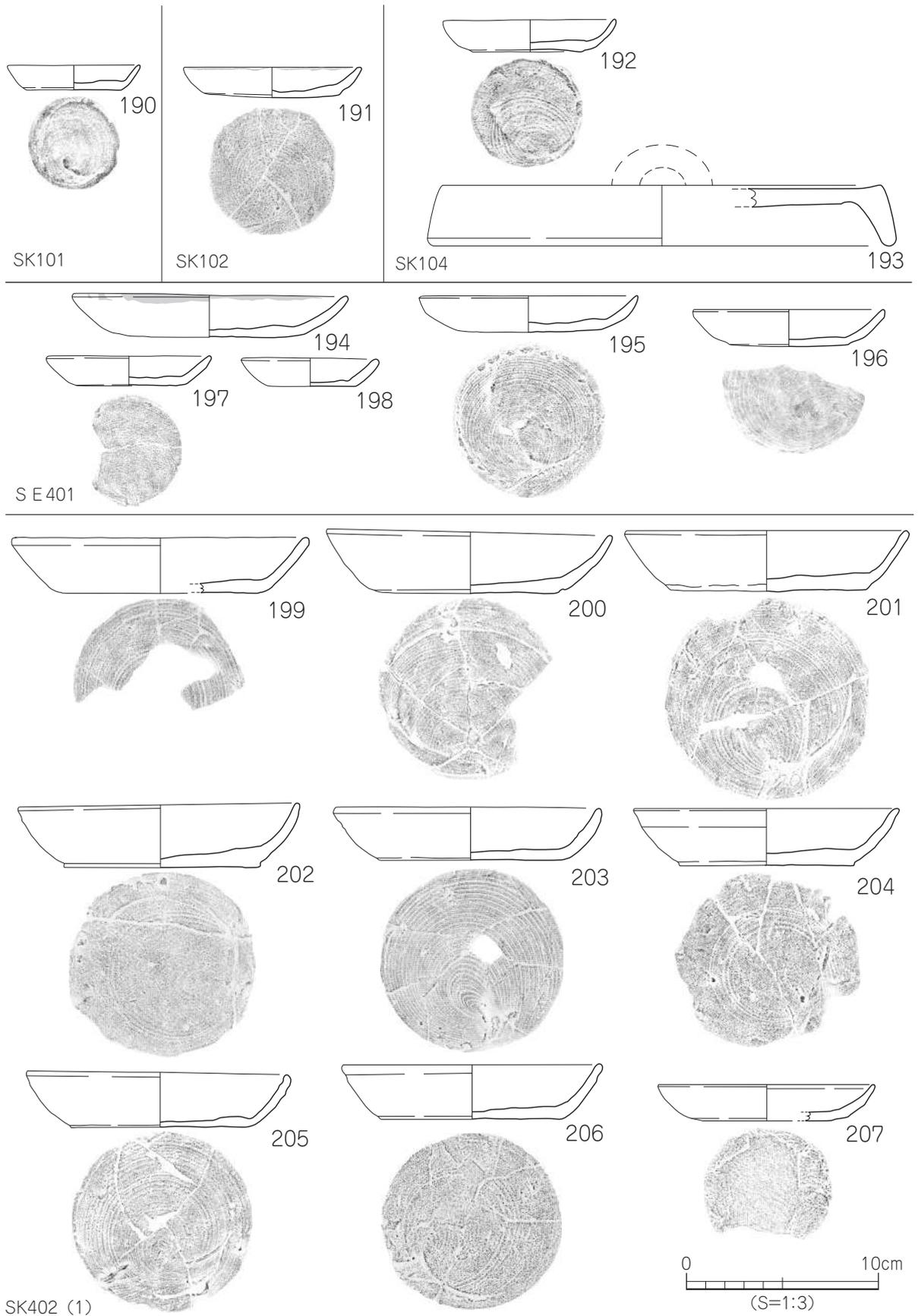
第 53 図 陶磁器実測図 (12)



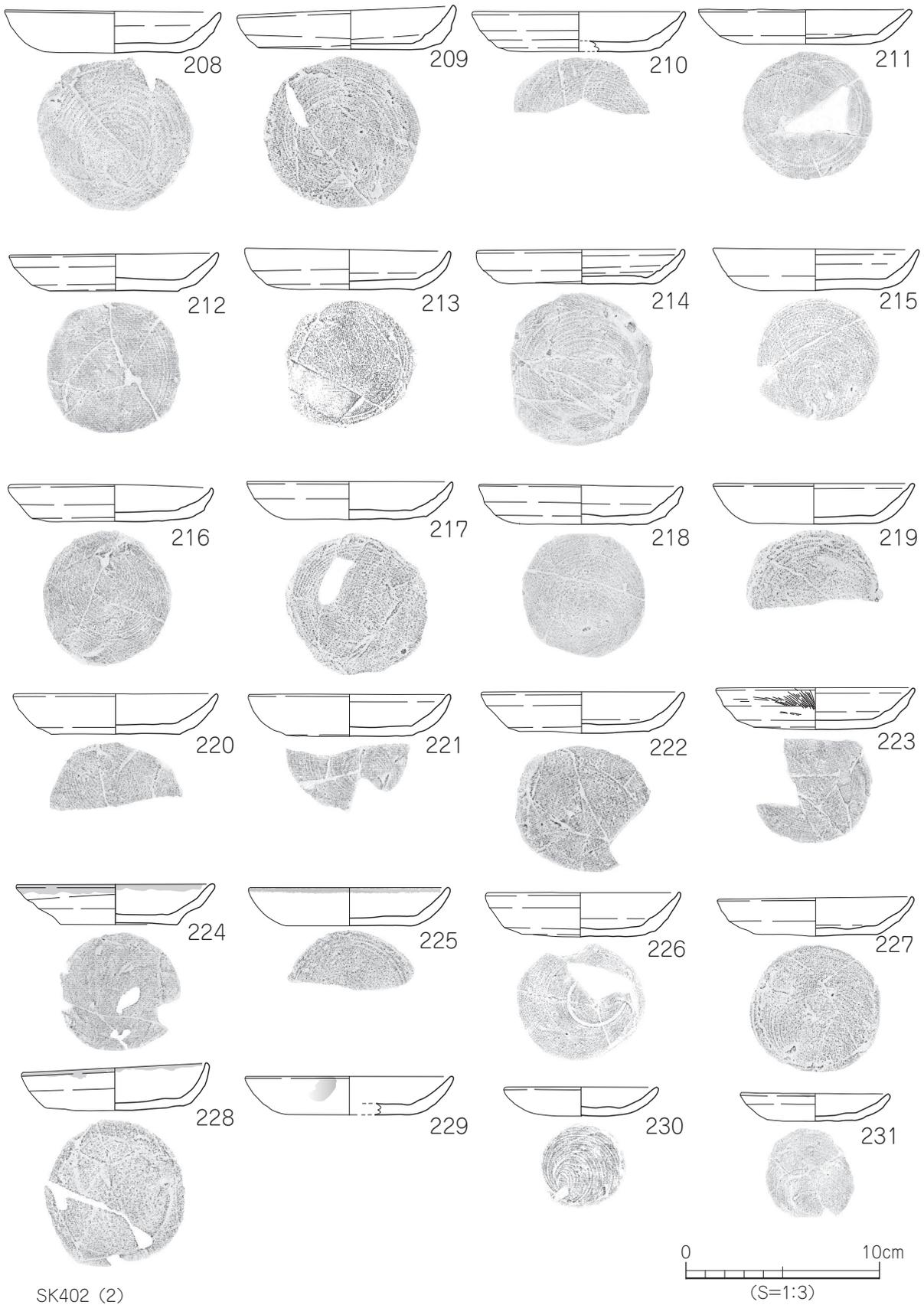
第 54 図 陶磁器実測図 (13)



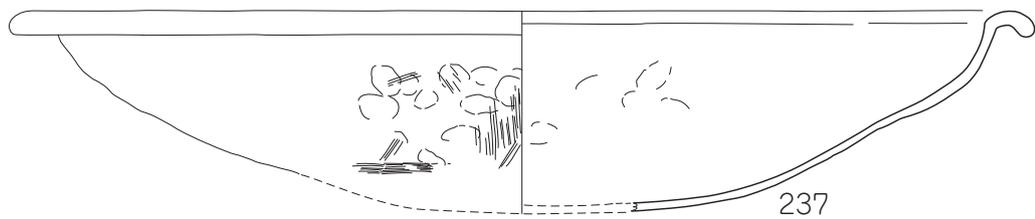
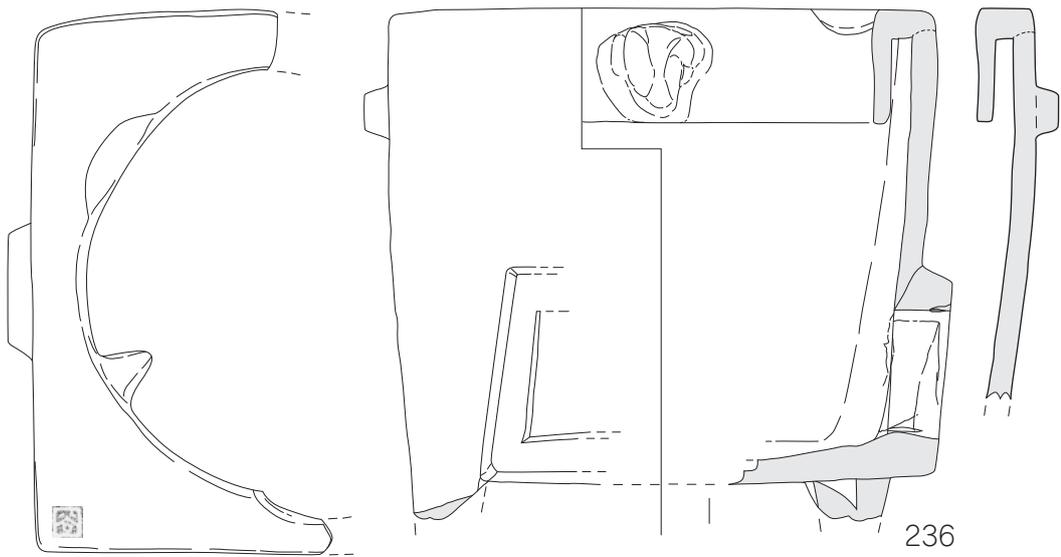
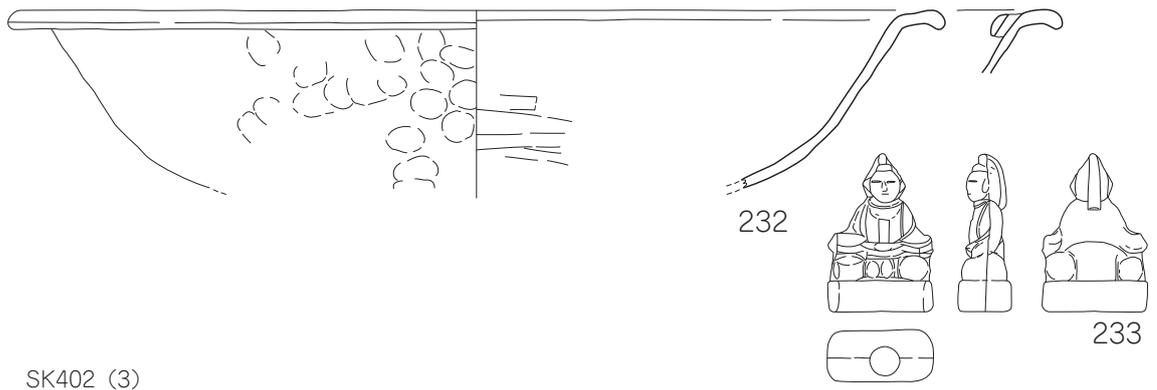
第 55 図 陶磁器実測図 (14)



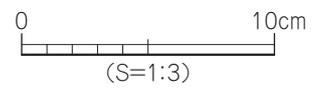
第 56 図 土器・土製品実測図 (1)



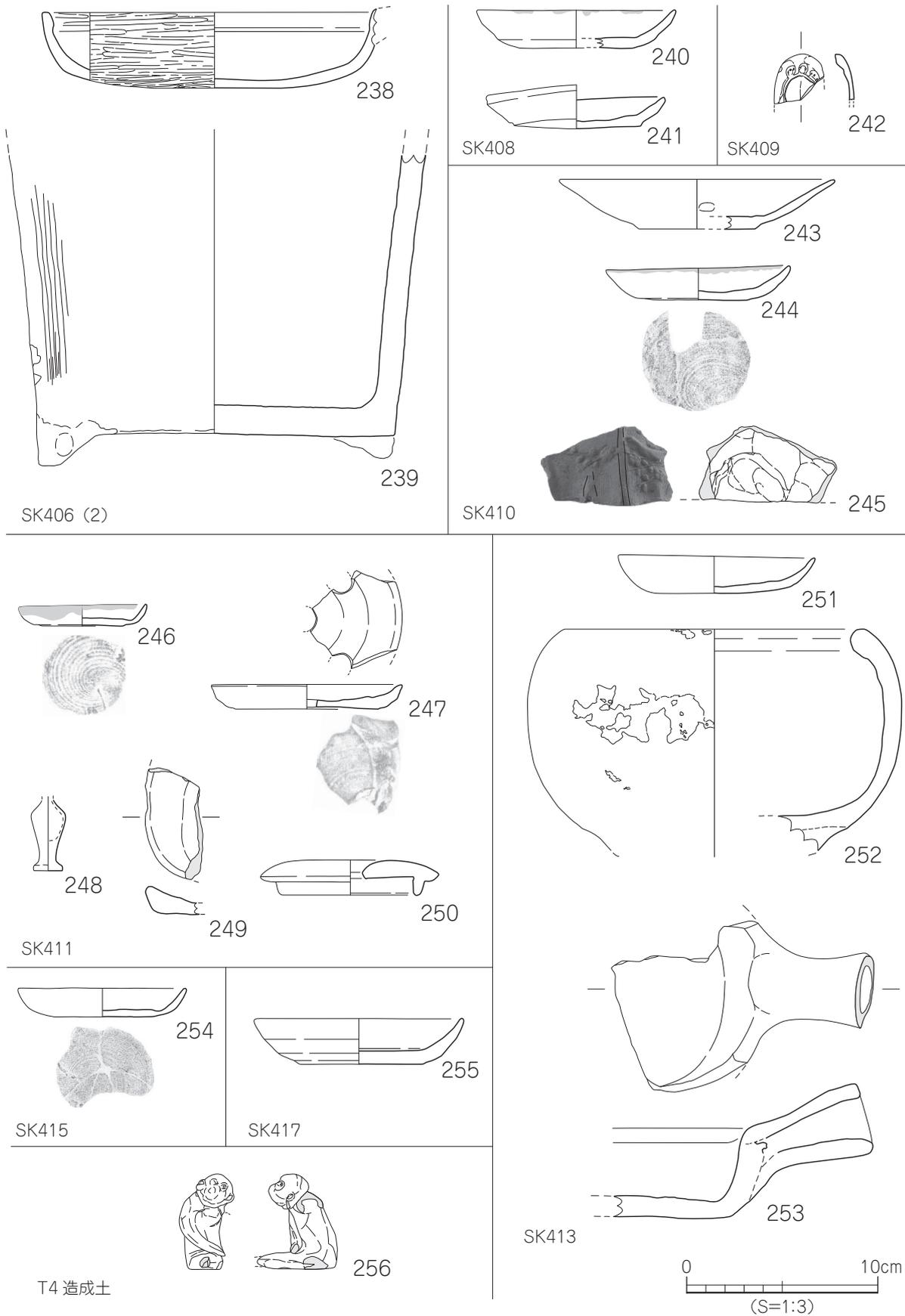
第 57 図 土器・土製品実測図 (2)



SK406 (1)

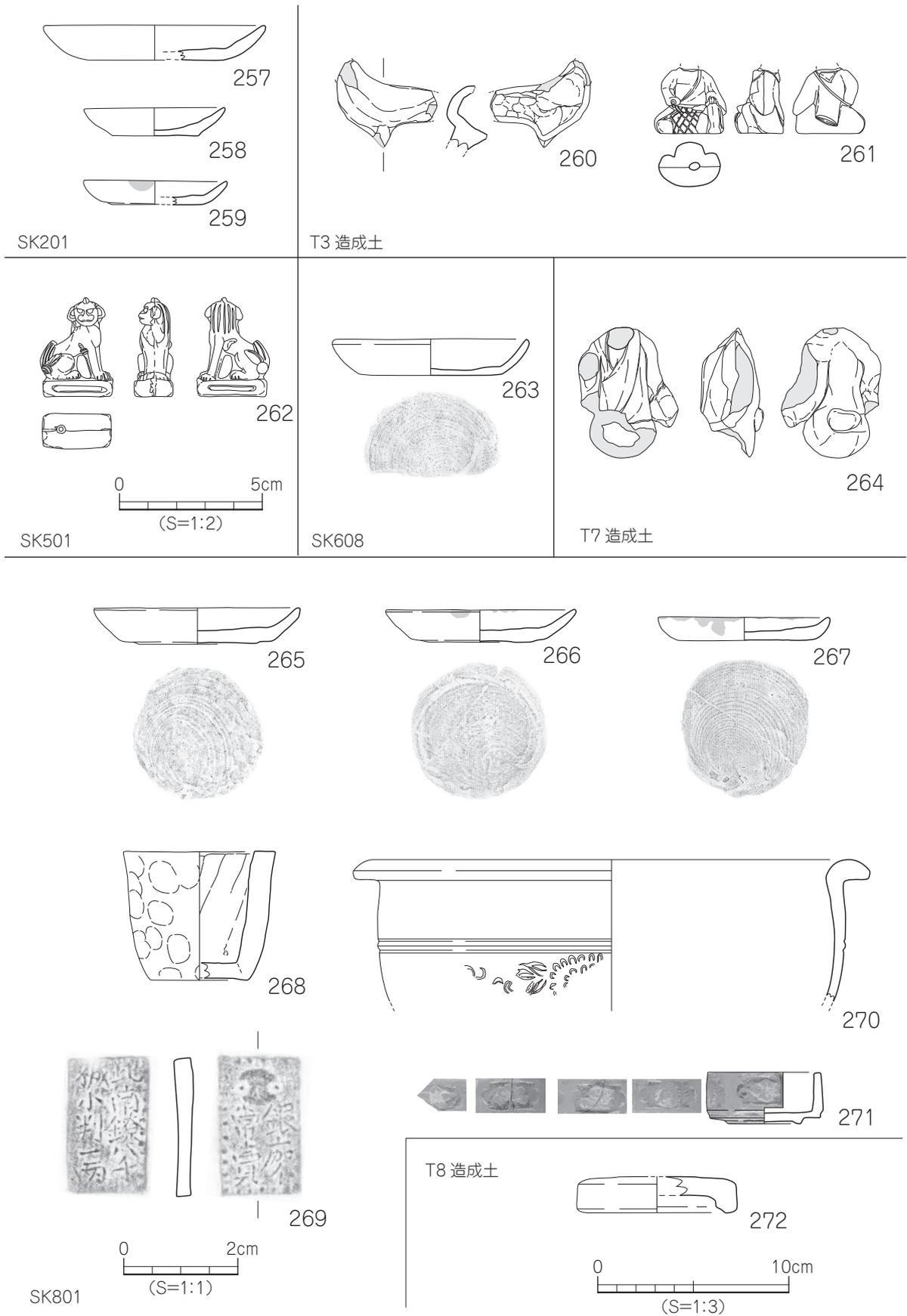


第 58 図 土器・土製品実測図 (3)



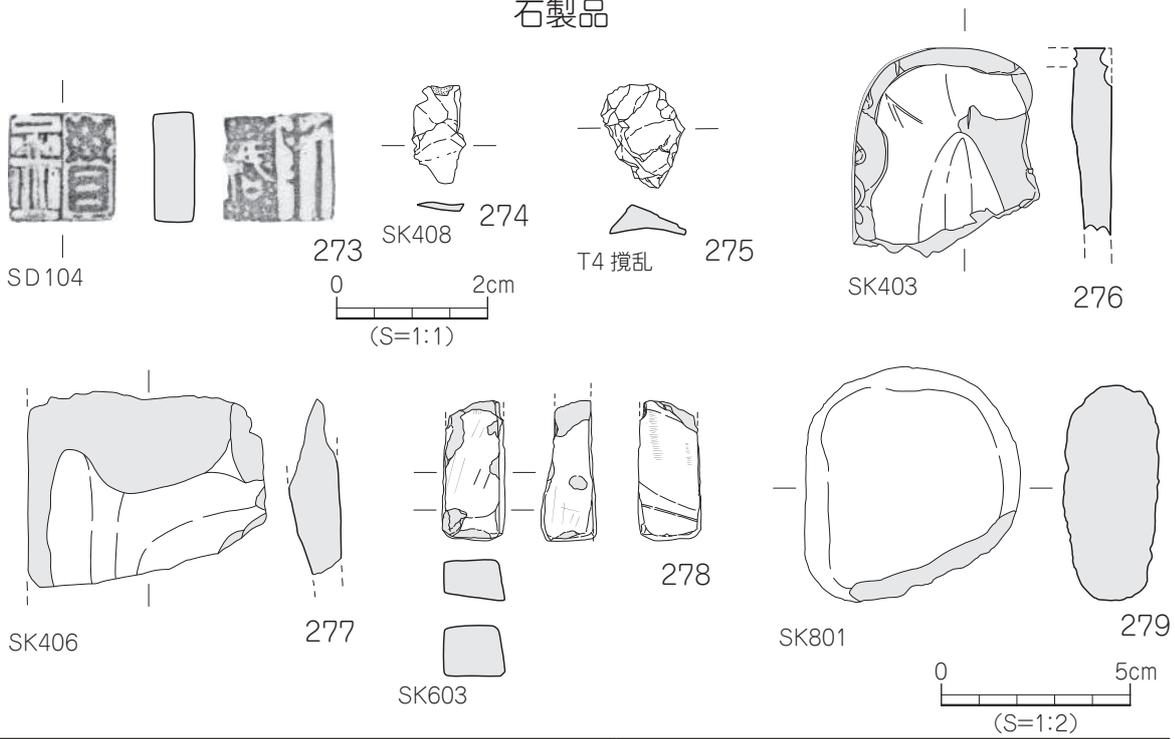
第 59 図 土器・土製品実測図 (4)

調査の成果

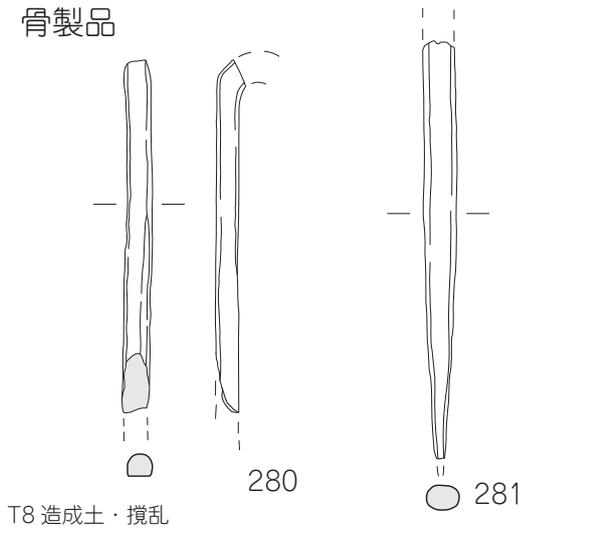


第 60 図 土器・土製品実測図 (5)

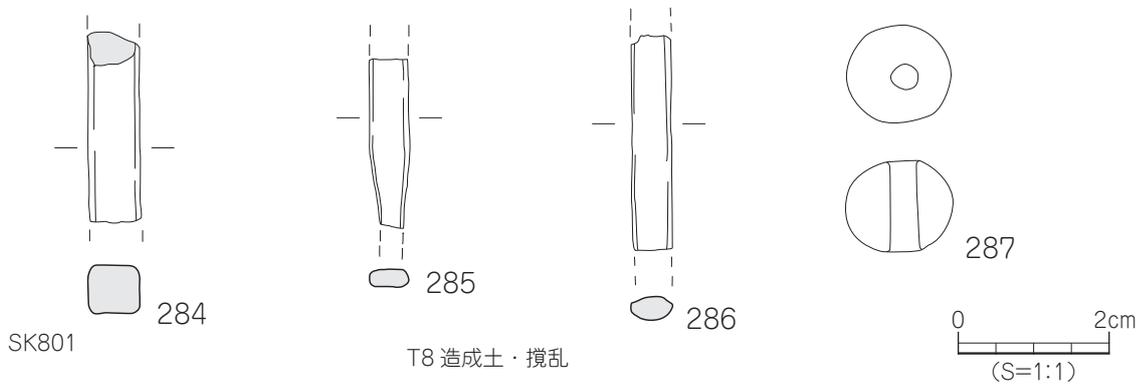
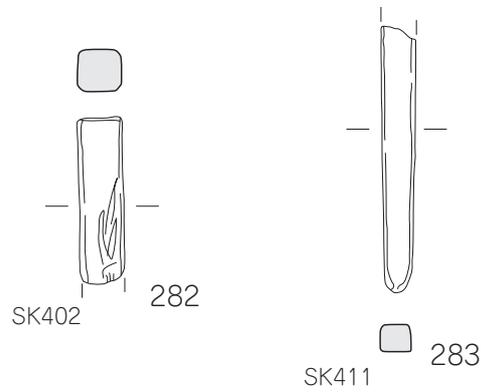
石製品



骨製品

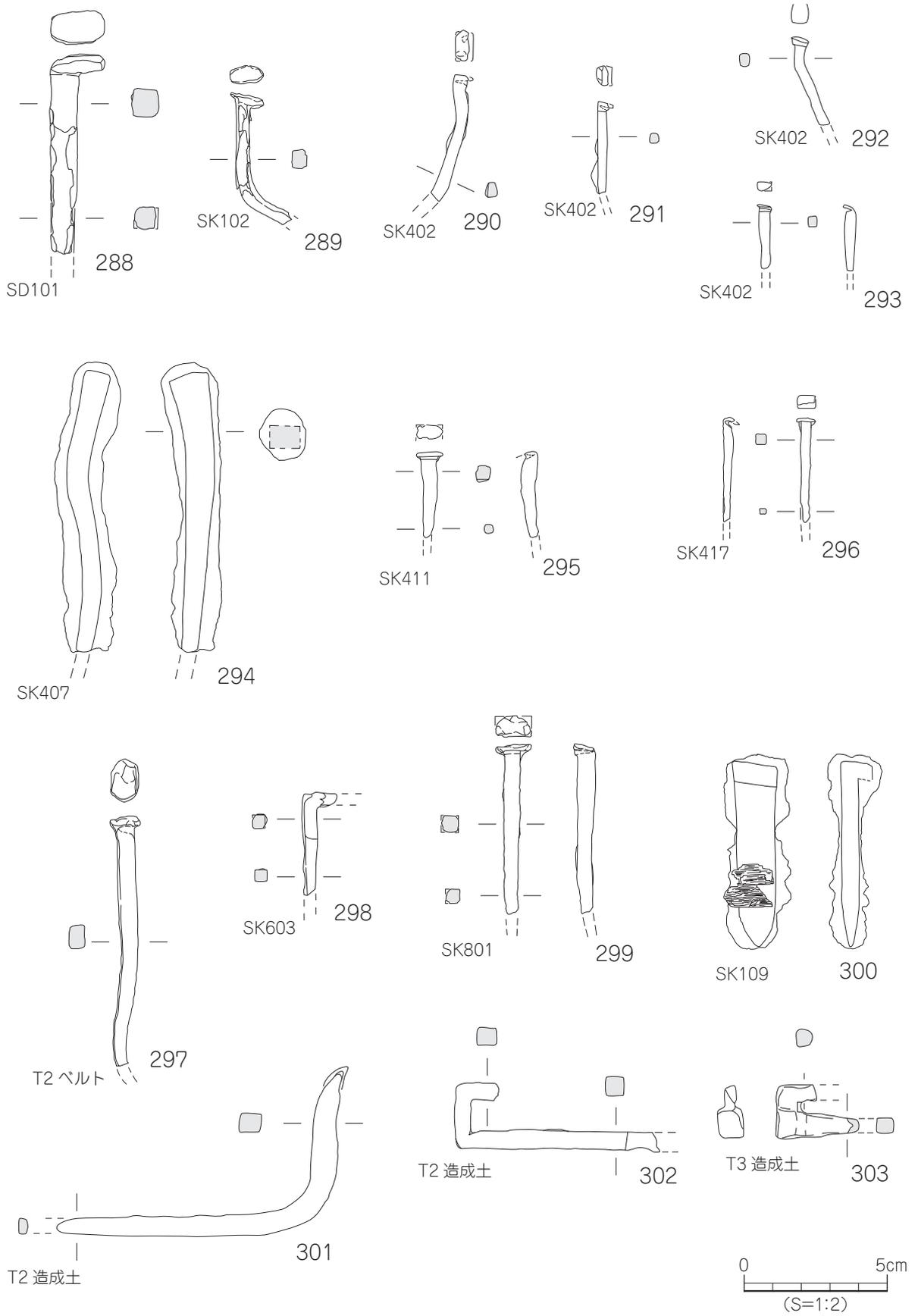


ガラス製品

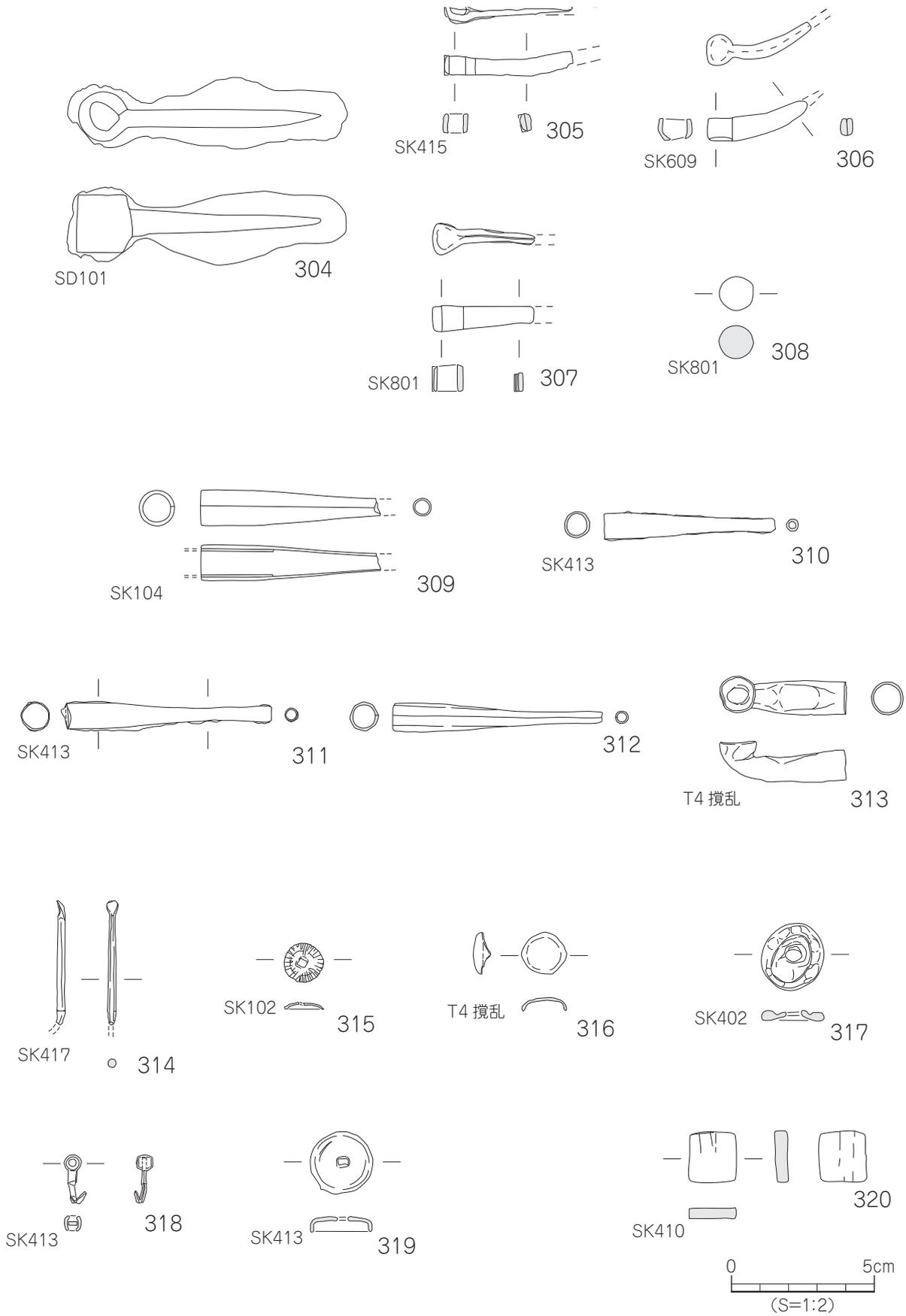


第 61 図 石製品・ガラス・骨製品実測図

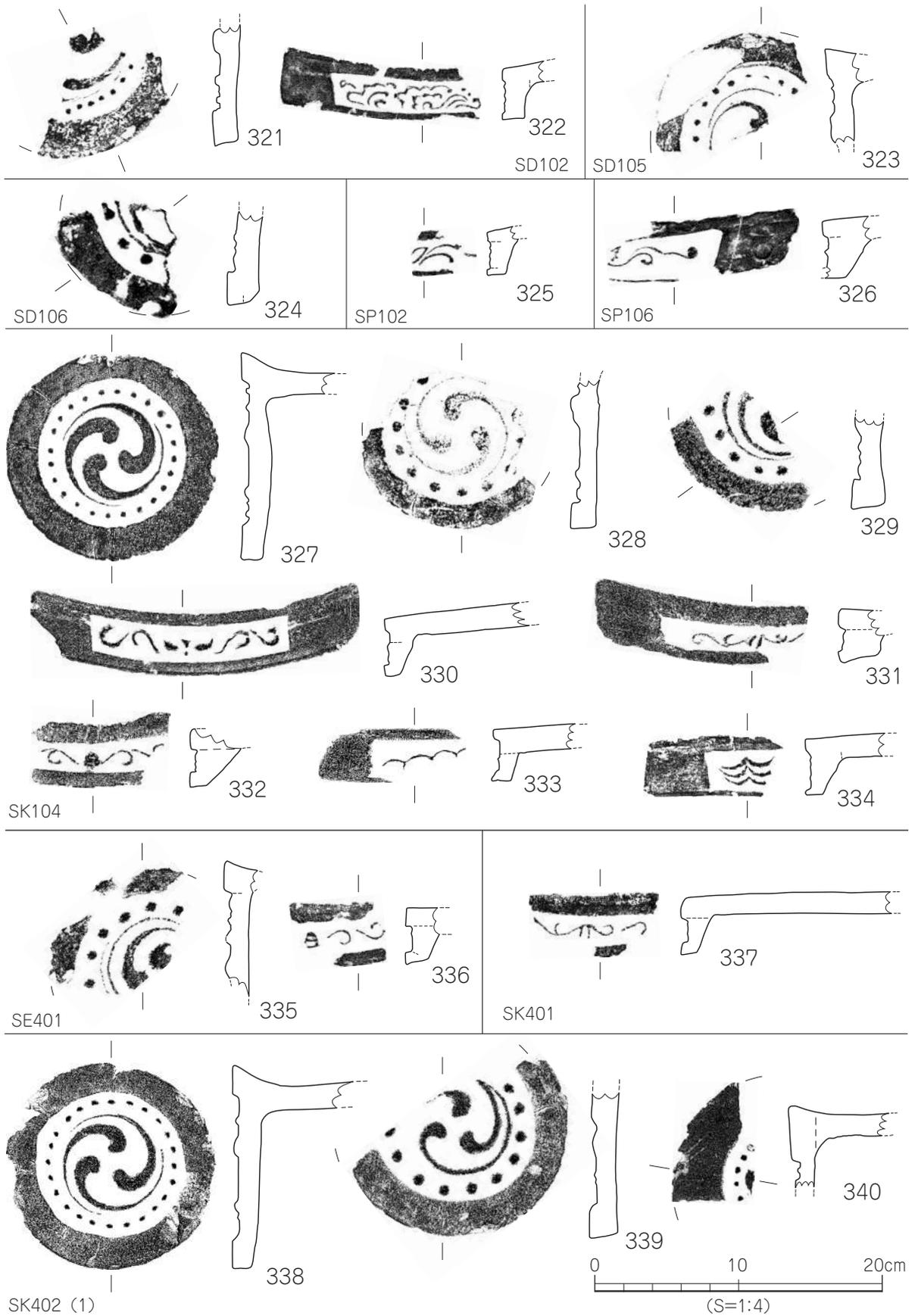
調査の成果



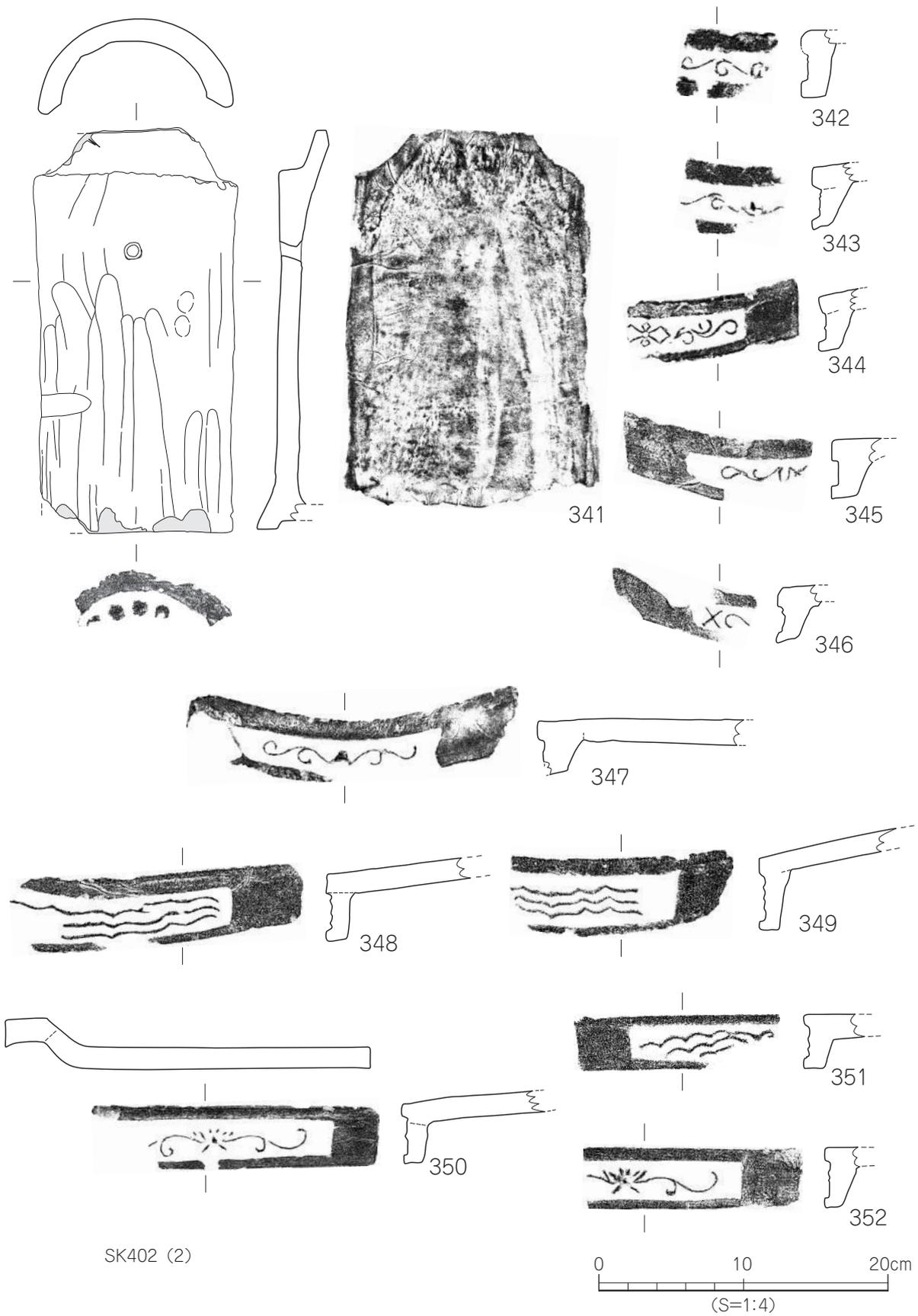
第 62 図 金属製品実測図 (1)



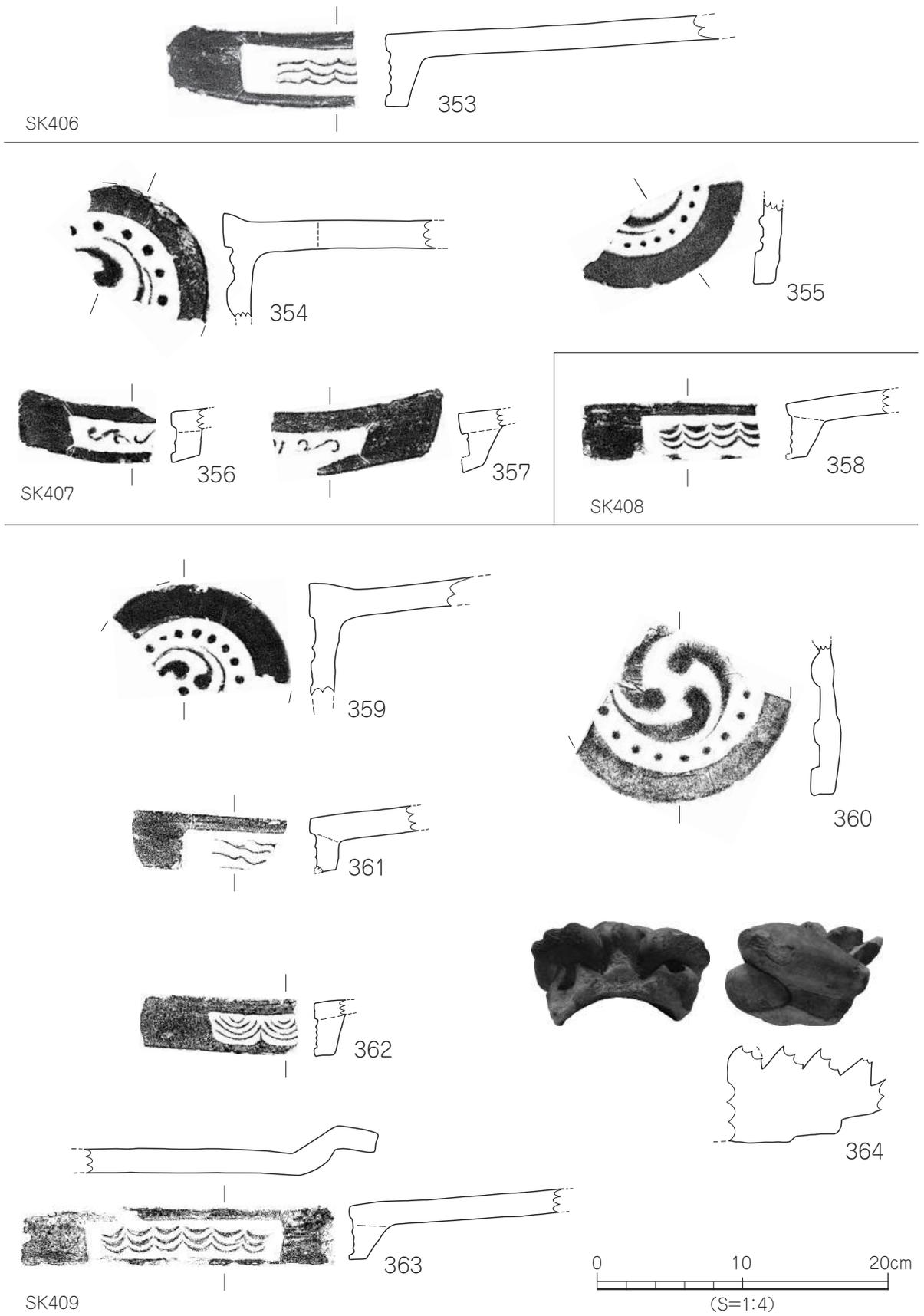
第 63 図 金属製品実測図 (2)



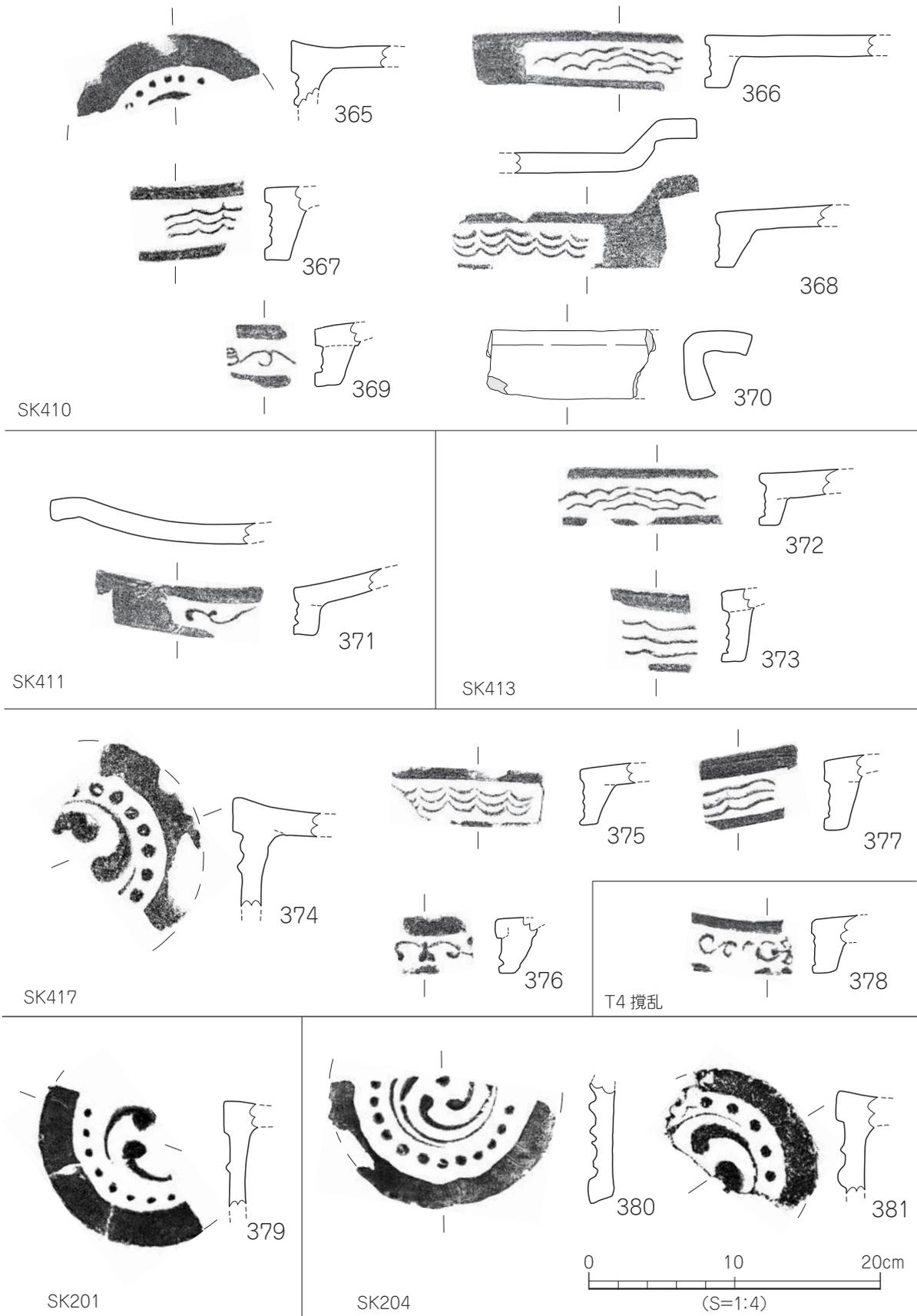
第 64 図 瓦実測図 (1)



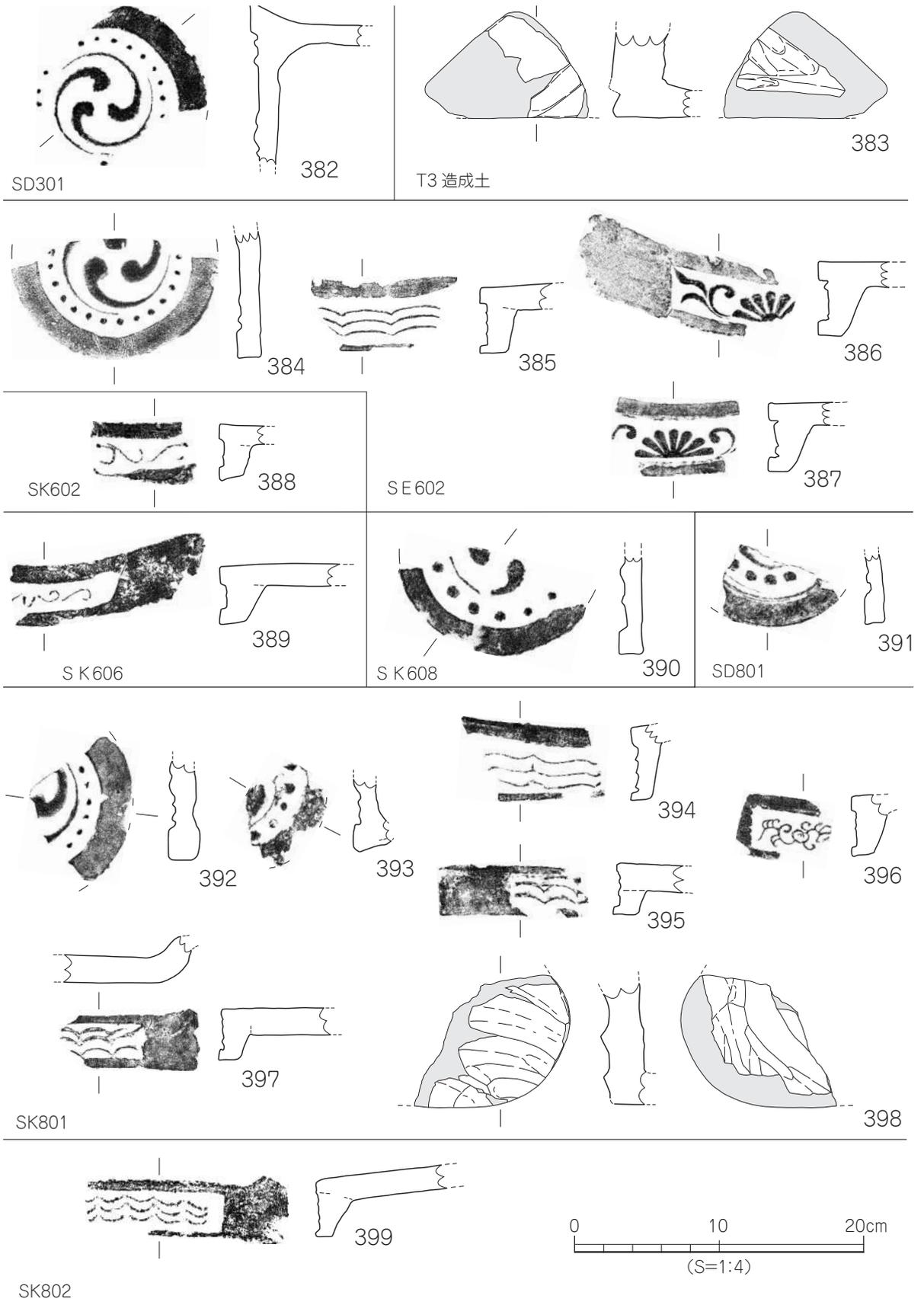
第 65 図 瓦実測図 (2)



第 66 図 瓦実測図 (3)



第 67 図 瓦実測図 (4)



第 68 図 瓦実測図 (5)

遺物観察表 - 凡例 -

以下の表は、本調査地検出の遺物の計測値及び観察一覧である。

遺物観察表

法量欄 (): 復元推定値

[]: 残高

調整欄 土器の各部位名称を略記した。

例) ㊦→底部

胎土欄 胎土欄は混和剤を略記した。

例) 石→石英、長→長石、金→金ウンモ、赤→赤色酸化土粒

() の中の数値は混和剤粒子の大きさを示す。

例) 石・長 (1~4) → 「1~4mm大の石英・長石を含む」である。

焼成欄 焼成欄の略記について

◎→良好、○→良

備考欄 出土遺物の略記について

肥前系→肥前系陶磁、京焼系→京焼系陶磁、瀬戸美濃系→瀬戸美濃系陶磁

表 4 陶磁器観察表

(1)

番号	出土場所	種別	器種	法量			釉薬	装飾	備考	図版
				口径	器高	底径				
1	SD105	陶器	碗		[4.4]	(4.2)	灰釉			
2	SD106	焼締陶器	播鉢	(30.0)	12.5	10.8	褐釉		肥前系?	
3	SP101	陶器	碗		[2.0]	(3.0)	透明釉		京焼系	
4	SP109	陶器	碗		[3.2]	(4.4)	透明釉	鉄絵?	陶胎染付	
5	SK101	陶器	油壺		[4.9]	(5.8)	透明釉		肥前系	
6	SK101	青磁	鉢		[5.3]	(8.8)	青磁釉			4
7	SK104	磁器	碗	(11.2)	5.9	(6.2)	透明釉	染付	広東形 18 c 末~19 c 初	
8	SK104	磁器	碗	12.0	4.2	6.1	透明釉	染付	肥前系	
9	SK104	磁器	椀		[3.7]	3.2	透明釉	染付	半球形 肥前系 19 c 前	
10	SK104	磁器	小坏	(7.4)	[3.0]		透明釉	色絵	肥前系	4
11	SK104	磁器	碗	12.2	[5.4]		透明釉	染付	肥前系	
12	SK104	磁器	皿 (八角)	10.0	2.3	6.6	透明釉	染付	肥前系 コンニャク印判	
13	SK104	磁器	蓋	10.6	1.9	5.6	透明釉	染付	肥前系 (波佐見)	
14	SK104	磁器	八角鉢	14.4	8.4	7.3	透明釉	色絵	肥前系 (波佐見)	4
15	SK104	磁器	合子	(4.8)	2.2	(5.0)	透明釉	染付	底面釉剥ぎ	
16	SK104	磁器	蓋	2.5	1.3	1.0	灰白釉?		ままごと道具	
17	SK104	磁器	紅皿	4.5	1.5	1.3	透明釉			
18	SK104	陶器	小杉碗	10.0	6.1	4.2	透明釉	鉄絵	京焼系 小杉碗	
19	SK104	陶器	碗	9.6	5.6	3.6	透明釉		京焼系	
20	SK104	陶器	丸碗	11.4	5.9	4.3	透明釉	鉄絵	京焼系	
21	SK104	陶器	皿 (源内焼)	23.6	3.3	11.7	白釉		源内焼? 型打ち成形	4

出土遺物観察表

陶磁器観察表

(2)

番号	出土場所	種別	器種	法量			釉薬	装飾	備考	図版
				口径	器高	底径				
22	T1 造成土	磁器	鉢	(10.6)	5.6	(6.4)	透明釉	染付	軍用食器	
23	T1 造成土	磁器	仏花瓶		[9.4]		透明釉	染付	肥前系	
24	SE401	磁器	筒碗		[4.8]	(7.0)	透明釉	染付	筒形 肥前系 17c 中	
25	SE401	磁器	蓋	(9.2)	2.3	(4.8)	透明釉	染付	肥前系	
26	SE401	陶器	碗		[3.4]	(5.4)	透明釉		刻印「寶」	
27	SE401	陶器	碗		[2.2]	(4.0)	灰釉		肥前系	
28	SE401	青磁	鉢		[6.6]	(10.0)	透明釉	染付	肥前系	
29	SE401	陶器	鉢	(33.4)	[9.3]		藁灰釉			
30	SE401	青磁	皿	(27.1)	5.2	(14.6)	青磁釉	?	肥前系 透かし彫り	4
31	SE401	焼締陶器	播鉢	(31.2)	[9.1]				重ね焼き跡	
32	SK402	磁器	皿		[1.4]	(8.8)	透明釉	染付	肥前系 17c 後	
33	SK402	磁器	皿		[2.0]	(6.8)	透明釉	染付	肥前系 18c 初～前	
34	SK402	磁器	皿	(12.8)	3.2	(7.6)	透明釉	染付	墨弾き 肥前系	
35	SK402	磁器	皿	(18.2)	[2.0]		透明釉	染付	初期伊万里焼	
36	SK402	磁器	蓋	(10.2)	2.8	(4.0)	透明釉	染付	朝顔型碗 肥前系	
37	SK402	磁器	小坏	(7.0)	[4.5]		透明釉	染付	高級 端反形	
38	SK402	磁器	小坏	(4.4)	2.5	(2.4)	透明釉			
39	SK402	陶器	ままごと道具・碗	(2.6)	1.3	0.9	内のみ灰釉			
40	SK402	青磁	鉢	(8.0)	[7.2]		青磁釉		肥前系 (有田)	4
41	SK402	青磁	鉢	26.2	11.8	13.0	青磁釉		肥前系 (波佐見)	4
42	SK402	陶器	碗	(10.2)	6.3	(4.4)	透明釉		京焼系	
43	SK402	陶器	碗		[4.1]	5.7	透明釉?	鉄絵?	京焼風 肥前系	
44	SK402	陶器	碗		[3.3]	(4.4)	灰釉	?	肥前系	4
45	SK402	陶器	鉢		[2.1]	2.6	灰釉		肥前系	
46	SK402	陶器	皿		[2.2]	(3.8)	灰釉	?	肥前系	4
47	SK402	陶器	壺	(16.1)	[9.8]		灰釉	?	九州系 重ね掛け	4
48	SK402	陶器	壺	(13.9)	[10.2]		褐釉		18c 後半 丹波	
49	SK402	陶器	花瓶		[9.9]		褐釉	?		4
50	SK402	焼締陶器	播鉢	(33.0)	[8.2]				堺・明石系	
51	SK402	焼締陶器	播鉢	(28.4)	[7.5]				備前焼	

松山城三之丸跡 13 次調査

陶磁器観察表

(3)

番号	出土場所	種別	器種	法量			釉薬	装飾	備考	図版
				口径	器高	底径				
52	SK402	焼締陶器	播鉢		[6.4]	(18.2)				
53	SK405	磁器	合子・蓋	(4.8)	0.9		透明釉	染付		
54	SK406	磁器	碗	(11.8)	6.4	6.4	透明釉	染付	植木鉢に転用 砥部焼	
55	SK406	磁器	碗	(8.7)	5.5	(3.5)	透明釉	染付	肥前系 (波佐見) 18c	
56	SK406	磁器	皿	9.8	2.3	4.6	透明釉	染付	肥前系 18c 前～中 手しお、源丘香文	
57	SK406	磁器	蓋	9.0	2.3	(5.0)	透明釉	染付	肥前系	
58	SK406	磁器	合子・蓋	5.0	1.1		透明釉	染付		
59	SK406	磁器	蓮華	長さ 11.1	幅 4.7	4.6	透明釉	染付		
60	SK406	磁器	ままごと道具・ 碗	2.4	1.2	0.7	透明釉	型押し		6
61	SK406	陶器	碗	(11.4)	6.9	(5.5)	透明釉 白釉	?	京焼系	4
62	SK406	高麗 青磁	壺		[11.0]		青磁釉		象嵌	4
63	SK406	陶器	皿	22.3	5.0	6.5	灰釉 御深井釉		型打ち	5
64	SK406	陶器	皿	(19.8)	(4.0)	(13.4)	緑釉		源内焼	5
65	SK406	陶器	土瓶	6.8	11.0	7.3	鉄釉		算盤玉形	
66	SK406	陶器	壺		[11.4]	(17.2)	鉄釉		肥前系 (有田) 18c 初	
67	SK406	陶器	植木鉢	(28.4)	21.8	(20.4)	鉄釉			
68	SK406	焼締 陶器	植木鉢	(19.6)	10.9	(26.0)	褐釉			
69	SK407	磁器	仏飯器	(7.6)	5.6	3.9	透明釉	染付		
70	SK407	陶器	碗		[6.8]	(4.8)	黄釉		呉器手	
71	SK407	陶器	碗	(10.8)	[4.6]		透明釉		半筒形	
72	SK407	陶器	灯明皿	11.6	2.6	6.3	長石釉			5
73	SK407	焼締 陶器	播鉢	(30.0)	[9.4]				備前焼	
74	SK408	磁器	碗	(8.0)	4.0	(3.0)	透明釉	染付		
75	SK408	陶器	碗	(9.8)	6.0	3.6	透明釉			
76	SK408	陶器	向付		[2.3]		透明釉	鉄絵	瀬戸美濃 77 と同一個体?	5
77	SK408	陶器	向付		[3.4]		透明釉	鉄絵	瀬戸美濃 76 と同一個体?	5
78	SK408	陶器	碗・蓋	8.3	2.1	1.9	褐釉			
79	SK409	磁器	碗	(12.2)	6.4	(6.1)	透明釉	染付	蓋付	
80	SK409	磁器	碗	(8.0)	3.3	(3.0)	透明釉	染付		
81	SK409	磁器	御神酒徳利	(2.2)	10.5	4.2	透明釉	染付	肥前系	

出土遺物観察表

陶磁器観察表

(4)

番号	出土場所	種別	器種	法量			釉薬	装飾	備考	図版
				口径	器高	底径				
82	SK409	陶器	碗	(8.4)	5.4	(5.3)	灰釉	鉄絵		
83	SK409	陶器	鉢		[8.1]		灰釉 緑釉		二重掛け	4
84	SK409	陶器	土瓶	(6.4)	11.4	(6.3)	長石釉 透明釉			
85	SK409	陶器	灯明皿	11.0	1.9	3.8	透明釉		目跡 京焼系 煤付着	
86	SK410	磁器	碗	(15.6)	6.4	(5.9)	透明釉	染付		
87	SK410	磁器	小坏	5.2	3.0	2.3	透明釉	染付		
88	SK410	陶器	碗	(12.1)	[4.5]		灰釉	上絵	京焼系	
89	SK410	陶器	碗		[3.6]	4.0	透明釉	刷毛目	内底面刷毛目釉剥ぎ	
90	SK410	陶器	碗	9.3	6.3	4.8	灰釉	鉄絵	半筒形 京焼系	4
91	SK410	陶器	碗	(13.6)	[7.2]		灰釉	刷毛目	半筒形 内面口縁端部釉剥ぎ	
92	SK410	陶器	碗	(8.0)	5.4	(4.8)	透明釉	染付	半筒形 蓋付	
93	SK411	磁器	碗	11.6	6.1	4.4	透明釉	染付	肥前系	
94	SK411	磁器	碗	(8.6)	5.6	3.6	透明釉	染付	砥部焼	
95	SK411	磁器	碗	(11.0)	5.6	(4.0)	透明釉	染付	端反形 肥前系	5
96	SK411	磁器	碗	(8.7)	3.9	(3.6)	透明釉	染付	肥前系 (波佐見)、コンニャク印判 18c 後	
97	SK411	磁器	碗	(9.2)	4.9	(3.7)	透明釉	染付	肥前系	
98	SK411	白磁	皿	(11.2)	1.9	(6.8)	透明釉		白磁	
99	SK411	磁器	蓋	(10.2)	2.8	5.8	透明釉	染付		
100	SK411	磁器	仏花器	1.6	[6.0]		透明釉	染付		
101	SK411	磁器	仏花器		4.8	(3.0)	透明釉	染付		
102	SK411	磁器	紅皿	5.1	1.3	2.0	透明釉			
103	SK411	磁器	水注		[6.2]		透明釉	色絵	鶏形	
104	SK411	陶器	碗		[5.2]	(3.4)	灰釉		墨書	
105	SK411	陶器	碗	(8.6)	6.4	(3.4)	透明釉		京焼風 肥前系	
106	SK411	陶器	土鍋	(14.0)	[5.6]		褐釉			
107	SK411	焼締 陶器	焼台		[1.5]					
108	SK413	磁器	紅皿	4.6	1.5	1.5	透明釉		菊花文	
109	SK413	陶器	碗		[4.7]	4.3	透明釉	鉄絵	京楽系 小杉碗 若松文か?	
110	SK413	陶器	鉢		[7.0]	(12.8)	灰釉			
111	SK413	焼締 陶器	匣鉢	10.9	6.3	(16.3)			灰落としに転用	5

松山城三之丸跡 13 次調査

陶磁器観察表

(5)

番号	出土場所	種別	器種	法量			釉薬	装飾	備考	図版
				口径	器高	底径				
112	SK415	磁器	紅皿	(5.4)	1.6	(2.8)	透明釉	染付		
113	SK417	磁器	碗	(9.7)	5.9	(4.5)	透明釉		京焼系	
114	SK417	磁器	皿	(20.6)	3.7	(11.0)	透明釉	染付	肥前系	
115	SK417	磁器	蓋	10.4	2.5	5.8	青磁釉 透明釉	染付	肥前系	
116	SK417	磁器	蓋	8.5	3.1	3.8	透明釉	染付	肥前系 19c 前半	
117	SK417	磁器	蓋	7.6	2.1		透明釉	染付	肥前系	
118	SK417	磁器	仏飯器	(6.6)	6.4	3.8	透明釉	染付		
119	SK417	陶器	半筒碗	(9.8)	6.6	(5.4)	褐釉	?		
120	T4 西壁 (南)	陶器	向付		[3.8]	4.4	灰釉	?		5
121	T4 造成土・攪乱	磁器	碗	(10.4)	6.0	(3.7)	透明釉		印判手	
122	T4 造成土・攪乱	磁器	碗	(10.6)	5.4	(4.4)	透明釉	染付	瀬戸焼	
123	T4 造成土・攪乱	磁器	碗	8.8	4.3	3.6	透明釉	染付	波佐見 18c 後半	
124	T4 造成土・攪乱	陶器	皿	(11.6)	4.0	(4.4)	灰釉		目跡 3 箇所以上	
125	SK201	磁器	碗	(10.2)	5.1	(3.8)	透明釉	染付		
126	SK201	陶器	皿		[1.5]	4.4	灰釉		砂目跡 3 箇所	
127	T2 造成土	磁器	蓋	8.5	2.9	3.5	透明釉	染付		
128	SD301	陶器	ままごと道具・ 土瓶・蓋	2.4	1.7	1.3	灰釉		京焼系	
129	SD301	陶器	ままごと道具・ 土瓶	(2.2)	[3.1]		灰釉	染付鉄絵	京焼系	
130	SP301	陶器	向付		[2.3]		長石釉		志野織部 16 末～17 初	5
131	SP303	磁器	碗	7.4	[2.8]		透明釉		端反形	
132	SP304	陶器	鉢	(15.4)	[5.7]		灰釉		唐津焼 17c 口縁端面釉剥ぎ	
133	SP312	磁器	水滴		3.3		透明釉	染付		
134	SE301	磁器	碗	(9.6)	4.8	(3.2)	透明釉	染付		
135	SE301	陶器	灯明皿	(10.5)	2.0	4.4	灰釉		内面黄釉	
136	SK301	焼締 陶器	播鉢	(32.6)	[6.6]				丹波? 17c 中頃	
137	T3 造成土・攪乱	磁器	碗	10.3	5.9	3.8	透明釉	染付	端反形	
138	T3 造成土・攪乱	磁器	碗	9.1	5.3	3.6	透明釉	染付	端反形	
139	T3 造成土・攪乱	陶器	碗		[1.7]	(3.6)	灰釉		底面に「アカ」の墨書	
140	T3 造成土・攪乱	陶器	向付		[5.0]		長石釉	?		5
141	T3 造成土・攪乱	陶器	燗徳利		[9.8]					

出土遺物観察表

陶磁器観察表

(6)

番号	出土場所	種別	器種	法量			釉薬	装飾	備考	図版
				口径	器高	底径				
142	SP508	陶器	皿	(10.6)	3.1	(4.2)	灰釉		肥前系 砂目跡 3 箇所以上	
143	SP606	陶器	碗		[5.1]	4.0	灰釉		肥前系	
144	SE602	白磁	鉢	(8.1)	6.1	(3.8)	透明釉			
145	SE602	焼締 陶器	播鉢	(36.0)	[9.3]					
146	SK602	陶器	碗		[4.6]	(5.2)	透明釉			
147	SK605	陶器	皿		[1.8]	(5.6)	灰釉		美濃焼	4
148	SK608	磁器	碗	(9.4)	[4.3]		透明釉	染付		
149	T6 造成土・攪乱	陶器	碗	(10.7)	6.9	(5.0)	透明釉	染付	山水文 陶胎染付 17 末～18 初	6
150	T6 造成土・攪乱	陶器	箱庭道具・橋		1.3		透明釉			
151	SK701	陶器	壺	9.6	8.4	5.7	褐釉		備前焼	
152	T7 近代石組溝	磁器	碗	(10.2)	5.9	(3.6)	透明釉	染付	端反形	
153	T7 造成土・攪乱	磁器	小坏	(7.8)	3.9	(2.8)	透明釉	染付		
154	T7 造成土・攪乱	陶器	蓋	3.9	1.1		灰釉			
155	T7 造成土・攪乱	陶器	蚊取		[8.6]		褐釉			
156	SK801	磁器	碗	(11.4)	6.8	6.8	透明釉	染付	広東形	
157	SK801	磁器	碗	(12.0)	6.4	(6.4)	透明釉	染付	広東形 19c	
158	SK801	磁器	碗	9.6	5.5	4.0	透明釉	染付	肥前系 (波佐見)	
159	SK801	磁器	小坏	8.1	3.7	3.1	透明釉	染付		
160	SK801	磁器	小坏	7.0	3.2	2.9	透明釉	染付		
161	SK801	磁器	小坏	(7.4)	3.2	(2.4)	透明釉	染付		
162	SK801	磁器	蓋	10.0	2.8	5.7	透明釉	染付		
163	SK801	磁器	蓋	10.1	3.2	5.4	透明釉	染付		
164	SK801	磁器	猪口	(7.1)	6.1	(5.0)	透明釉	染付		
165	SK801	陶器	皿		[4.2]	8.6	灰釉		砂目跡 3 箇所以上	
166	SK801	陶器	皿	20.6	4.8	11.7	黄釉		源内焼	5
167	SK801	陶器	壺	(10.0)	[5.9]		黄釉			
168	SK801	陶器	急須	5.7	10.5	4.7	褐釉			
169	SK801	陶器	灯明皿	7.1	1.1	2.8				
170	SK801	陶器	筆立		[6.6]	2.1	褐釉	イッチン 盛り		5
171	SK801	陶器	水注		[6.6]		透明釉	染付鉄絵		

松山城三之丸跡 13 次調査

陶磁器観察表

(7)

番号	出土場所	種別	器種	法量			釉薬	装飾	備考	図版
				口径	器高	底径				
172	SK801	焼締陶器	植木鉢	17.8	10.2	12.8			備前焼	
173	SK802	焼締陶器	植木鉢		[6.8]	15.7	灰藁釉		九州系	
174	SK802	磁器	碗		[2.1]	3.7	透明釉	色絵		4
175	SK802	磁器	皿		[2.3]	(19.8)	透明釉	染付	肥前 18c	
176	SK802	磁器	蓋	9.8	2.8	5.2	透明釉	染付		
177	SK802	陶器	碗	(8.8)	4.6	(3.2)	透明釉	鉄絵	小杉碗	
178	SK802	陶器	蓋		1.5	(9.1)	灰釉			
179	SK804	磁器	碗	(10.3)	5.2	(5.1)	透明釉	染付	広東形	
180	SK804	陶器	土瓶・蓋	6.7	4.2	2.5	褐釉			
181	SK804	陶器	灯明皿	(11.4)	5.2	(5.1)	透明釉			
182	SK805	磁器	碗		[4.8]	3.1	透明釉			
183	SK806	磁器	小坏	(7.0)	[4.1]		透明釉			
184	SK806	陶器	皿		[2.3]	(4.8)	灰釉	鉄絵		4
185	T8 造成土・攪乱	磁器	広東碗	(11.6)	6.4	(6.5)	透明釉		広東形 肥前系	
186	T8 造成土・攪乱	磁器	碗	(9.2)	5.2	4.0	透明釉	染付	端反形	
187	T8 造成土・攪乱	磁器	鉢・軍用食器	(14.8)	4.5	(10.7)	透明釉	染付		
188	T8 造成土・攪乱	磁器	水注・鳥形		8.3		透明釉	色絵		4
189	T8 造成土・攪乱	陶器	鉢	(22.4)	[4.0]		灰釉			

表 5 土器・土製品観察表

(1)

番号	出土場所	種別	器種	法量			調整		色調 (外面 内面)	胎土 焼成	備考	図版
				口径	器高	底径	外面	内面				
190	SK101	土師	皿	(6.7)	1.3	4.9	ヨコナデ ㊦回転糸切り	ヨコナデ	浅黄橙 浅黄橙	石・長 (1) 金 ◎		
191	SK102	土師	皿	9.1	1.6	7.0	ヨコナデ ㊦回転糸切り	ヨコナデ	にぶい橙 にぶい橙	石・長 (5) 金 ◎	煤 付着	
192	SK104	土師	皿	9.1	1.7	5.7	ヨコナデ ㊦回転糸切り	ヨコナデ	浅黄橙 浅黄橙	砂粒 ◎		
193	SK401	瓦質	火消壺・蓋	(24.1)	[3.2]		ナデ	ナデ	暗灰 暗灰	砂粒 ◎		
194	SE401	土師	皿	11.3	1.8	7.8	ヨコナデ ㊦マメツ	ヨコナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	砂粒 ◎	煤 付着	
195	SE401	土師	皿	11.2	1.9	7.6	ヨコナデ ㊦回転糸切り	ヨコナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	密 ◎		
196	SE401	土師	皿	(10.0)	1.9	(6.2)	ヨコナデ ㊦回転糸切り	ヨコナデ	灰黄褐 灰黄褐	密 ◎		
197	SE401	土師	皿	8.4	1.6	5.7	ヨコナデ ㊦回転糸切り	ヨコナデ	浅黄橙 橙	密 ◎		
198	SE401	土師	皿	7.0	1.5	4.6	ヨコナデ ㊦回転糸切り	ヨコナデ	橙 橙	砂粒 ◎		
199	SK402	土師	皿	(15.4)	2.8	(10.3)	ヨコナデ ㊦回転糸切り	ヨコナデ	橙 橙	石・長 (1) ◎		

出土遺物観察表

土器・土製品観察表

(2)

番号	出土場所	種別	器種	法量			調整		色調 (外面 内面)	胎土 焼成	備考	図版
				口径	器高	底径	外面	内面				
200	SK402	土師	皿	14.8	3.4	8.9	ヨコナデ 底回転糸切り	ヨコナデ	橙 橙	長(1) ◎		
201	SK402	土師	皿	(14.6)	3.2	10.1	ヨコナデ 底回転糸切り	ヨコナデ	橙 橙	長(1) ◎		
202	SK402	土師	皿	14.5	3.5	9.9	ヨコナデ 底回転糸切り	ヨコナデ	橙 橙	石・長(1~2) ◎		
203	SK402	土師	皿	13.9	2.8	9.4	ヨコナデ 底回転糸切り	ヨコナデ	橙 橙	密 ◎		
204	SK402	土師	皿	(13.6)	3.0	(9.0)	ヨコナデ 底回転糸切り	ヨコナデ	橙 橙	石・長(1~2) ◎		
205	SK402	土師	皿	(13.5)	2.9	9.3	ヨコナデ 底回転糸切り	ヨコナデ	橙 橙	密・金 ◎		
206	SK402	土師	皿	(13.4)	2.9	(9.2)	ヨコナデ 底回転糸切り	ヨコナデ	橙 橙	石・長(1~2) ◎		
207	SK402	土師	皿	(11.2)	1.9	(6.6)	ヨコナデ 底回転糸切り	ヨコナデ	橙 橙	長(1) ◎		
208	SK402	土師	皿	11.1	2.3	6.7	ヨコナデ 底回転糸切り	ヨコナデ	橙 橙	石・長(1) ◎		
209	SK402	土師	皿	11.0	2.4	8.4	ヨコナデ 底回転糸切り	ヨコナデ	橙 橙	石(1) ◎		
210	SK402	土師	皿	(10.8)	2.1	(7.2)	ヨコナデ 底回転糸切り	ヨコナデ	橙 橙	砂粒 ◎		
211	SK402	土師	皿	10.8	1.8	6.5	ヨコナデ 底回転糸切り	ヨコナデ	橙 橙	密 ◎		
212	SK402	土師	皿	10.7	2.0	6.5	ヨコナデ 底回転糸切り	ヨコナデ	橙 橙	砂粒 ◎		
213	SK402	土師	皿	10.6	2.2	6.7	ヨコナデ 底回転糸切り	ヨコナデ	橙 橙	石・長(2~3) ◎		
214	SK402	土師	皿	10.6	1.8	7.7	ヨコナデ 底回転糸切り	ヨコナデ	橙 橙	長(2) 金 ◎		
215	SK402	土師	皿	10.6	2.2	6.7	ヨコナデ 底回転糸切り	ヨコナデ	橙 橙	長(1) ◎		
216	SK402	土師	皿	10.6	2.0	6.5	ヨコナデ 底回転糸切り	ヨコナデ	橙 橙	石(1) ◎		
217	SK402	土師	皿	10.5	2.0	7.3	ヨコナデ 底回転糸切り	ヨコナデ	橙 橙	長(1) ◎		
218	SK402	土師	皿	10.5	2.1	6.7	ヨコナデ 底回転糸切り	ヨコナデ	橙 橙	砂粒 ◎		
219	SK402	土師	皿	(10.4)	2.1	(6.8)	ヨコナデ 底回転糸切り	ヨコナデ	橙 橙	石(1) ◎		
220	SK402	土師	皿	(10.4)	2.1	(6.6)	ヨコナデ 底回転糸切り	ヨコナデ	橙 橙	長(1) ◎		
221	SK402	土師	皿	(10.4)	2.2	(6.6)	ヨコナデ 底回転糸切り	ヨコナデ	橙 橙	長(1) ◎		
222	SK402	土師	皿	(10.3)	2.2	(6.7)	ヨコナデ 底回転糸切り	ヨコナデ	橙 橙	砂粒 ◎		
223	SK402	土師	皿	(10.2)	2.2	(6.2)	ヨコナデ 底回転糸切り	ヨコナデ	橙 橙	長(1) ◎		
224	SK402	土師	皿	(10.2)	2.1	6.1	ヨコナデ 底回転糸切り	ヨコナデ	浅黄橙 浅黄橙	石・長(1)、金 ◎	煤 附着	
225	SK402	土師	皿	10.2	2.0	(6.6)	ヨコナデ 底回転糸切り	ヨコナデ	橙 橙	密 ◎	煤 附着	
226	SK402	土師	皿	(10.0)	2.3	(6.4)	ヨコナデ 底回転糸切り	ヨコナデ	橙 橙	石・長(1) ◎		
227	SK402	土師	皿	10.0	2.1	6.4	ヨコナデ 底回転糸切り	ヨコナデ	明褐・暗褐 明褐	砂粒、金、赤 ◎		
228	SK402	土師	皿	(9.4)	2.5	6.3	ヨコナデ 底回転糸切り	ヨコナデ	橙 橙	砂粒、金 ◎	煤 附着	
229	SK402	土師	皿	(10.6)	2.0	(6.4)	ヨコナデ 底回転糸切り	ヨコナデ	にぶい橙 にぶい橙	砂粒 ◎	煤 附着	

松山城三之丸跡 13 次調査

土器・土製品観察表

(3)

番号	出土場所	種別	器種	法量			調整		色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				口径	器高	底径	外面	内面				
230	SK402	土師	皿	(7.8)	1.5	(4.3)	ヨコナデ ㊄回転糸切り	ヨコナデ	橙 橙	砂粒、金、赤 ○	煤 付着	
231	SK402	土師	皿	7.6	1.5	4.5	ヨコナデ ㊄回転糸切り	ヨコナデ	橙 橙	密 ○	煤 付着	
232	SK402	土師	焙烙	(35.8)	[7.1]		指頭痕・ ナデ	ナデ	黄灰 灰	密 ○	煤 付着	
233	SK402	土師	土人形・天神		6.3		ナデ	ナデ	にぶい黄	密 ○		
234	SK406	土師	皿		0.5	(4.8)	㊄回転糸切り	ヨコナデ	浅黄橙 にぶい橙	長 (1) ○	底面に 墨書	5
235	SK406	土師	皿	6.8	1.4	4.6	ヨコナデ ㊄回転糸切り	ヨコナデ	浅黄橙 浅黄橙	密 ○		
236	SK406	土師	焜炉		[20.3]		ナデ	ナデ	橙 橙	密、金 ○	煤 付着	
237	SK406	土師	焙烙	28.8	[8.0]		指頭痕・ ハケ・ナデ	指頭痕・ ナデ	橙・褐灰 にぶい橙	密 ○	煤 付着	
238	SK406	瓦質	取っ手付鍋	17.3	4.0	7.4	ミガキ	ミガキ	黒 黒	密 ○		
239	SK406	瓦質			[16.3]	18.2	ハケ・ナデ	ナデ	灰 灰	石・長 (1~2)、 金 ○		
240	SK408	土師	皿	(10.4)	2.0	(6.0)	ヨコナデ ㊄回転糸切り	ヨコナデ	にぶい橙	砂粒、赤 ○	煤 付着	
241	SK408	土師	皿	9.2	1.7 ~ 2.3	6.6	ヨコナデ ㊄回転糸切り	ヨコナデ	橙 黄橙	砂粒 ○		
242	SK409	土師	土人形・亀		[2.4]		ナデ	ナデ	浅黄橙	密 ○		6
243	SK410	土師	坏	(14.4)	2.6	(6.0)	ヨコナデ ㊄静止糸切	ヨコナデ	淡黄 淡黄	石・長 (1)、 金 ○		
244	SK410	土師	皿	9.5	1.7	5.0	ヨコナデ ㊄回転糸切り	ヨコナデ	浅黄橙 浅黄橙	長 (1)、 金 ○	煤 付着	
245	SK410	土師	箱庭道具 山と梅		[4.0]		ナデ	指頭痕・ ナデ	浅黄橙 浅黄橙	石・長 (1~2)、 金 ○		6
246	SK411	土師	皿	6.6	2.1	4.2	ヨコナデ ㊄静止糸切	ヨコナデ	橙 橙	砂粒 ○	煤 付着	
247	SK411	土師		(9.8)	1.3	(7.4)	ヨコナデ ㊄静止糸切	ヨコナデ	黄橙・灰白 橙	砂粒、 金 ○		
248	SK411	土師	ままごと道具 瓶		[3.7]	1.4	ナデ		にぶい黄橙 にぶい黄橙	密 ○		6
249	SK411	土師			1.5		ナデ	ナデ	灰黄褐 浅黄橙	石・長 (1)、 金 ○		
250	SK411	瓦質	蓋	7.0	1.8		ナデ	ヨコナデ	灰白・黒 灰白	密 ○		
251	SK413	土師	皿	10.2	1.9	6.1	マメツ	ナデ	浅黄橙 浅黄橙	石・長 (1)、 金 ○		
252	SK413	瓦質	火鉢	(15.7)	[11.7]		ナデ	ナデ	黒褐 黒褐	密 ○	漆	6
253	SK413	瓦質	十能		7.2		ナデ	ナデ	黒 黒・灰白	砂粒 ○		
254	SK415	土師	皿	(8.6)	1.5	(5.0)	ヨコナデ ㊄回転糸切り	ヨコナデ	橙 橙	長 (1) ○	煤 付着	
255	SK417	土師	皿	(10.8)	2.4	(6.5)	ヨコナデ ㊄回転糸切り	ヨコナデ	黒 黒	密 ○	煤 付着	5
256	T4 造成土	土師	土人形・猿		5.0		ナデ	ナデ	淡黄	砂粒 ○		
257	SK201	土師	皿	(11.6)	1.8	(7.0)	マメツ	ヨコナデ	橙 橙	砂粒 ○		
258	SK201	土師	皿	7.3	1.5	4.4	ヨコナデ ㊄マメツ	ヨコナデ	にぶい橙 にぶい橙・橙	砂粒、 金、赤		
259	SK201	土師	皿	7.4	1.3	4.7	マメツ	マメツ	灰白 灰白	砂粒 ○	煤 付着	

出土遺物観察表

土器・土製品観察表

(4)

番号	出土場所	種別	器種	法量			調整		色調 (外面 内面)	胎土 焼成	備考	図版
				口径	器高	底径	外面	内面				
260	T3 造成土	土師	鳩笛		[4.5]		ナデ	指頭痕	にぶい橙 にぶい橙	砂粒、金 ◎		
261	T3 造成土	土師	土人形・		[3.5]		ナデ	ナデ	浅黄橙	密、赤 ◎		
262	T5 西壁サブト レンチ	土師	土人形・狛犬		3.5		ナデ	ナデ	灰白	密、金 ◎		
263	SK608	土師	皿	(10.0)	1.9	(7.5)	ヨコナデ ◎回転糸切り	ヨコナデ	橙 橙	長 (1) ◎		
264	T7 造成土	土師	土人形・僧侶		[6.8]		ナデ	ナデ	浅黄橙 浅黄橙	長 (1)、金 ◎		
265	SK801	土師	皿	(10.7)	1.9	7.7	ヨコナデ ◎回転糸切り	ヨコナデ	橙 橙	密、金 ◎		
266	SK801	土師	皿	9.9	1.7	5.4	ヨコナデ ◎回転糸切り	ヨコナデ	橙 橙	密、金 ◎	煤 附着	
267	SK801	土師	皿	8.9	1.2	7.2	ヨコナデ ◎回転糸切り	ヨコナデ	橙 橙	密、金 ◎	煤 附着	
268	SK801	土師	焼塩壺	(8.0)	6.8	(5.0)	指頭痕・ ナデ	ナデ	にぶい橙 にぶい橙	長 (4)、金 ◎		
269	SK801	土師	ままごと道具 銭		2.4				橙 橙	密 ◎		6
270	SK801	瓦質	鉢	(25.0)	7.5		ミガキ・ ナデ	ナデ	灰 灰	密 ◎		
271	SK802	土師	ままごと道具 段重	(3.9)	1.8	2.6		ナデ	浅黄橙 浅黄橙	密 ◎		6
272	T8 造成土	土師	焼塩壺・蓋	(7.2)	1.9		ナデ	ナデ・布目 痕	にぶい橙 にぶい橙	石・長 (1)、金 ◎		

表6 石製品観察表

番号	出土場所	器種	材質	法量				備考	図版
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
273	SD104	両面印		1.4	1.5	0.56	2.92	「貫孟」「仲君」	
274	SK408	火打石	緑色チャート	2.5	1.3	0.2	0.998		6
275	T4 攪乱	火打石	緑色チャート	2.8	1.9	0.8	4.33		
276	SK403	硯		5.0	4.9	1.0	42.83		
277	SK406	硯		5.1	4.3	1.3	47.28		
278	SK603	砥石		7.5	3.3	2.7	96.58		
279	SK801	軽石		6.7	5.9	2.5	38.99		

表7 ガラス・骨製品観察表

番号	出土場所	器種	材質	法量				備考	図版
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
280	T8 造成土・攪 乱	簪	骨	4.7	0.3	0.3	0.77		
281	T8 造成土・攪 乱	簪	骨	5.5	0.4	0.3	0.86		6
282	SK402	簪	ガラス	2.2	0.6	0.6	2.63		6
283	SK411	簪	ガラス	3.5	0.5	0.4	1.86		6
284	SK801	簪	ガラス	2.5	0.7	0.6	3.71		
285	T8 造成土・攪 乱	簪	ガラス	2.2	0.5	0.3	0.67		
286	T8 造成土・攪 乱	簪	ガラス	2.8	0.5	0.3	1.15		
287	T8 造成土・攪 乱	玉	ガラス	直径 1.8	孔径 0.3		3.51		6

松山城三之丸跡 13 次調査

表 8 金属製品観察表

番号	出土場所	器種	材質	法量				備考	図版
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
288	SD101	釘	鉄	(6.9)	1.9	1.1	26.068		6
289	SK104	釘	鉄	(4.6)	1.2	0.6	4.791		
290	SK402	釘	鉄	(4.4)	(0.5)	1.0	3.374		
291	SK402	釘	鉄	(3.3)	(0.6)	0.7	1.177		
292	SK402	釘	鉄	(3.1)	0.5	0.8	1.115		
293	SK402	釘	鉄	(2.2)	0.5	0.3	0.676		
294	SK407	釘	鉄	9.8	1.4	1.0	47.768		
295	SK411	釘	鉄	(3.0)	0.9	(0.5)	1.474		6
296	SK417	釘	鉄	(3.6)	0.6	(0.3)	1.523		6
297	T2 ベルト	釘	鉄	(8.7)	1.1	1.5	9.924		6
298	SK603	釘	鉄	(3.6)	(0.5)	0.5	2.087		
299	SK801	釘	鉄	(5.9)	1.2	0.7	5.763		6
300	SK109	皆折釘	鉄	6.5	1.6	1.1	27.224		6
301	T2 造成土	釘	鉄	(9.9)	0.6	0.8	30.463		6
302	T2 造成土	かぎ金具	鉄	(7.1)	2.3	0.7	24.740		6
303	T3 造成土	錠?	鉄	(2.9)	1.9	0.9	6.344		6
304	SD101	肘坪?	鉄	8.5	2.0	1.7	66.626		
305	SK415	肘坪	鉄	(4.5)	0.9	0.7	2.514		6
306	SK609	肘坪	鉄	(3.7)	1.1	0.8	3.126		
307	SK801	肘坪	鉄	(3.6)	1.1	0.9	5.255		
308	SK801	弾	鉄	(径) 1.2			5.639		6
309	SK104	煙管	銅	(6.2)	1.2		10.498		
310	SK413	煙管	銅	6.0	0.9		5.662		
311	SK413	煙管	銅	7.3	1.0		5.328		6
312	T1 造成土	煙管	銅	7.3	1.0	0.1	7.727		
313	T4 攪乱 1	煙管	銅	4.4	1.3	1.4	8.886		6
314	SK417	簞	銅	(4.4)	0.4	0.3	1.921		6
315	SK102	釘飾り	銅	1.4		0.1	0.291		
316	T4 攪乱 1	飾り金具	銅	1.6		0.6	0.861		6
317	SK402	雁首銭	銅	2.4		0.3	5.436		
318	SK413	不明	鉄	1.7	0.6	0.5	0.67		
319	SK413	釘飾り	鉄	径 2.3	1.2	0.1	2.689		
320	SK410	不明	鉄	1.8	1.6	0.4	10.930		6

出土遺物観察表

表9 軒丸瓦 観察表

番号	出土場所	法量				主文様	珠文数	珠文径 (cm)	色調	焼成	キラ粉	備考	図版
		瓦当径	文様区径	周縁幅	瓦当厚								
321	SD102	(15.0)	(10.0)	2.5	1.7	左卷三巴	(28)	0.5	淡乳褐灰・灰	良			
323	SD105	(15.2)	(11.2)	(2.3)		左卷三巴	(24)	0.5	灰白	良			
324	SD106	(14.4)	(9.8)	2.3	1.6	左卷三巴	-	0.8	灰白	良			
327	SK104	14.4	10.4	2.0	1.5	左卷三巴	(24)	0.5	灰	良	○		
328	SK104	(13.6)	(10.2)	1.7	1.7	右卷三巴	(14)	0.8	暗灰	良好			
329	SK104	(14.6)	(11.0)	(1.8)	2.4	左卷三巴	20	0.9	灰	良			
335	SK103	(14.0)	(10.0)	(2.0)	2.0	左卷三巴	(12)	1.0	暗灰	良好			
338	SK402	15.2	10.2	2.0	1.4	左卷三巴	24	0.6	灰白	良好			
339	SK402	(15.2)	(12.0)	(1.6)	2.0	左卷三巴	(15)	1.0	灰白	良好			
340	SK402	(16.0)	(9.0)	3.5	-	左卷三巴	(24)	0.5	暗灰	良好			
341	SK402	-	-	1.5	-	-	-	1.1	灰	良			
354	SK407	(15.2)	(11.0)	2.1	-	左卷三巴	(16)	1.0	灰	良好			
355	SK407	(14.6)	(10.0)	2.3	1.5	左卷三巴	(24)	0.5	灰	良			
359	SK409	(14.5)	(10.0)	2.2	-	左卷三巴	(20)	0.7	暗灰	良	○		
360	SK409	(14.2)	(10.4)	1.9	1.7	右卷三巴	(18)	0.7	暗灰	良好	○		
365	SK410	(15.0)	(10.0)	(2.0)	1.5	左卷三巴	-	0.5	灰	良好			
374	SK417	(15.0)	(11.0)	(2.0)	1.3	左卷三巴	(16)	1.0	灰白	良好			
379	SK201	(15.0)	(10.6)	(2.2)	(1.5)	左卷三巴	(19)	0.6	暗灰	良好			
380	SK204	(14.4)	(10.4)	(2.0)	1.6	左卷三巴	(22)	0.8	黒灰	良好			
381	SK204	(14.4)	(10.2)	1.9	1.8	左卷三巴	(15)	1.0	暗灰	良好			
382	SD301	(14.6)	(10.6)	2.0	-	左卷三巴	(24)	0.5	淡灰	良好			
384	SE602	(14.0)	(10.8)	(1.6)	1.7	左卷三巴	(27)	0.7	暗灰	良			
390	SK608	(14.0)	(10.8)	(1.6)	1.7	左卷三巴	(14)	1.0	灰	良好			
391	SD801	-	-	1.8	1.4	左卷三巴	-	0.9	灰	良	○		
392	SK801	(15.0)	(10.6)	(2.2)	1.7	左卷三巴	(24)	0.5	暗灰	良			
393	SK801	-	-	2.0	-	左卷三巴	-	0.6	灰白	良			

表10 軒平瓦・その他

(1)

番号	出土場所	法量						色調	焼成	キラ粉	文様	備考	図版
		瓦当幅	瓦当高	文様区幅	文様区高	周縁幅	瓦当厚						
322	SD102	-	(3.6)	-	(2.4)	3.8	1.8	灰白	良				
325	SP102	-	(3.0)	-	(2.1)	-	1.4	淡灰	良				

松山城三之丸跡 13 次調査

軒平瓦・その他

(2)

番号	出土場所	法量						色調	焼成	キラ粉	文様	備考	図版
		瓦当幅	瓦当高	文様区幅	文様区高	周縁幅	瓦当厚						
326	SP106	-	(4.0)	-	(24)	5.2	2.0	灰白	良好				
330	SK104	22.4	4.1	13.7	2.4	5.0	1.6	暗灰	良好	○?			
331	SK104	(22.0)	3.8	(12.5)	1.4	4.5	2.8	灰白	良好				
332	SK104	-	4.1	-	1.6	-	1.2	灰白	良好				
333	SK104	-	(3.6)	-	(2.1)	3.5	1.6	灰	良			板塀	
334	SK104	-	3.8	-	2.7	4.4	1.4	灰白・褐灰	良	○?		板塀	
336	SE401	-	(3.9)	-	(1.9)	-	1.6	淡灰	良				
337	SK401	-	(4.0)	-	(1.8)	-	1.3	黒灰	良				
342	SK402	-	(4.2)	-	(1.8)	-	1.8	灰黄	良				
343	SK402	-	(4.3)	-	(2.4)	-	1.5	灰白	良好		宝珠		
344	SK402	(20.4)	(3.8)	(13.8)	(2.3)	3.7	1.6	暗灰	良好	○			
345	SK402	(21.2)	3.9	(15.4)	(1.9)	4.2	1.8	灰黄褐	良好				
346	SK402	-	(3.9)	-	(1.9)	5.3	1.3	灰白	良好		面取り		
347	SK402	22.0	[4.0]	14.3	[1.9]	5.5	1.9	灰白	良好				
348	SK402	-	(4.8)	-	(2.8)	4.7	1.4	乳灰白	良好			鎌軒瓦	
349	SK402	-	(5.0)	-	(3.5)	3.4	1.2	黒灰	良好				
350	SK402	(23.2)	4.2	(16.8)	2.6	3.3	1.4	灰・灰白	良好			板塀	
351	SK402	-	3.8	-	2.4	3.6	1.3	灰白	良好			板塀	
352	SK402	(24.6)	4.0	(16.2)	2.5	4.1	1.2	灰白	良好			板塀	
353	SK406	-	(5.0)	-	(3.2)	4.8	1.7	灰	良好				
356	SK407	-	(3.5)	-	(1.8)	3.5	1.9	暗灰	良好				
357	SK407	-	(4.1)	-	(1.6)	4.5	1.6	灰白	良好				
358	SK408	-	3.8	-	2.7	4.3	1.5	暗灰	良好			板塀	
361	SK409	-	[4.0]	-	[2.5]	4.3	(1.9)	暗灰	良好			板塀	
362	SK409	-	-	-	(2.1)	4.9	1.6	灰	良好				
363	SK409	21.4	3.8	13.3	2.7	4.5	1.4	灰	良好			板塀	
366	SK410	-	(4.0)	-	(2.0)	-	1.6	黒	良好				
367	SK410	-	(5.0)	-	(2.9)	-	1.6	暗灰	良好			鎌軒瓦	
368	SK410	-	3.6	-	2.4	3.5	1.5	暗灰	良好			板塀	
369	SK410	-	3.8	-	2.6	4.4	1.3	暗灰	良好			板塀	

出土遺物観察表

軒平瓦・その他

(3)

番号	出土場所	法量						色調	焼成	キラ粉	文様	備考	図版
		瓦当幅	瓦当高	文様区幅	文様区高	周縁幅	瓦当厚						
326	SP106	-	(4.0)	-	(2.4)	5.2	2.0	灰白	良好				
330	SK104	22.4	4.1	13.7	2.4	5.0	1.6	暗灰	良好	○?			
331	SK104	(22.0)	3.8	(12.5)	1.4	4.5	2.8	灰白	良好				
332	SK104	-	4.1	-	1.6	-	1.2	灰白	良好				
333	SK104	-	(3.6)	-	(2.1)	3.5	1.6	灰	良			板塀	
334	SK104	-	3.8	-	2.7	4.4	1.4	灰白・褐灰	良	○?		板塀	
336	SE401	-	(3.9)	-	(1.9)	-	1.6	淡灰	良				
337	SK401	-	(4.0)	-	(1.8)	-	1.3	黒灰	良				
342	SK402	-	(4.2)	-	(1.8)	-	1.8	灰黄	良				
343	SK402	-	(4.3)	-	(2.4)	-	1.5	灰白	良好		宝珠		
344	SK402	(20.4)	(3.8)	(13.8)	(2.3)	3.7	1.6	暗灰	良好	○			
345	SK402	(21.2)	3.9	(15.4)	(1.9)	4.2	1.8	灰黄褐	良好				
346	SK402	-	(3.9)	-	(1.9)	5.3	1.3	灰白	良好		面取り		
347	SK402	22.0	[4.0]	14.3	[1.9]	5.5	1.9	灰白	良好				
348	SK402	-	(4.8)	-	(2.8)	4.7	1.4	乳灰白	良好			鎌軒瓦	
349	SK402	-	(5.0)	-	(3.5)	3.4	1.2	黒灰	良好				
350	SK402	(23.2)	4.2	(16.8)	2.6	3.3	1.4	灰・灰白	良好			板塀	
351	SK402	-	3.8	-	2.4	3.6	1.3	灰白	良好			板塀	
352	SK402	(24.6)	4.0	(16.2)	2.5	4.1	1.2	灰白	良好			板塀	
353	SK406	-	(5.0)	-	(3.2)	4.8	1.7	灰	良好				
356	SK407	-	(3.5)	-	(1.8)	3.5	1.9	暗灰	良好				
357	SK407	-	(4.1)	-	(1.6)	4.5	1.6	灰白	良好				
358	SK408	-	3.8	-	2.7	4.3	1.5	暗灰	良好			板塀	
361	SK409	-	[4.0]	-	[2.5]	4.3	(1.9)	暗灰	良好			板塀	
362	SK409	-	-	-	(2.1)	4.9	1.6	灰	良好				
363	SK409	21.4	3.8	13.3	2.7	4.5	1.4	灰	良好			板塀	
366	SK410	-	(4.0)	-	(2.0)	-	1.6	黒	良好				
367	SK410	-	(5.0)	-	(2.9)	-	1.6	暗灰	良好			鎌軒瓦	
368	SK410	-	3.6	-	2.4	3.5	1.5	暗灰	良好			板塀	
369	SK410	-	3.8	-	2.6	4.4	1.3	暗灰	良好			板塀	

松山城三之丸跡 13 次調査

表 10 軒平瓦・その他

(4)

番号	出土場所	法量						色調	焼成	キラ粉	文様	備考	図版
		瓦当幅	瓦当高	文様区幅	文様区高	周縁幅	瓦当厚						
371	SK411	-	(3.2)	-	(1.6)	4.0	1.6	暗灰	良好	○		鎌軒	
372	SK413	-	3.6	-	2.1	-	1.3	灰黄	良好			板塀	
373	SK413	-	(4.7)	-	(3.0)	-	1.5	乳灰白	良好	○		鎌軒	
375	SK417	-	4.0	-	2.7	-	1.2	暗灰	良好			板塀	
376	SK417	-	(4.8)	-	(2.3)	-	1.6	灰白	良好			鎌軒	
377	SK417	-	3.6	-	1.9	-	1.0	灰白	良				
378	T4 攪乱	-	(3.7)	-	(2.3)	-	1.7	暗黒	良				
385	SE602	-	(4.6)	[8.5]	(3.0)	-	1.8	灰	良好	○		鎌軒	
386	SE602	(26.6)	(5.1)	(13.0)	(3.1)	6.5	1.8	黒灰	良	○		鎌軒	
387	SE602	[8.3]	4.8	[8.4]	2.7	-	1.5	黒灰	良	○			
388	SK602	-	(3.9)	-	(2.0)	-	1.6	乳白	良好				
389	SK606	(23.0)	(4.0)	(11.8)	(1.7)	6.0	1.8	淡灰	良好				
394	SK801	-	(5.0)	-	(3.5)	-	1.5	暗灰	良			鎌軒	
395	SK801	[9.9]	3.6	[5.1]	2.4	4.9	1.9	灰白	良好			板塀	
396	SK801	-	(4.2)	-	(2.6)	-	1.6	灰	良	○			
397	SK801	-	3.6	-	2.3	3.9	1.7	淡灰	良好			板塀	
399	SK802	-	3.7	-	2.9	4.5	(1.3)	暗灰	良			板塀	

表 11 鬼瓦・不明観察表

番号	出土場所	法量						色調	キラ粉	文様	備考	図版
364	SK109										鯪瓦	6
370	SK410										不明	
383	T3 造成土										鬼瓦	6
398	SK801										鬼瓦	6

第4章 松山城三之丸跡 15次調査

第1節 調査の経過及び方法

1 調査の経過

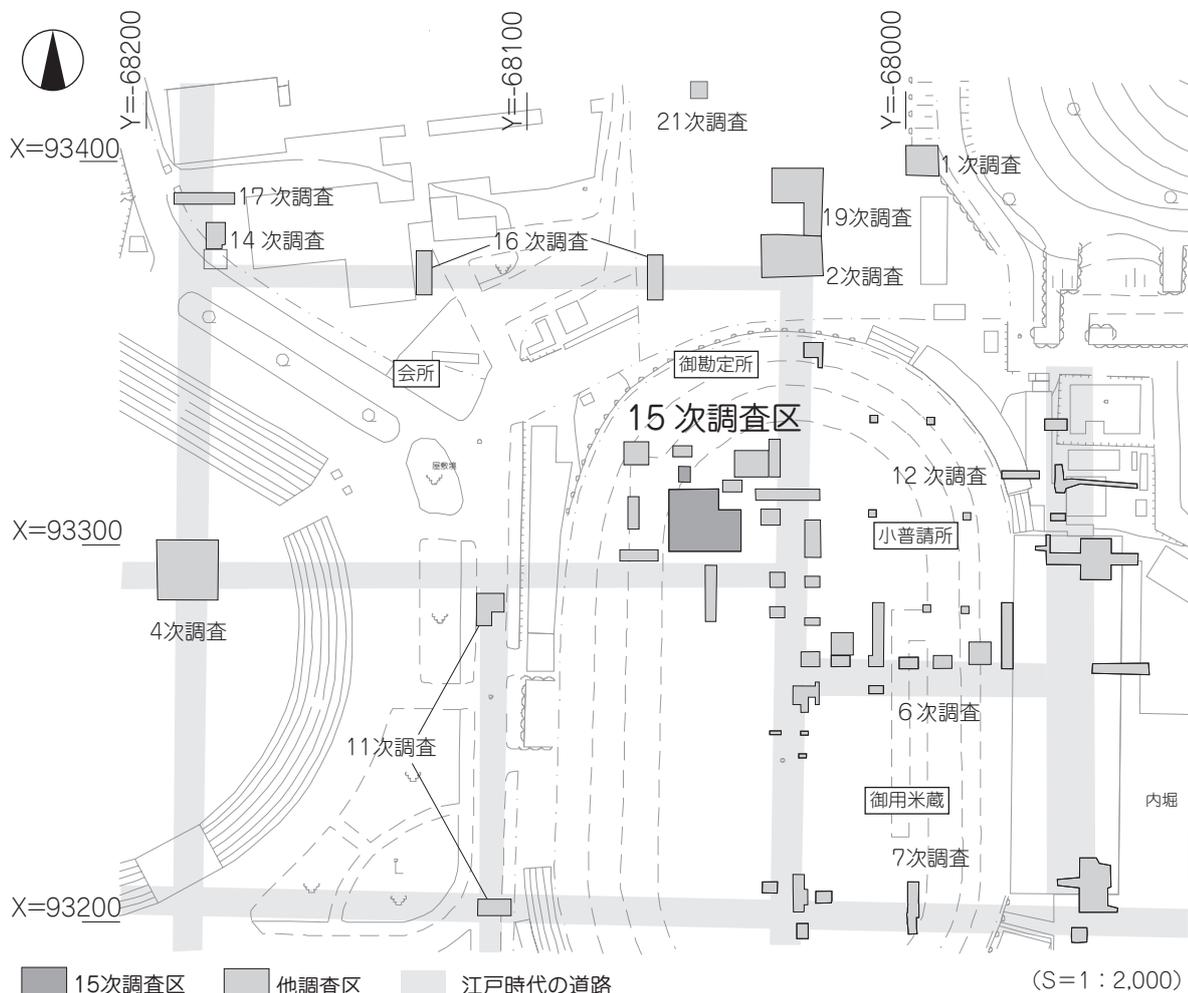
調査期間は、平成22年9月1日（水）から平成23年3月28日（月）までの間である。

9月1日にプレハブを設置し、機材を搬入する。道具置場（テント）を設営し、同2日に調査区周辺の草刈りを行う。同3日調査区（トレンチ1）の設定を行う。同6日、トレンチ1の掘削を始める。第1遺構面である整地層（黄色粘質土）を検出する。10月23日、高所作業車によりトレンチ1遺構検出写真を撮影。同26日、遺構の掘り下げを始める（トレンチ1）。同27日、トレンチ1の測量図作成とトレンチ2の掘削を始める。11月11日、トレンチ2の遺構検出写真を撮影する。同19日、トレンチ1・2間のベルトの除去を始め、同25日に両トレンチを繋ぐ。同29日、第17回松山城整備委員会において調査状況を報告、指導を受ける。12月8日、トレンチ2を西へ拡張し、同15日に終える。同24日、トレンチ2の遺構検出写真を再撮影する。12月25日から翌年（平成22年）1月5日まで現場作業を中止する。平成22年1月11日、トレンチ2の測量図作成を始める。同20日、広島大学三浦正幸教授による調査指導を受ける。同21日、トレンチ3の掘削を始める。2月1日、トレンチ3の遺構検出写真を撮影する。トレンチ3を西へ拡張し、同3日に終了。同9日、業者による調査地全体の写真測量を行う。同18日、トレンチ3の測量図作成を始める。3月4日、トレンチ3の調査終了写真を撮影し、高所作業車により調査地全体写真を撮影する。同5日、現地説明会を開催する。同18日、高所作業車によりトレンチ2及び3の調査終了写真を撮影する。同22日、トレンチ1及び2の埋め戻しを始め、同25日に終了。同28日、トレンチ3を埋め戻した後、調査地全体の整地を行い。調査を終了する。

2 調査の方法

調査の目的は、可能な限り遺構を破損せずに同地にあった待屋敷の構造や建物配置を確認するものである。したがって調査の方法は、まず、13次調査で得られた成果により屋敷地の中核と予想される場所にトレンチを設定し、必要に応じて順次拡張または新規設定するものである。結果、3つのトレンチを設定することとなった。掘削時、表土は重機（バックホウ）で除去し、遺物包含層または遺構面（整地層含む）が検出された場合は、人力掘削に切り替えて遺構を精査した。遺構埋土の掘り下げについては、柱穴などの小さな遺構は基本的に半裁に留めたが、大きな石など含有物により底面が確認できない場合は、掘削範囲を広げた。廃棄土坑など大きめの遺構は、土層観察用のベルトを残して掘削した。写真撮影は、主に35mmのリバーサルフィルムとモノクロフィルムで撮影し、補助としてデジタルカメラを用いた。また、各トレンチの終了写真や調査地全体写真については、中判カメラを使用し、6×7のリバーサルフィルムとモノクロフィルムで撮影した。測量は、近隣の日本測地系の二級及び三級基準点を用い、トータルステーションでトレンチ内及び周辺に測量点を設置し、これ

を基に図面を作成した。また、別に松山市が整備のための正確な座標値を得るための写真測量を業務委託により実施した。遺物については、近代の物であっても陶磁器は可能な限り取得し、瓦はたとえ江戸時代の物であっても平瓦や丸瓦などは全体量が膨大なため、特徴的なものを除いて取得しなかった。



第 69 図 調査区位置図

1. 層位 (第 70・71)

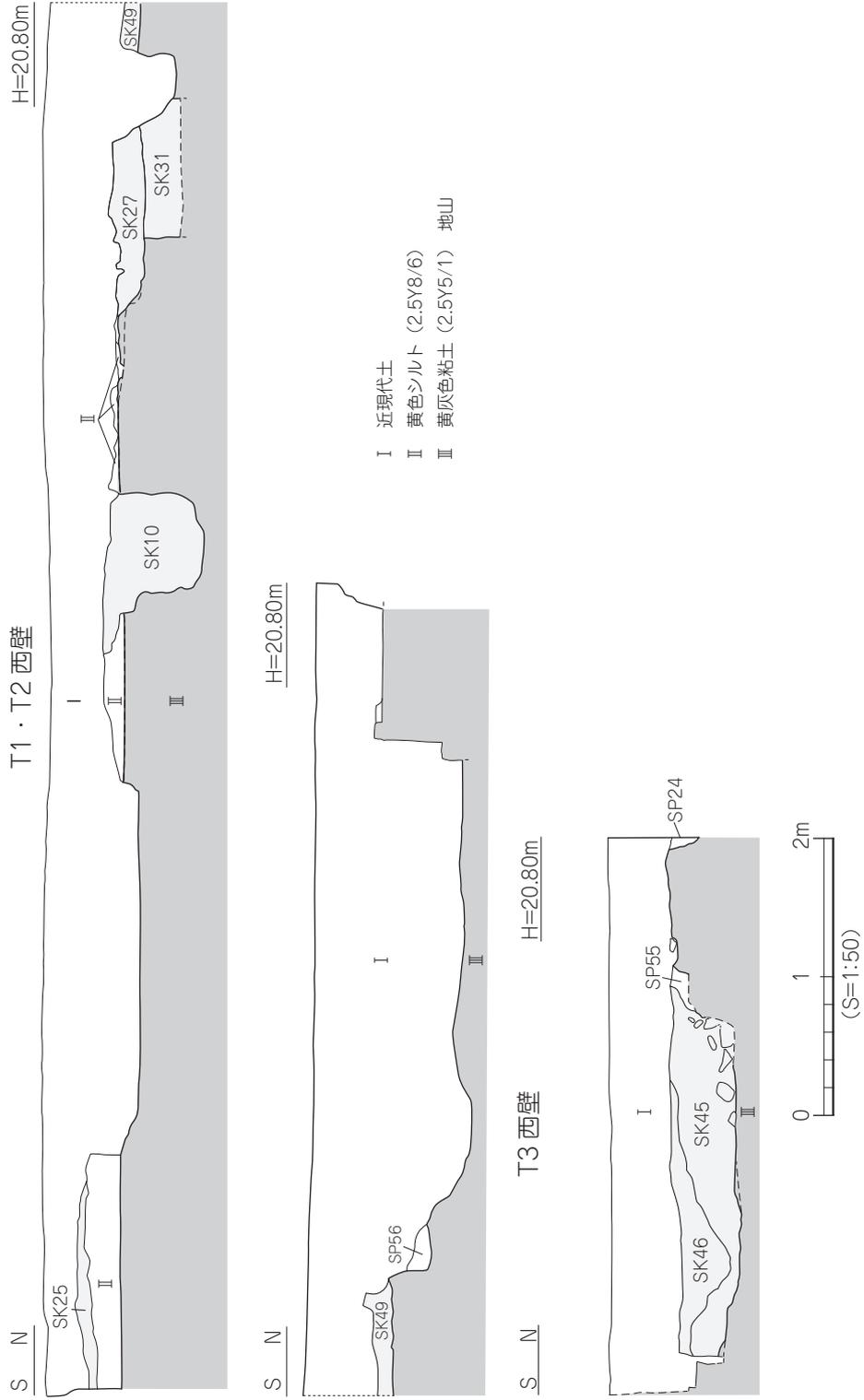
13 次調査と同じく、調査前は雑草の繁茂した状態であったため、草刈りを行った。元陸上競技場兼競輪場のうち陸上競技場部分であったため、地形はやや南東に傾斜しているものの標高 20.6 ～ 20.7m とほぼ平坦である。基本層位は、以下のとおり概ね 3 層に分別される。

第 I 層：造成土。近代以降の遺物を含む。厚さ 30 ～ 60cm。

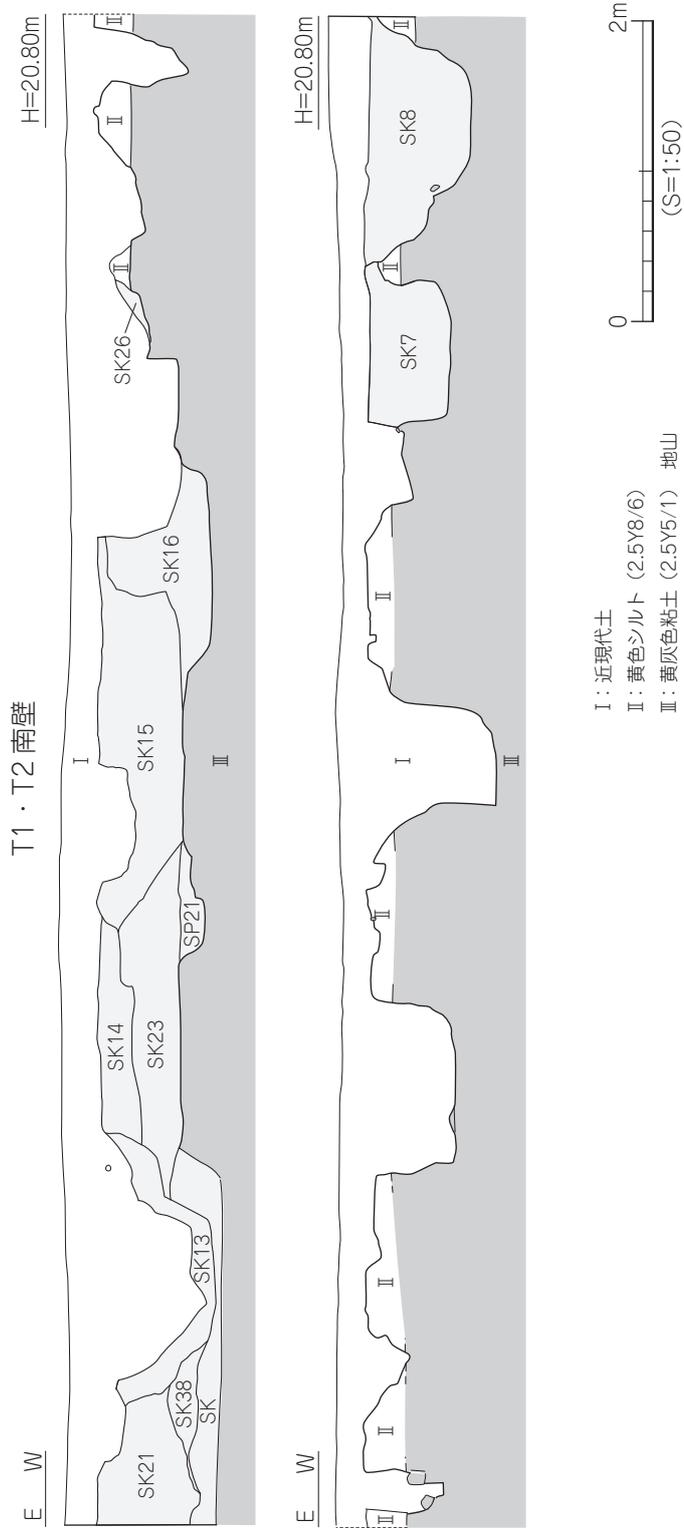
第 II 層：黄色・褐色ブロックを多く含む灰色土。ブロックの含有量によって黄色を呈することもある。シルト質。江戸時代の整地層。炭化物及び僅かに江戸時代前期の遺物を含む。厚さ 3 ～ 24cm。13 次調査の III 層にあたる。

第 III 層：黄灰色土。粘質土。鉄分を多く含む。上部は粘性が強いが、下部は漸移的に砂質となる。厚さ 66cm 以上を測る。13 次調査の IV 層にあたる。

遺構は、主に第 II 層の上面と第 III 層の上面で検出したが、土層観察によると、第 II 層で検出した遺



第70図 調査区西壁土層図



第 71 図 調査区南壁土層図

構の中にはやや上層から掘り込まれているものもあり、結果的に検出時に誤って遺構の上層部を掘削してしまったものもある。

2. 遺構と遺物

1) 礎石建物

トレンチ 2 の中心部、第Ⅲ層上面で検出した建物跡である。礎石 10 基、礎石抜き跡 3 基を検出した。北東部は大きく攪乱を受けており、痕跡すらない。礎石の芯間は、基本的に約 2m (≒ 1 間) で、南面は約 1m (≒ 半間) である。なお、礎石 1 と 3 の間は 1 間半で、その中間に礎石 2 があるが、攪乱により元の位置を留めていない可能性がある。礎石の標高は 20.2m 前後で安定している。礎石は扁平で、径 30cm 前後高さ 8 ～ 16cm を測る。礎石抜き跡は径 30 ～ 50cm、深さ 21cm を測る。埋土は単層である。礎石の範囲及から、建物は南北約 5m 以上、東西約 7m 以上となる。遺物は出土していない。所属時期は、整地層との重複関係及び出土物から 17 世紀前半と考える。

2) 溝

SD1

トレンチ 1 (Ⅲ区～Ⅳ区) の北部、第Ⅲ層上面で検出し片側石組溝である。東西両端が攪乱を受けているが、検出長 7.82m、幅 0.32 ～ 0.42cm、深さ 6cm を測る。石組みは 1 段で、上面は揃っていない。埋土は 3 層である。元は SD3 と連結していた推測される。遺物は陶磁器が出土した。所属時期は、出土物から 17 世紀前半と考える。

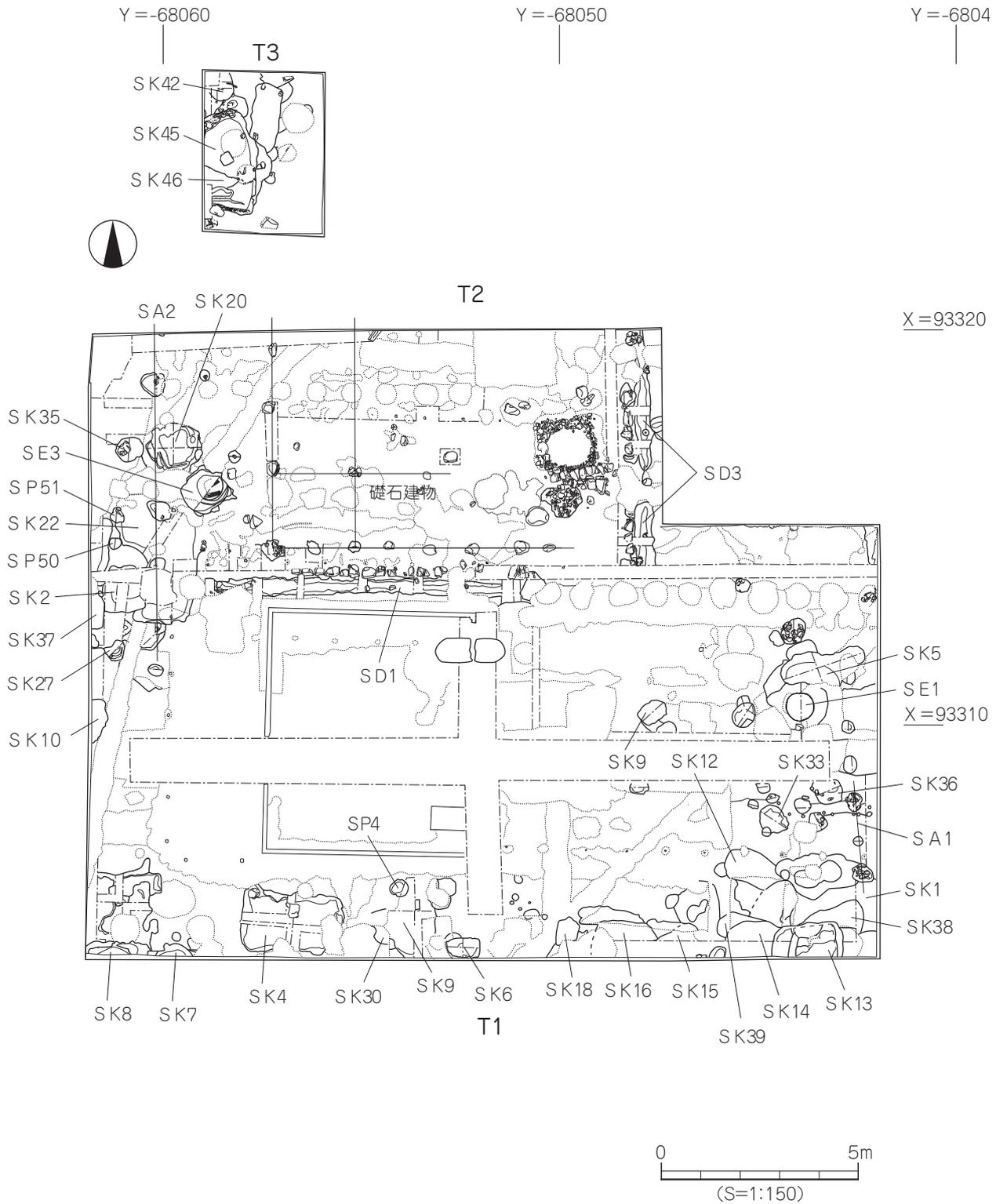
SD3

トレンチ 2 の東部、第Ⅲ層上面で検出した片側石組溝である。部分的に攪乱を受けてはいるが、検出長 6.04m、幅 0.31 ～ 0.52cm、深さ 12cm を測る。石組みは 1 段で、上面は揃っていない。埋土は 2 層である。遺物は陶磁器が出土した。SD1 と構造が同様であること、軸線が直交することから、連続する遺構であると推測される。所属時期は、出土物から 17 世紀前半と考える。

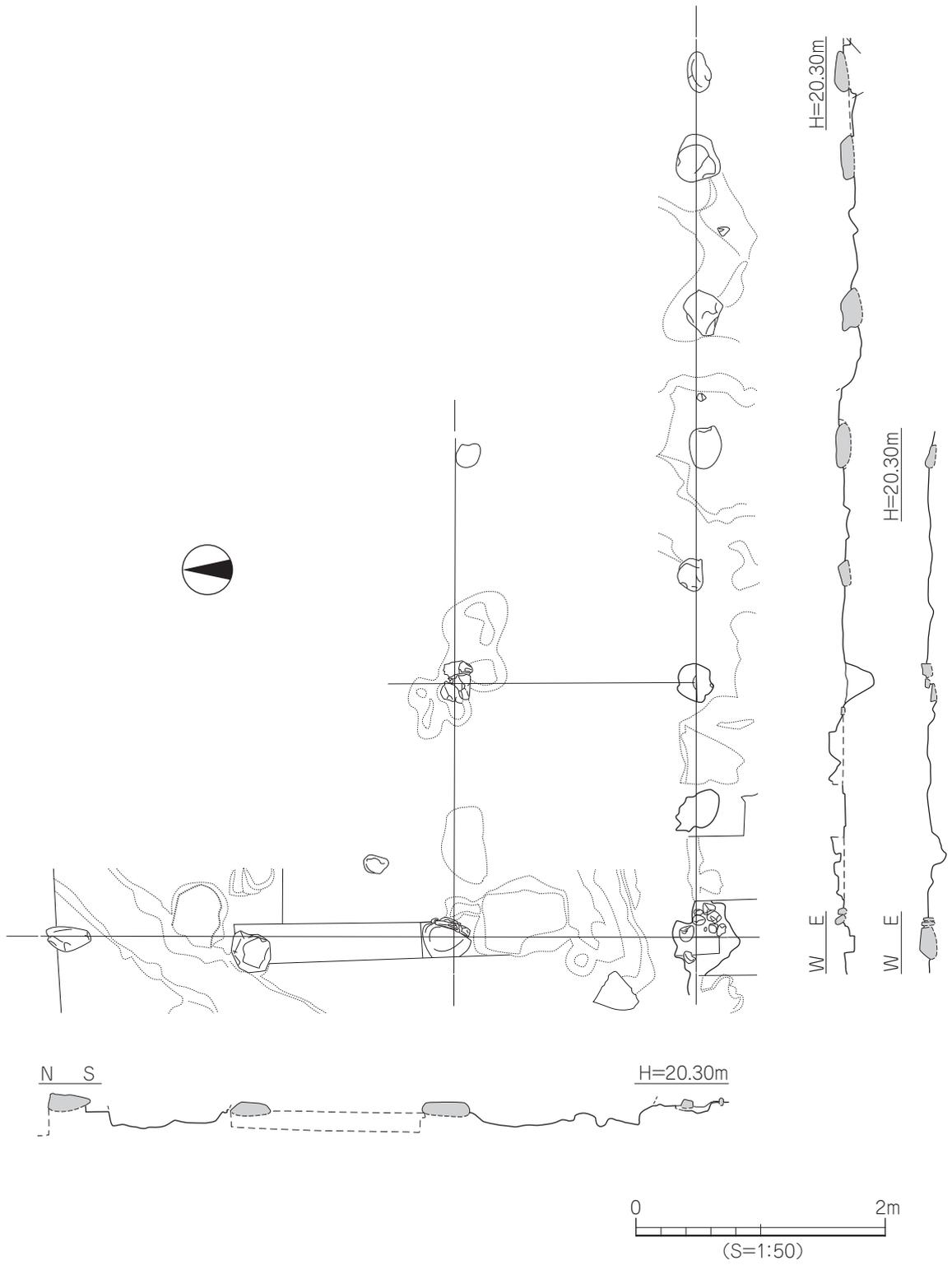
3) 柱列

SA1 (SP36 - SP13 - SP5)

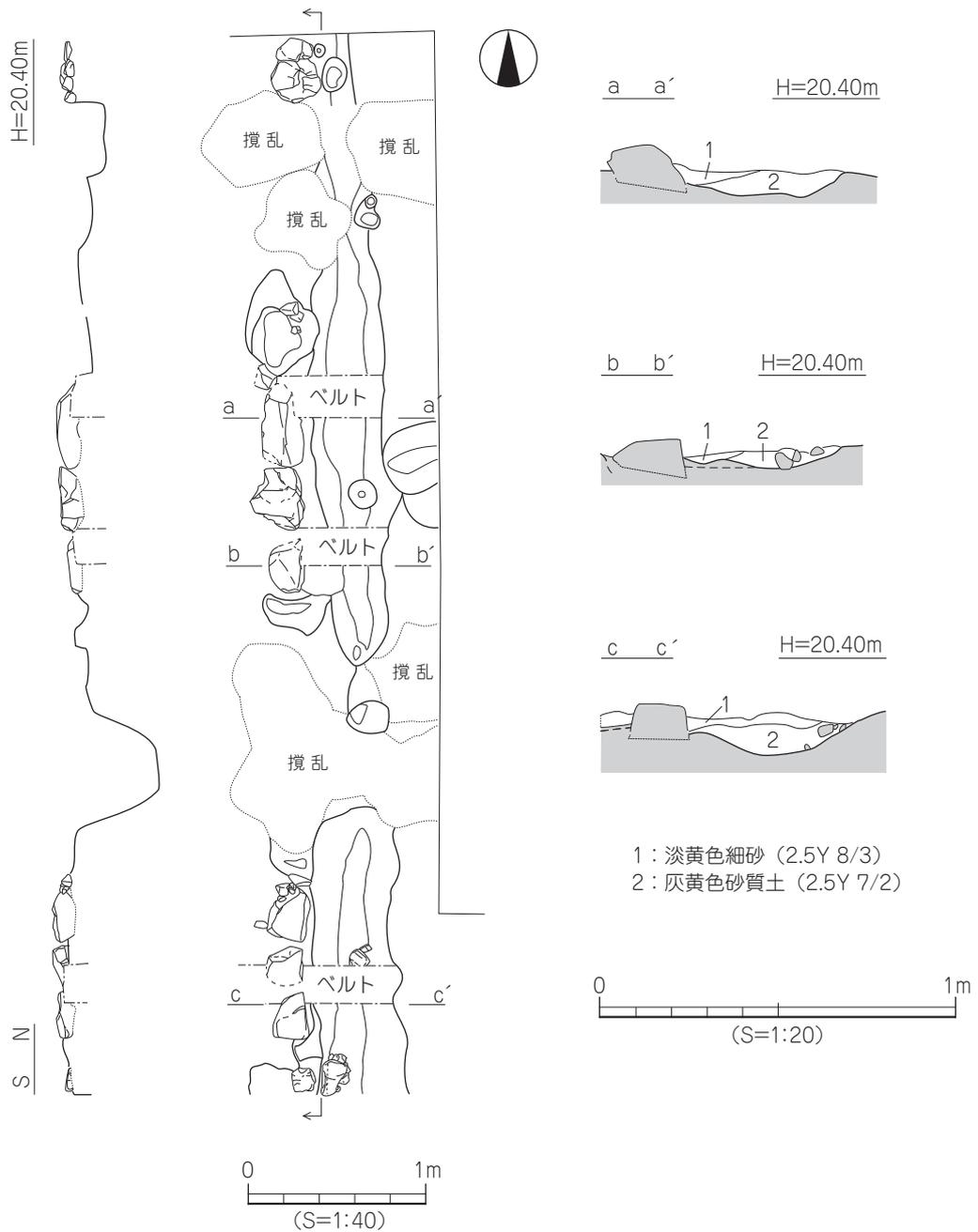
トレンチ 1 (Ⅱ区) の東部、第Ⅲ層上面で検出した、芯間約 2.4m で並ぶ柱列である。やや軸線が西へ傾く。径 32 ～ 47cm、深さ 20 ～ 24cm を測る。埋土は単層である。遺物は、SP36 から土器 (124) が出土した。SP13、SP5 からも遺物が出土しているが小片である。所属時期は、整地層との関係及び出土物から 17 世紀後半以降と考える。



第 72 図 T1・2 遺構配置図



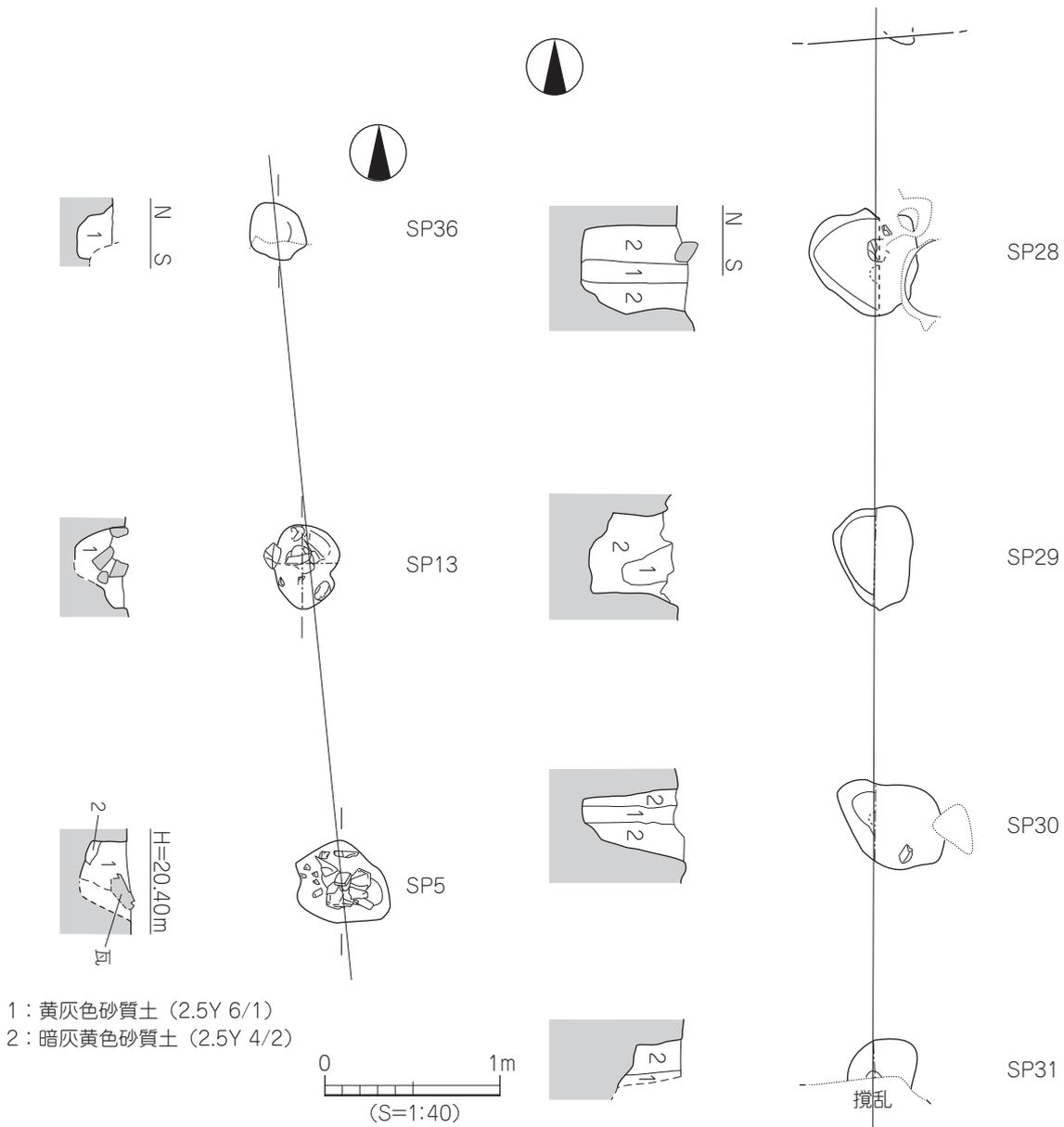
第 73 図 礎石建物測量図



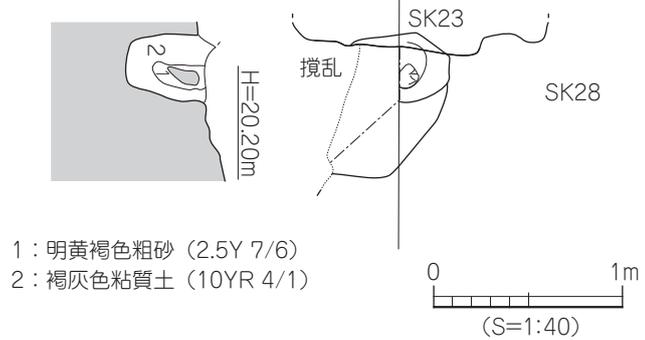
第 75 図 SD 3 測量図

SA2 (SP28 - SP29 - SP30 - SP31 - SK28)

トレンチ 1 (Ⅲ区) 及びトレンチ 2 の西部、第三層上面で検出した、芯間約 1.5 ~ 1.6m で並ぶ柱列である。径 36 ~ 52cm、深さ 47 ~ 60cm を測る。埋土は 2 層で、柱痕をもつ。遺物は、SP28 から土器類 (125) 及びが出土した。所属時期は、出土物から 17 世紀後半以降と考える。



第 76 図 SA 1 測量図



第 77 図 SA2 測量図

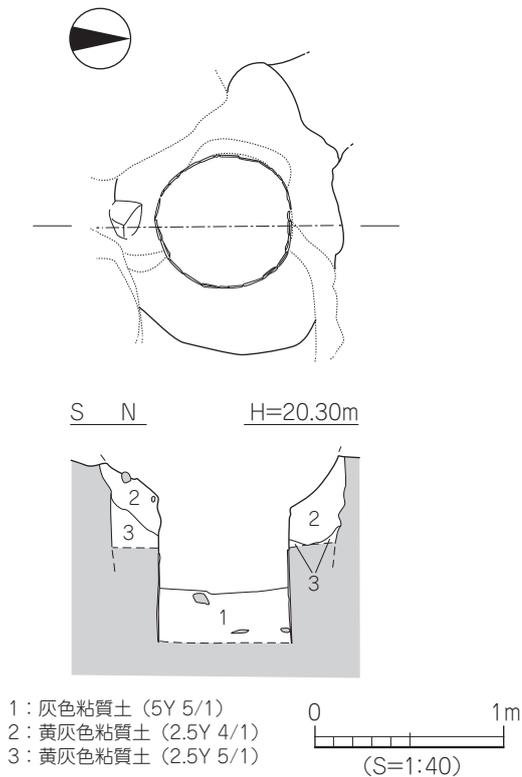
4) 井戸

SE1

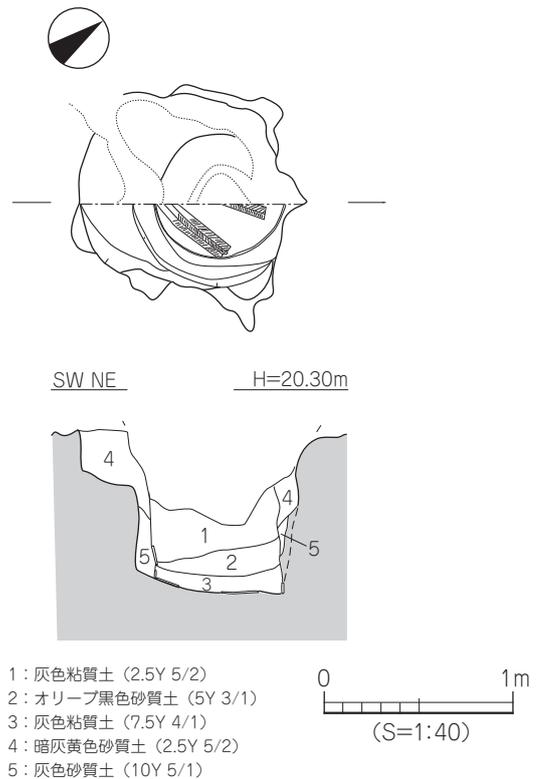
トレンチ1(1区)の東部、第Ⅲ層上面で検出した井戸である。SK5を切る。上部は攪乱を受け、井戸枠内にも攪乱土が覆土していた。掘方の上段の平面形は円形で、井戸枠も円形で桶である。掘り下げ時に桶の縦板が外れそうになったため、遺構保護の観点から掘り下げを中止した。掘方径1.29m、井戸枠径0.69mを測り、深さは1.25m以上である。確認した埋土は、掘方3層及び井戸枠内1層である。遺物は、陶磁器及び瓦(193)が出土した。

SE3

トレンチ2の東部、第Ⅲ層上面で検出した井戸である。攪乱を受けているが、掘方の上段の平面形は楕円形で、下段は円形、井戸枠は円形で曲物である。底板も確認した。検出長軸1.20m、短軸1.05m、深さ86cmを測る。埋土は、掘方2層、井戸枠内3層である。遺物は、陶磁器(1, 2)及び漆器碗品(図版10)が出土した。所属時期は、出土物から17世紀前半と考える。



第78図 SE1測量図

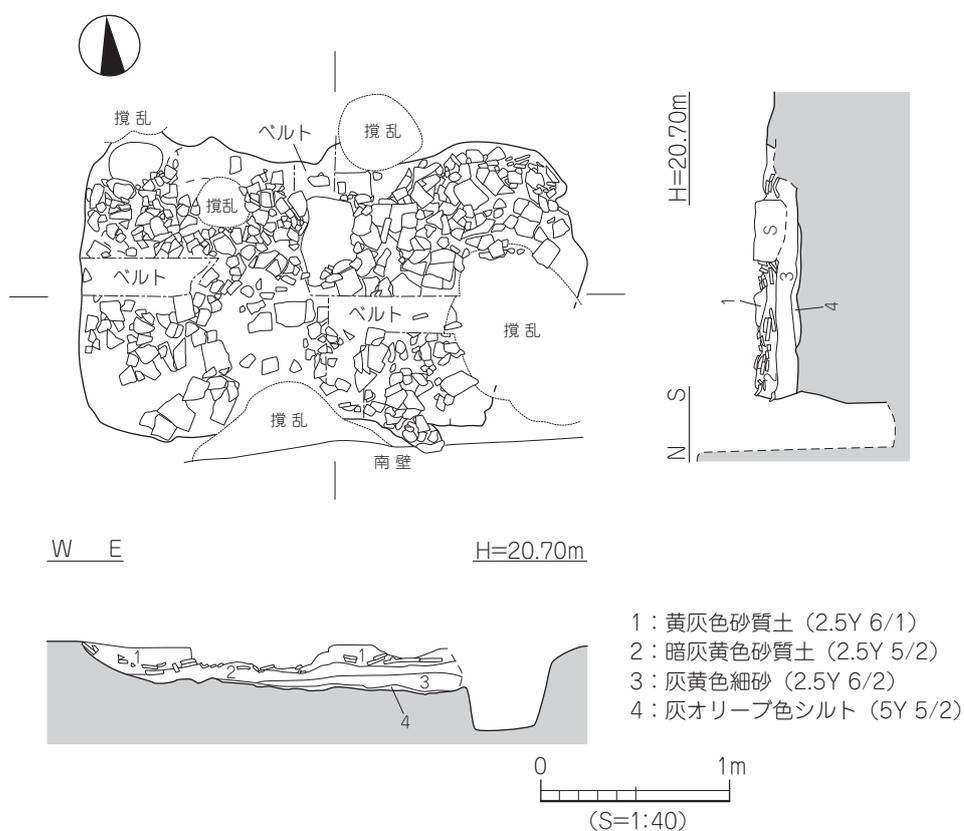


第79図 SE3測量図

5) 瓦積土坑

SK4

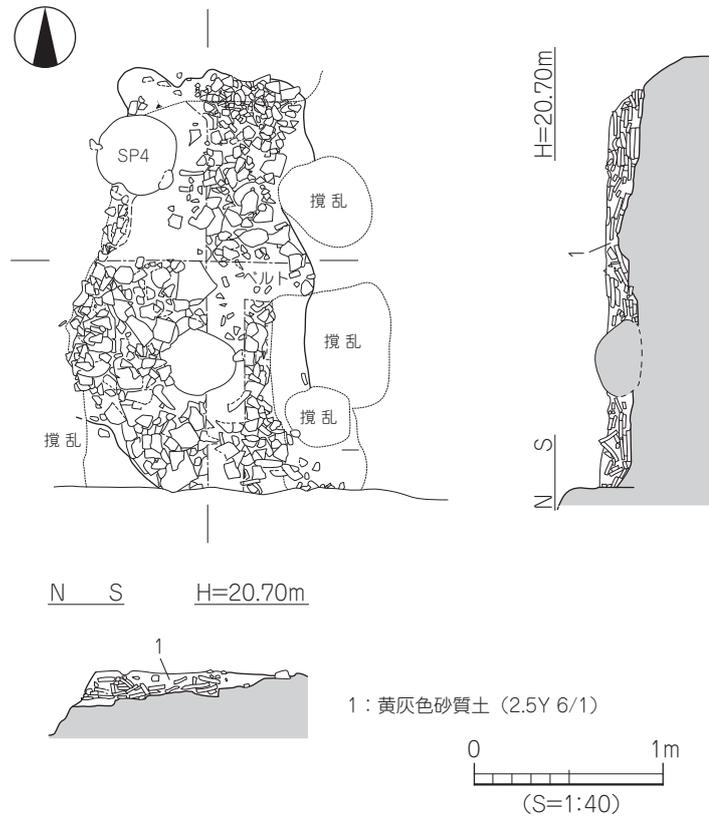
トレンチ 1 (IV区) の南部、第Ⅱ層上面で検出した、瓦が平積で充填された土坑である。ほぼ東西に長軸をとる。部分的に攪乱を受けているが、平面形は隅丸長方形である。長軸 2.55m、短軸 1.73m、深さ 26cm を測る。埋土は 4 層で、下層 (第 3 層) には、細砂が 10cm 程度敷かれている。中心からやや北に約 30cm 四方の平坦な石が上に面を向けて埋設されている。遺物は、陶磁器 (3)、金属製品 (172 ~ 175、187、188) 及び瓦 (194) が出土した。所属時期は、出土物から 17 世紀後半以降と考える。



第 80 図 SK 4 測量図

SK9

SK4 の東隣で検出した同様の土坑である。ほぼ南北に長軸をとる。西半部が大きく攪乱を受けているが、平面形は楕円形と推定される。検出長軸 2.20m、短軸 1.20m、深さ 16cm を測る。埋土は 3 層で、SK4 よりも瓦の密度が高い。また、SK4 と同じく中心からやや南に径約 40cm やや平坦な石が上に面を向けて埋設されている。このように、遺構の主軸の角度や遺構の状況など SK4 と共通する部分が多い。遺物は、陶磁器 (4) 及び瓦 (195 ~ 197) が出土した。所属時期は、出土物から 17 世紀後半以降と考える。



第 81 図 SK 9 測量図

6) 廃棄土坑 (群)

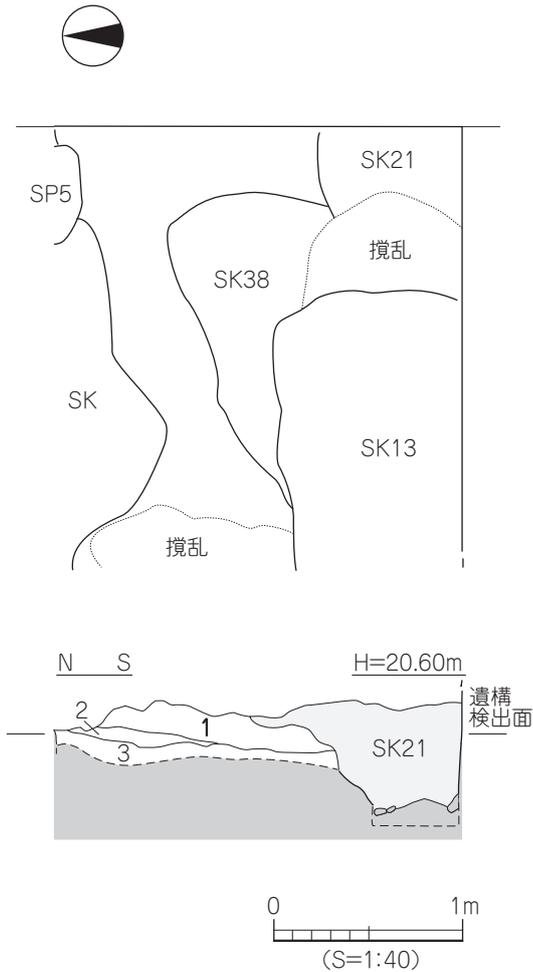
トレンチ 1 (Ⅱ区) 南部に集中する廃棄土坑 (ごみ穴) 群である。多くが、第Ⅱ層から掘り込まれた遺構である。

SK1

第Ⅱ層上面で検出した大型土坑である。SK13・38・21、SP5 に切られる。平面形は不明。検出長軸 3.18m、短軸 1.94m、検出深さ 32cm を測る。埋土は 3 層である。遺物は、陶磁器 (5～11)、土器類 (127)、金属製品 (185、186) 及び瓦 (185、186、198～201) が出土した。所属時期は、他の遺構との重複関係及び出土物から 19 世紀前半と考える。

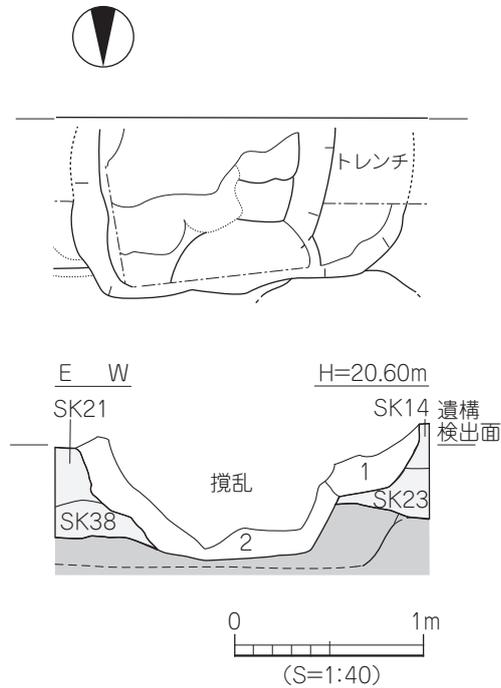
SK13

第Ⅱ層上面で検出した土坑である。SK15・23 を切る。攪乱を受けているが、平面形は隅丸方形と推定される、検出長軸 1.77m、短軸 0.85m、深さ 65cm を測る。埋土は 2 層である。遺物は、陶磁器 (12～31)、土器 (130～138) 金属製品 (176～178、183) 石製品、瓦 (202～205) が出土した。所属時期は、他の遺構との重複関係及び出土物から 19 世紀中葉と考える。



- 1 : 灰色砂質土 (5Y 5/1)
- 2 : 灰色砂質土 (7.5Y 5/1)
- 3 : 灰オリーブ色砂質土 (7.5Y 5/2)

第 82 図 SK 1 測量図



- 1 : 灰オリーブ色砂質土 (5Y 5/2)
- 2 : 黒褐色砂質土 (2.5Y 3/1)

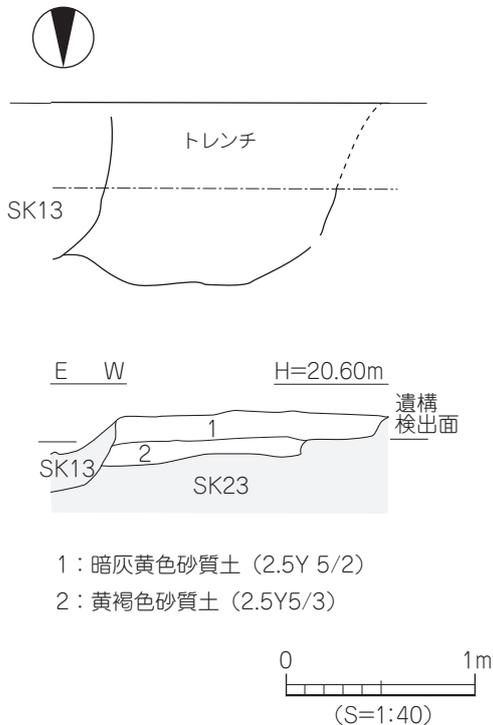
第 83 図 SK 13 測量図

SK14

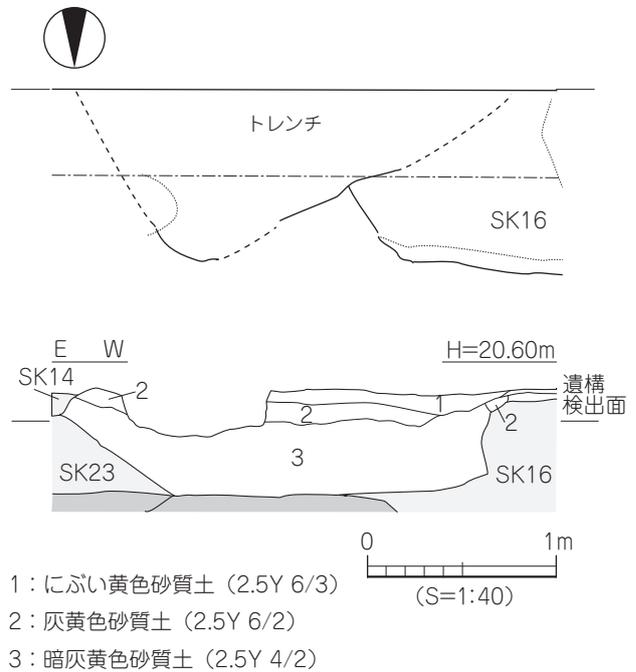
第Ⅱ層上面で検出した土坑である。SK15・23を切り、SK13に切られる。攪乱を受けているが、平面形は隅丸方形と推定される、検出長軸 1.43m、短軸 1.04m 以上、深さ 20cm を測る。埋土は 5 層である。遺物は、陶磁器 (32～42)、土器類 (139、140) 石製品、瓦 (207) が出土した。所属時期は、他の遺構との重複関係及び出土物から 19 世紀前半と考える。

SK15

第Ⅱ層上面で検出した土坑である。SK16・23を切り、SK14に切られる。平面形は隅丸方形で、検出長軸 2.00m、短軸 1.55m、深さ 56cm を測る。埋土は 3 層である。遺物は、陶磁器 (43～58)、土器類 (141～143) 及び瓦が出土した。所属時期は、他の遺構との重複関係及び出土物から 19 世紀前半と考える。



第 84 図 SK 14 測量図



第 85 図 SK 15 測量図

SK16

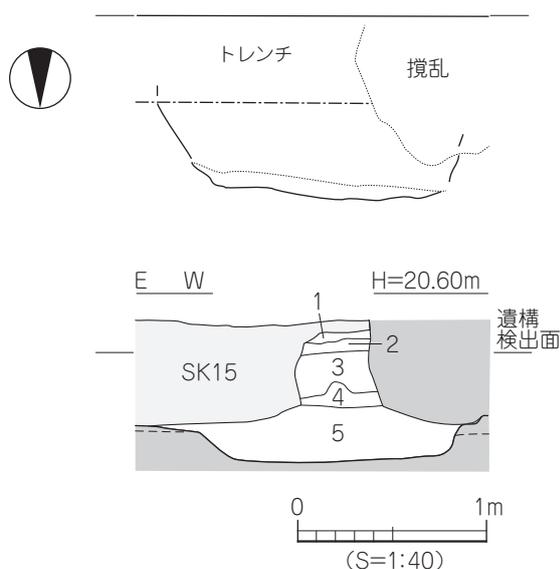
第Ⅱ層上面で検出した土坑である。SK15 に切られる。攪乱を受けているが、平面形は隅丸方形と推定される、検出長軸 1.60m、短軸 0.97m、深さ 68cm を測る。埋土は 5 層である。遺物は、陶磁器 (59 ~ 64)、土器類 (144 ~ 146) 石製品、金属製品 (179) 瓦 (179、212 ~ 214) が出土した。所属時期は、他の遺構との重複関係及び出土物から 19 世紀前半と考える。

SK21

第Ⅱ層上面で検出した土坑である。SK1・38 を切り、SK13 に切られる。平面形は円形ないし楕円形で、検出長軸 1.13m、短軸 0.94m、深さ 60cm を測る。埋土は 3 層である。遺物は、陶磁器 (65 ~ 75)、土器類 (147 ~ 151)、石製品、瓦 (215) が出土した。所属時期は、他の遺構との重複関係及び出土物から 19 世紀前半と考える。

SK23

土層のみで確認された遺構で、平面形及び規模は不明である。SP21 を切り、SK13・14・15 に切られる。



- 1: 灰黄色砂質土 (2.5Y 6/2)
- 2: にぶい黄色細砂 (2.5Y 6/3)
- 3: 暗灰黄色砂質土 (2.5Y 5/2)
- 4: 黄灰色粘質土 (2.5Y 6/1)
- 5: 黄灰色粘質土 (2.5Y 4/1)

第 86 図 SK 16 測量図



- 1: 黄褐色砂質土 (2.5Y 5/3)
- 2: 灰オリーブ色砂質土 (5Y 4/2)
- 3: 灰色砂質土 (5Y 4/1)

第 87 図 SK 21 測量図

SK38

第Ⅱ層上面で検出した土坑である。SK13・21 に切られる。平面形は楕円形で、検出長軸 1.5m 以上、短軸 1.5m 以上深さ 49cm を測る。埋土は 3 層である。遺物は陶磁器 (76～80)、土器類 (152) が出土した。所属時期は、他の遺構との重複関係及び出土物から 19 世紀中葉と考える。

7) 土坑

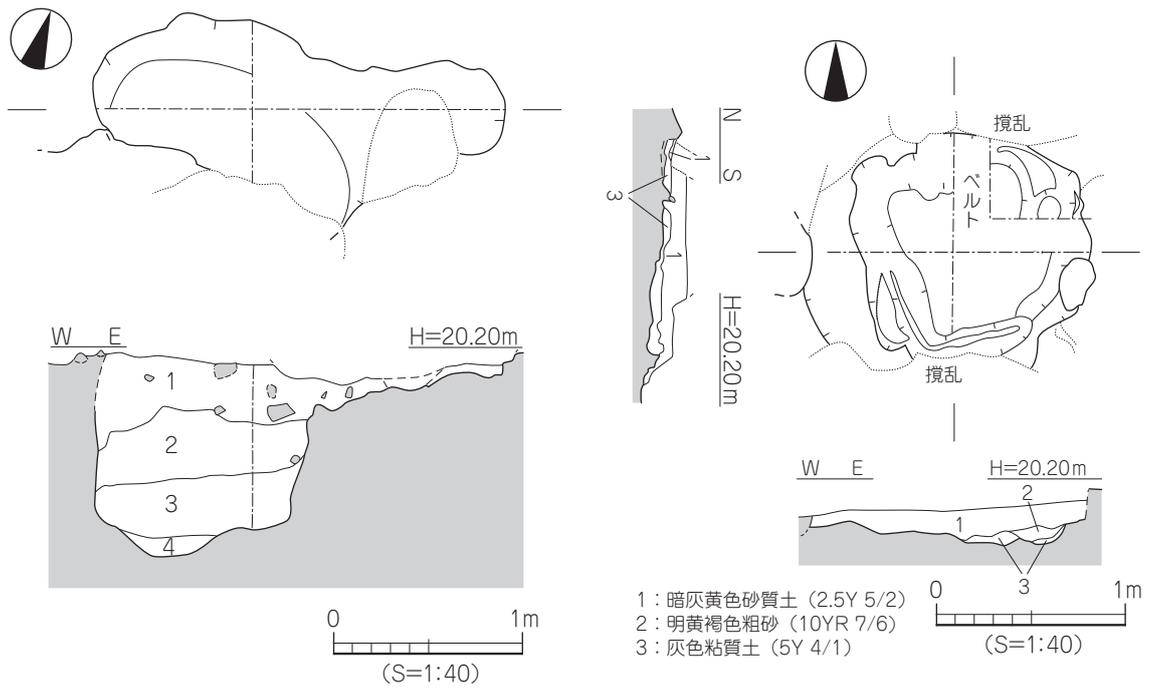
SK5

トレンチ 1 (Ⅰ区) の東部、第Ⅲ層上面で検出した土坑である。SE1 に切られる。大きく攪乱を受けており、平面形は不整形である。検出長軸 2.14m、短軸 0.84m、深さ 1.05m を測る。埋土は 4 層である。遺物は、陶磁器 (84～88)、石製品、金属製品 (180、181) 及び瓦 (220、221) が出土した。所属時期は、他の遺構との重複関係及び出土物から 19 世紀初頭と考える。

SK20

トレンチ 2 の西部、第Ⅲ層上面で検出した土坑である。SP29 を切る。平面形は不整形で、検出長軸 1.5m 以上、短軸 1.23m 以上深さ 22cm を測る。埋土は 3 層である。遺物は、陶磁器 (94、95)、土器類 (157)、石製品及び瓦が出土した。所属時期は、他の遺構との重複関係及び出土物から 18 世紀末と考える。

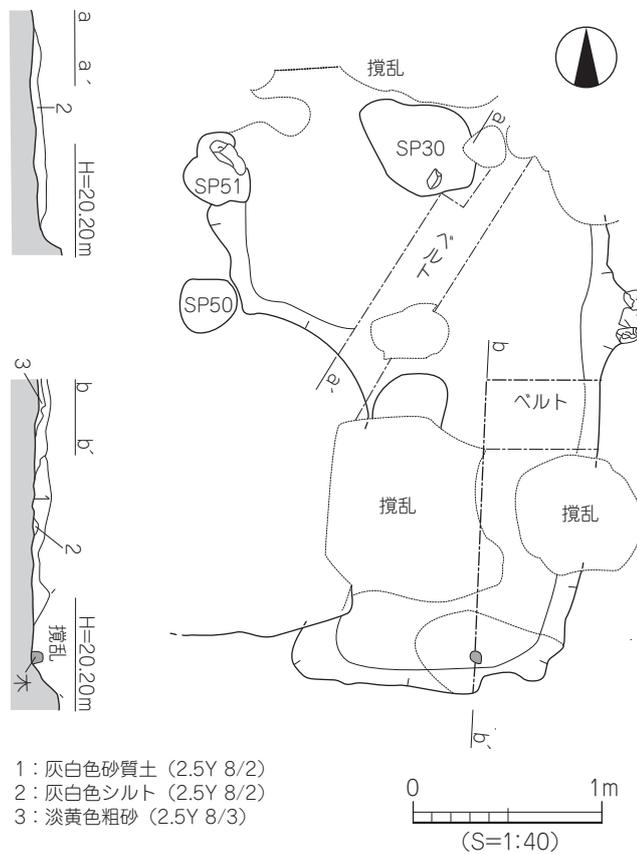
調査の成果



- 1: 暗灰色砂質土 (2.5Y 4/2)
- 2: 黄灰色砂質土 (2.5Y 4/1)
- 3: 灰色粘質土 (5Y 4/1)
- 4: オリーブ黒色粘質土 (5Y 3/1)

第 88 図 SK 5 測量図

第 89 図 SK 20 測量図



第 90 図 SK 22 測量図

SK22

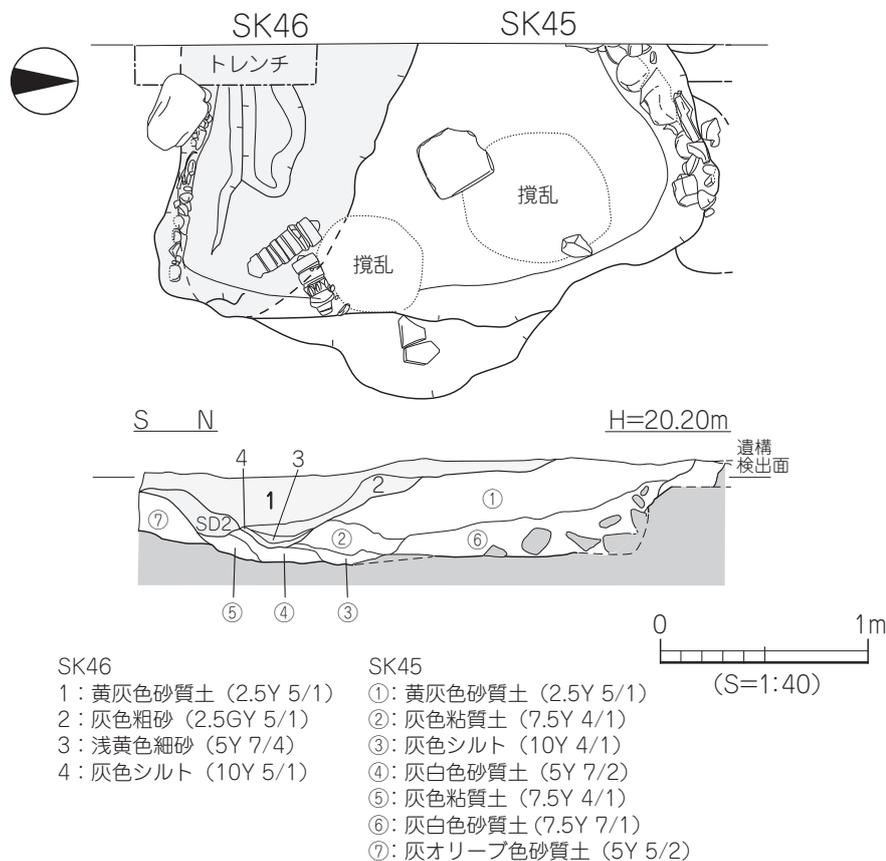
トレンチ 2 の東部、第Ⅲ層上面で検出した土坑である。SK2、SP30・51 に切られる。大きく攪乱を受けているが、平面形は L 字形と推定される。検出長 2.8m、幅 1.23m、深さ 15cm を測る。埋土は 3 層である。遺物は陶磁器 (96)、石製品が出土した。所属時期は、他の遺構との重複関係及び出土物から 17 世紀前半と考える。

SK45

トレンチ 3 の西部、第Ⅲ層上面で検出した土坑である。SK46 に切られる。平面形は不整形である。検出長軸 2.65m、検出短軸 1.72m、深さ 50cm を測る。北部壁際に乱雑ではあるが石が組まれている。南部壁際にも 10cm 前後の礫が検出されており、なかには第Ⅲ層に圧着しているものがあった。これを裏込石とすると、北部にも同じく石が組まれていた可能性がある。埋土は 8 層であるが、上下層に大別することもできることから、掘り直された可能性がある。遺物は、陶磁器 (97～99)、石製品 (163)、瓦 (222、223) が出土した。所属時期は、他の遺構との重複関係及び出土物から 19 世紀初頭と考える。

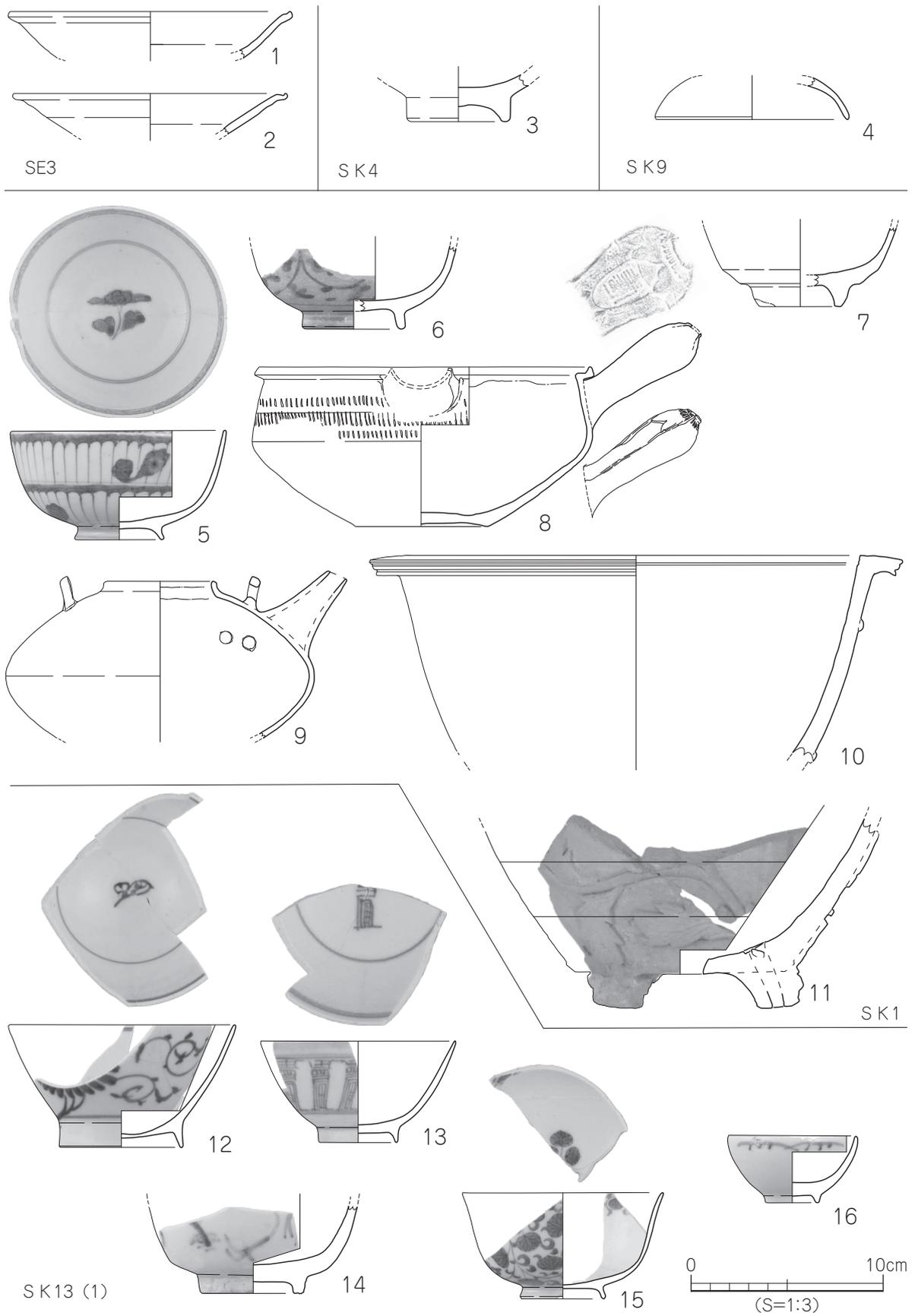
SK46

トレンチ 3 の西部、第Ⅲ層上面で検出した土坑である。SK45 を切る。東半部のみの検出であるが、平面形は楕円形と推定される。検出長軸 1.32m、検出短軸 1.09m、深さ 33cm を測る。埋土は 5 層である。遺物は、陶磁器 (100)、土器類 (160) 及び石製品 (168～170) 及びガラス (171) 瓦 (が出土した。所属時期は、他の遺構との重複関係及び出土物から 19 世紀中葉と考える。

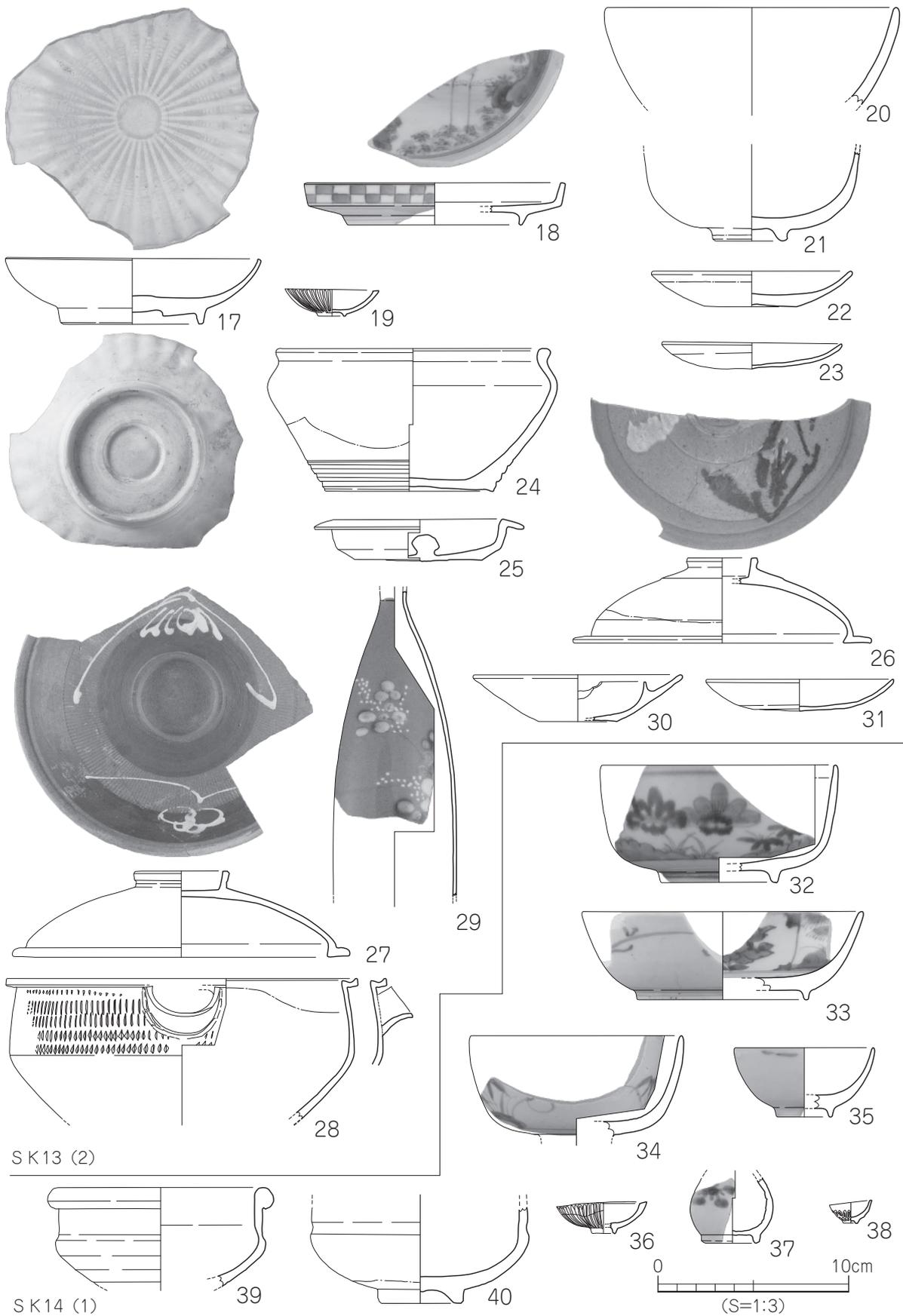


第 91 図 SK 45・46 測量図

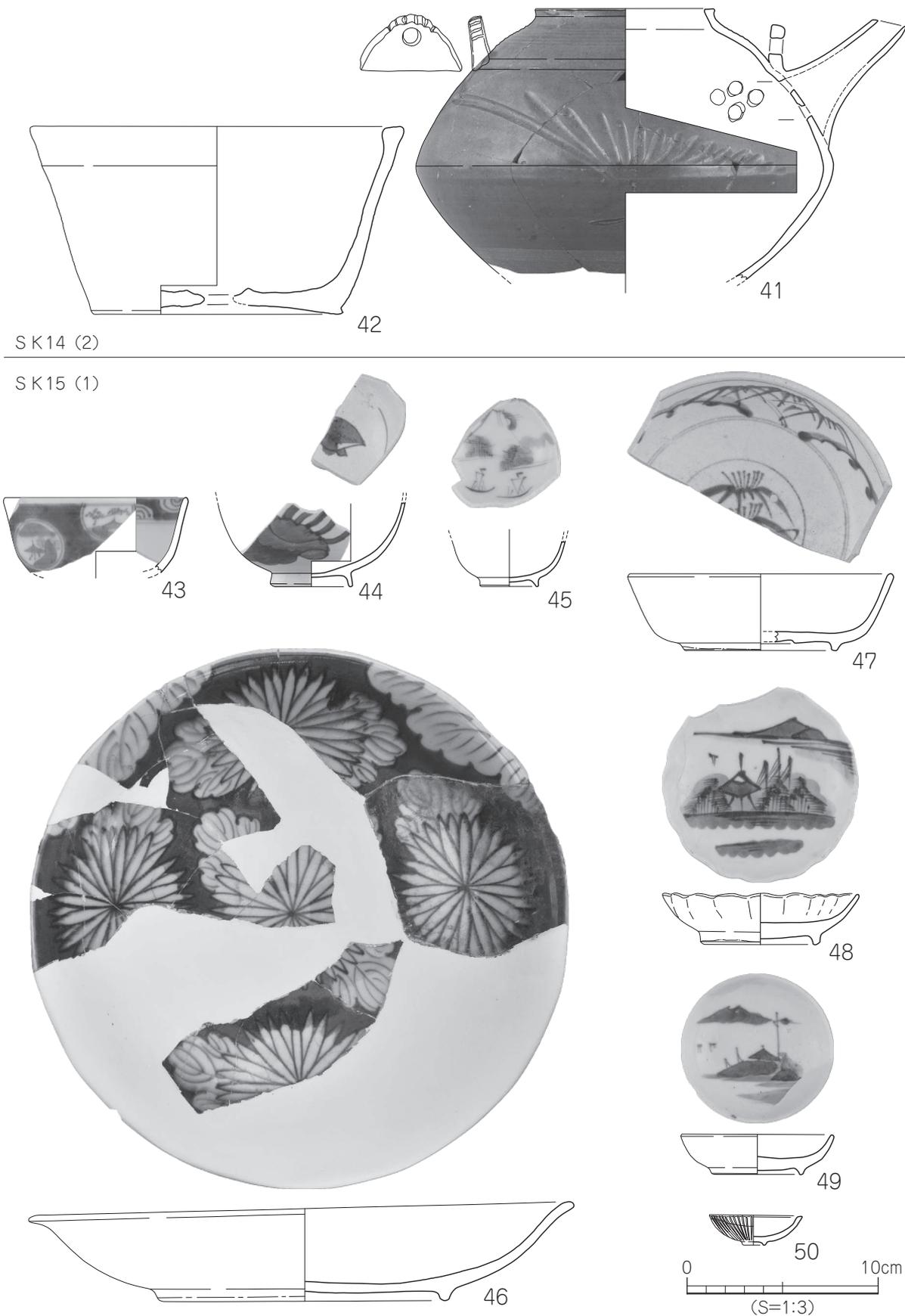
調査の成果



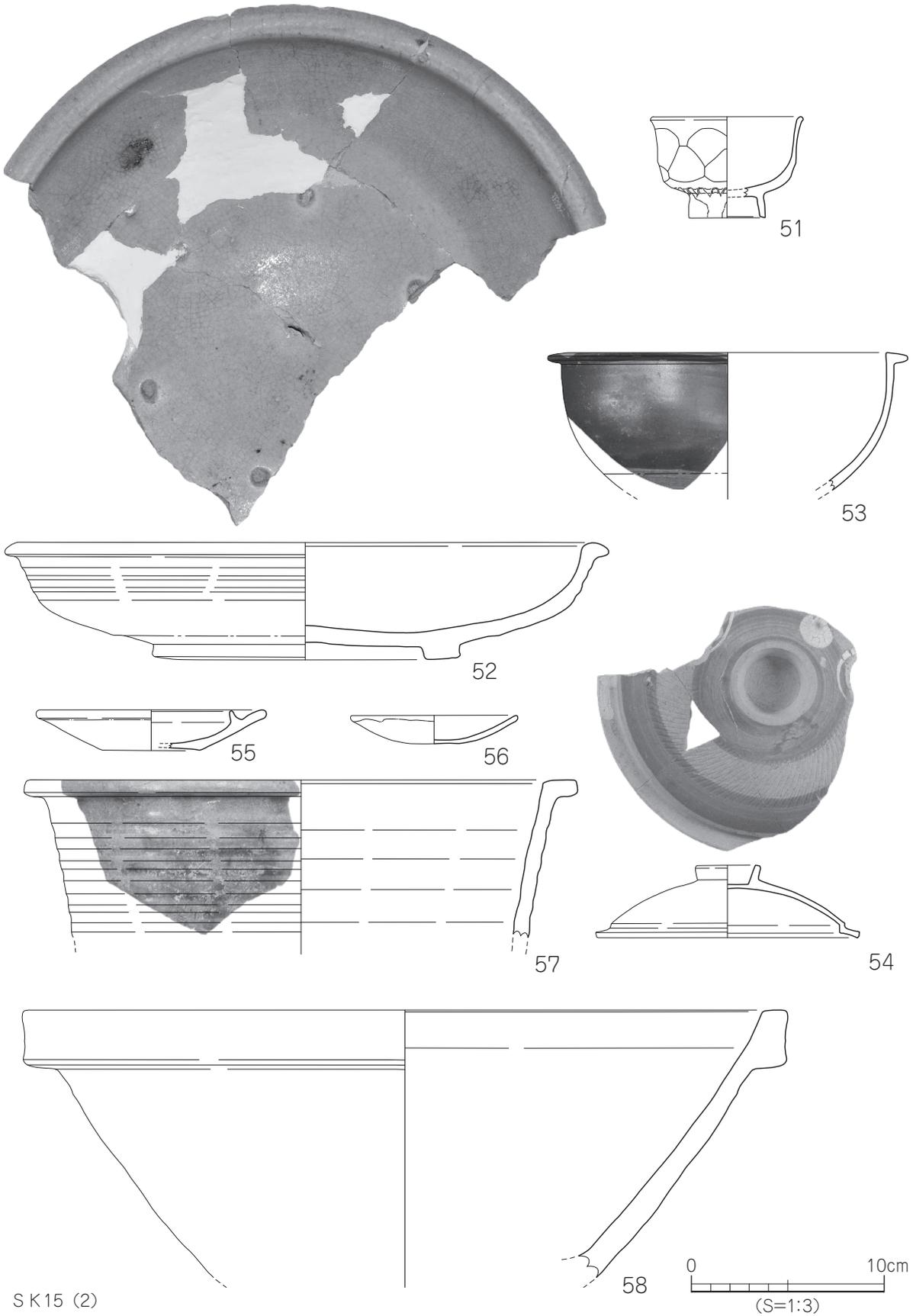
第92図 出土遺物実測図 陶磁器 (1)



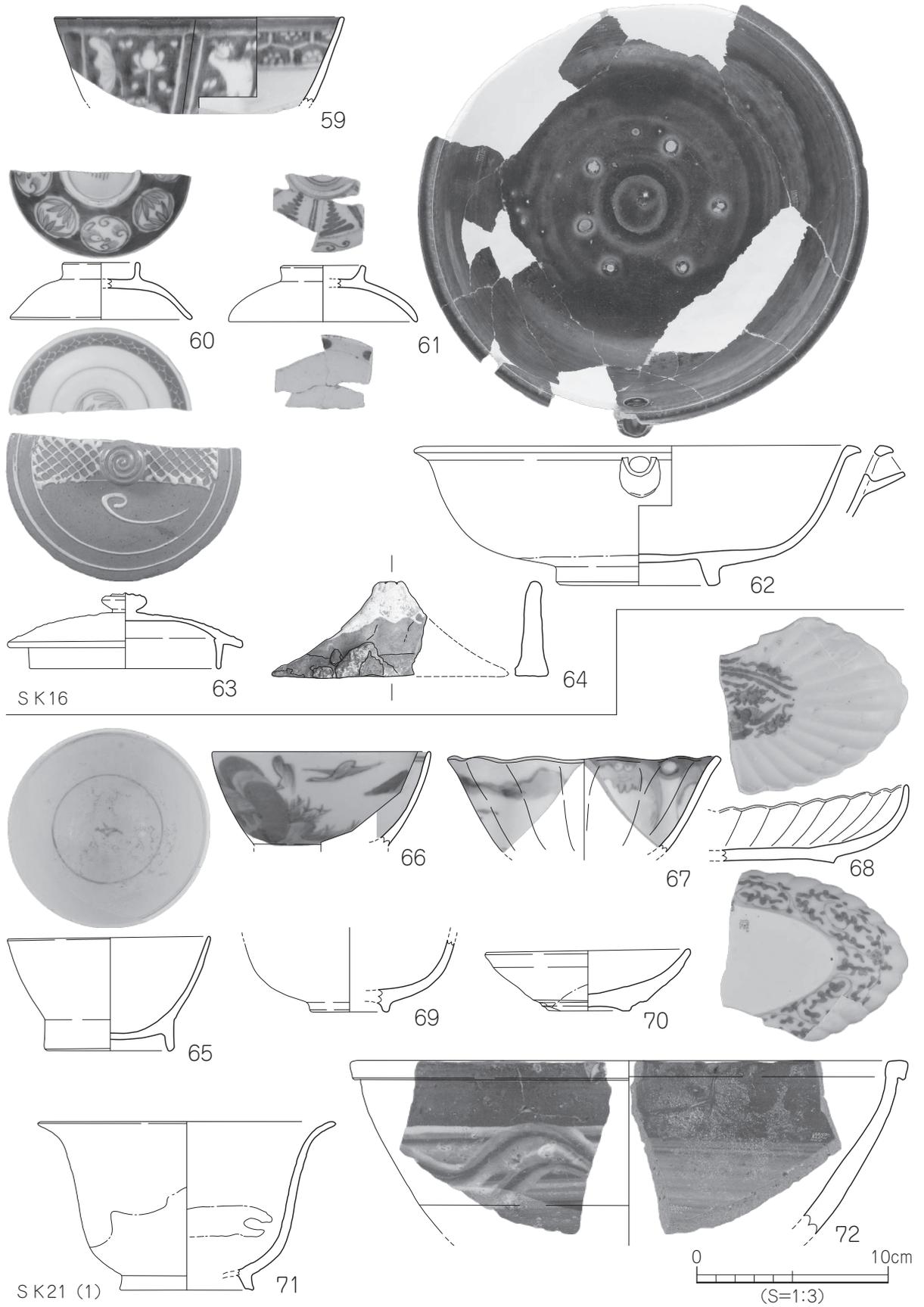
第93図 出土遺物実測図 陶磁器 (2)



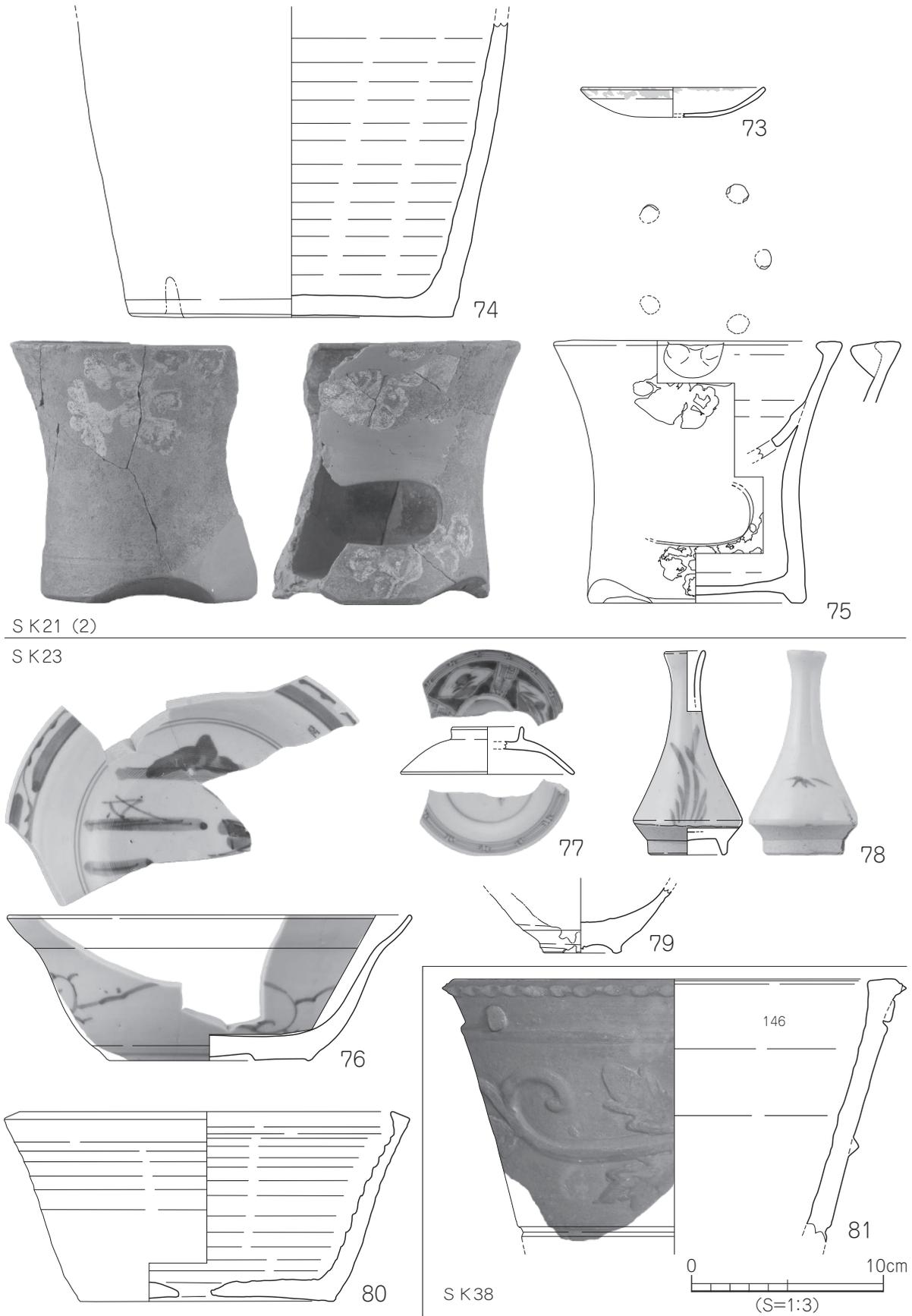
第94図 出土遺物実測図 陶磁器 (3)



第 95 図 出土遺物実測図 陶磁器 (4)

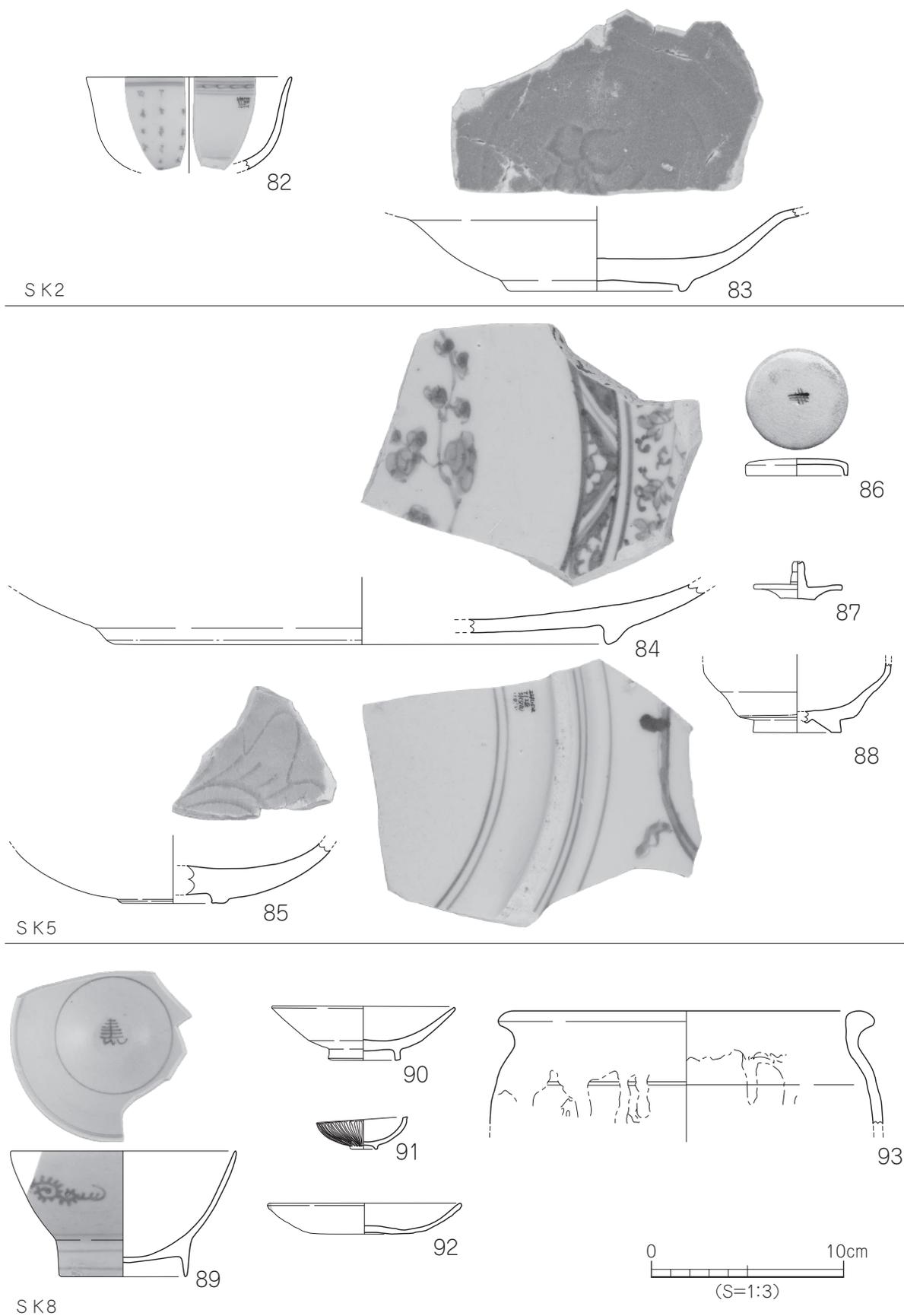


第96図 出土遺物実測図 陶磁器 (5)

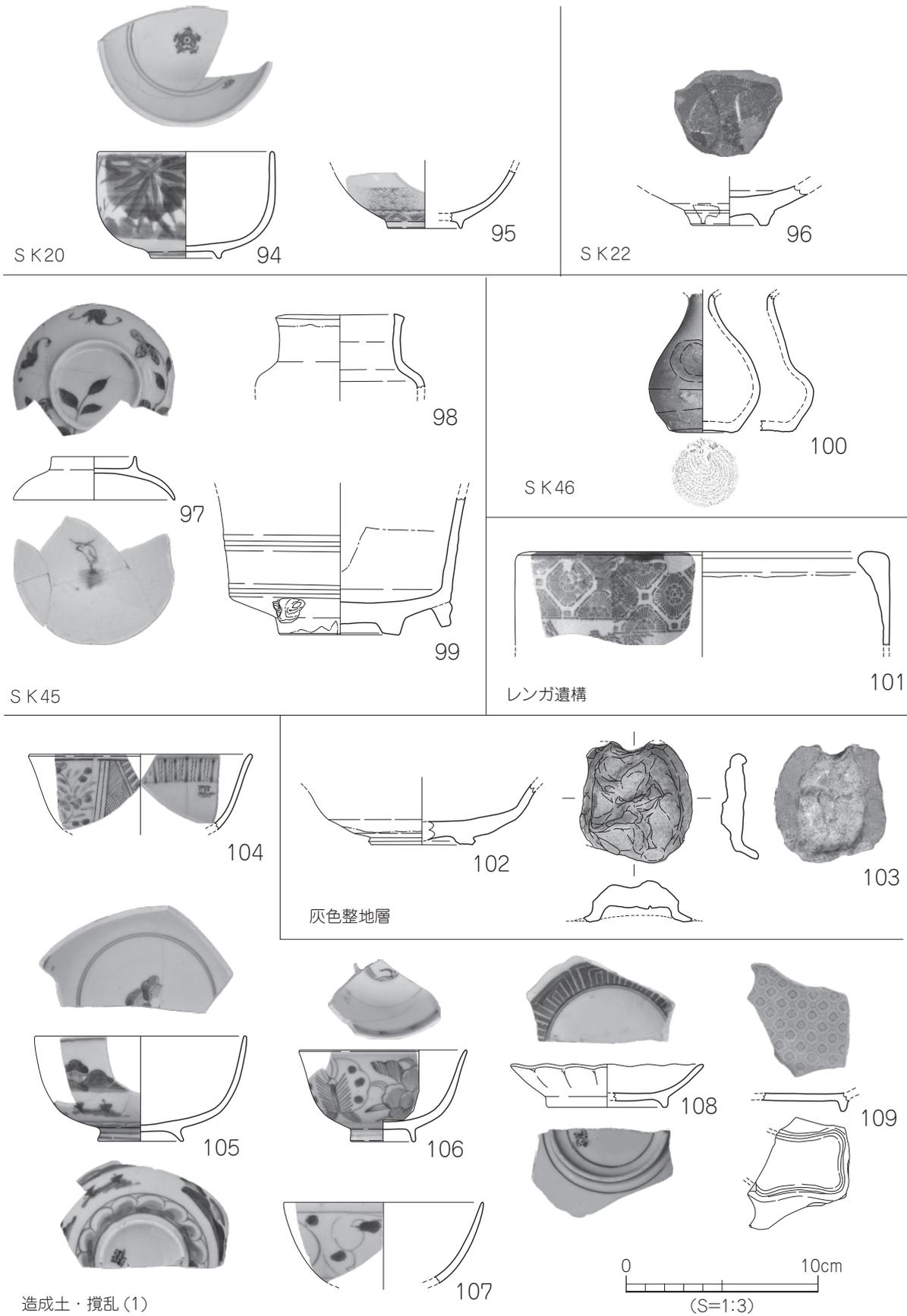


第 97 図 出土遺物実測図 陶磁器 (6)

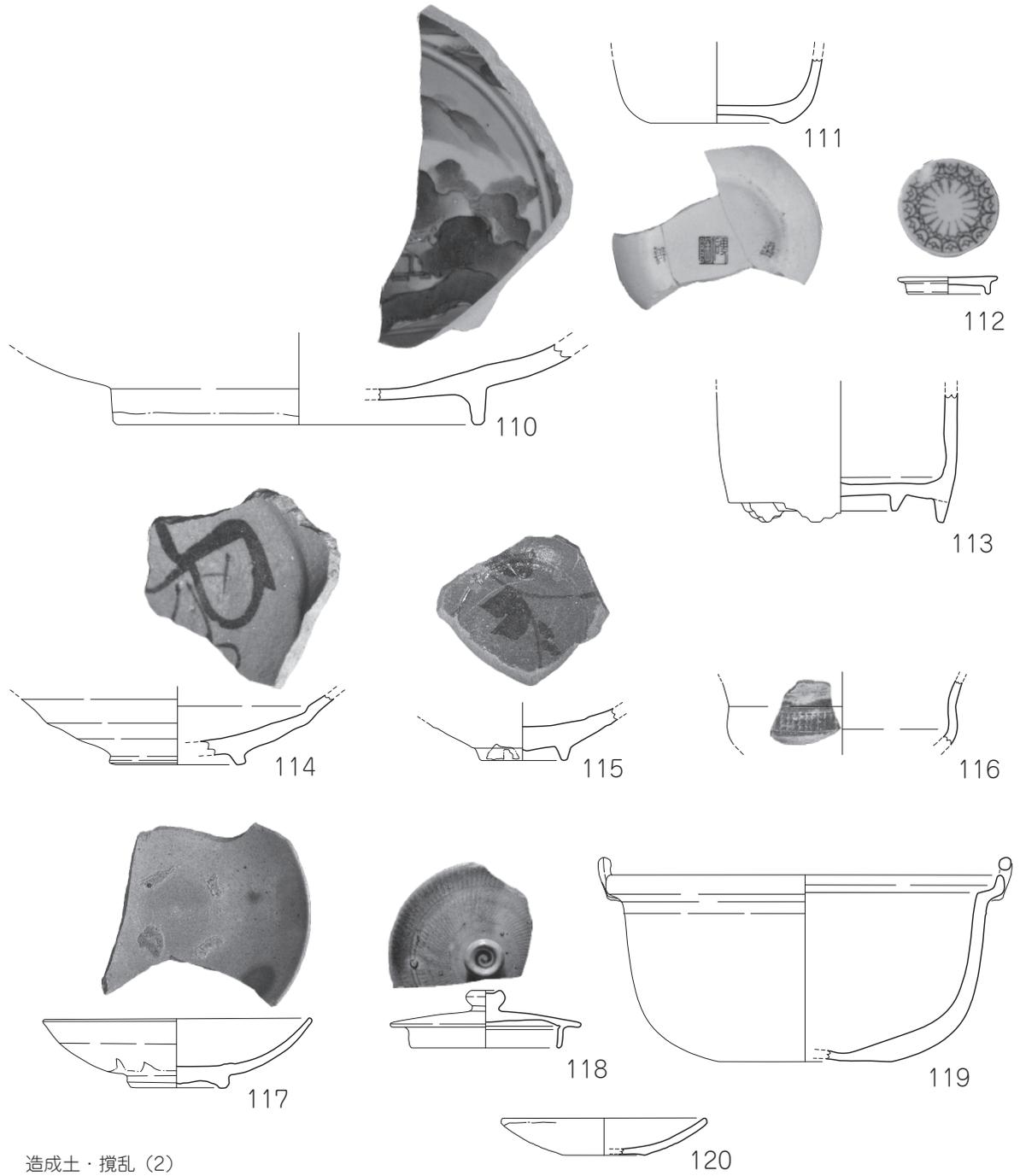
調査の成果



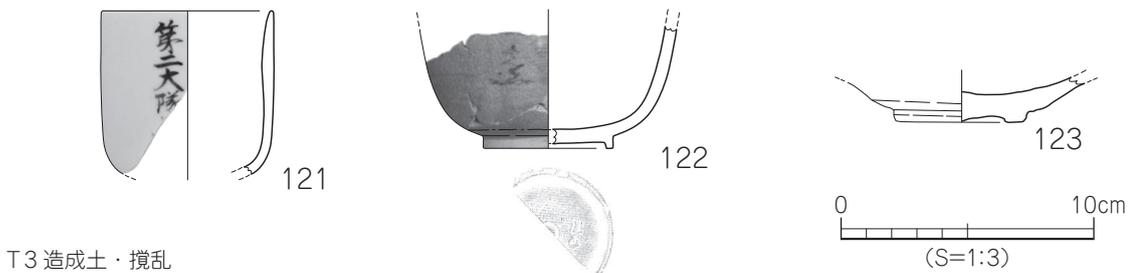
第98図 出土遺物実測図 陶磁器 (7)



第 99 図 出土遺物実測図 陶磁器 (8)

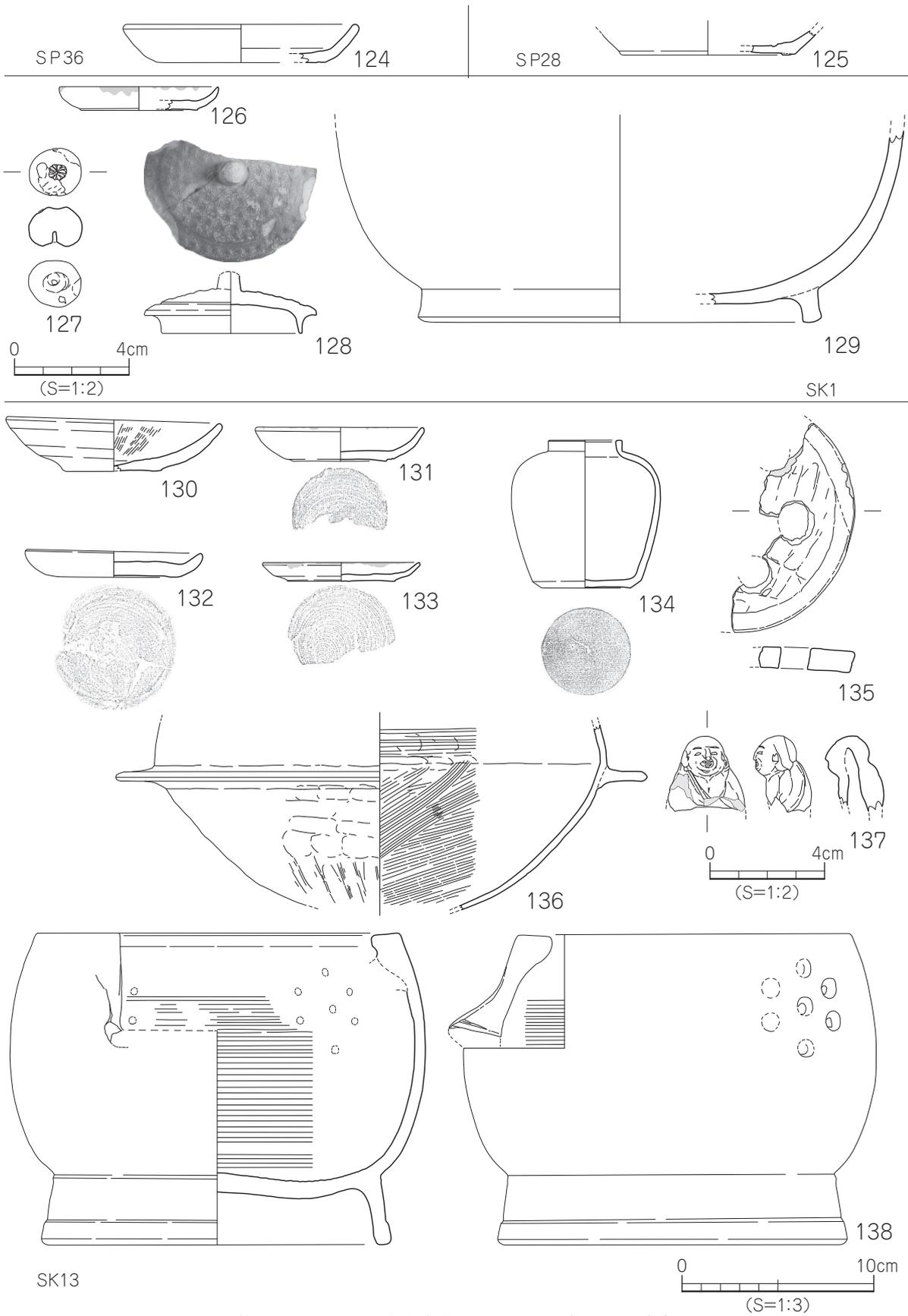


造成土・攪乱 (2)



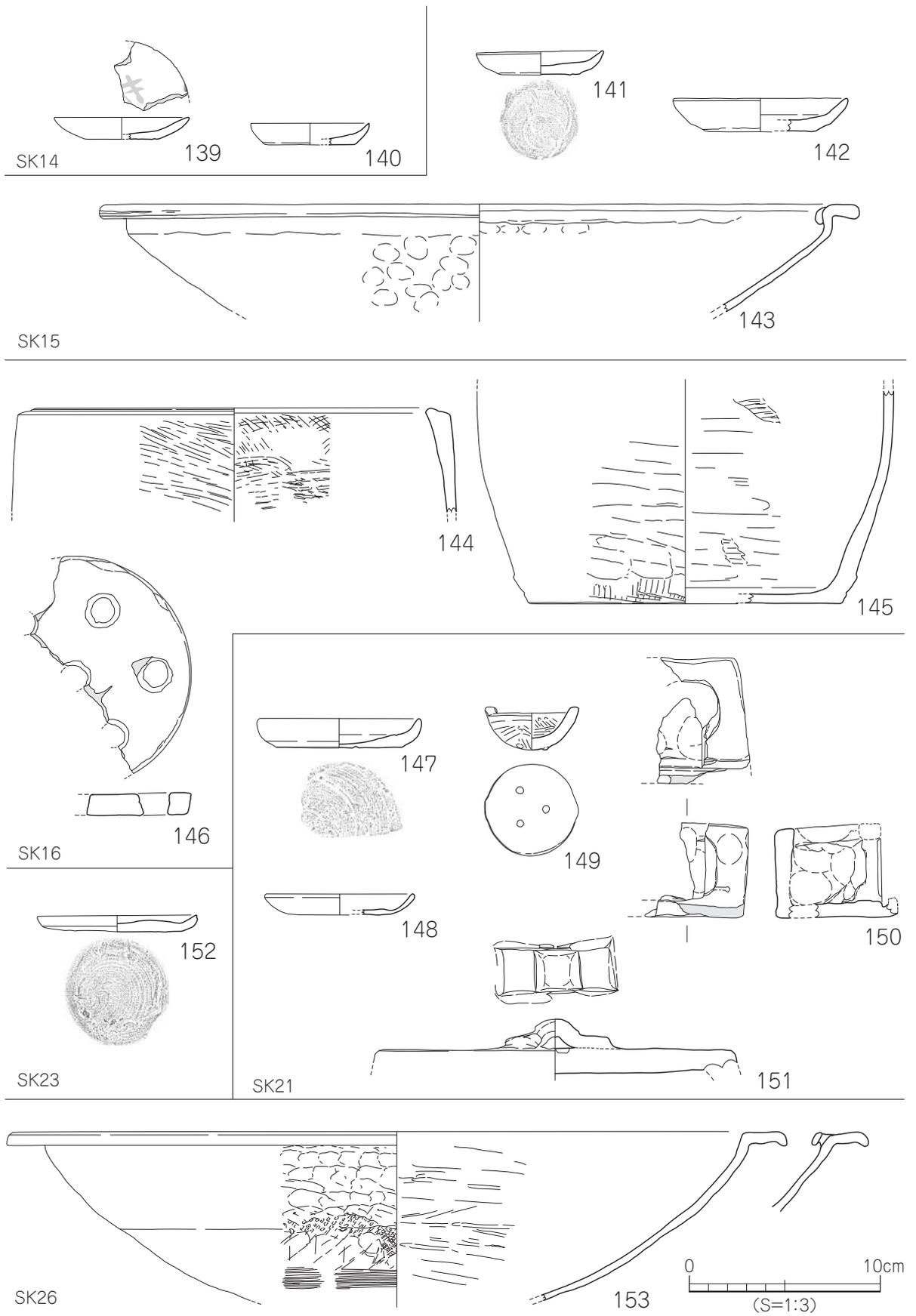
T3 造成土・攪乱

第 100 図 出土遺物実測図 陶磁器 (9)

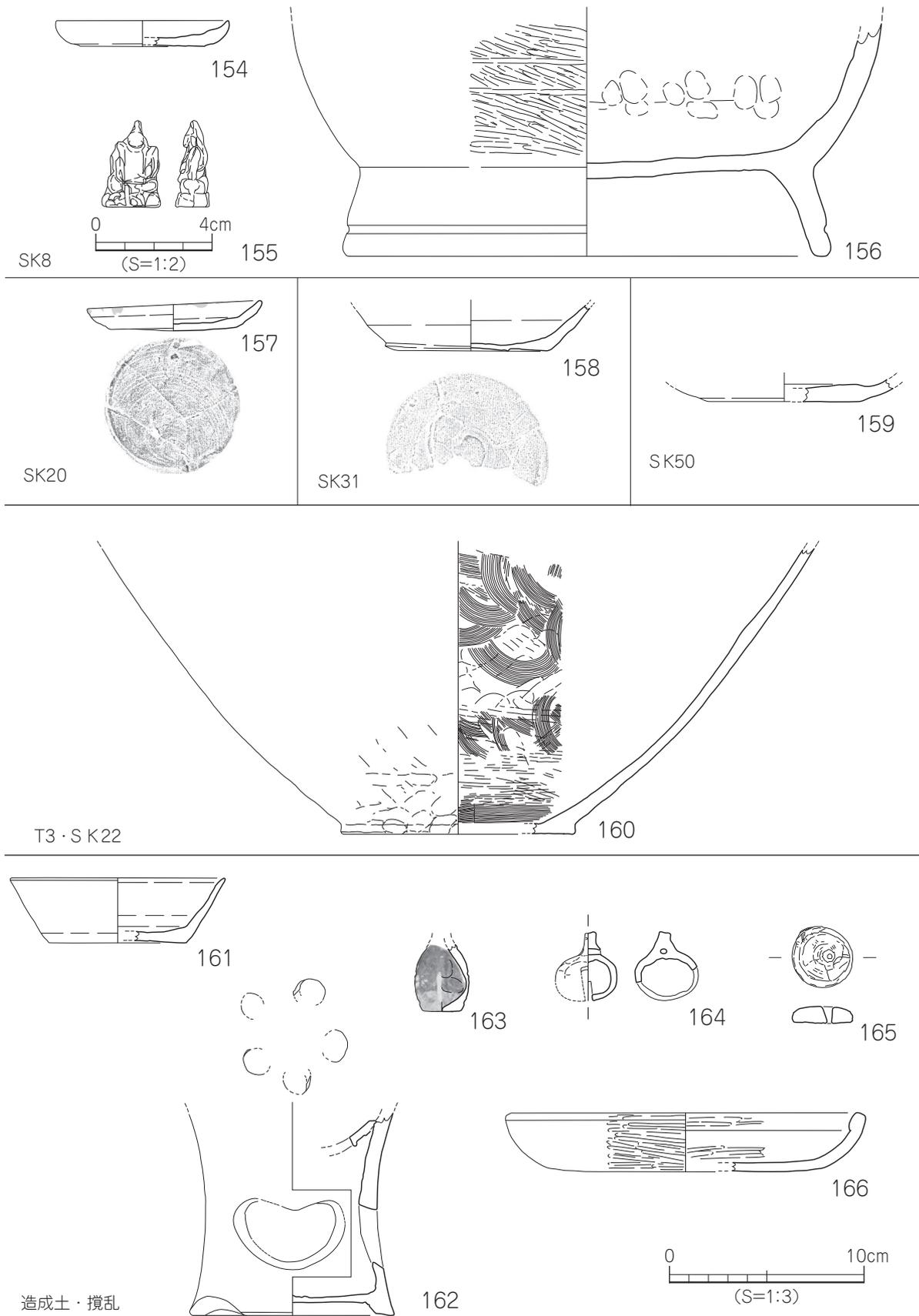


第 101 図 出土遺物実測図 土器及び土製品 (1)

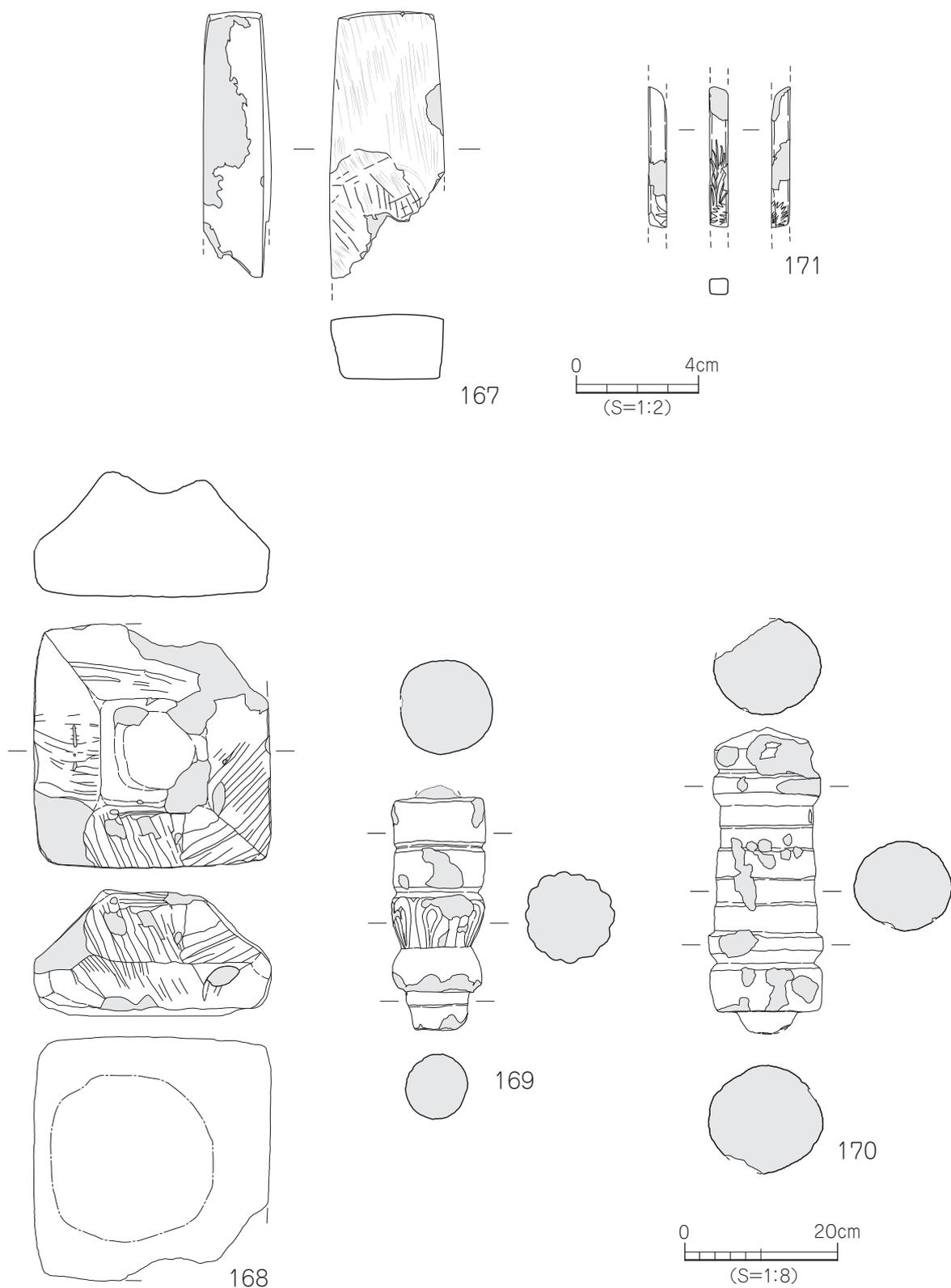
調査の成果



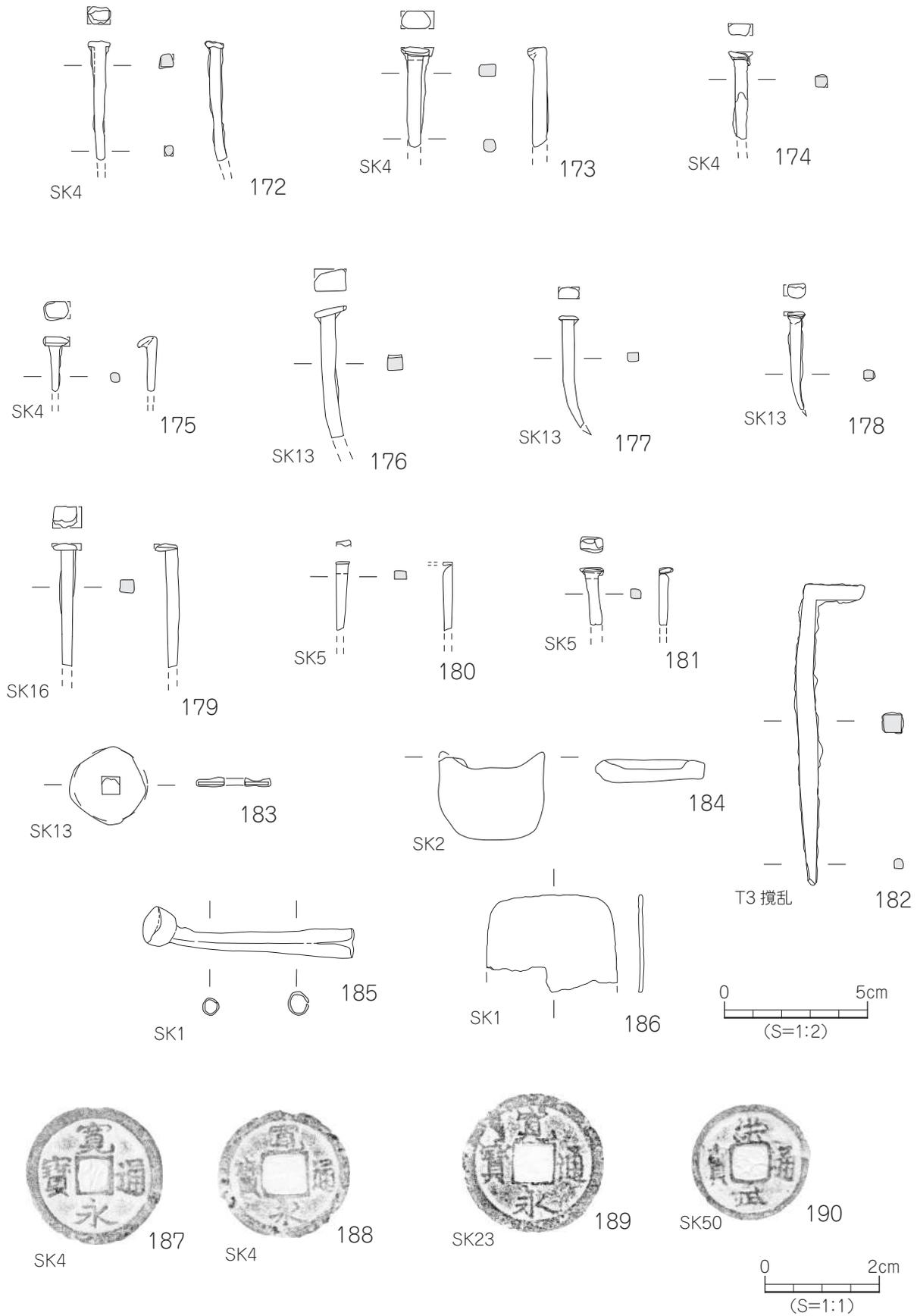
第 102 図 出土遺物実測図 土器及び土製品 (2)



第 103 図 出土遺物実測図 土器及び土製品 (3)

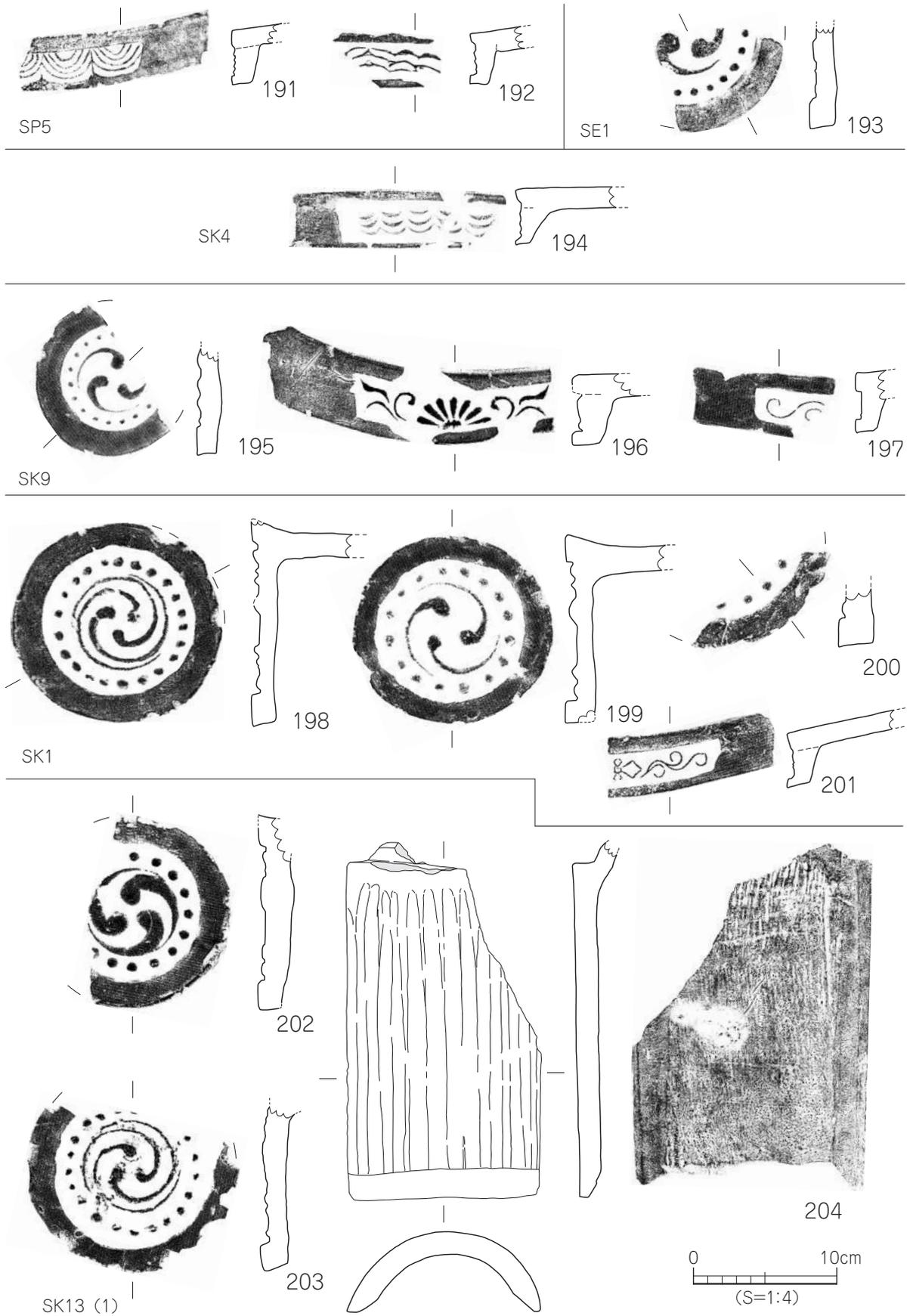


第 104 図 出土遺物実測図 石製品・簪

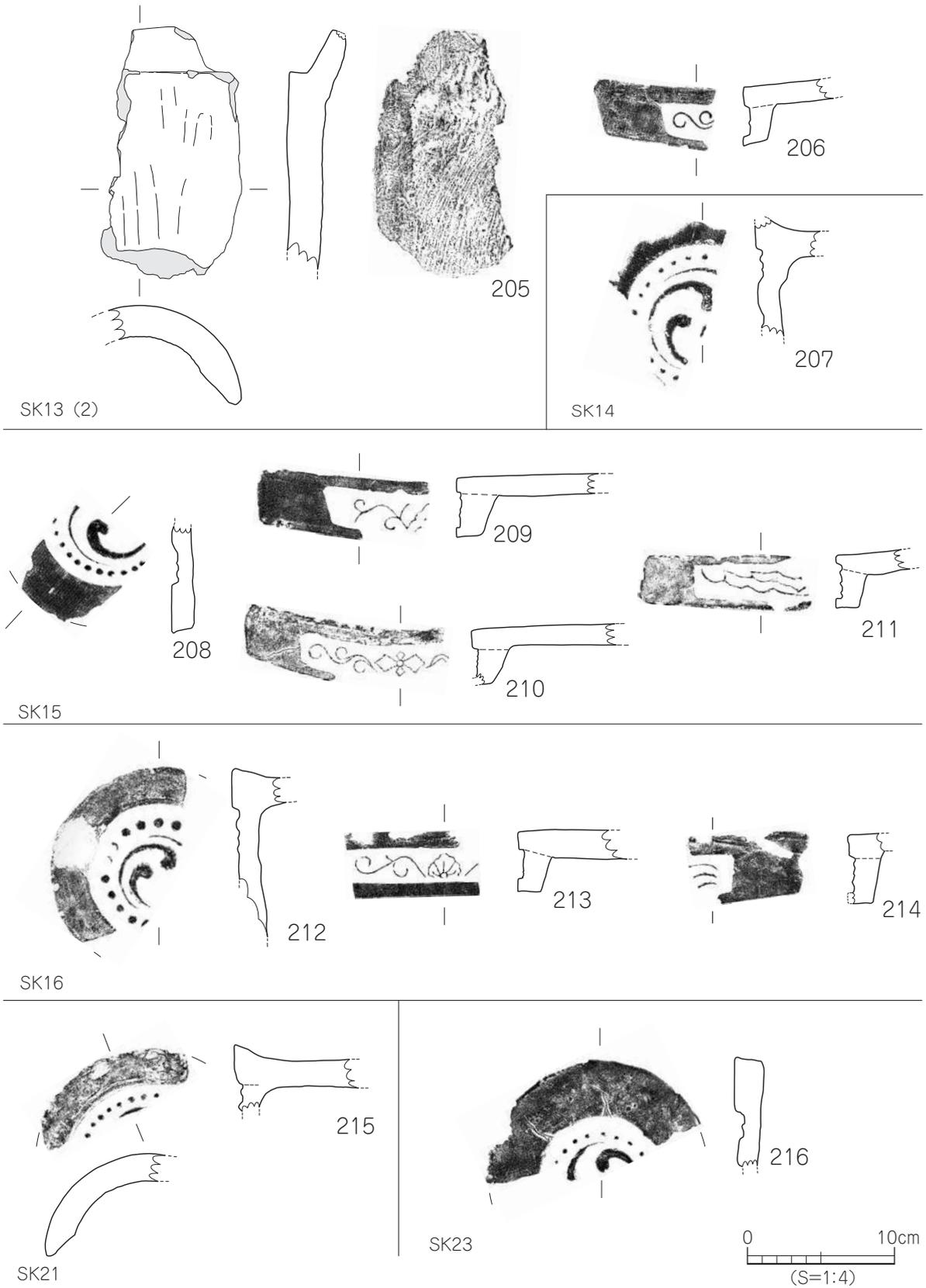


第 105 図 出土遺物実測図 金属製品

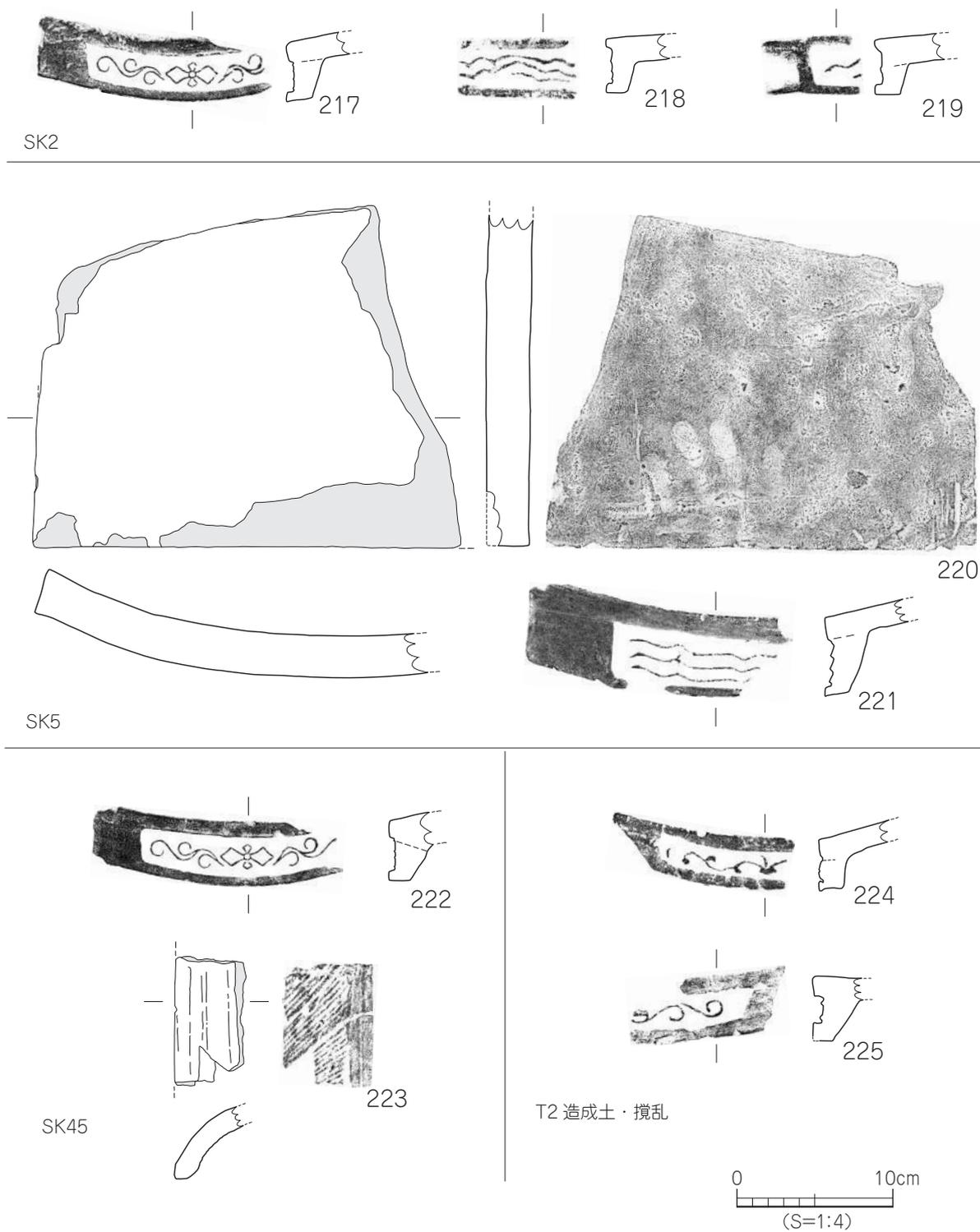
調査の成果



第 106 図 出土遺物実測図 瓦 (1)



第 107 図 出土遺物実測図 瓦 (3)



第 108 図 出土遺物実測図 瓦 (3)

松山城三之丸 15 次調査

遺物観察表 - 凡例 -

以下の表は、本調査地検出の遺物の計測値及び観察一覧である。

遺物観察表

法量欄 (): 復元推定値

[]: 残高

調整欄 土器の各部位名称を略記した。

例) ㊦→底部

胎土欄 胎土欄は混和剤を略記した。

例) 石→石英、長→長石、金→金ウンモ、赤→赤色酸化土粒

() 中の数値は混和剤粒子の大きさを示す。

例) 石・長 (1~4) → 「1~4mm大の石英・長石を含む」である。

焼成欄 焼成欄の略記について

◎→良好、○→良

備考欄 出土遺物の略記について

肥前系→肥前系陶磁、京焼系→京焼系陶磁、瀬戸美濃系→瀬戸美濃系陶磁

表 12 陶磁器観察表

(1)

番号	出土場所	種別	器種	法量			釉薬	装飾	備考	図版
				口径	器高	底径				
1	SE3	陶器	皿	(14.4)	[2.4]		灰釉			
2	SE3	陶器	皿	(14.0)	[2.1]		灰釉			
3	SK4	陶器	碗		[2.5]	(5.0)	透明釉			
4	SK9	磁器	蓋	(9.8)	[2.2]		透明釉	染付		
5	SK1	磁器	碗	11.2	5.7	4.6	透明釉	染付	肥前	
6	SK1	陶器	碗		[4.3]	(5.0)	透明釉	染付	肥前 (波佐見)	
7	SK1	陶器	碗		[4.1]	(4.2)	灰釉			
8	SK1	陶器	行平鍋	17.2	8.3	6.9	褐釉 透明釉		京焼系	
9	SK1	陶器	土瓶	(5.4)	[8.7]		灰釉 透明釉			
10	SK1	陶器	植木鉢	(23.2)	[10.7]					
11	SK1	陶器	植木鉢		[9.8]	(10.9)				
12	SK13	磁器	碗	(11.6)	6.4	6.2	透明釉	染付	広東	
13	SK13	磁器	碗	(10.1)	5.3	(4.0)	透明釉	染付		
14	SK13	磁器	碗		[4.5]	5.1	透明釉	染付	伊万里、17c	9
15	SK13	磁器	碗	(10.4)	5.6	(4.2)	透明釉	染付	端反 18c 後半	
16	SK13	磁器	小坏	6.6	3.5	2.7	透明釉	染付		
17	SK13	磁器	皿	(13.0)	3.5	7.2	灰白釉		砥部? 菊皿	
18	SK13	磁器	皿	(13.2)	2.2	(9.0)	透明釉	染付	18c 前半	
19	SK13	磁器	紅皿	4.9	1.4	1.4	透明釉		18~19c 前半	
20	SK13	陶器	碗	(15.0)	[5.1]		灰釉			
21	SK13	陶器	碗		[4.7]	3.9	黒釉			

調査の成果

陶磁器観察表

(2)

番号	出土場所	種別	器種	法量			釉薬	装飾	備考	図版
				口径	器高	底径				
22	SK13	陶器	皿	(10.3)	1.4	4.8	長石釉			
23	SK13	焼締陶器	皿	9.2	1.4					
24	SK13	陶器	鉢	(14.3)	7.5	8.8	灰白釉		北部九州、19c 前	9
25	SK13	陶器	土瓶・蓋	(9.2)	2.2	6.6	灰釉		在地系	
26	SK13	陶器	行平鍋・蓋	(15.5)	4.5		灰釉		在地系	9
27	SK13	陶器	行平鍋・蓋	(17.6)	4.5		褐釉			9
28	SK13	陶器	行平鍋	(18.3)	[7.4]		内透明釉 外鉄釉	飛鉋	京焼系・19c	
29	SK13	陶器	德利		[16.1]		褐釉	色絵	京焼系	9
30	SK13	陶器	灯明皿	(10.7)	2.5	(4.1)	灰釉			
31	SK13	焼締陶器	灯明皿	(9.8)	1.7	4.7			備前焼	
32	SK14	磁器	碗	(12.2)	6.2	(6.0)	透明釉	染付	肥前系・蓋付	
33	SK14	磁器	鉢	(14.6)	4.6	(8.8)	透明釉	染付	肥前系	
34	SK14	磁器	碗	(10.9)	[5.3]		透明釉	染付	肥前系	
35	SK14	磁器	小坏	(7.3)	3.7	(2.9)	透明釉	染付		
36	SK14	磁器	紅皿	(4.7)	1.6	(1.2)	灰白釉			
37	SK14	磁器	瓶	(3.5)	2.5		透明釉	染付		
38	SK14	磁器	ままごと道具・碗	2.2	1.2	0.8	透明釉			10
39	SK14	陶器	鉢	(10.9)	[5.2]					
40	SK14	陶器	碗		[5.1]	4.2	灰釉			
41	SK14	陶器	土瓶	9.3	[14.1]		褐釉		京焼系、算盤玉形	
42	SK14	焼締陶器	植木鉢	(19.1)	9.9	12.9				
43	SK15	磁器	碗	(9.4)	[3.9]		透明釉	染付	肥前系	
44	SK15	磁器	碗		[4.4]	4.0	透明釉	染付	肥前系	
45	SK15	磁器	小坏		[2.4]	2.9	透明釉	染付	肥前系	
46	SK15	磁器	皿	27.8	5.1	14.6	透明釉	染付	肥前系	
47	SK15	磁器	碗	(13.6)	4.0	(8.0)	透明釉	染付	砥部?	
48	SK15	磁器	輪花皿	10.2	2.7	6.2	透明釉	染付	肥前系	
49	SK15	磁器	皿	7.8	2.1	4.8	透明釉	染付	19c	
50	SK15	磁器	紅皿	4.8	1.6	1.1	透明釉			
51	SK15	陶器	碗	(7.6)	5.3	(3.9)	透明釉		京焼系	9

松山城三之丸 15 次調査

陶磁器観察表

(3)

番号	出土場所	種別	器種	法量			釉薬	装飾	備考	図版
				口径	器高	底径				
52	SK15	陶器	皿	(28.7)	6.1	(15.7)	灰釉		砂目跡 5 箇所以上	
53	SK15	陶器	鉢	(16.5)	[7.1]		褐釉			
54	SK15	陶器	行平鍋・蓋	13.4	3.8		褐釉 透明釉	イッチン盛り・飛甍		
55	SK15	陶器	灯明皿	(11.5)	2.1	(5.0)	透明釉			
56	SK15	陶器	灯明皿	(8.4)	1.5	(2.8)	透明釉			
57	SK15	陶器	植木鉢	(27.9)	[8.2]		灰釉			
58	SK15	焼締陶器	捏鉢	(39.2)	[13.9]				大谷焼	
59	SK16	磁器	八角鉢	(15.7)	[4.4]		透明釉	染付	肥前系	
60	SK16	磁器	蓋	(9.2)	3.0		透明釉	染付	肥前系	
61	SK16	陶器	蓋	(9.8)	2.9			染付	美濃焼	9
62	SK16	陶器	片口鉢	22.0	7.4	8.1	褐釉			
63	SK16	陶器	蓋	(9.8)	4.0		透明釉	イッチン盛り		
64	SK16	陶器	箱庭道具・富士山		5.0		白釉			10
65	SK21	磁器	碗	10.5	6.0	6.4	透明釉	染付	砥部焼・広東形	
66	SK21	磁器	碗	(11.3)	[5.0]		透明釉	染付		
67	SK21	磁器	輪花鉢	(13.7)	[5.0]		透明釉	染付	肥前系	
68	SK21	磁器	輪花皿		[4.1]		透明釉	染付	肥前系	
69	SK21	陶器	碗		[3.7]	(4.0)	灰釉			
70	SK21	陶器	皿	10.5	3.2	4.2	灰釉			
71	SK21	陶器	鉢	(15.2)	8.9	(7.8)	透明釉		珉平焼、重ね掛け	9
72	SK21	陶器	鉢	(28.9)	[9.1]		褐釉	白土刷毛目	肥前系	9
73	SK21	陶器	灯明皿	(9.4)	1.6	(3.6)				
74	SK21	陶器	甕		[15.3]	(16.6)			備前焼	
75	SK21	陶器	焜炉	15.0	13.7	11.0	透明釉	イッチン盛り		9
76	SK23	磁器	鉢	(20.8)	7.6	(10.3)	透明釉	染付	朝顔形	
77	SK23	磁器	蓋	(9.0)	2.5		透明釉	染付	肥前系	
78	SK23	磁器	仏花瓶	1.9	10.7	3.9	透明釉	染付		
79	SK23	陶器	碗		[3.4]	4.1	灰釉			
80	SK23	焼締陶器	植木鉢	(19.4)	9.9	(15.2)				
81	SK38	焼締陶器	植木鉢	(23.0)	[13.7]					

調査の成果

陶磁器観察表

(4)

番号	出土場所	種別	器種	法量			釉薬	装飾	備考	図版
				口径	器高	底径				
82	SK2	磁器	碗	(10.5)	[4.8]		透明釉	染付	関西系・端反形	9
83	SK2	青磁	鉢		[4.3]	(8.8)		刻花	有田?	9
84	SK5	磁器	皿		[3.1]	(25.6)	透明釉	染付	肥前系・うるし継ぎ	9
85	SK5	磁器	鉢		[3.1]	(5.3)	緑釉	沈線	肥前系・波佐見焼	9
86	SK5	陶器	蓋	5.3	0.9		透明釉	染付		
87	SK5	陶器	蓋	1.8	2.0					
88	SK5	陶器	碗		3.7	(4.6)	薬白釉		萩焼	
89	SK8	磁器	碗	(11.6)	6.5	6.5	透明釉	染付	砥部焼・広東形	
90	SK8	磁器		9.4	2.8	3.7	透明釉		砥部?	
91	SK8	磁器	紅皿	(4.7)	1.7	0.8	内透明釉			
92	SK8	陶器	皿	(10.0)	1.6	(6.1)			口縁部煤付着 回転ヘラ削り	
93	SK8	陶器		(18.3)	[5.9]		褐釉 白釉		黒と白の釉薬・重ね掛け	9
94	SK20	磁器	碗	(9.0)	5.6	3.7		染付	肥前系	
95	SK20	磁器	碗		3.0	3.8	透明釉	色絵付	肥前系・有田	
96	SK22	陶器	皿		2.1	(3.8)	灰釉	鉄絵		
97	SK45	磁器	蓋	(8.3)	2.3		透明釉	染付		
98	SK45	陶器	瓶?	(5.9)	[3.8]		白釉			
99	SK45	磁器	香炉		[7.1]	6.1	青磁釉		肥前系(波佐見)	9
100	SK46	陶器	瓶		[7.3]	2.7	透明釉	緑釉	軟質施釉陶器 底部に糸切痕	9
101	レンガ遺構	磁器	火鉢	(18.0)	[4.9]		透明釉	染付	印判手	
102	灰色整地層	陶器	碗		[3.2]	(5.3)	灰釉			
103	灰色整地層	陶器	トチン		6.4		灰釉			
104	造成土・攪乱	磁器	碗	(11.1)	[4.0]		透明釉	色絵付	肥前系・19c初～前	9
105	造成土・攪乱	磁器	丸碗	(10.8)	5.5	(4.4)	透明釉	染付	肥前系	
106	造成土・攪乱	磁器	碗	(8.6)	4.8	(3.2)	透明釉	染付	肥前系・端反形 花蝶文	
107	造成土・攪乱	磁器	碗	(10.4)	[4.2]		透明釉	染付	肥前系	
108	造成土・攪乱	磁器	皿	(9.9)	2.2	(6.2)	透明釉	染付		
109	造成土・攪乱	磁器	皿		[0.9]		透明釉	染付	型紙摺り	
110	造成土・攪乱	磁器	大皿		[3.7]	(16.8)	透明釉	染付	肥前系	
111	造成土・攪乱	陶器	鉢(軍用食器)		[3.0]	6.2	透明釉	染付	「陶硬」の印字あり	

松山城三之丸 15 次調査

陶磁器観察表

(5)

番号	出土場所	種別	器種	法量			釉薬	装飾	備考	図版
				口径	器高	底径				
112	造成土・攪乱	磁器	蓋	3.7	0.8		透明釉	染付		
113	造成土・攪乱	青磁	香炉		[6.0]	10.2	青磁釉			
114	造成土・攪乱	陶器	皿		[3.2]	(5.4)	灰釉	鉄絵		
115	造成土・攪乱	陶器	皿		[2.4]	3.8		鉄絵		
116	造成土・攪乱	陶器	碗		[2.9]		褐釉 白釉	象嵌		9
117	造成土・攪乱	陶器	皿	(12.2)	3.2	4.4	灰釉			
118	造成土・攪乱	陶器	土瓶・蓋	(6.7)	2.6		灰釉	飛びカンナ		
119	造成土・攪乱	陶器	土鍋	(18.0)	9.5	(8.0)	褐釉		底部に煤付着 在地？(京焼系)	
120	造成土・攪乱	陶器？	皿	(9.2)	1.7	3.7	透明釉		回転ヘラ削り	
121	造成土・攪乱	磁器	湯呑	(6.8)	[6.5]		透明釉	染付	砥部焼 文字「第二大隊〇」	
122	T3 造成土・攪乱	陶器	碗		[4.9]	(5.1)	透明釉	染付(鉄絵)	肥前(京焼風) 落款あり	
123	T3 造成土・攪乱	陶器	皿		[1.8]	(4.8)	灰白釉		唐津焼 削り出し高台	

表 13 土器・土製品観察表

(1)

番号	出土場所	種別	器種	法量			調整		(外面 色調 (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				口径	器高	底径	外面	内面				
124	SP36	土師器	坏	(11.8)	2.0	(8.7)	ヨコナデ ㊦ヘラ切	ヨコナデ	橙 橙	密 ◎		
125	SP28	土師器	坏		[1.3]	(9.0)	ヨコナデ ㊦回転糸切り	ヨコナデ	灰白 灰白	石・長(1) ◎		
126	造成土・攪乱	土師器	皿	(8.2)	1.3	(6.0)	ヨコナデ ㊦回転糸切り	ヨコナデ	橙 橙	密・金 ◎	煤付着	
127	SK1	土製品	土玉？	直径 1.8	高さ 1.35		ナデ	-	橙 橙	密 ◎		
128	造成土・攪乱	瓦質土器	蓋	7.3	[3.0]		ヨコナデ	ヨコナデ	黒 黒	密 ◎		
129	造成土・攪乱	瓦質土器	壺？鉢？		[10.0]	(20.2)	ヨコナデ・ ミガキ	ヨコナデ	黒 黒	密 ◎		
130	SK13	土師器	坏	(11.1)	2.5 ~ 2.9	(5.2)	ヨコナデ ㊦回転糸切り	ヨコナデ	灰白 灰白	密 ◎		
131	SK13	土師器	皿	8.4	1.8	4.8	ヨコナデ ㊦回転糸切り	ヨコナデ	にぶい橙 にぶい橙	石・長(1) 金 ◎	煤付着	
132	SK13	土師器	皿	9.0	1.2 ~ 1.5	6.1	ヨコナデ ㊦回転糸切り	ヨコナデ	明黄褐 明黄褐	密・金 ◎		
133	SK13	土師器	皿	(8.1)	1.0	(5.5)	ヨコナデ ㊦回転糸切り	ヨコナデ	橙 橙	密 ◎	煤付着	
134	SK13	土師器	茶入れ	(3.8)	7.7	4.6	ヨコナデ ㊦ケズリ	ヨコナデ	灰白 灰白	密 ◎		10
135	SK13	土師器	焜炉・サナ	直径 (12.8)	厚み 1.2	穿孔 1.8	ヨコナデ・ ナデ	-	橙・明褐灰 橙・明褐灰	石・長(1) ◎		
136	SK13	土師器	土鍋		[9.6]		指圧痕・ ナデ	指圧痕・ハケ (5本/cm)	暗灰 灰	密 ◎	煤付着	
137	SK13	土製品	人形	縦 2.6	横 2.7		ナデ	ナデ	淡黄 淡黄	密 ◎		
138	SK13	瓦質土器	風炉	(18.8)	16.3	18.1	ヨコナデ	ヨコナデ・ ハケ	暗灰 暗灰	密 ◎		10
139	SK14	土師器	皿	(7.0)	1.1	(3.8)	ヨコナデ ㊦回転糸切り	ヨコナデ	橙 橙	石・長(1) 金 ◎	煤付着 墨書	

調査の成果

土器・土製品観察表

(2)

番号	出土場所	種別	器種	法量			調整		(外面) 色調 (内面)	胎土 焼成	備考	図版
				口径	器高	底径	外面	内面				
140	SK14	土師器	皿	(6.1)	1.3	(4.6)	ヨコナデ ㊦回転糸切り	ヨコナデ	にぶい橙 にぶい橙	長 (1) 金 ◎		
141	SK15	土師器	皿	6.6	1.3	4.0	ヨコナデ ㊦回転糸切り	ヨコナデ	にぶい橙 にぶい橙	密 ○		
142	SK15	土師器	皿	(9.0)	1.8	(5.5)	ヨコナデ ㊦回転糸切り	ヨコナデ	橙 橙	密 ◎		
143	SK15	土師器	焙烙	(39.0)	[5.6]		ナデ	ナデ	褐灰 褐灰	密 ◎	煤付着	
144	SK16	土師器	甕	(20.5)	[5.5]		ヨコナデ・ ミガキ	タタキ	黄橙 黄橙	石・長 (1~2) 赤 ◎		
145	SK16	土師器	甕		[11.2]	(16.3)	ナデ・ハケ (4本/cm)	ハケ・ナデ	黄橙 黄橙	石・長 (1~2) ◎		
146	SK16	土師器	サナ	直径 (12.4)	厚み 1.2	穿孔 1.4	ナデ	ナデ	にぶい褐 にぶい褐	密・金 ◎		
147	SK21	土師器	皿	(8.3)	1.1	(6.6)	ヨコナデ ㊦回転糸切り	ヨコナデ	浅黄橙・灰白 灰白	密 ◎	煤付着	
148	SK21	土師器	皿	(7.6)	1.1	(4.0)	ヨコナデ ㊦回転糸切り	ヨコナデ	橙 橙	密 ◎		
149	SK21	土師質	ミニチュア・ 鍋	4.7	2.3		ミガキ	ミガキ	にぶい褐 にぶい褐	密 ◎		10
150	SK21	土師質	ミニチュア・ かまど	長さ 6.6	幅 [5.5]	高さ 4.9	ナデ	指圧痕 ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	密・金 ◎		10
151	SK21	瓦質土 器	火消壺・蓋	つまみ 径5.7	つまみ 高1.5	残高 2.9	ナデ	ナデ	黒 黒	密 ◎		
152	SK23	土師器	皿	8.2	0.9	5.3	ヨコナデ ㊦回転糸切り	ヨコナデ	にぶい橙 にぶい橙	長 (1)・金 ◎		
153	SK26	土師器	焙烙	(40.0)	[8.8]		ヨコナデ ㊦回転糸切り	ミガキ	にぶい褐 灰黄褐	密・金 ◎		
154	SK8	土師器	皿	(8.8)	1.4	(6.4)	ヨコナデ ㊦回転糸切り	ヨコナデ	灰白 灰白	密 ◎		
155	SK8	土製品	土人形 (人物)	高さ 3.0	幅 2.0	厚さ 1.1	ナデ	-	にぶい橙	密 ◎		
156	SK8	土師器	風炉		[11.9]	(24.5)	ナデ・ ミガキ	指圧痕・ ナデ	橙	密・金・赤 ◎		
157	SK20	土師器	皿	9.0	1.5	6.6	ヨコナデ ㊦回転糸切り	ヨコナデ	浅黄橙 浅黄橙	密・金 ◎	煤付着	
158	SK31	土師器	皿		[2.4]	7.9	ヨコナデ ㊦ヘラ切り	ヨコナデ	橙 橙	密 ◎		
159	SK50	土師器	皿		[1.2]	7.8	ヨコナデ ㊦静止糸切り	ヨコナデ	黄灰 灰黄	石・長 (1~2) 赤 ◎		
160	SK46	土師器	甕		[19.6]	15.6	指圧痕・ ナデ	タタキ・ ナデ・ハケ	淡黄 淡黄	密 ◎		
161	造成土・攪乱	土師器	坏	(10.9)	3.3	(7.0)	ヨコナデ ㊦ヘラ切り	ヨコナデ	灰白・黒褐 灰白・黒褐	密 ◎		
162	造成土・攪乱	土師器	焼炉		[10.4]	10.3	ナデ・㊦回転 ヘラケズリ	ナデ	橙 橙	密 ◎		
163	造成土・攪乱	土師器	ミニチュア・ 瓶		[3.9]	(2.3)	ナデ	ナデ	灰白 灰白	密 ◎		10
164	造成土・攪乱	土師器	土鈴	径 3.2	3.5		ナデ・ ヘラミガキ	指圧痕・ ナデ	灰白 灰白	密 ◎		10
165	造成土・攪乱	土師器		径 3.1	厚み 0.9		ナデ	-	黄灰	密 ◎		
166	造成土・攪乱	瓦質	焙烙	(17.4)	3.0	(12.4)	ミガキ	ミガキ・ ナデ	灰白・黒 灰白・黒	密 ◎		

表 14 石製品

(1)

番号	出土場所	器種	材質	法量				備考	図版
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ		
167	SK45	砥石		(8.7)	(3.6)	(2.1)	97.28g		
168	SK46	石塔・傘		16.5	30.7	16.4	16.05kg		10

松山城三之丸 15 次調査

石製品

(2)

番号	出土場所	器種	材質	法量				備考	図版
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
169	SK46	石塔・相輪		(31.7)	(12.1)	(12.3)	4.85Kg		
170	SK46	石塔・相輪		40.2	14.0	14.0	8.85Kg		

表 15 ガラス製品

番号	出土場所	器種	材質	法量				備考	図版
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
171	T3 SK34	簪	ガラス	(4.6)	(0.6)	(0.6)	4.99		

表 16 金属製品

番号	出土場所	器種	材質	法量				備考	図版
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
172	SK4	釘	鉄	(4.2)	0.8	0.6	2.134		
173	SK4	釘	鉄	(3.5)	(1.0)	0.6	2.216		
174	SK4	釘	鉄	(3.1)	0.7	0.4	1.526		
175	SK4	釘	鉄	(1.9)	0.9	0.7	0.774		
176	SK13	釘	鉄	(4.6)	1.1	0.7	0.602		10
177	SK13	釘	鉄	(3.9)	(0.7)	0.4	1.086		10
178	SK13	釘	鉄	(3.4)	(0.6)	0.5	1.189		
179	SK16	釘	鉄	(4.2)	(0.8)	0.7	1.608		
180	SK5	釘	鉄	(2.4)	0.4	(0.2)	2.988		10
181	SK5	釘	鉄	(2.0)	0.8	0.5	0.749		
182	T3 攪乱	釘	鉄	10.5	0.7	0.7	23.045		10
183	SK13	座金(鉄銭?)	鉄	(2.7)		0.1	1.966		10
184	SK2	不明	鉄	3.1	3.8	0.6	11.254		10
185	SK1	煙管	銅	7.3	1.4	1.1	8.846		10
186	SK1	不明	銅	(3.4)	4.5	0.1	8.221		10

表 17 金属製品観察表 (銭貨)

番号	銭名	初鑄年	法量					備考	図版
			銭径 (cm)	孔径 (cm)	外縁厚 (cm)	内側厚 (cm)	重さ (g)		
187	SK4	銭	銅						10
188	SK4	銭	銅						10
189	SK23	銭	銅						10
190	SK50	銭	銅						10

表 18 軒丸瓦・その他観察表

(1)

番号	出土場所	法量				主文様	珠文数	珠文径 (cm)	色調	焼成	キラ粉	備考	図版
		瓦当径	文様区径	周縁幅	瓦当厚								
193	SE1	(13.8)	(9.3)	2.3	1.8	左巻三巴	(20)	0.5	黒	良好	○		
195	SK9	(10.8)	(7.2)	1.8	1.4	左巻三巴	(20)	0.6	黒灰	良	○		
198	SK1	14.8	10.6	2.1	1.6	左巻三巴	22	1.9	黒	良好			
199	SK1	13.2	18.8	1.7	(2.0)	左巻三巴	16	1.1	灰	良			

調査の成果

軒丸瓦・その他観察表

(2)

番号	出土場所	法量				主文様	珠文数	珠文径 (cm)	色調	焼成	キラ粉	備考	図版
		瓦当径	文様区径	周縁幅	瓦当厚								
200	SK1	-	-	2.0	2.2	-	-	1.0	暗灰	良好			
202	SK13	(13.6)	(9.4)	2.1	1.6	右卷三巴	(18)	0.9	灰	良			
203	SK13	(14.6)	10.8	1.9	1.9	左卷三巴	(21)	1.8	暗灰	良			
204	SK13	-	-	-	-	-	-	-	黒灰	良		丸瓦	
205	SK13	-	-	-	-	-	-	-	暗褐・黒褐	良		丸瓦	
207	SK14	(14.5)	(10.5)	(2.0)	-	左卷三巴	(24)	0.5	暗灰・灰	良			
208	SK15	[14.7]	[8.7]	(3.0)	1.5	左卷三巴	(26)	0.5	黒灰	良			
212	SK16	(14.2)	(9.2)	2.5	-	左卷三巴	(19)	0.8	暗灰	良	○		
215	SK21	(15.2)	(10.8)	2.2	-	-	(36)	0.5	暗灰	良			
216	SK23	(15.0)	(7.8)	3.6	2.0	右卷三巴	(18)	0.6	暗灰	良			
223	SK45								灰	良		丸瓦 コビキ	

表 19 軒平瓦・その他観察表

番号	出土場所	法量						色調	焼成	キラ粉	文様	備考	図版
		瓦当幅	瓦当高	文様区幅	文様区高	周縁幅	瓦当厚						
191	SP5	-	(3.9)	-	(2.3)	4.6	1.4	暗灰	良好		青海波文		
192	SP5	-	(3.7)	-	2.4	-	1.4	黒・灰	良好			板塀	
194	SK4	-	(3.8)	-	3.0	4.4	1.0	暗灰	良好			板塀	
196	SK9	(25.8)	4.9	(13.4)	(2.5)	6.2	1.7	暗灰	良	○		鎌軒	
197	SK9	-	(4.0)	-	(2.0)	4.4	1.6	黒灰	良				
201	SK1	(20.0)	3.8	(13.4)	2.0	3.1	1.7	黒・淡灰	良好				
206	SK13	-	(4.0)	-	(2.5)	4.1	1.8	暗灰	良				
209	SK15	-	(4.1)	-	(2.4)	4.7	1.8	暗灰	良				
210	SK15	(20.4)	(3.9)	(13.5)	(1.9)	4.0	(1.5)	暗灰	良				
211	SK15	-	(3.6)	-	2.3	3.7	1.6	淡灰	良	○		板塀	
213	SK16	-	4.1	-	2.0	-	1.6	灰	良	○		板塀	
214	SK16	-	(4.6)	-	(2.5)	(4.9)	1.7	暗灰	良	○			
217	SK2	(20.0)	4.8	(13.4)	2.0	3.3	1.6	黒	良好				
218	SK2	-	(3.5)	-	2.4	-	1.5	暗灰	良			板塀	
219	SK2	-	(3.5)	-	2.4	(3.5)	1.5	暗灰	良			板塀	
220	SK5											平瓦	
221	SK5	-	(5.1)	-	(2.6)	5.6	1.7	暗灰	良			鎌軒	
222	SK45	(19.4)	3.8	(13.6)	2.2	(3.3)	1.4	黒	良好	○			
224	SK32	(20.8)	3.4	(14.0)	(1.6)	(3.8)	1.7	灰褐	良	○			
225	SK2	-	(3.5)	-	2.4	-	1.5	暗灰	良			板塀	

第5章 調査の成果と課題

1 調査の成果

(1) 松山城三之丸跡 13次調査

まず、調査の目的であった「屋敷境」を検出し、屋敷地の範囲を確認した。

屋敷地内には整地層（第Ⅲ層）があり、整地層下と整地層上それぞれの遺構がある。屋敷境も、トレンチ1・4、3、5、6において整地層下と整地層上で検出した。

整地層下の屋敷境の遺構は、芯間1.3～1.5mで並ぶ柱穴列（SA403、SD203、SD302、SP301、SD501、SD603）である。柱列のみであり、間隔が狭いことから主柱のみ板塀と推測した。整地層上の屋敷境の遺構は、石組溝（SD104、SD201、SD301）及び石列とこれに並行する芯間2.9～3.1mで並ぶ柱穴列（SA401、SA402、SA301、SA501、SA302、SA502）である。石組溝、石列及び柱穴列が並行すること、石列に控幅があり屋敷内外に面を揃えていることから、溝を伴う土塀基礎と控柱と推測した。また、控柱にしては柱穴間の間隔が狭いこと、トレンチ1・4のSA401、SA402の軸線と柱穴の大きさが異なることから、控柱の建て替えと推測し、2つの小期（SA401、SA301、SA501の時期とSA402、SA302、SA502の時期）に分けた。整地層下の遺構を第1期、整地層上の遺構を第2期（小期a・b）とする。位置関係としては、第1期の柱列の直上に第2期の石列が構築されている。このことから、整地前後で屋敷境が変わらないよう意識していたことが分かる。第1期の遺構から出土した遺物はいずれも17世紀中葉までにおさまる。また、調査区東で道路側溝、北東でいずれも池と推測される隅丸方形と不整形の大型土坑を検出した。いずれも第2期以降の遺構である。道路側溝の一部に排水口が付属しており、これが池と思われる不整形の大型土坑の東端に連結していることから、オーバーフローによる排水を行っていたと考える。18世紀以降は廃棄土坑が多く掘られている。

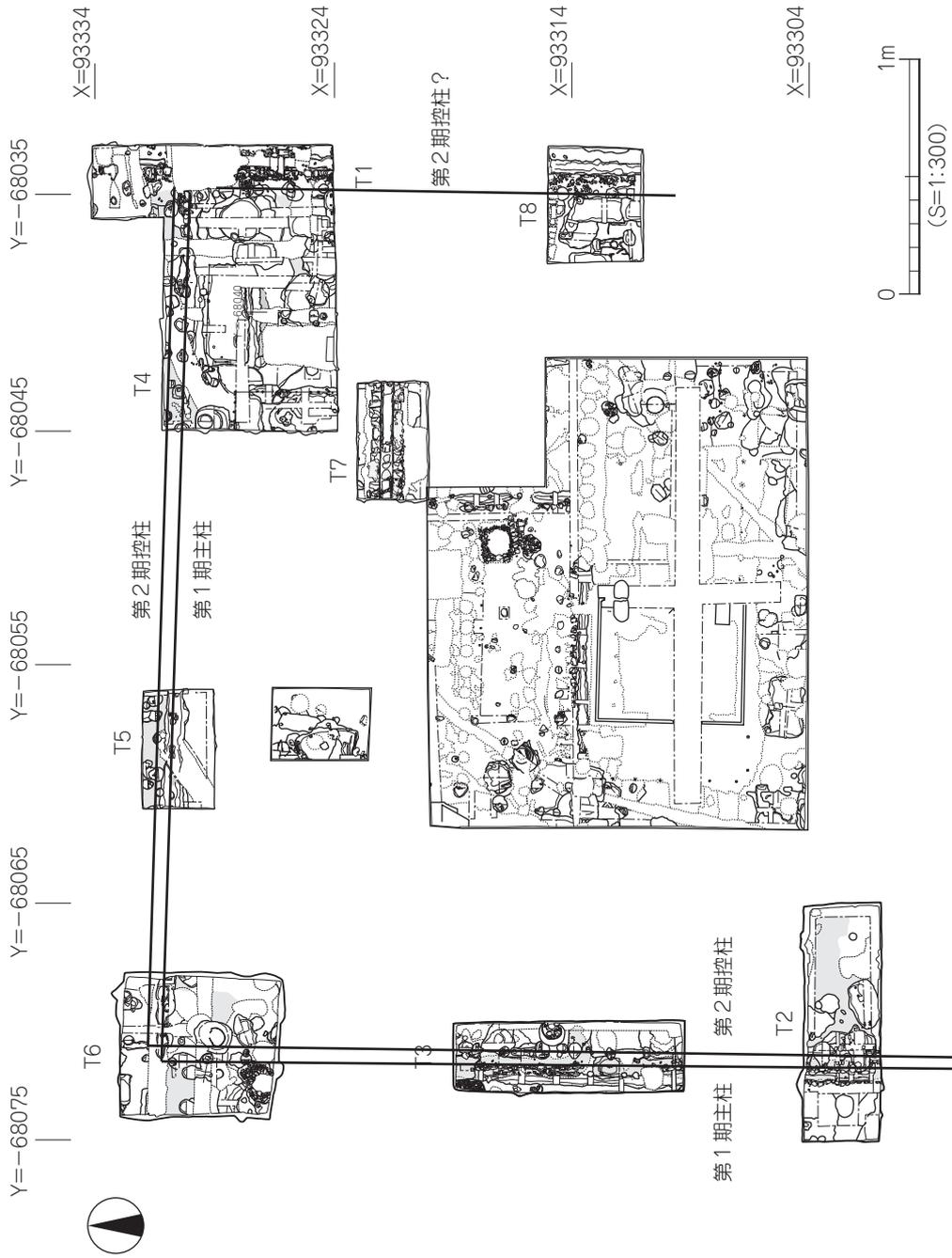
(2) 三之丸跡 15次調査

調査の目的である屋敷地内の構造のうち、礎石建物とこれに伴う石組溝、柱列、瓦積土坑、廃棄土坑を検出し、13次調査でも確認した整地層を広範囲に確認した。

礎石建物は整地層下での検出で、屋敷地のほぼ中心に位置し、南と東に石組溝（SD1、SD3）を伴う。建物規模は、南北約5m以上、東西約7m以上となる。瓦積土坑は2基を隣り合わせて検出した。いずれも遺構のほぼ中心に礎石のような石があるが、屋敷地の軸に合っていない。用途不明である整地行為の一つと考える。廃棄土坑は、整地層上での検出で、中心を避けるように展開しており、特にトレンチ1の南西に集中している。19世紀以降のものが多い。今回、整地層上の建物は検出していないが、こうした廃棄土坑の偏向した展開は、現在攪乱によって破壊されている部分に元は建物があったことを示唆するものではないかと考える。また、トレンチ3において凝灰岩製の石塔の一部が出土した。周辺を庭として使用していた可能性を示すものである。

2 今後の課題

今回の2つの調査では、屋敷地の主体となる建物跡を十分に確認することができなかった。整備に供する情報としてはやはり不足感が否めない。今後は、遺構や敷地内で比較的遺構が残っている可能性の高い南東部及び北部（15次調査トレンチ3の東）を追加調査して建物跡を探索するか、三之丸内の別の屋敷地を調査して今回の成果と比較検討すべきであろう。



第109図 調査区トレンチ1～8配置図

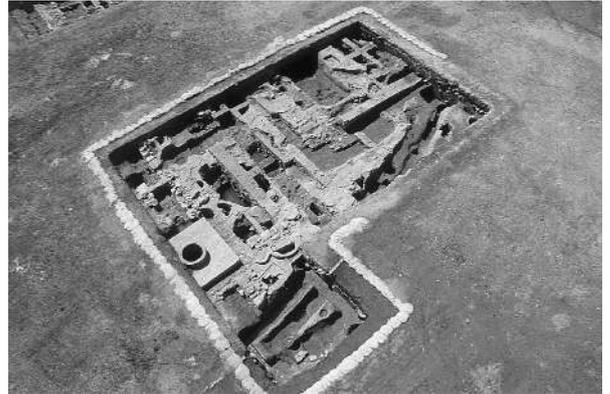
写真図版

写真図版 1 ～ 6 : 松山城三之丸跡 13 次調査

写真図版 7 ～ 10 : 松山城三之丸跡 15 次調査



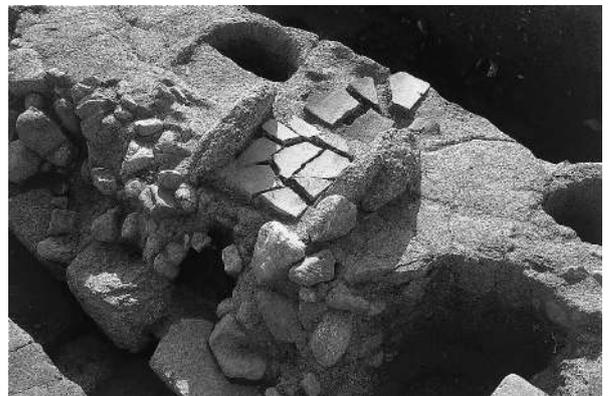
1. 調査区遠景 (南西より)



2. トレンチ1及び4 全景 (北東より)



3. トレンチ1 SD105 (北東より)



4. トレンチ1 石組排水口 (北東より)



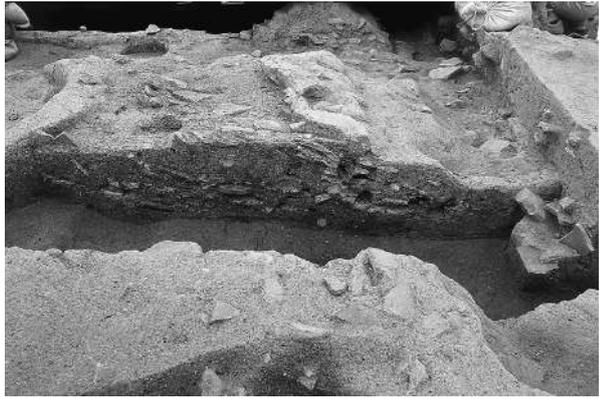
5. トレンチ1 土塀礎石 (南より)



6. トレンチ1 SK104 (南東より)



1. トレンチ 4 SK402 (北東より)



2. トレンチ 4 SK407 南北断面土層 (東より)



3. トレンチ 2 全景 (南東より)



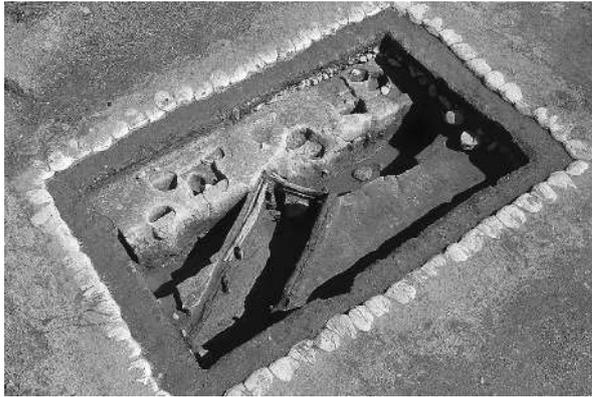
4. トレンチ 2 土塀基礎及び SD201 (北東より)



5. トレンチ 2 SK207 (南西より)



6. トレンチ 3 土塀基礎及び SD301 (南西より)



1. トレンチ5 全景 (南西より)



2. トレンチ5 SA501 及び SA502 (南東より)



3. トレンチ6 全景 (北西より)



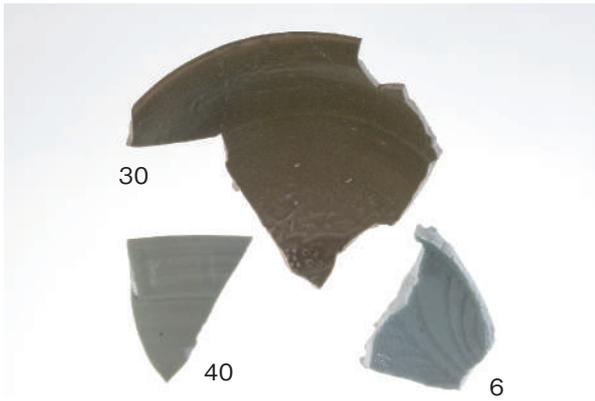
4. トレンチ6 SE601 (西より)



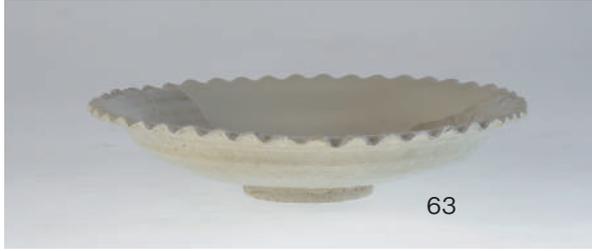
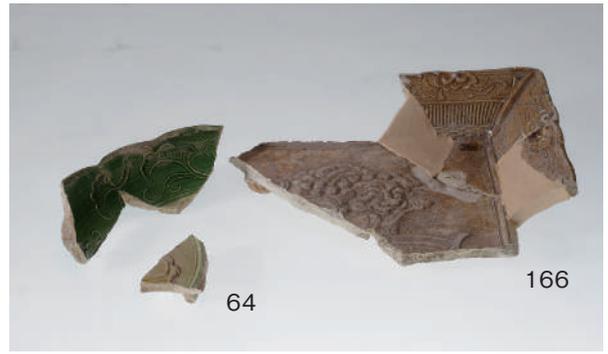
5. トレンチ8 全景 (北東より)



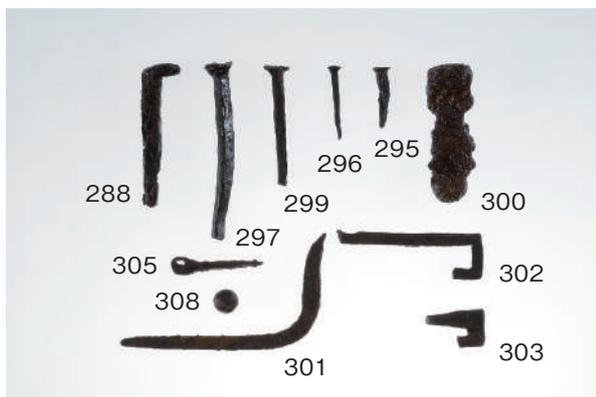
6. トレンチ8 SK801 (北西より)



1. 出土遺物



1. 出土遺物



1. 出土遺物



1. トレンチ 1 SD1 (南東より)



2. トレンチ 1 廃棄土坑群 (北東より)



3. トレンチ 1 廃棄土坑群土層 (北西より)



4. トレンチ 1 SK21 遺物出土状況 (北西より)



5. トレンチ 1 SK4 及び SK9 (北西より)



6. トレンチ 2 全景 (南西より)



1. トレンチ2 SA1 (北より)



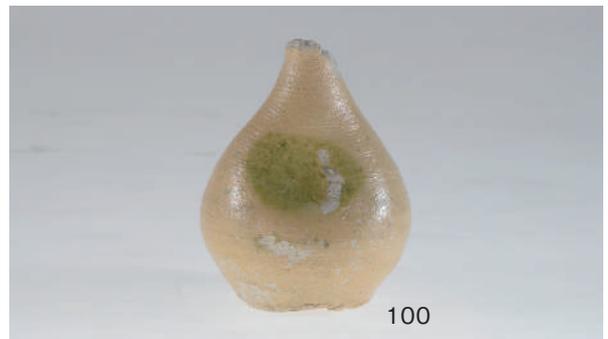
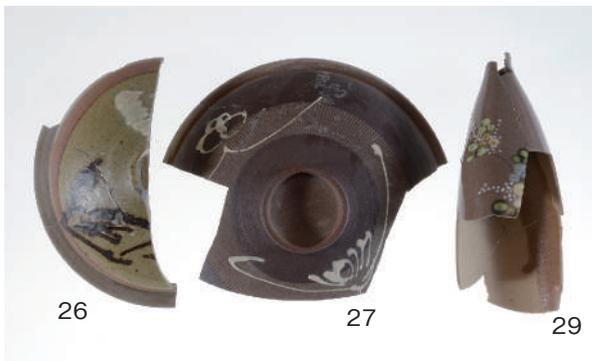
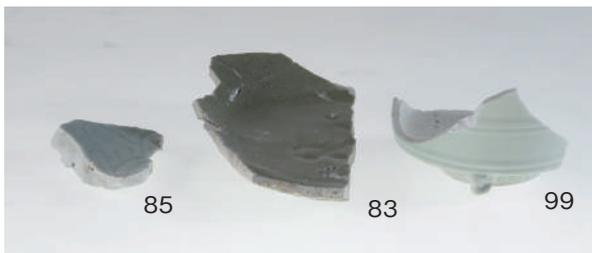
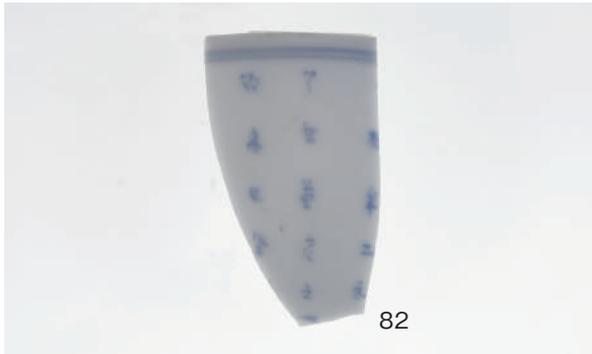
2. トレンチ2 SE3 漆器椀出土状況 (南東より)



3. トレンチ3 全景 (北東より)



4. トレンチ3 SK45 石塔出土状況 (北東より)



1. 出土遺物



1. 出土遺物

報 告 書 抄 録

ふりがな	まつやまじょうさんのまるあと13じ・15じちょうさ
書名	松山城三之丸跡13次・15次調査
副書名	国庫補助市内遺跡発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	松山市文化財調査報告書
シリーズ番号	第197集
編著者名	西村 直人
編集機関	公益財団法人 松山市文化・スポーツ振興財団（埋蔵文化財センター）
所在地	〒791-8032 愛媛県松山市南斎院町乙67番地6 TEL089-923-6363
発行年月日	西暦2019（平成31）年3月29日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 〃〃	東経 〃〃	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
松山城三之丸跡 13次調査	松山市堀之内	38201	513	33°84'24" } 33°84'28"	132°76'14" } 132°76'22"	20090818 } 20100331	349㎡	史跡整備
松山城三之丸跡 15次調査	松山市堀之内	38201	543	〃	〃	20100901 } 20110328	305㎡	史跡整備
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
松山城三之丸跡 13次調査	住居跡	江戸	屋敷境・井戸・池・廃棄土坑		陶磁器・瓦・ガラス製品		高麗青磁・源内焼・両面印・鎚碗	
松山城三之丸跡 15次調査	住居跡	江戸	礎石建物・井戸・廃棄土坑・瓦積土坑		陶磁器・瓦・ガラス製品		漆器碗	
要約	江戸時代の屋敷境と屋敷地の範囲を確認。また、屋敷地内中央に17世紀前半の礎石建物を検出した。北東に大型土坑（池）を確認した。							

松山市文化財調査報告書 第197集

松山城三之丸跡 13・15次調査

平成31年3月29日 発行

編集 松山市教育委員会

〒790-0003 松山市三番町六丁目6番地1
TEL (089) 948-6605

公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団
(埋蔵文化財センター)

〒791-8032 松山市南斎院町乙67番地6
TEL (089) 923-6363

発行 松山市

〒790-8571 松山市二番町四丁目7番地2
TEL (089) 946-4894

印刷 岡田印刷株式会社

〒790-0012 松山市湊町7丁目1-8
TEL (089) 941-9111

